

感染症発生動向調査事業報告書

平成 25 年(2013 年)



東京都福祉保健局

序

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づく事前対応型感染症対策として位置づけられており、感染症発生状況の把握・分析、情報提供による感染症の発生及びまん延防止を目的として行われております。

東京都健康安全研究センターでは、東京都感染症情報センターを所内に設置し、一類感染症から五類感染症、新型インフルエンザなど全症例の届出が義務付けられている疾患、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っております。

2013 年は、前年夏季から続いた全国的な風しんの流行により、東京都における風しん患者報告数が 3,445 人に急増しました。風しんが全数届出の疾患とされた 2008 年の感染症法改正の後、都内における風しん患者報告数は 50 人未満で推移していましたが、2013 年は前年の 672 人に続く大幅な増加となり、懸念されておりました先天性風しん症候群の患者も報告されました。

このような状況を踏まえ、国内における各自治体等ではワクチン接種率の向上に向けた啓発や接種費の助成などの取組がなされておりますが、今後の風しん患者数の動向が注視されるところです。

一方、国においては、2015 年までに麻しんを排除することを目標とした、麻しんに関する特定感染症予防指針の改正が行われました。

東京都におきましても、東京都麻しん対策会議で検討を行い様々な取組を進めた結果、2013 年の麻しん患者報告数は 69 人と前年の 84 人から減少しましたが、今後も継続した対策を進めていく必要があるものと考えられます。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会において行われた、2013 年の感染症発生情報の評価や、予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の動向のうち、「小児科・内科疾患(インフルエンザ)」と「基幹定点における疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は井上賢治委員に執筆をお願いしました。また、「一、二、三、四、五類感染症(全数届出)」及び「性感染症」につきましては当センターの疫学情報係担当者、「病原体情報」につきましては微生物部の担当者が執筆いたしました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力いただいた東京都医師会、定点医療機関、保健所等の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

関係各位におかれましては、本書を広くご活用いただき、感染症対策の一助としていただければ幸いに存じます。

平成 26 年 7 月

東京都健康安全研究センター所長 田原 なるみ

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾患	4
(2) 定点医療機関	4
表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年（2013 年）の概況	
(1) 一～四類、五類（全数把握対象）、指定感染症	5
(2) 五類感染症（定点把握対象）	7
(3) 疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）	9
表 2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一～四類、五類全数、新型、指定）	10
表 2-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（全数動物）	11
表 2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）	12
表 2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）	13
表 2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）	13
表 2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）	14
表 2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（性感染症定点）	14
表 2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（疑似症定点）	14
3 各疾患の動向	
(1) 一～四類、五類（全数把握対象）、指定感染症	15
ア 一類感染症	15
イ 二類感染症	15
ウ 三類感染症	15
エ 四類感染症	23
オ 五類感染症（全数把握対象）	30
カ 指定感染症	46
表 3-1 一～四類、五類（全数把握）感染症 週別患者報告数	47
表 3-2 一～四類、五類（全数把握）感染症 保健所別患者報告数	50
表 3-3 一～四類、五類（全数把握）感染症 年齢階級別患者報告数	53
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	56
イ RSウイルス感染症	57

ウ	咽頭結膜熱	58
エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59
オ	感染性胃腸炎	60
カ	水痘	61
キ	手足口病	62
ク	伝染性紅斑	63
ケ	突発性発しん	64
コ	百日咳	65
サ	ヘルパンギーナ	66
シ	流行性耳下腺炎	67
ス	不明発しん症	68
セ	川崎病	69
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	70
イ	流行性角結膜炎	71
(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	72
イ	無菌性髄膜炎	73
ウ	マイコプラズマ肺炎	74
エ	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	75
オ	感染性胃腸炎(ロタウイルスによる)	76
カ	インフルエンザ入院	77
(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	78
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	79
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	80
エ	薬剤耐性アシネトバクター感染症	81
(6) 性感染症		
ア	性器クラミジア感染症	82
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	83
ウ	尖圭コンジローマ	84
エ	淋菌感染症	85
オ	膺トリコモナス症	86
カ	梅毒様疾患	87
表 4-1	週別患者報告数	88
表 4-2	週別定点当たり患者報告数	90

表 5-1	保健所別患者報告数	92
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	94
表 6	年齢階級別患者報告数	96
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	97
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	98
表 8-1	月別患者報告数(基幹)	99
表 8-2	月別定点当たり患者報告数(基幹)	99
表 8-3	月別・性別患者報告数(基幹)	99
表 8-4	年齢階級別患者報告数(基幹)	100
表 9-1	月別患者報告数(性感染症)	100
表 9-2	月別定点当たり患者報告数(性感染症)	100
表 9-3	月別・性別患者報告数(性感染症)	101
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症)	101
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)	102
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)	103
表 9-7	年齢階級別患者報告数(性感染症)	104
表 10	検査結果別報告数(基幹)	104
表 11	疑似症サーベイランス報告数	105

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

ア	臨床診断名別にみた検体搬入状況	109
イ	臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況	110
ウ	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	111
エ	臨床診断名別にみたウイルス検出状況	113
オ	臨床診断名別にみた血中抗体検査状況	118

(2) 内科病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

ア	2012/2013 年シーズンのウイルス検出状況(追加分)	118
イ	2013/2014 年シーズンのウイルス検出状況	119
ウ	インフルエンザウイルスの抗原解析	119

2 細菌検査結果

(1)	三類感染症の病原体検索	123
(2)	四類感染症の病原体検索	123
(3)	五類感染症(全数把握対象)の病原体検索	123
(5)	五類感染症(定点把握対象)の病原体検索	124

3 性感染症病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果	
(1) クラミジア、淋菌遺伝子検査及び細菌分離・同定	126
(2) ヒトパピローマウイルス (HPV) の遺伝子検査	128
(3) 単純ヘルペスウイルス (HSV:HSV-1 型及び HSV-2 型) の遺伝子検査	128

第3章 資 料

1 東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿	131
2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿	147
3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ	148
4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	149
別表 1 感染症法に基づく感染症の分類	
1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	156
2 五類感染症 (全数把握)	157
3 新型インフルエンザ等感染症	158
4 五類感染症 (定点把握)	158
5 疑似症	158
別表 2 五類感染症 (定点把握) の調査単位と報告時期	159
別表 3 疑似症の調査単位と報告時期	159
別表 4 基幹定点医療機関 (病原体定点) において検体を採取する対象感染症	160
別記様式一覧表	160
別記様式 1	161
別記様式 2	162
別記様式 3	163
別記様式 4	164
別記様式 5	165
別記様式 6	166
別記様式 7	168
別記様式 8	169
別記様式 9	170
別記様式 10	172
別記様式 11	173
別記様式 12	174

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

2013 年

(2012 年 12 月 31 日～2013 年 12 月 29 日)

2013 年は風しんの大きな流行がありました。2011 年は 0.6 人であった週当たりの平均患者報告数が、2012 年には 6 月までに 2.9 人に増加し、7 月以降は、2013 年 5 週までの平均で 23.0 人に急増しました。2013 年 4 週には週当たり 43 人と 2008 年の調査開始以降で最多の報告数となり、その後も 6 週には 90 人と倍増しました。東京都は、7 月 12 日に「これまでにない規模の風しん流行が継続しています。妊婦の感染には特に注意してください!」とのプレス発表を行いました。30 週まで週当たりの報告数が 50 人を超える爆発的な流行となってしまいました。

今回の流行は 30 代の男性が中心でしたが、20 代の女性患者も多く見られました。そのため、残念ながら 2013 年の先天性風しん症候群 (CRS) の報告数は 13 人となり、調査が始まって以来最も多くなっています。2014 年も 3 月までにすでに 3 人の CRS が報告されています。

インフルエンザの 2012/2013 シーズン (2012 年 9 月 3 日～2013 年 9 月 1 日) の発生状況は、2012 年 50 週 (12 月 10 日～16 日) に流行開始となる定点当たり報告数 1.00 人を超え、2013 年 2 週 (1 月 7 日～13 日) に流行注意報レベルとなりました。4 週 (1 月 21 日～27 日) に定点当たり報告数が 41.3 人となって東京都全体が警報レベルに達した後、7 週 (2 月 11 日～17 日) に警報解除となりました。

このシーズンのインフルエンザウイルス検出状況は、AH1pdm09 が 2 件、AH3 亜型 (A 香港型) が 245 件、B 型が 69 件でした。2013/2014 シーズンは、2013 年 51 週 (12 月 16 日～22 日) に定点当たりの報告数が 1.12 人となり流行期に入りました。感染症発生動向調査事業によるインフルエンザウイルス検出状況では、2014 年 4 週には、AH1pdm09 が 25 件、AH3 亜型が 5 件、B 型が 11 件検出されており、10 週では AH1pdm09 が 10 件、AH3 亜型が 1 件、B 型が 20 件検出されています。このように、2012/2013 シーズンは AH3 亜型と B 型が主な流行型だったのに比べ、2013/2014 シーズンは AH1pdm09 と B 型が主な流行型となっています。

そのほかに 2013 年は、手足口病や川崎病がここ 10 年で最多の報告数となりました。

本事業報告に当たり、定点医療機関の先生方を始め、ご指導いただいた東京都医師会の角田徹理事、副委員長の岡部信彦、沼口俊介の両先生及び委員の各先生方、東京都医師会と東京都の事務局の皆様にご感謝申し上げます。

平成 26 年 7 月

東京都感染症予防検討委員会
委員長 長岡 常雄

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患に加え、厚生労働省令で定める二つの疑似症をサーベイランスの調査対象としている。また、東京都が独自に指定する調査対象疾患として、不明発しん症と川崎病を小児科疾患、膣トリコモナス症と梅毒様疾患を性感染症に加えている。

2013 年は、3 月に重症熱性血小板減少症候群が新たな四類感染症として追加指定され、4 月の施行令改正では髄膜炎菌性髄膜炎が五類全数把握対象疾患から除外されたのに替わり、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症の 3 疾患が指定された。その後、5 月には指定感染症として鳥インフルエンザ（H7N9）が全数把握対象疾患となったほか、10 月からロタウイルスによる感染性胃腸炎の定点調査が開始されるなどの改正も行われた。（第 3 章別表 1 参照）

(2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症単独定点 24 が設定され、このうち 69 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点と内科定点は、インフルエンザ定点及び疑似症定点としての機能も果たしている。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数

（2013 年 12 月 31 日現在）

定 点 種 別 (疾患数)	患 者 定 点 数	病 原 体 定 点 数
小 児 科 定 点 (14)	264	26
内 科 定 点 (1)	155	15
眼 科 定 点 (2)	39	4
基 幹 定 点 (9)	25	20
性 感 染 症 定 点 (6)	55	4
疑 似 症 単 独 定 点 (2)	24	

(3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症は 7 日以内）保健所に届出が行われるほか、小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関は年齢別の患者数、基幹定点医療機関は年齢及び検出病原体名を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関は当該月の年齢別患者数、基幹定点医療機関は当該月の患者の年齢、検体採取部位を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点医療機関において報告基準を満たす患者が発生した場合に、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し直ちに保健所に送付する（疑似症単独定点は、疑似

症サーベイランスシステムへ直接入力する)。なお、発生がない場合であってもその旨週単位で報告する。

医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。東京都健康安全研究センター疫学情報係（基幹地方感染症情報センター）は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

（４）情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>）で公開され、広く都民に情報還元が図られている。

また、隔月第４木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において直近２か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載されている。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」として掲載している。

２ 本年（2013 年）の概況

（１）一～四類、五類（全数把握対象）、指定感染症

ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）の届出はなく、結核については別途「東京都における結核の概況」として報告する。

ウ 三類感染症

細菌性赤痢：2013 年は 36 人届出があり、過去10年で最も少ない届出数となった。菌型の内訳はソルネ 26 件、フレキシネル 10 件で、推定感染地は国内 7 人、国外 29 人であった。

腸管出血性大腸菌感染症：382 人届出があり、患者 268 人（うち溶血性尿毒症症候群 9 人）、無症状病原体保有者 114 人であった。血清型・毒素型では、O157 VT1・VT2 が検出された例が 140 件で最も多かった。

腸チフス：23 人届出があり、過去10年では最多の届出数となった。推定感染地は国内 10 人、国外 12 人、国内又は国外 1 人で、国内感染と推定される届出がほぼ半数を占めた。

パラチフス：20 人届出があり、過去 10 年で最も多い届出数であった。推定感染地はすべて国外であった。

三類感染症のうちコレラの届出はなかった。

エ 四類感染症

E 型肝炎：32 人届出があり、全数把握対象の疾患に指定された 2003 年以降では最多の届出数となった。推定感染地は国内 27 人、国外 5 人であった。

A 型肝炎：19 人届出があり、推定感染地は国内 9 人、国外 10 人であった。

オウム病：2 人届出があり、発症 2 週間前に死亡したインコからの感染と推定された。

Q 熱：2010 年以降届出がなかったが、2013 年は 3 人届出があった。推定感染経路は野良猫からの感染であった。

コクシジオイデス症：4 人届出があり、同一企業研修所内での塵埃感染と推定された。

チクングニア熱：4 人届出があり、推定感染地はすべて国外（アジア）であった。

つつが虫病：12 人届出があり、推定感染地は国内 11 人、国外 1 人であった。

デング熱：66 人（うちデング出血熱 3 人）届出があり、過去 10 年では 2010 年の 70 人に次いで 2 番目に多い届出数となった。

マラリア：12 人届出があり、前年（2012 年）の半数となった。病型は熱帯熱マラリア 9 人、四日熱マラリア 2 人、卵形マラリア 1 人であり、推定感染地はすべて国外（アフリカ）であった。

ライム病：7 人届出があり、推定感染地は国内 1 人、国外 6 人であった。

類鼻疽：1 人届出があり、2010 年に次ぐ 2 人目の届出となった。推定感染地は国外、推定感染経路は土壌であった。

レジオネラ症：80 人届出があり、病型は肺炎型 77 人、ポンティアック熱型 3 人で、死亡例が 2 人見られた。水系感染によると推定された届出は 36 人であった。

レプトスピラ症：6 人届出があり、推定感染地は国内 3 人、国外 3 人であった。

四類感染症のうち、ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、狂犬病、サル痘、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、ロッキー山紅斑熱の届出はなかった。

オ 五類感染症（全数把握対象）

アメーバ赤痢：187 人届出があった。腸管アメーバ症 155 人、腸管外アメーバ症 22 人、腸管及び腸管外アメーバ症 10 人で、死亡例は 2 人報告された。推定感染経路は、性的接触 58 人、飲食物による経口感染 26 人、2 経路以上 2 人、不明 101 人であった。

ウイルス性肝炎：72 人届出があり、2012 年に続き前の年よりも増加した。内訳は、B 型肝炎 62 人、C 型肝炎 9 人、サイトメガロウイルス肝炎 1 人であり、推定感染地は国内 67 人、国外 5 人であった。B 型肝炎の推定感染経路では、性的接触が 53 人で 85.5%を占めた。

急性脳炎：46 人届出があり、全数把握の対象疾患となった 2003 年以降、最も多い届出数であった。病原体はヒトヘルペスウイルス 12 件、インフルエンザウイルス 6 件、風しんウイルス 3 件、ロタウイルス 2 件、水痘帯状疱疹ウイルス疑い 1 件、大腸菌 1 件、不明 21 件であった。

クリプトスポリジウム症：7 人届出があり、推定感染経路では同性間性的接触による感染が 6 人で、そのうち 3 人の HIV 感染者が見られた。

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）：19 人届出があり、孤発性プリオン病・古典型 CJD が 16 人、遺伝性プリオン病が 3 人であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症：37 人届出があり、過去 10 年で最も多い届出数となった。血清型は A 群 22 件、B 群 1 件、G 群 13 件、不明 1 件で、死亡例は 7 人報告された。推定感染地は全て国内であった。

後天性免疫不全症候群：469 人届出があり、AIDS 患者 110 人、その他（指標疾患以外の有症者）44 人、HIV 感染者（無症候性キャリア）315 人であった。推定感染地は国内 383 人、国外 26 人、国内又は国外 6 人、不明 54 人で、推定感染経路では性的接触 417 人のほか、静注薬物使用 2 人、針刺し 1 人などが見られた。

ジアルジア症：22 人届出があり、推定感染地は国内 8 人、国外 14 人、推定感染経路は飲食物による経口感染 7 人などのほか、性的接触による感染が 7 人であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症：12 人届出があった。血清型は B 群 1 人、判定不能及び不明 11 人であり、ワクチン接種歴は、4 回接種が 1 人、1 回接種が 1 人、接種なし 5 人、不明 5 人であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症：11 人届出があり、血清群は Y 群 5 人、C 群 2 人、W-135 群 1 人、不明 3 人であった。ワクチン接種歴は、なし 2 人、不明 9 人であった。

侵襲性肺炎菌感染症：124 人届出があった。血清型は 19A 型 6 人、24F 型 4 人、3 型 2 人、15A 型 2 人、11A 型 1 人、23A 型 1 人、判定不能 6 人、不明 102 人であった。ワクチン接種歴は、4 回接種 6 人のほか、3 回接種 16 人、1 回接種 9 人、なし 56 人、不明 37 人であった。

先天性風しん症候群：2004 年の 3 人以降届出がなかったが、2013 年は成人における風しん流行の影響を受け 13 人に急増した。母親の妊娠中の風しん罹患歴は、あり 9 人、なし 2 人、不明 2 人で、母親のワクチン接種歴は、あり 2 人、なし 5 人、不明 6 人であった。

梅毒：419 人届出があり、調査開始以降で最多となった。早期顕症梅毒 I 期 60 人、早期顕症梅毒 II 期 185 人、晩期顕症梅毒 12 人、無症候 162 人で、先天梅毒の届出はなかった。

破傷風：4 人届出があり、推定感染地はすべて国内であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症：8 人届出があった。菌種は *Enterococcus faecalis* 3 件、*E. faecium* 2 件、*E. gallinarum* 2 件、*E. casseliflavus* 1 件であり、耐性遺伝子型は *vanA* 3 件、*vanB* 2 件、*vanC* 3 件であった。

風しん：3,445 人届出（検査診断例 2,400 人、臨床診断例 1,045 人）があり、全数報告対象疾患となった 2008 年以降で最多の報告数となった。推定感染地は 3,434 人（99.7%）が国内であった。

麻しん：69 人届出（検査診断例 24 人、臨床診断例 26 人、修飾麻しん 19 人）があり、推定感染地は国内 65 人、国外 2 人、国内又は国外 2 人であった。

五類感染症のうち髄膜炎菌性髄膜炎、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

カ 指定感染症

鳥インフルエンザ（H7N9）の届出はなかった。

（２）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2012 年と比較して定点当たり 10%以上報告数が減少した疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、不明発しん症の 7 疾患であった。定点当たりの報告数が前年並みであった疾患は RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑の 4 疾患、定点当たり前年比 10%以上増加した疾患は咽頭結膜熱、手足口病、川崎病の 3 疾患であった。

[前年比減少疾患]

インフルエンザ：報告数は 75,328 人、定点当たり 181.11 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.56 であった。

感染性胃腸炎：報告数は 102,987 人、定点当たり 395.81 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.87 であった。

水痘：報告数は 11,452 人、定点当たり 44.22 人であり、定点当たりの当年/前年比は 0.89 であった。

百日咳：報告数は 91 人、定点当たり 0.32 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.32 であった。

ヘルパンギーナ：報告数は 8,480 人、定点当たり 33.06 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.63 であった。

流行性耳下腺炎：報告数は 2,549 人、定点当たり 9.83 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.83 であった。

不明発しん症：報告数は 1,094 人、定点当たり 4.24 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.79 であった。

[前年比横這いであった疾患]

RS ウイルス感染症：報告数は 6,058 人、定点当たり 23.48 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.96 であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：報告数は 24,801 人、定点当たり 95.29 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.99 であった。

伝染性紅斑：報告数は 1,608 人、定点当たり 6.19 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.99 であった。

突発性発しん：報告数は 8,299 人、定点当たりの当年/前年比は 0.97 であった。

[前年比増加疾患]

咽頭結膜熱：報告数は 6,184 人、定点当たり 23.89 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.13 であった。

手足口病：報告数は 29,320 人、定点当たり 114.72 人であった。定点当たりの当年/前年比は 5.49 であった。

川崎病：報告数は 221 人、定点当たり 0.85 人であった。定点当たりの当年/前年比は 1.25 であった。

人、定点当たり 0.45 人であった。過去

イ 眼科疾患

急性出血性結膜炎：報告数は 17 人、定点当たり 0.45 人であった。過去 10 年で 2004 年（定点当たり 0.43 人）に次いで 2 番目に少ない定点当たり報告数であった。

流行性角結膜炎：報告数は 891 人、定点当たり 23.68 人であった。2012 年に増加したが、2013 年は 2008 年～2011 年の水準に戻った。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：報告数は 48 人、定点当たり 1.93 人であった。過去 10 年で 2 番目に多い報告数であった。

無菌性髄膜炎：報告数は 126 人、定点当たり 5.06 人であった。年間報告数、定点当たり報告数とも

この 10 年で最多の報告数であった。

マイコプラズマ肺炎：報告数は 514 人、定点当たり 20.66 人であった。2011 年、2012 年は大きな流行の年であったが、2013 年は定点当たりの当年/前年比で 0.48 と半減している。

クラミジア肺炎：報告数は 40 人、ここ 10 年では 2009 年の 46 人に次いで 2 番目に多かった。

感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：2013 年 42 週以降 22 人が報告され、定点当たり報告数は 0.88 人であった。

インフルエンザ入院：報告数は 518 人、定点当たり 20.89 人であった。定点当たりの当年/前年比は 0.86 でやや減少している。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数は 918 人、定点当たり 37.26 人であった。年間報告数及び定点当たりの報告数はこの 10 年で最も少なかった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数は 467 人、定点当たり 18.94 人であった。ここ 10 年は定点当たり 17.76～26.77 人の報告数がある。

薬剤耐性緑膿菌感染症：32 人が報告された。定点当たり 1.29 人であり、この 10 年の報告数に変化は見られない。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：調査が開始された 2011 年以降報告例はなく、2013 年も報告はなかった。

オ 性感染症

性器クラミジア感染症：報告数は 2,286 人であり、そのうち男性は 1,394 人、定点当たり 25.86 人（前年比 1.02）、女性は 892 人、定点当たり 16.54 人（前年比 0.95）であった。

性器ヘルペスウイルス感染症：報告数は 1,216 人であった。男性 800 人、定点当たり 14.84 人（前年比 0.99）、女性 416 人、定点当たり 7.72 人（前年比 0.84）で、2006 年以降男性に多い状況が続いている。

尖圭コンジローマ：報告数は 959 人であった。男性 574 人、定点当たり 12.44 人（前年比 1.18）、女性 289 人、定点当たり 5.37 人（前年比 0.96）で、男性の定点当たり報告数は過去 10 年で最多であった。

淋菌感染症：報告数は 1,070 人であった。男性 928 人、定点当たり 17.21 人（前年比 1.05）、女性 142 人、定点当たり 2.63 人（前年比 0.96）で、男性は女性の 6 倍前後の報告数が続いている。

膣トリコモナス症：報告数は 113 人であり、男性 6 人、定点当たり 0.11 人（前年比 0.46）、女性 107 人、定点当たり 1.99 人（前年比 0.93）であった。

梅毒様疾患：報告数は 136 人であり、男性 125 人、定点当たり 2.32 人（前年比 1.22）、女性 11 人、定点当たり 0.20 人（前年比 0.65）であった。過去 10 年の定点当たり患者報告数では、男性は増加傾向、女性は減少傾向にある。

（３）疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は 38 人、発熱及び発しん又は水疱は 16 人の報告があった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(一～四類、五類全数、新型、指定)

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう *1	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱 *2	/	-	-	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	1	-	-
	結核 *2	3,305	3,228	3,219	3,045	3,022	2,874	集計中
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 *3	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) *4	/	/	-	-	-	-	-
三类	コレラ *5	3	6	3	2	3	-	-
	細菌性赤痢 *5	86	64	48	86	86	75	36
	腸管出血性大腸菌感染症	476	409	317	339	257	258	382
	腸チフス *5	11	13	11	12	6	13	23
	パラチフス *5	7	7	12	5	9	11	20
四類	E型肝炎 *1	3	7	6	9	9	21	32
	ウエストナイル熱 *6	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎 *1	19	31	24	45	27	35	19
	エキノкокクス症	3	-	1	1	2	1	-
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	1	-	1	-	3	-	2
	オムスク出血熱 *2	/	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	1	-
	キャサヌル森林病 *2	/	-	-	-	-	-	-
	Q熱	2	1	1	-	-	-	3
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	2	-	1	1	2	1	4
	サル痘 *1	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群 *13	/	/	/	/	/	/	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎 *2	/	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎 *2	/	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 *7	/	/	/	/	-	3	4
	つつが虫病	15	18	14	14	13	19	12
	デング熱	23	32	32	70	27	56	66
	東部ウマ脳炎 *2	/	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く) *8	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	1	1	-	-
	日本脳炎	-	-	-	-	1	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽 *2	/	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	1	-	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎 *2	/	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症 *2	/	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ボツリヌス症 *9	-	-	-	-	-	-	-
	マラリア	23	23	26	27	27	24	12
	野兔病 *1	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	3	-	1	1	3	-	7
	リッサウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
四 類	リフトバレー熱 *2		-	-	-	-	-	-
	類鼻疽 *2		-	-	1	-	-	1
	レジオネラ症	53	80	53	55	72	60	80
	レプトスピラ症 *1	4	4	-	2	5	6	6
	ロッキー山紅斑熱 *2		-	-	-	-	-	-
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢 *10	166	189	140	180	178	198	187
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く) *10	40	30	35	48	40	60	72
	急性脳炎 *1	20	11	45	14	19	33	46
	クリプトスポリジウム症 *10	1	4	4	3	2	2	7
	クロイツフェルト・ヤコブ病 *10	16	15	19	15	13	18	19
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *10	6	19	10	19	30	23	37
	後天性免疫不全症候群 *10	515	545	471	509	409	461	469
	ジアルジア症 *10	19	20	24	13	13	16	22
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *14							12
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *14							11
	侵襲性肺炎球菌感染症 *14							124
	髄膜炎菌性髄膜炎 *10	3	2	1	-	2	-	-
	先天性風しん症候群 *10	-	-	-	-	-	-	13
	梅毒 *10	162	205	196	173	248	297	419
	破傷風 *10	1	5	7	5	8	5	4
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *10	17	15	15	17	6	10	8
	風しん *11		46	19	15	32	672	3,445
	麻しん *11		1,174	110	76	178	84	69
新型	新型インフルエンザ *12			1,160				
指定	鳥インフルエンザ (H7N9) *15							-

*1 2003年11月5日より新たに追加指定された。

*2 2007年4月1日より新たに追加指定された。

*3 2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。

*4 2008年5月12日より新たに追加指定された。

*5 2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。

*6 2002年11月1日より四類感染症に追加され、急性脳炎に含まれなくなった。

*7 2011年2月1日より新たに追加指定された。

*8 2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定、2007年4月1日より「鳥インフルエンザ」に変更

*9 2003年11月5日より新たに追加指定された。11/4までは「乳児ボツリヌス症」を含む。

*10 2003年11月5日より四類(全数届出)から五類(全数届出)に分類が変更になった。

*11 2008年1月1日より五類(定点届出)から五類(全数届出)に分類が変更になった。

*12 2009年4月28日に新型インフルエンザ等感染症に指定された。全数届け出は2009年7月23日まで。

*13 2013年3月4日より新たに追加指定された。

*14 2013年4月1日髄膜炎菌性髄膜炎に替わり指定された。

*15 2013年4月26日より新たに追加指定された。

表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数 (全数動物)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
エボラ出血熱のサル	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病のサル	-	-	-	-	-	-	-
ペストのプレーリードッグ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	-	-	-	-	-	-	-
結核のサル	-	-	-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ (H5N1)の鳥類	-	-	1*	-	-	-	-
細菌性赤痢のサル	-	-	-	-	-	-	-
ウエストナイル熱の鳥類	-	-	-	-	-	-	-
エキノコックス症の犬	-	-	-	-	-	-	-

* 2009年の報告は動物実験による感染

表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(インフルエンザ定点・小児科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
小児科定点数 *1	142	142	142	150	150	150	150	264	264	264
インフルエンザ定点数 *2	178	178	178	290	290	290	290	419	419	419
インフルエンザ	18,958	43,336	23,953	53,927	23,059	142,140	12,614	99,940	135,064	75,328
	106.51	243.46	134.57	191.41	80.47	495.53	43.97	240.03	323.29	181.11
RSウイルス感染症 *3	432	848	818	1,403	1,722	845	2,153	3,628	6,349	6,058
	3.04	5.97	5.76	9.57	11.71	5.73	14.52	13.94	24.51	23.48
咽頭結膜熱	2,123	2,468	3,929	2,793	2,927	1,339	1,979	4,936	5,510	6,184
	14.95	17.38	27.67	18.96	19.86	9.07	13.37	18.95	21.20	23.89
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	5,842	7,564	11,213	11,913	13,925	10,058	11,231	25,487	25,224	24,801
	41.14	53.27	78.96	81.32	93.97	68.03	75.80	97.66	96.60	95.29
感染性胃腸炎	39,464	42,578	51,945	46,783	58,681	37,599	63,372	95,910	118,967	102,987
	277.92	299.85	365.81	318.41	395.92	254.50	427.41	367.56	455.28	395.81
水 痘	6,845	7,565	8,345	8,874	8,682	7,079	9,472	15,679	12,995	11,452
	48.20	53.27	58.77	60.77	58.68	47.94	63.93	60.11	49.75	44.22
手足口病	3,585	3,296	2,885	4,382	4,487	3,426	6,257	24,786	5,411	29,320
	25.25	23.21	20.32	29.73	30.60	23.36	42.52	95.84	20.90	114.72
伝染性紅斑	2,771	2,035	3,109	2,879	1,168	1,558	2,929	6,317	1,626	1,608
	19.51	14.33	21.89	19.73	7.90	10.54	19.79	24.23	6.23	6.19
突発性発しん	4,043	4,048	4,119	4,691	4,944	4,463	4,397	8,447	8,547	8,299
	28.47	28.51	29.01	31.95	33.49	30.24	29.74	32.44	32.85	32.00
百日咳	47	28	23	151	278	225	506	450	286	91
	0.33	0.20	0.16	1.02	1.88	1.53	3.42	1.73	1.10	0.35
風しん *4	234	40	21	35						
	1.65	0.28	0.15	0.24						
ヘルパンギーナ	5,275	6,909	5,900	6,804	6,470	2,574	8,400	14,431	13,548	8,480
	37.15	48.65	41.55	46.10	44.08	17.63	57.06	55.78	52.28	33.06
麻しん *4	78	49	25	303						
	0.55	0.35	0.18	2.05						
流行性耳下腺炎	3,250	7,321	4,481	1,940	3,662	5,175	5,154	4,488	3,089	2,549
	22.89	51.56	31.56	13.24	24.83	35.05	34.87	17.23	11.88	9.83
不明発しん症 *5	540	461	966	665	734	657	622	1,506	1,400	1,094
	3.80	3.25	6.80	4.52	4.98	4.48	4.21	5.78	5.40	4.24
川崎病 *5	69	56	101	110	109	71	89	217	177	221
	0.49	0.39	0.71	0.75	0.73	0.48	0.60	0.83	0.68	0.85

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 2007年は、12月末時点の定点数

*3 2003年45週より実施

*4 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

*5 東京都独自疾患

表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(眼科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
定点数 *	14	14	14	39	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	6	7	8	82	64	53	74	31	19	17
	0.43	0.50	0.57	2.15	1.66	1.37	1.91	0.84	0.50	0.45
流行性角結膜炎	719	567	535	968	865	703	951	842	1,140	891
	51.36	40.50	38.21	32.04	22.41	18.28	24.60	22.73	30.01	23.68

* 2007年は、12月末時点の定点数

表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
定点数	25	25	25	25	24	24	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	25	17	15	28	24	24	18	52	42	48
	1.00	0.68	0.60	1.14	1.01	1.02	0.76	2.14	1.68	1.93
無菌性髄膜炎	27	28	40	50	34	28	38	96	121	126
	1.08	1.12	1.60	2.03	1.42	1.17	1.61	3.91	4.86	5.06
マイコプラズマ肺炎	184	164	218	247	298	305	416	1,143	1,067	514
	7.36	6.56	8.72	10.11	12.53	12.93	17.76	46.78	42.84	20.66
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	4	9	13	20	25	46	20	18	14	40
	0.16	0.36	0.52	0.81	1.05	1.96	0.85	0.74	0.56	1.60
感染性胃腸炎 *1 (ロタウイルスによる)										22
										0.88
インフルエンザ入院 *2								12	610	518
								0.48	24.40	20.89
成人麻しん *3	16	1	3	262						
	0.64	0.04	0.12	10.70						

*1 2013年42週より実施

*2 2011年36週より実施

*3 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
定点数	25	25	25	25	24	24	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,552 62.08	1,539 61.56	1,536 61.44	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44	1,312 55.36	1,136 46.67	1,074 43.25	918 37.26
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	444 17.76	534 21.36	579 23.16	624 25.08	554 23.08	552 23.30	635 26.77	596 24.55	440 17.72	467 18.94
薬剤耐性緑膿菌感染症	39 1.56	35 1.40	41 1.64	48 1.93	26 1.08	22 0.93	26 1.10	37 1.52	24 0.97	32 1.29
薬剤耐性アシネト* バクテリア感染症								0 0.00	0 0.00	0 0.00

* 2011年2月より実施

表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(性感染症定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
定点数*1	41	41	41	55	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,476 60.39	2,132 52.00	2,133 52.02	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51	2,376 44.07	2,426 44.37	2,315 42.64	2,286 42.46
性器ヘルペスウイルス感染症	982 23.95	923 22.51	963 23.49	989 19.40	946 17.25	954 17.69	1,194 22.15	1,236 22.60	1,311 24.17	1,216 22.60
尖圭コンジローマ	627 15.29	555 13.54	646 15.76	801 15.39	926 16.88	727 13.47	842 15.62	837 15.31	877 16.17	959 17.84
淋菌感染症	1,171 28.56	1,006 24.54	868 21.17	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61	1,067 19.81	1,212 22.15	1,035 19.09	1,070 19.87
膣トリコモナス症*2	298 7.27	212 5.17	233 5.68	233 4.69	169 3.08	138 2.55	150 2.78	136 2.49	129 2.38	113 2.10
梅毒様疾患*2	42 1.02	43 1.05	74 1.80	103 1.99	82 1.50	94 1.74	83 1.54	117 2.14	120 2.21	136 2.53

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 東京都独自疾患

表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(疑似症定点)

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
定点数					315	315	315	443	443	443
発熱及び呼吸器症状*					11	147	20	9	10	38
発熱及び発しん・水疱*					8	6	9	4	15	16

* 2008年7月より実施

3 各疾患の動向

(1) 一～四類、五類（全数把握対象）、指定感染症

ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

イ 二類感染症

① 結核

結核の発生動向は別途、「東京都における結核の概況」で報告する。

② その他の二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）については届出がなかった。

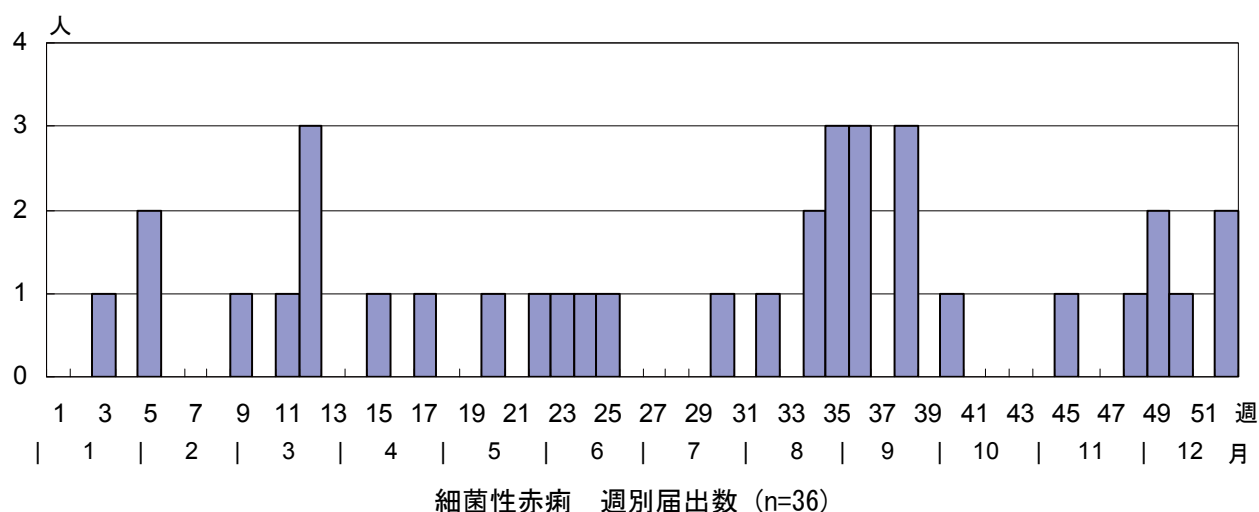
ウ 三類感染症

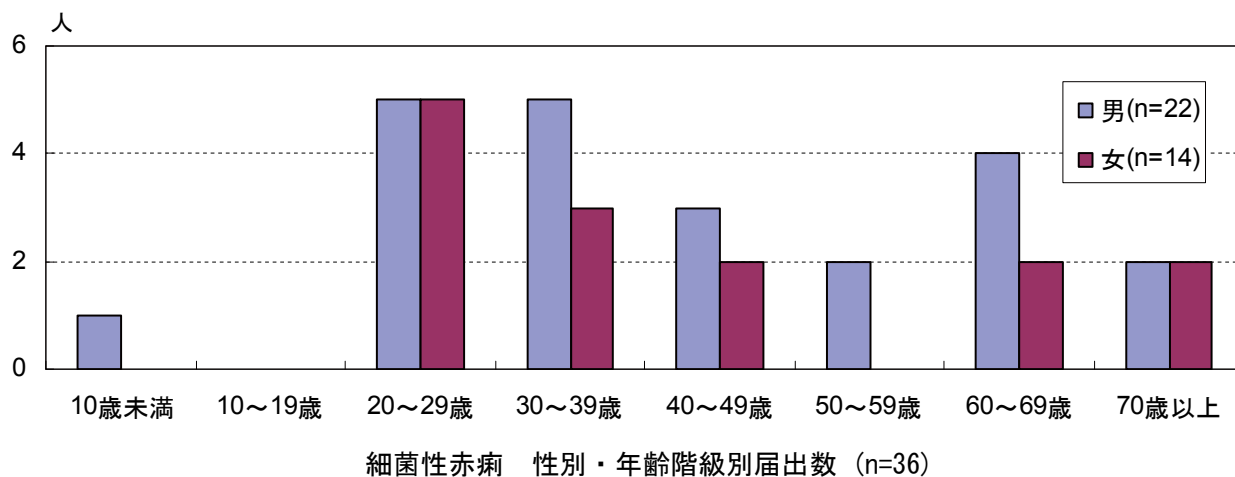
① 細菌性赤痢

2013年の細菌性赤痢の届出は36人であり、過去10年で最も少ない届出数となった。菌型の内訳はソンネ26件、フレキシネル10件で、ディセンテリー、ボイドの届出はなかった。性別は男性22人、女性14人で、年齢階級別では10歳未満1人、20～29歳10人、30～39歳8人、40～49歳5人、50～59歳2人、60～69歳6人、70歳以上4人であった。

推定感染地は国内7人、国外29人であった。国内感染と推定された7人の年齢階級別の内訳は20～29歳3人、30～39歳1人、40～49歳2人、60～69歳1人であり、同姓間性的接触（経口感染）によると推定される感染例が2例報告された。

国外感染例の推定感染地域は南アジア13人、東南アジア11人、東アジア4人、アフリカ1人であり、推定感染国別に見ると、2人以上の届出があった国はインド12人、インドネシア6人、中国3人、フィリピン2人であった。





細菌性赤痢 国内感染例 (n=7)

受理日	受理週	性別	年齢	菌 型	症状	推定感染地	推定感染経路
3/22	12	女	69	フレキシネル	有	東京都	
4/12	15	男	25	フレキシネル	有	東京都	
4/25	17	男	24	フレキシネル	有	神奈川県	
5/30	22	男	41	ソンネ	有	東京都	性的接触（同性間）
9/4	36	女	44	ソンネ	有	東京都	タイカレー（日本製）
9/20	38	男	35	ソンネ	有	東京都	性的接触（同性間）
12/2	49	女	25	ソンネ	有	東京都	

細菌性赤痢 国外感染例 (n=29)

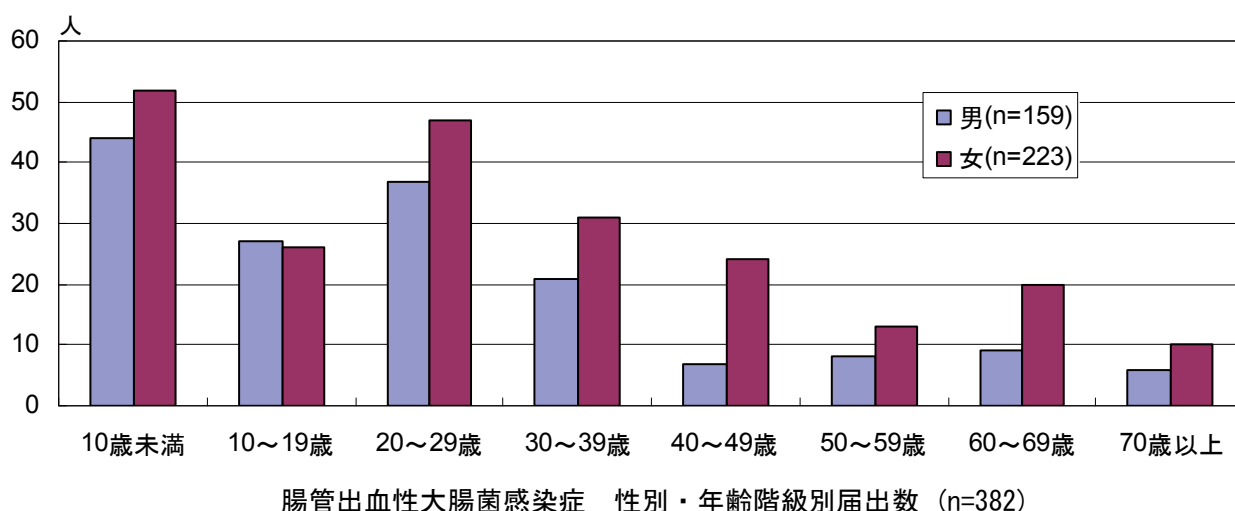
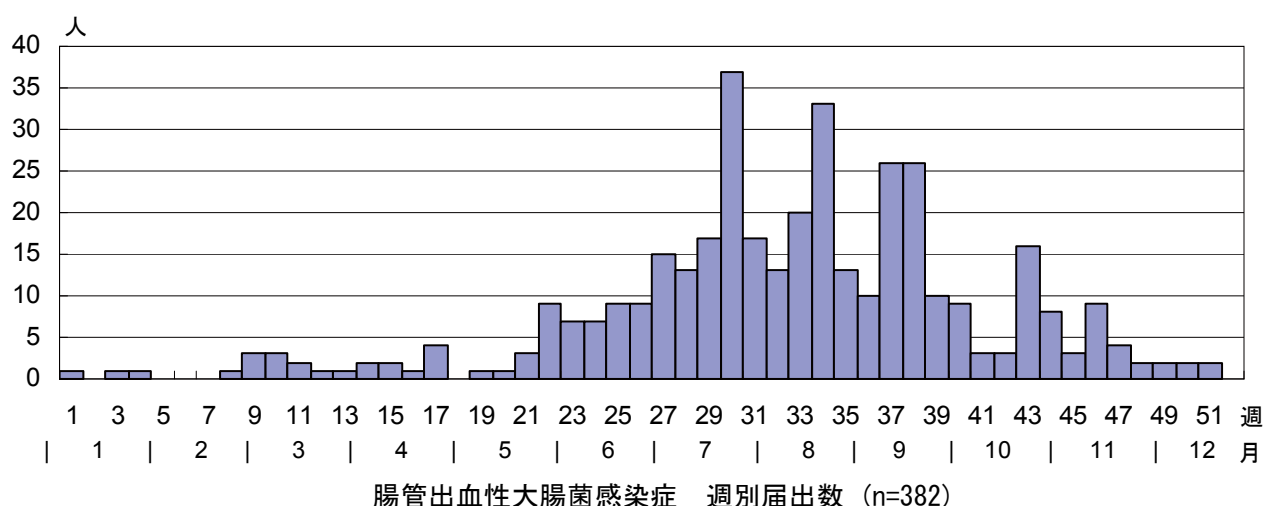
推定感染地域	人 数	推定感染国	人 数
南アジア	13	インド	12
		ネパール	1
東南アジア	11	インドネシア	6
		タイ	1
		フィリピン	2
		ベトナム	1
		ミャンマー	1
東アジア	4	中国	3
		モンゴル	1
アフリカ	1	ルワンダ	1
合 計	29		29

② 腸管出血性大腸菌感染症

2013 年は 382 人届出があり、症状別では患者 268 人、無症状病原体保有者 114 人であった。届出の多くは夏期から秋期にかけてのものであったが、ほぼ 1 年を通して患者の発生が見られた。性別は男性 159 人、女性 223 人で、年齢階級別では 10 歳未満 96 人（うち 5 歳未満 68 人）、10～19 歳 53 人、20～29 歳 84 人、30～39 歳 52 人、40～49 歳 31 人、50～59 歳 21 人、60～69 歳 29 人、70 歳以上 16 人であった。血清型・毒素型は O157 VT1・VT2 が 140 件で最多であり、推定感染地は国内 374 人、国外 8 人（ベトナム 3 人、トルコ 2 人、韓国 1 人、モロッコ 1 人、ネパール 1 人）であった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは 9 人おり、年齢は 10 歳未満 7 人（うち 5 歳未満 5 人）、10～19 歳 2 人で、血清型・毒素型は O157 VT2 が 1 件、O157 VT1・VT2 が 2 件、O157 VT 不明が 4 件、O76 VT2 が 1 件、不明（便でのベロ毒素検出）1 件であった。

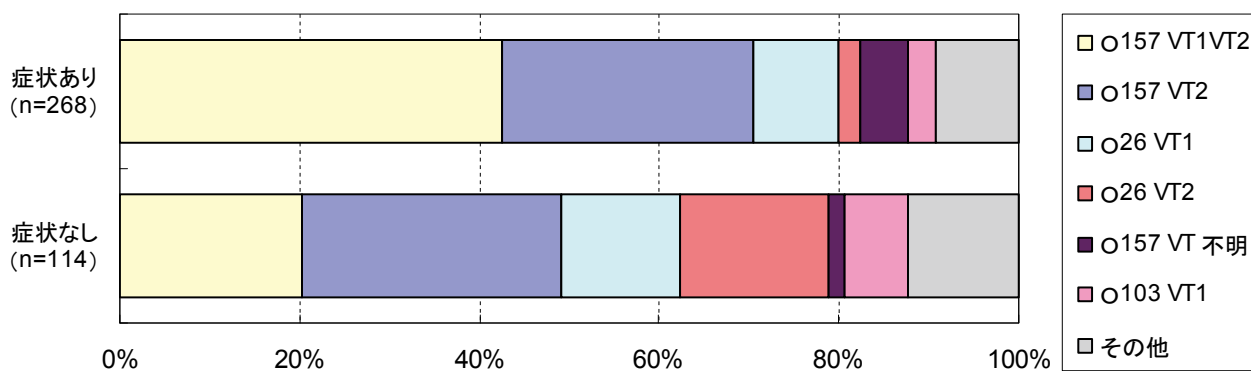
症例の集積は、第 20～21 週に O157 VT2 による焼き肉店関連が 5 人、第 29～31 週に O157 VT2 による保育園関連が 17 人、第 29～31 週に O157 VT1・VT2、O121 VT2、O26 VT1 が検出された焼き肉店関連が 4 人、第 32～35 週に O103 VT1、O26 VT1、O26 VT1 及び O103 VT1 の重複感染が確認された保育園関連が 19 人、第 33～35 週に O157 VT2 による障害者施設で 3 人、第 37～39 週に O26 VT2 による保育園関連が 25 人、第 38～39 週に O157 VT2（O157 VT 不明 1 人を含む）による保育園関連が 5 人、第 43 週に O157 VT2 による都外焼き肉店関連が 2 人認められた。



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別届出数 (n=382)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
O26	VT1	41*	O121	VT1・VT2	1
	VT2	26	O145	VT1	1
	不明	1		VT2	6
O76	VT2	1		VT1・VT2	1
O91	VT1	3	O157	VT1	9*
	VT1・VT2	1		VT2	108
O103	VT1	18*		VT1・VT2	140*
O115	VT1	1		不明	16
O119	VT2	1	不明	不明	6
O121	VT2	5			

* 他の血清型・毒素型との重複感染例を含む



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別構成割合 (n=382)

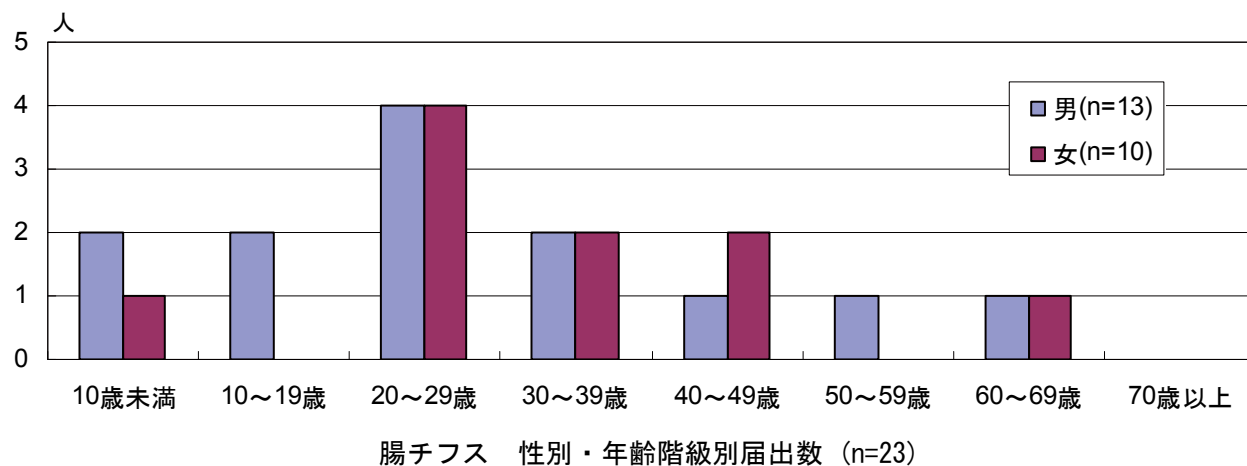
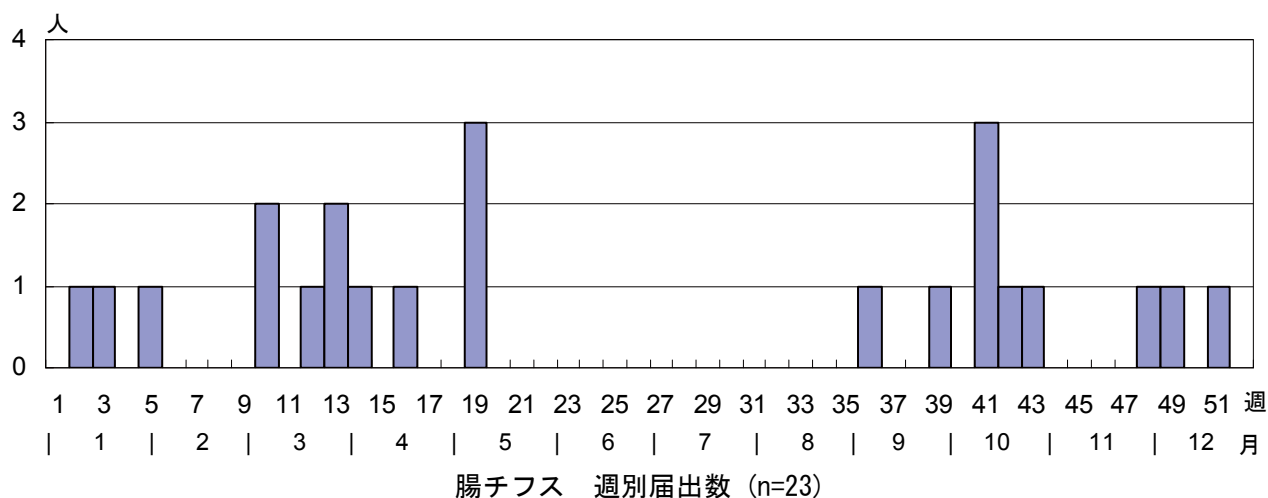
溶血性尿毒症症候群発症例 (n=9)

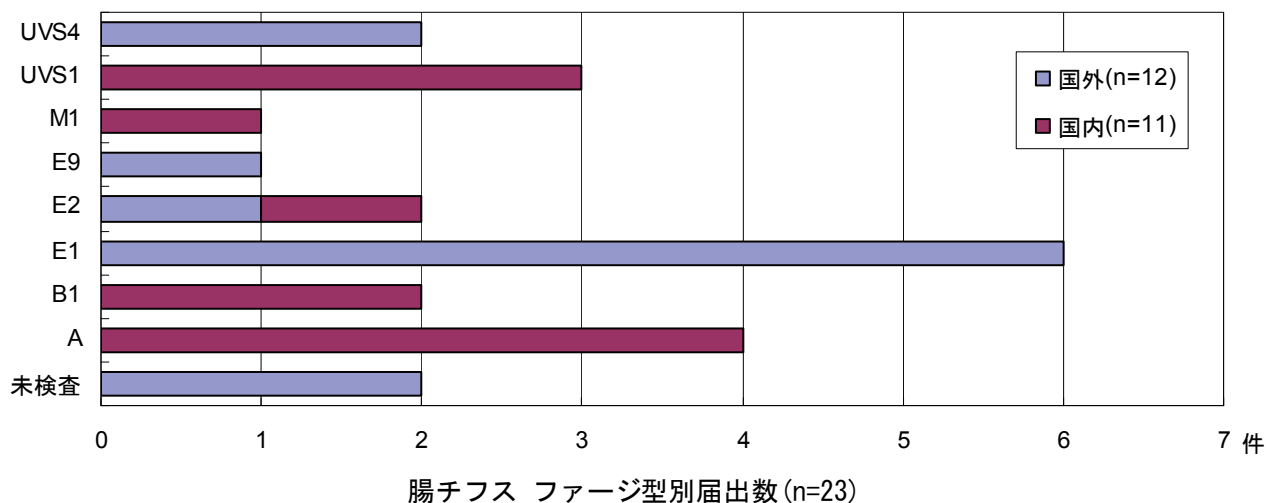
受理日	受理週	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地	備考
7/19	29	女	4	O157 VT1・VT2	東京都	第 29～31 週に報告された 焼き肉店関連事例
7/29	31	男	10	O157 VT 不明	長野県	
8/14	33	女	0	未実施	千葉県	
8/16	33	女	1	O157 VT1・VT2	茨城県	便でのペロ毒素検出
8/29	35	女	2	O157 VT2	福島県	
9/19	38	男	1	O157 VT 不明	東京都	第 38～39 週に報告された 保育園関連事例
9/20	38	女	6	O157 VT 不明	北海道	
10/25	43	男	16	O157 VT 不明	東京都	
11/21	47	女	5	O76 VT2	東京都	

③ 腸チフス

2013 年は 23 人の届出があり、過去 10 年では最多の届出数であった。症状別では患者 22 人、無症状病原体保有者 1 人、性別では男性 13 人、女性 10 人、年齢階級別では 10 歳未満 3 人、10～19 歳 2 人、20～29 歳 8 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 2 人であった。

推定感染地は国内 10 人、国外 12 人、国内又は国外（シンガポール）1 人で、国内感染と推定される届出がほぼ半数を占めた。国外感染例 12 人を推定感染地域別に見ると、南アジア 8 人、東南アジア 3 人、東アジア 1 人であり、推定感染国はインド 5 人、ネパール 2 人のほか、バングラデシュ、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、中国各 1 人であった。





腸チフス 国内（国内又は国外を含む）感染例（n=11）

受理日	受理週	性別	年齢	ファージ型	症状	推定感染地
1/7	2	男	2	E2	有	東京都
3/5	10	男	63	M1	有	東京都
5/8	19	女	22	UVS1	有	東京都またはシンガポール
5/9	19	女	34	UVS1	有	不明
9/6	36	女	8	A	有	東京都
9/26	39	女	46	B1	有	東京都
10/11	41	女	32	A	有	東京都
10/15	42	女	25	A	有	東京都
10/21	43	男	6	A	有	不明
11/29	48	男	20	B1	有	不明
12/17	51	女	47	UVS1	有	不明

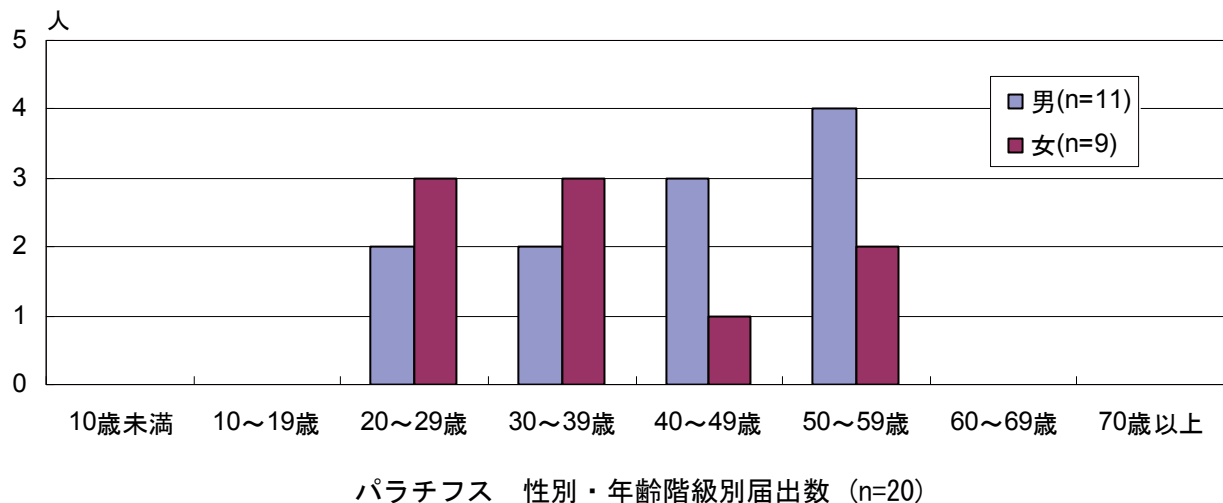
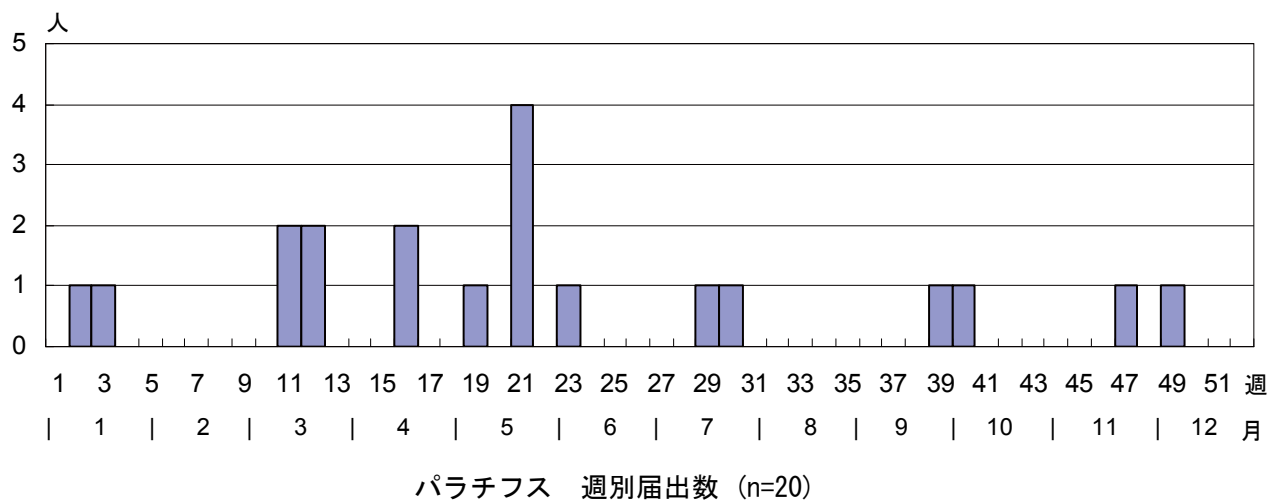
腸チフス 国外感染例（n=12）

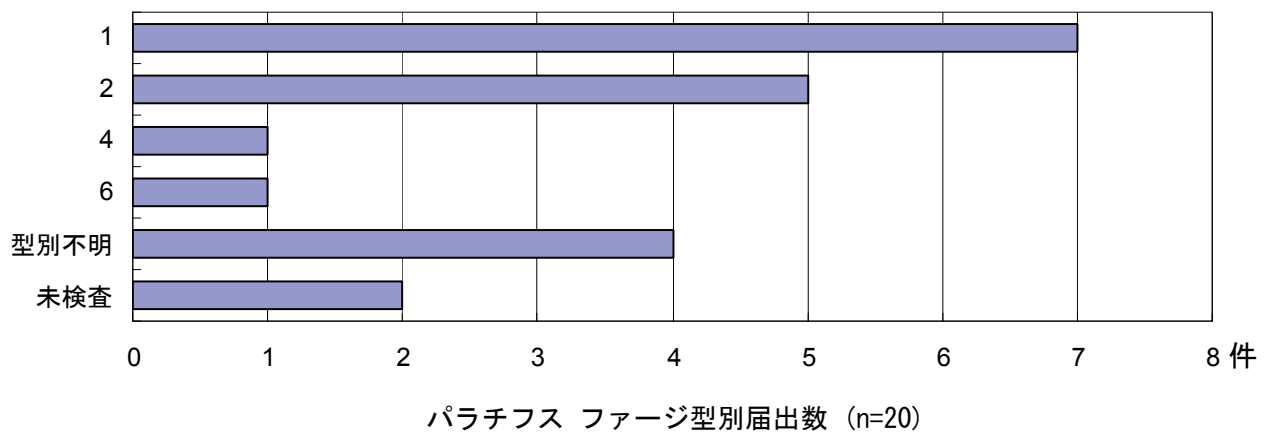
推定感染地域	人数	推定感染国	人数
南アジア	8	インド	5
		ネパール	2
		バングラデシュ	1
東南アジア	3	インドネシア	1
		フィリピン	1
		ミャンマー	1
東アジア	1	中国	1
合 計	12	合 計	12

④ パラチフス

2013 年は 20 人届出があり、腸チフス同様過去 10 年で最も多い届出数となった。性別は男性 11 人、女性 9 人であり、年齢階級別では 20～29 歳 5 人、30～39 歳 5 人、40～49 歳 4 人、50～59 歳 6 人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域は東南アジア 11 人、南アジア 6 人、2 地域以上 3 人であった。推定感染国はカンボジア 4 人、インドネシア 4 人、インド 3 人のほか、ミャンマー、ネパール、パキスタン、カンボジア又はミャンマー、カンボジア又はタイ、インド又はネパール、ミャンマー又はバングラデシュ、カンボジア又は中国又は台湾、インド又はネパール又は中国がそれぞれ 1 人であった。





パラチフス 国外感染例 (n=20)			
推定感染地域	人 数	推定感染国	人 数
東南アジア	11	カンボジア	4
		インドネシア	4
		ミャンマー	1
		カンボジア/ミャンマー	1
		カンボジア/タイ	1
南アジア	6	インド	3
		ネパール	1
		パキスタン	1
		インド/ネパール	1
2 地域以上	3	カンボジア/中国/台湾	1
		ミャンマー/バングラデシュ	1
		インド/ネパール/中国	1
合 計	20		20

⑤ その他の三類感染症

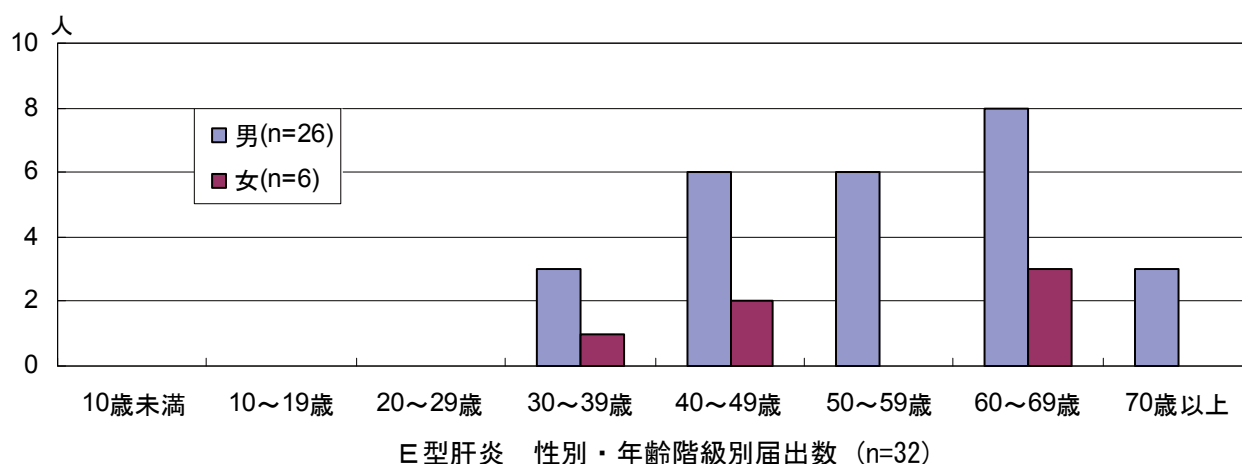
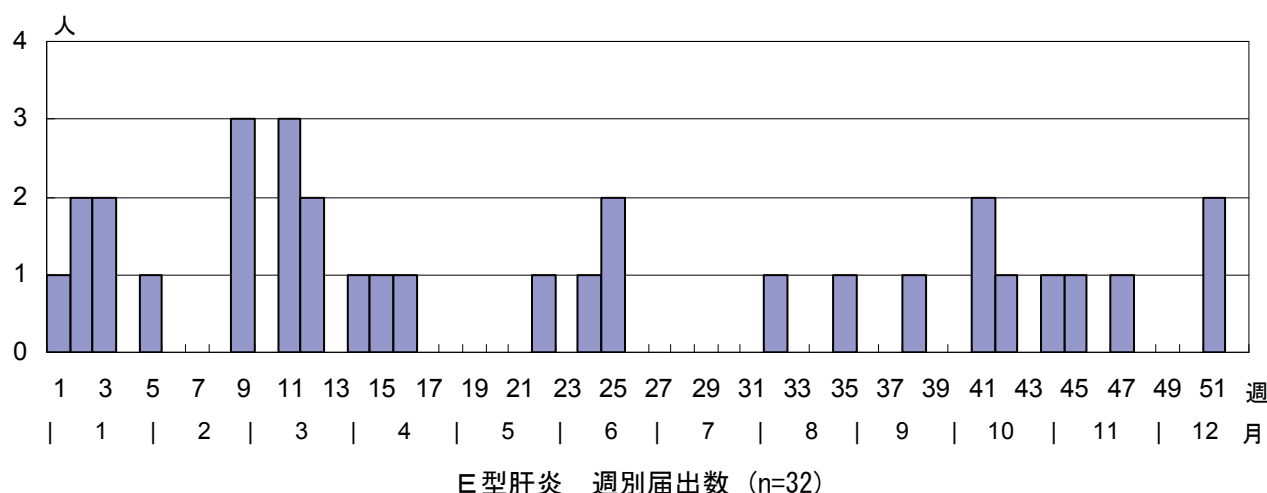
2012 年に続き、コレラの届出はなかった。

エ 四類感染症

① E型肝炎

2013 年は 32 人の届出があり、2003 年の感染症法改正によって全数把握対象の疾患に指定された以降で最多の届出数となった。性別は男性 26 人、女性 6 人で、年齢階級別では 30～39 歳 4 人、40～49 歳 8 人、50～59 歳 6 人、60～69 歳 11 人、70 歳以上 3 人であった。

推定感染地は国内 27 人、中国 2 人、韓国 1 人、スウェーデン 1 人、タイ又は台湾 1 人であった。推定感染経路では 3 人に豚レバー、1 人に生レバー（動物種不明）、1 人に羊肉の喫食が見られた。

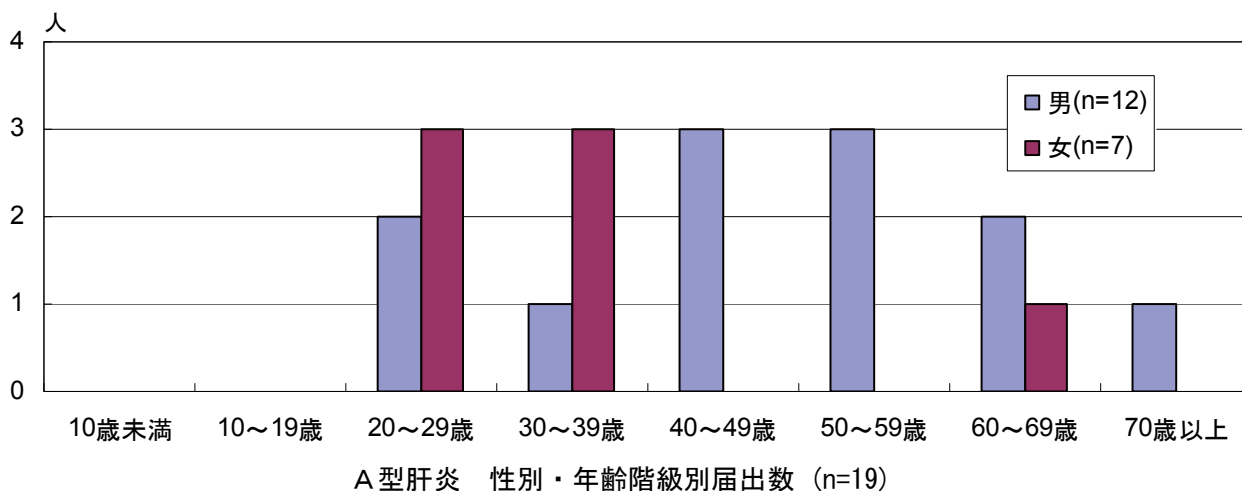
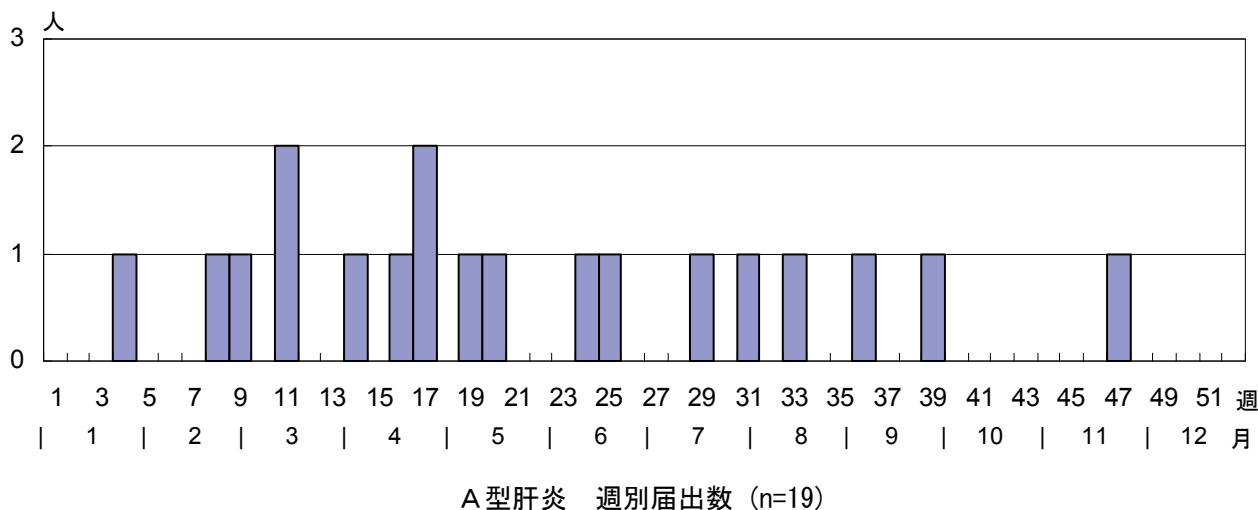


② A型肝炎

2013 年の届出は 19 人であり、性別は男性 12 人、女性 7 人、年齢階級別では 20～29 歳 5 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 3 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 9 人、国外 10 人であった。国外感染と推定された 10 人の感染地域は、アフリカ 2 人、東アジア 2 人、東南アジア 1 人、南アジア 1 人、南アメリカ 1 人、中央アメリカ 1 人、2 地域以上 2 人で、推定感染国はエジプト、ケニア、韓国、台湾、ベトナム、インド、ブラジル、グアテマラ、エジプト又はタイ、中国又はインド又はタイがそれぞれ 1 人であった。

推定感染経路は、飲食物を介した経口感染 13 人、不明 6 人であり、経口感染 13 人の推定原因食品は魚介類が 5 人、不明 8 人であった。



③ オウム病

2013 年は 2 人（2 週に届出があった 60 歳男性、24 歳女性の父子）の届出があり、推定感染地は国内、感染経路は両者とも発症 2 週間前に死亡したインコと推定された。

④ Q 熱

Q 熱は 2010 年以降届出がなかったが、2013 年は 3 人（同一家族）の届出があった。それぞれの性別及び年齢は、女性 10 歳（16 週届出）、女性 12 歳（21 週届出）、女性 40 歳（26 週届出）であり、推定感染地は国内、推定感染経路は野良猫（2012 年 11 月に飼育）からの感染であった。

⑤ コクシジオイデス症

2013 年は 4 人届出があり、性別及び年齢は、全員が男性、20～29 歳で、同一企業の職員であった。推定感染地は米国内にある同企業研修所で、推定感染経路は塵埃感染であった。

コクシジオイデス症届出例 (n=4)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
3/18	12	男	27	有	米国	塵埃感染
3/19	12	男	26	有	米国	塵埃感染
5/20	21	男	26	無	米国	塵埃感染
11/25	48	男	26	有	米国	塵埃感染

⑥ チクングニア熱

2013 年は 4 人届出があった。性別は男性 2 人、女性 2 人であり、年齢は 20～29 歳 3 人、50～59 歳 1 人、推定感染地はすべて国外（インドネシア 2 人、フィリピン 1 人、インド 1 人）であった。

チクングニア熱届出例 (n=4)

受理日	受理週	性別	年齢	推定感染国	推定感染経路
1/4	1	女	28	フィリピン	蚊からの感染
3/11	11	男	26	インド	動物・蚊・昆虫等からの感染
7/8	28	女	59	インドネシア（バリ島）	蚊からの感染
11/26	48	男	27	インドネシア	動物・蚊・昆虫等からの感染

⑦ つつが虫病

2013 年は 12 人届出があり、性別は男性 9 人、女性 3 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 1 人、10～19 歳 1 人、20～29 歳 2 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 1 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 3 人であった。

推定感染地は国内 11 人、国外（イタリア）1 人であり、国内の推定感染地は東京都 8 人（多摩地区 5 人、23 区内 2 人、島しょ地区 1 人）、静岡県 1 人、秋田県 1 人、鳥取県 1 人であった。

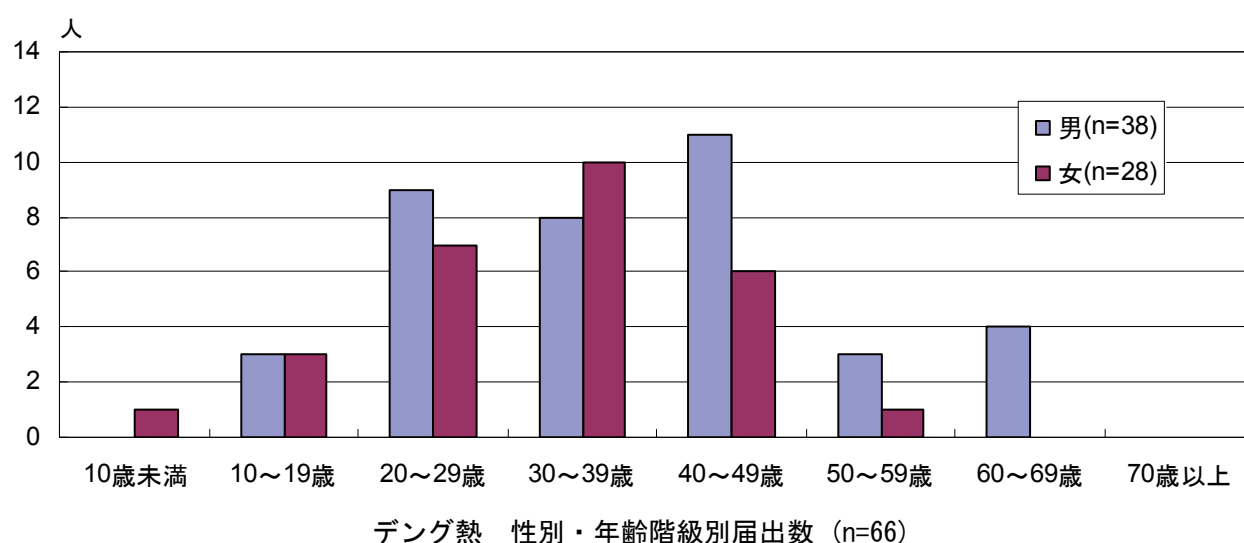
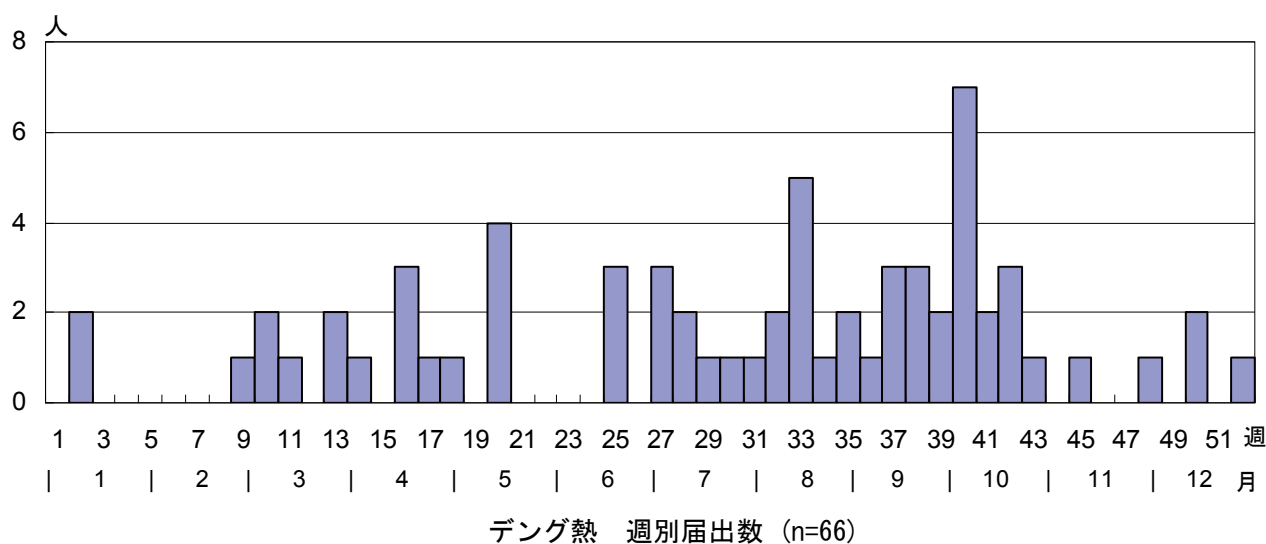
つつが虫病届出例 (n=12)

受理日	受理週	性別	年齢	推定感染地	野外地への旅行、立入り暦等
7/1	27	男	34	東京都	有(6月上旬)
9/6	36	女	16	東京都	不明
9/26	39	女	72	東京都	不明
10/7	41	男	36	東京都	不明
10/16	42	女	29	イタリア	ヨーロッパ 2 ヶ月滞在中に発症
10/29	44	男	28	秋田県	有
11/15	46	男	40	東京都	不明
11/20	47	男	34	静岡県	有(10月末)
11/26	48	男	1	東京都	不明
12/5	49	男	79	東京都	有
12/9	50	男	69	鳥取県	不明
12/9	50	男	73	東京都	不明

⑧ デング熱

2013 年は 66 人（うちデング出血熱 3 人）届出があり、過去 10 年では 2010 年の 70 人に次い 2 で番目に多い届出数となった。血清型は 18 件報告されており、その内訳は 1 型 10 件、2 型 5 件、3 型 3 件であった。性別は男性 38 人、女性 28 人、年齢階級別では 10 歳未満 1 人、10～19 歳 6 人、20～29 歳 16 人、30～39 歳 18 人、40～49 歳 17 人、50～59 歳 4 人、60～69 歳 4 人であった。

推定感染地はすべて国外で、感染地域別では東南アジアが 57 人（86.4%）と多くの割合を占め、他に南アジア 6 人、オセアニア 1 人などが見られた。推定感染国はインドネシア 18 人、タイ 14 人、フィリピン 10 人、インド 5 人、カンボジア 3 人、ベトナム 3 人、ラオス 2 人、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、スリランカ、オーストラリア、インドネシア又はシンガポール、タイ又はカンボジア、タイ又はインド、カンボジア又はマレーシア、マレーシア又はシンガポール、タイ又はマレーシア又は中国が各 1 人であった。



⑨ マラリア

2013 年の届出は 12 人であり、2012 年の半数となった。病型は熱帯熱マラリア 9 人、四日熱マラリア 2 人、卵形マラリア 1 人であり、性別はすべて男性、年齢階級別では 20～29 歳 1 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 6 人、60～69 歳 1 人であった。

推定感染地はすべて国外（アフリカ）であり、推定感染国はシエラレオネ 3 人のほか、ガーナ、スーダン、ナイジェリア、ガボン、コンゴ共和国、南スーダン、ウガンダ、ベナン、アンゴラが各 1 人であった。

マラリア届出例（n=12）

受理日	受理週	性別	年齢	病 型	推定感染国
2/1	5	男	22	熱帯熱	ガーナ
2/18	8	男	48	卵形	スーダン
2/19	8	男	39	熱帯熱	シエラレオネ
3/19	12	男	48	熱帯熱	シエラレオネ
5/16	20	男	44	熱帯熱	ナイジェリア
8/13	33	男	49	熱帯熱	ガボン
9/6	36	男	30	熱帯熱	シエラレオネ
11/5	45	男	61	熱帯熱	コンゴ共和国
11/7	45	男	32	四日熱	南スーダン
11/25	48	男	47	熱帯熱	ウガンダ
11/29	48	男	49	熱帯熱	ベナン
12/18	51	男	36	四日熱	アンゴラ

⑩ ライム病

2013 年の届出は、例年と比較してやや多い 7 人であった。性別は男性 4 人、女性 3 人で、年齢は 30～39 歳 2 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 4 人（うち 2 人は夫婦）であった。

推定感染地は国内 1 人、国外 6 人であり、国外感染例の推定感染地域はヨーロッパ 4 人、北アメリカ 2 人、推定感染国はスウェーデン 2 人、米国 2 人、ポーランド 1 人、スロバキア 1 人であった。

ライム病届出例（n=7）

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
7/8	28	女	36	有	ポーランド	ダニ
8/2	31	男	52	有	スロバキア	ダニ
8/27	35	男	65	有	北海道	ダニ
8/28	35	男	65	無	スウェーデン	ダニ
8/28	35	女	65	無	スウェーデン	ダニ
8/29	35	男	63	有	米国	動物・蚊・昆虫等
9/13	37	女	39	有	米国	ダニ

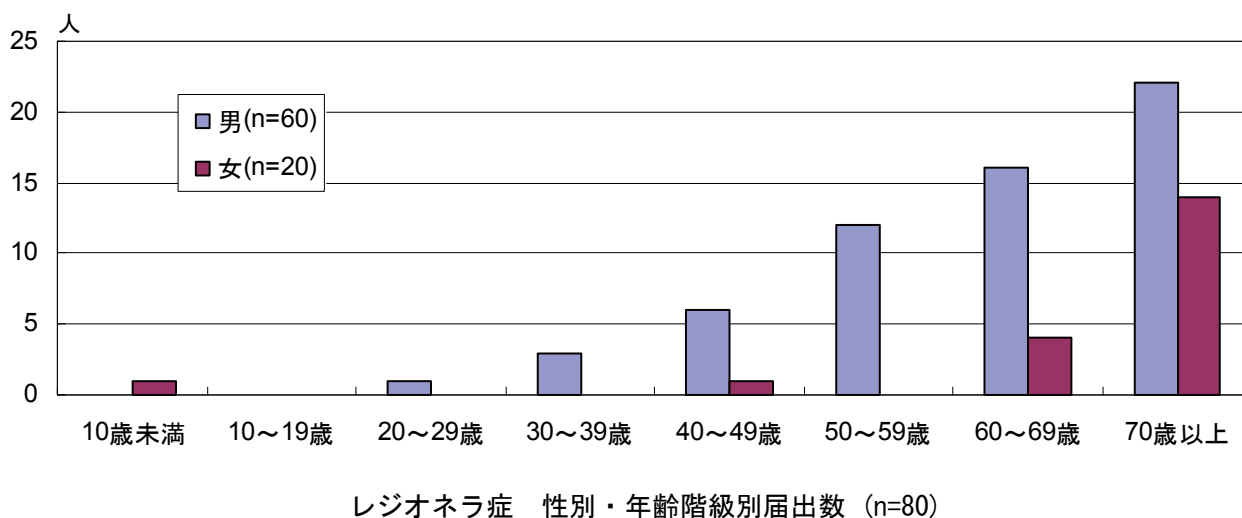
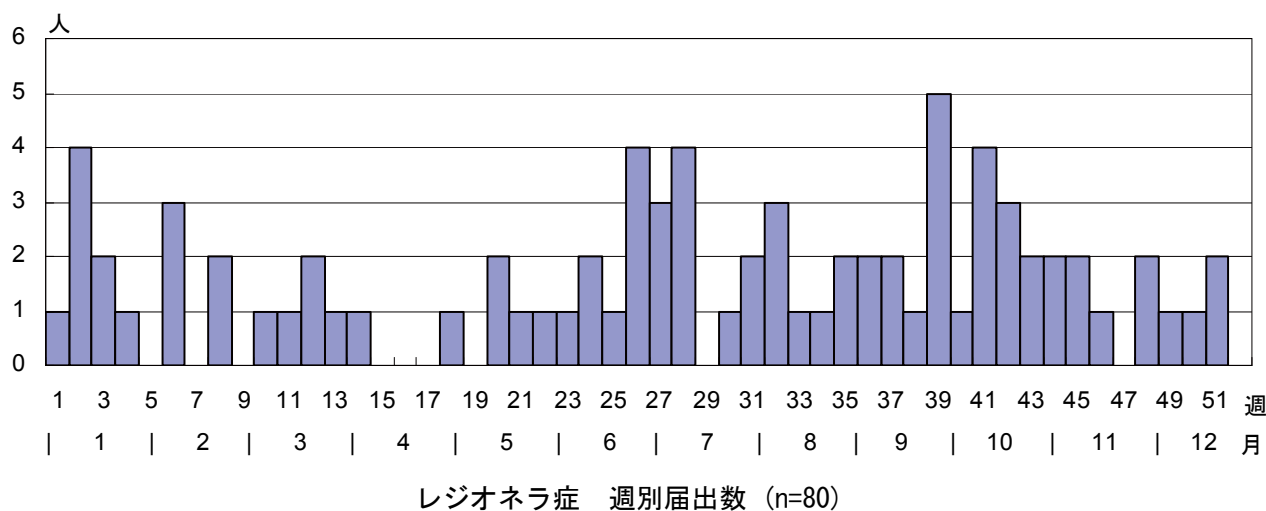
⑪ 類鼻疽

2013 年は 9 週に 1 人届出があり、2010 年の届出に次ぐ 2 人目となった。症例は 33 歳男性で、推定感染地はマレーシア（長期間滞在）、推定感染経路は土壌であった。

⑫ レジオネラ症

2013 年の届出は 80 人であった。病型は肺炎型 77 人、ポンティアック熱型 3 人で、死亡例が 2 人見られた。性別は男性 60 人、女性 20 人、年齢階級別では 10 歳未満 1 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 7 人、50～59 歳 12 人、60～69 歳 20 人、70 歳以上 36 人であった。

推定感染地は国内 77 人、国外 2 人（フィリピン 1 人、米国 1 人）、国内又は国外（インドネシア）1 人であった。推定感染経路は水系感染 36 人、塵埃感染 2 人、その他 2 人（病院内感染 1 人、経気道感染 1 人）、不明 40 人であった。水系感染のうち、温泉施設での感染と推定されたのは 12 人であった。



⑬ レプトスピラ症

2013 年は 6 人届出があった。性別はすべて男性で、年齢は 20～29 歳 2 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 1 人であった。

推定感染地は国内 3 人、インドネシア 2 人、タイ 1 人であった。推定感染経路は、国外感染事例ではいずれも河川とされているが、国内感染事例では職場環境やネズミであり、3 人とも食品を扱う職業に従事していた。

レプトスピラ症届出例（n=6）

受理日	受理週	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路
7/12	28	男	45	インドネシア	河川
8/22	34	男	55	東京都	水系感染
9/9	37	男	25	東京都	職場環境
10/18	42	男	22	タイ	河川
11/7	45	男	46	東京都	ネズミ
12/18	51	男	41	インドネシア	河川

⑭ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、狂犬病、サル痘、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、ロッキー山紅斑熱

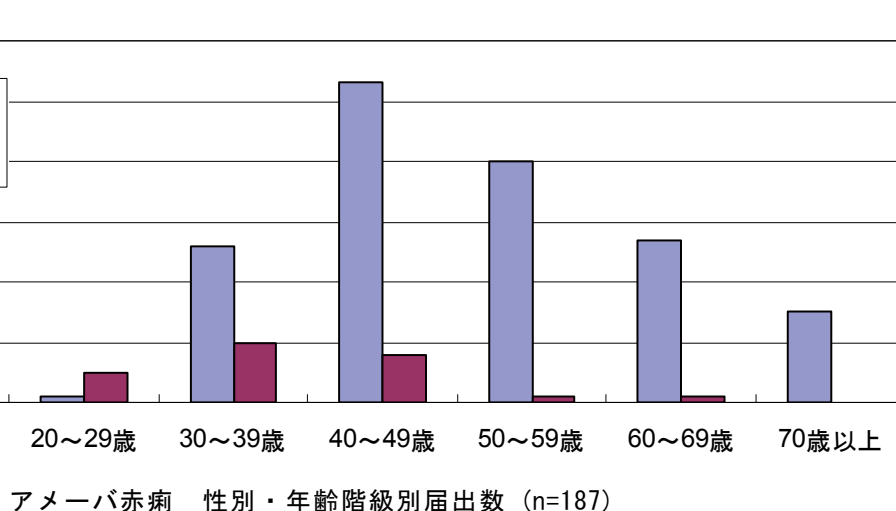
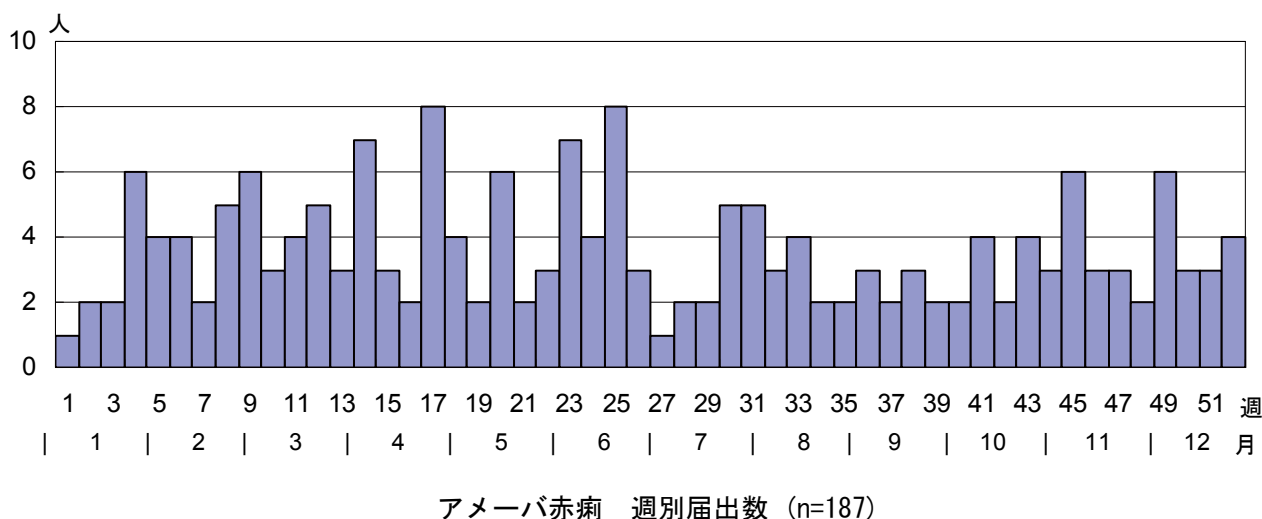
オ 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

2013 年は 187 人届出があった。腸管アメーバ症 155 人、腸管外アメーバ症 22 人、腸管及び腸管外アメーバ症 10 人で、死亡例は 2 人報告された。性別は男性 162 人、女性 25 人で、年齢階級別では 20～29 歳 6 人、30～39 歳 36 人、40～49 歳 61 人、50～59 歳 41 人、60～69 歳 28 人、70 歳以上 15 人であった。

推定感染地は国内 160 人、国外 25 人、国内又は国外 2 人であり、国外感染例 25 人を推定感染地域別にみると、東南アジア 10 人、南アジア 3 人、東アジア 3 人、アフリカ 2 人、ヨーロッパ 1 人、2 地域以上 3 人、渡航先不明 3 人であった。渡航先不明の 3 人を除く推定感染国はインドネシア 5 人、インド 3 人、中国 2 人、台湾、ベトナム、マレーシア、ナイジェリア、南アフリカ、イギリス各 1 人のほか、ベトナム又は中国 1 人、タイ又は韓国 1 人、ベトナム又はフィリピン 1 人、ベトナム又はラオス 1 人、インドネシア又はフィリピン又は中国 1 人、国名不明（東南アジア）1 人であった。

推定感染経路は、性的接触 58 人（同性間 23 人、異性間 19 人、両性間 3 人、性別不明 13 人）、飲食物による経口感染 26 人、2 経路以上 2 人、不明 101 人であった。



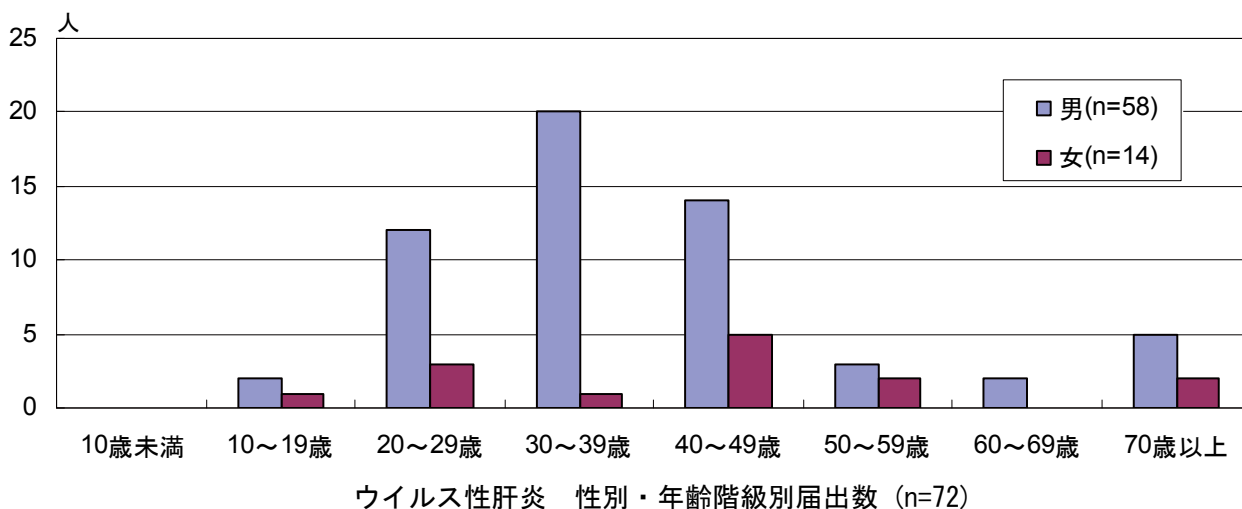
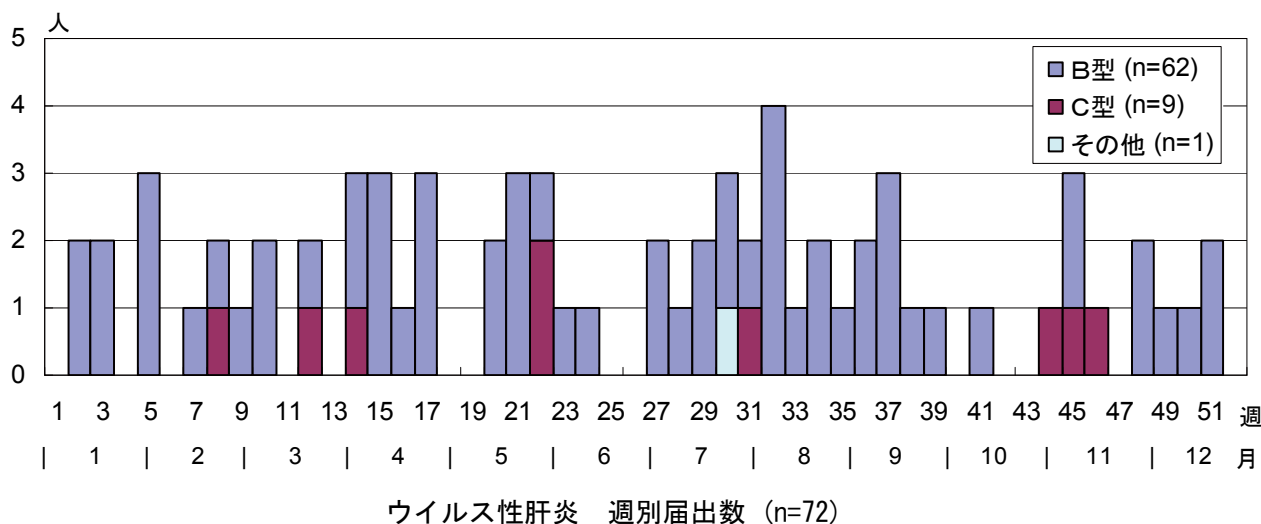
② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

2013年の届出は72人であり、2012年に続き前の年よりも増加した。内訳は、B型肝炎62人、C型肝炎9人、サイトメガロウイルス肝炎1人であった。

B型肝炎62人の届出のうち男性は51人、女性は11人で、年齢階級別では10～19歳3人、20～29歳15人、30～39歳19人、40～49歳16人、50～59歳5人、60～69歳2人、70歳以上2人であった。推定感染地は国内57人、国外5人（中国2人、台湾1人、フィリピン1人、シンガポール1人）で、推定感染経路は性的接触53人（同性間15人、異性間31人、両性間1人、性別不明6人）、不明9人であった。

C型肝炎9人の性別は男性6人、女性3人で、年齢は30～39歳1人、40～49歳3人、70歳以上5人（うち80歳以上2人）であった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は静注薬物の常用による感染が1人、血液製剤による感染1人、不明7人であった。

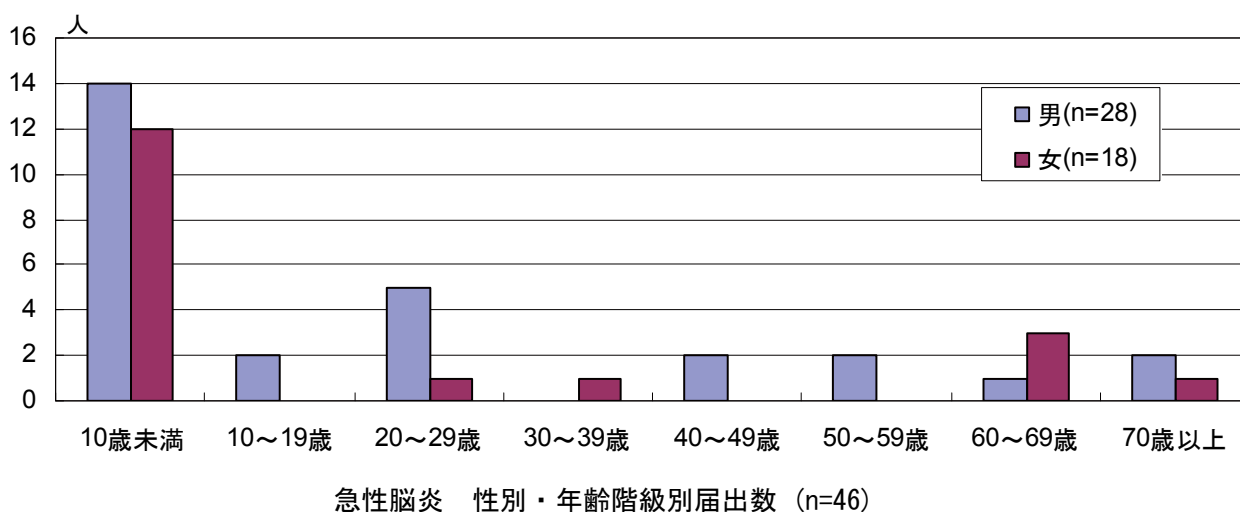
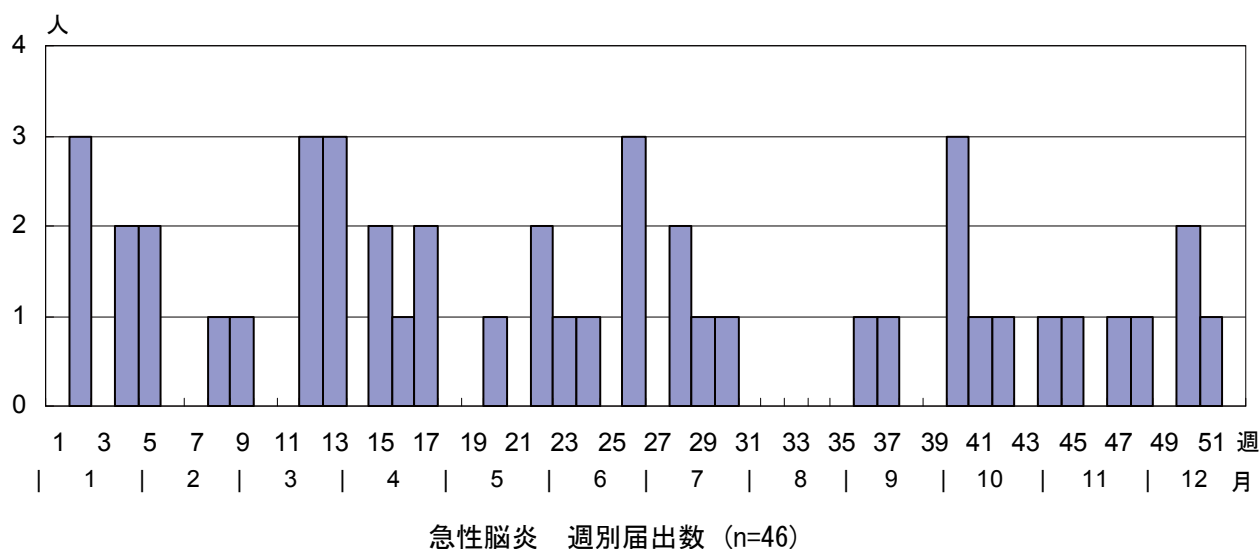
サイトメガロウイルス肝炎の1人は、37歳の男性で、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

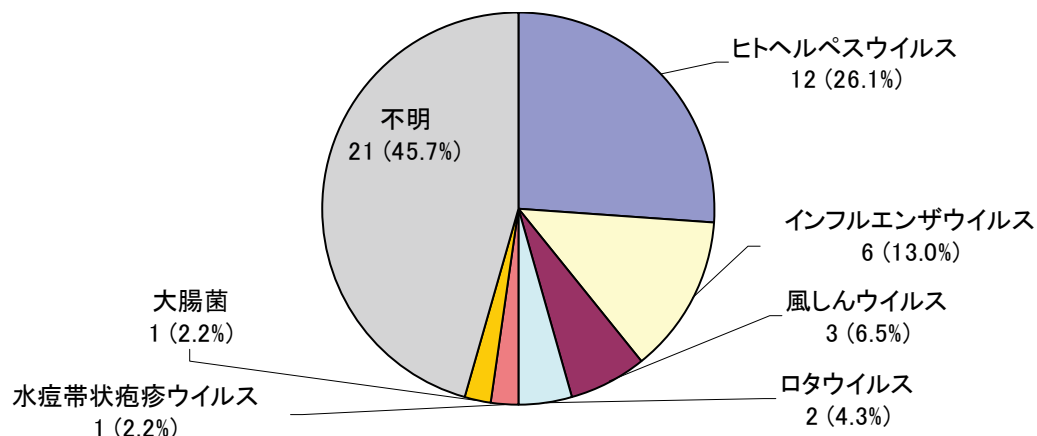


③ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

2013 年は 46 人の届出があり、全数把握の対象疾患となった 2003 年以降、最も多い届出数であった。病原体はヒトヘルペスウイルス 12 件、インフルエンザウイルス 6 件、風しんウイルス 3 件、ロタウイルス 2 件、水痘帯状疱疹ウイルス疑い 1 件、大腸菌 1 件、不明 21 件であった。

性別は男性 28 人、女性 18 人で、年齢階級別では 10 歳未満 26 人（うち 5 歳未満 19 人）、10～19 歳 2 人、20～29 歳 6 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 4 人、70 歳以上 3 人、推定感染地はすべて国内であった。





急性脳炎 病原体別届出数 (n=46)

④ クリプトスポリジウム症

2013 年は 7 人届出があり、いずれも男性で、年齢は 30～39 歳 4 人、40～49 歳 3 人であった。推定感染地はすべて国内、推定感染経路は性的接触による感染 6 人、不明 1 人であった。

クリプトスポリジウム症届出例 (n=7)

受理日	受理週	性別	年齢	推定感染経路
5/9	19	男	42	不明
7/31	31	男	34	性的接触
9/26	39	男	49	性的接触
10/8	41	男	41	性的接触
10/9	41	男	30	性的接触
10/23	43	男	37	性的接触
10/24	43	男	38	性的接触

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)

2013 年は 19 人の届出があった。孤発性プリオン病・古典型 CJD が 16 人（ほぼ確実 12 人、疑い 4 人）、遺伝性プリオン病が 3 人（すべてほぼ確実）であり、遺伝性プリオン病の届出は、家族性 CJD が 2 人、ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病 (GSS) が 1 人であった。性別は男性が 10 人、女性が 9 人で、年齢は 50～59 歳 2 人、60～69 歳 6 人、70 歳以上 11 人であった。

孤発性プリオン病・古典型 CJD の症状は、進行性認知症が 16 人全員に認められたほか、ミオクロームス 15 人、無動性無言状態 11 人、錐体路症状 10 人、記憶障害 9 人、錐体外路症状 7 人、小脳症状 7 人、筋強剛 6 人、精神・知能障害 5 人、視覚異常 4 人、痙攣性対麻痺 3 人、異常感覚 2 人、臨床的に頑固な不眠 1 人、失語・失行 1 人、知覚異常 1 人が見られた。

遺伝性プリオン病の 3 人においては、進行性認知症 2 人、錐体外路症状 2 人、錐体路症状 1 人、小脳症状 1 人、視覚異常 1 人、精神・知能障害 1 人、異常感覚 1 人、筋強剛 1 人が認められた。

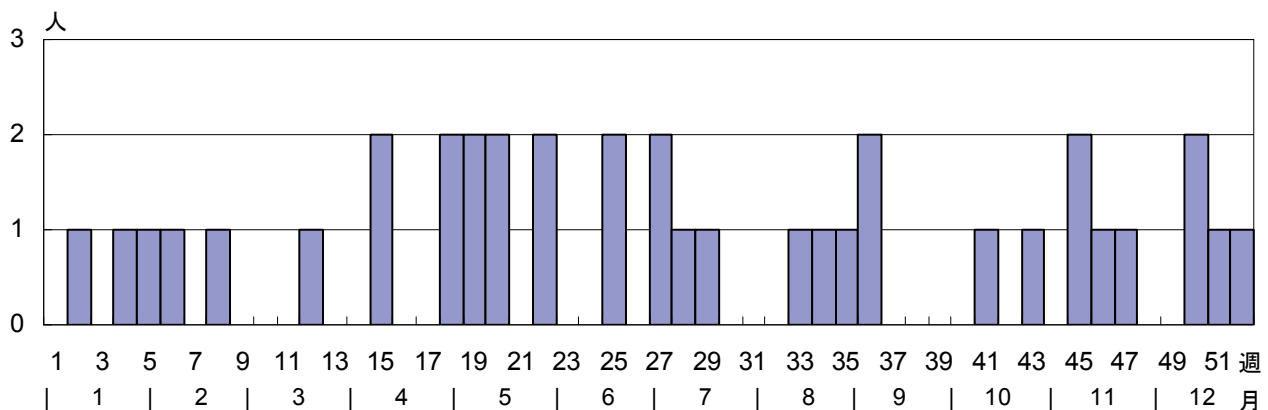
クロイツフェルト・ヤコブ病届出例 (n=19)

受理日	受理週	性別	年齢	病 型	確実度
1/18	3	女	77	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
1/30	5	女	66	孤発性－古典型 CJD	疑い
3/6	10	男	70	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
3/29	13	女	75	孤発性－古典型 CJD	疑い
4/24	17	男	73	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
6/4	23	男	59	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
6/10	24	女	70	遺伝性（家族性 CJD）	ほぼ確実
6/25	26	女	83	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
6/26	26	女	51	遺伝性（GSS）	ほぼ確実
8/8	32	男	73	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
8/20	34	女	75	遺伝性（家族性 CJD）	ほぼ確実
9/11	37	男	76	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
9/13	37	男	64	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
10/16	42	男	78	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
10/18	42	男	69	孤発性－古典型 CJD	疑い
11/5	45	男	69	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
11/11	46	男	69	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
11/29	48	女	62	孤発性－古典型 CJD	疑い
12/10	50	女	82	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実

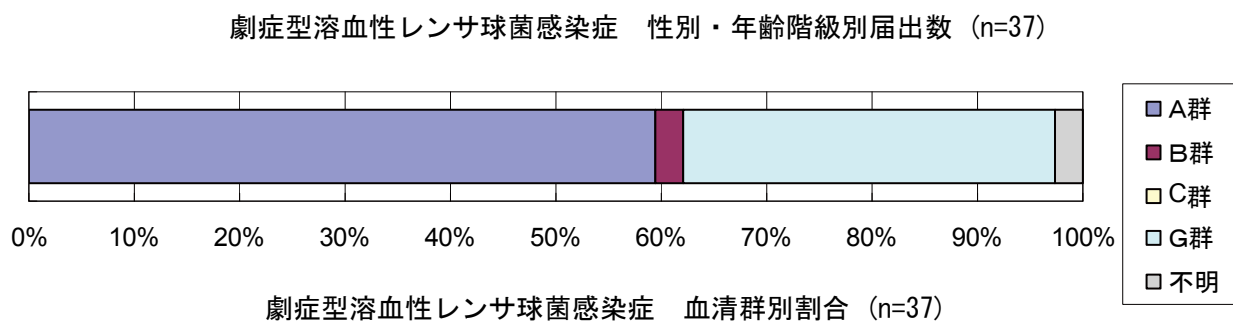
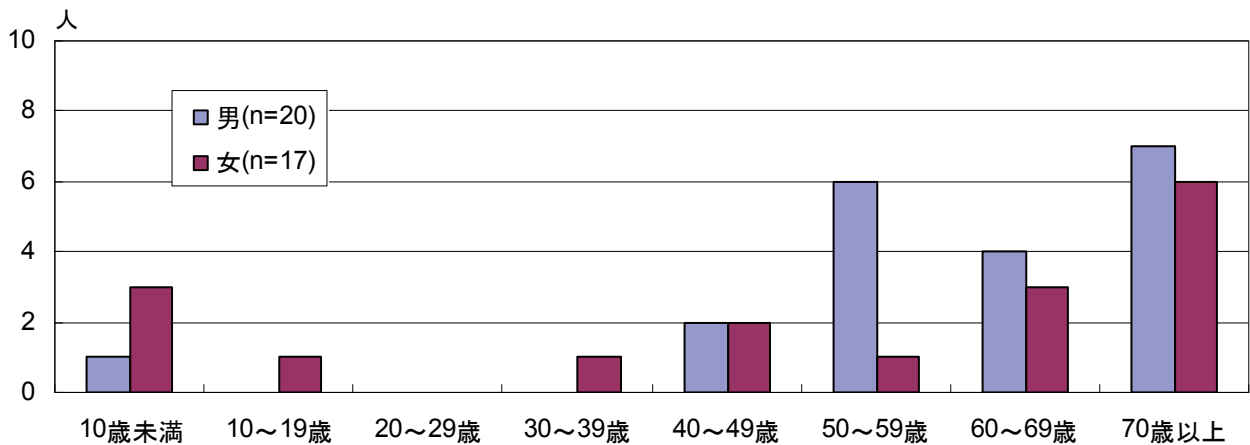
⑥ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2013 年は 37 人届出があり、過去 10 年で最も多い届出数となった。血清型は A 群 22 件、B 群 1 件、G 群 13 件、不明 1 件で、性別は男性 20 人、女性 17 人、年齢階級別では 10 歳未満 4 人、10～19 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 4 人、50～59 歳 7 人、60～69 歳 7 人、70 歳以上 13 人であった。

また、死亡例は 7 人（10 歳未満 1 人、10～19 歳 1 人、40～49 歳 1 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 2 人）報告された。推定感染地は全て国内で、推定感染経路は創傷感染 19 人、飛沫・飛沫核感染 2 人、接触感染 1 人、不明 15 人であった。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 週別届出数 (n=37)



⑦ 後天性免疫不全症候群

2013 年は 469 人の届出があり、AIDS 患者 110 人、その他（指標疾患以外の有症者）44 人、HIV 感染者（無症候性キャリア）315 人であった。

AIDS 患者 110 人の内訳は男性 105 人、女性 5 人で、年齢階級別では 20～29 歳 7 人、30～39 歳 35 人、40～49 歳 36 人、50～59 歳 16 人、60～69 歳 12 人、70 歳以上 4 人であった。死亡例は 4 人報告された。

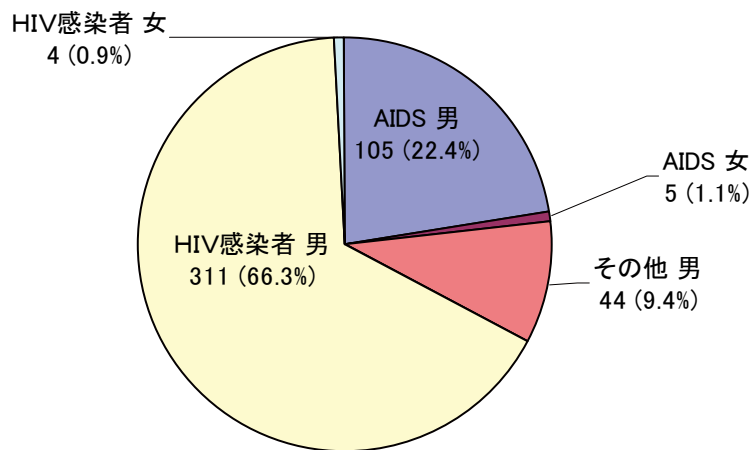
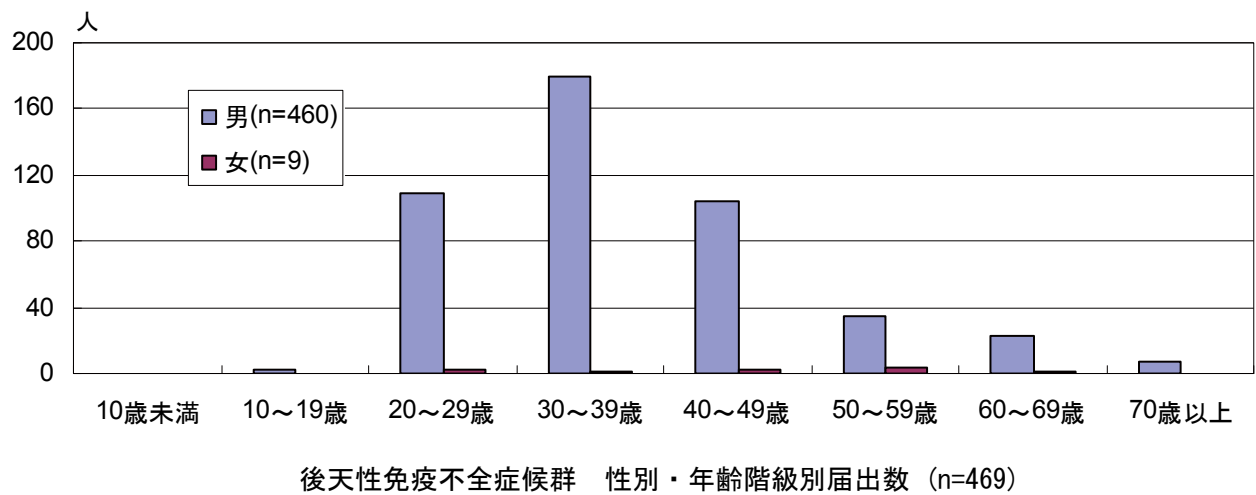
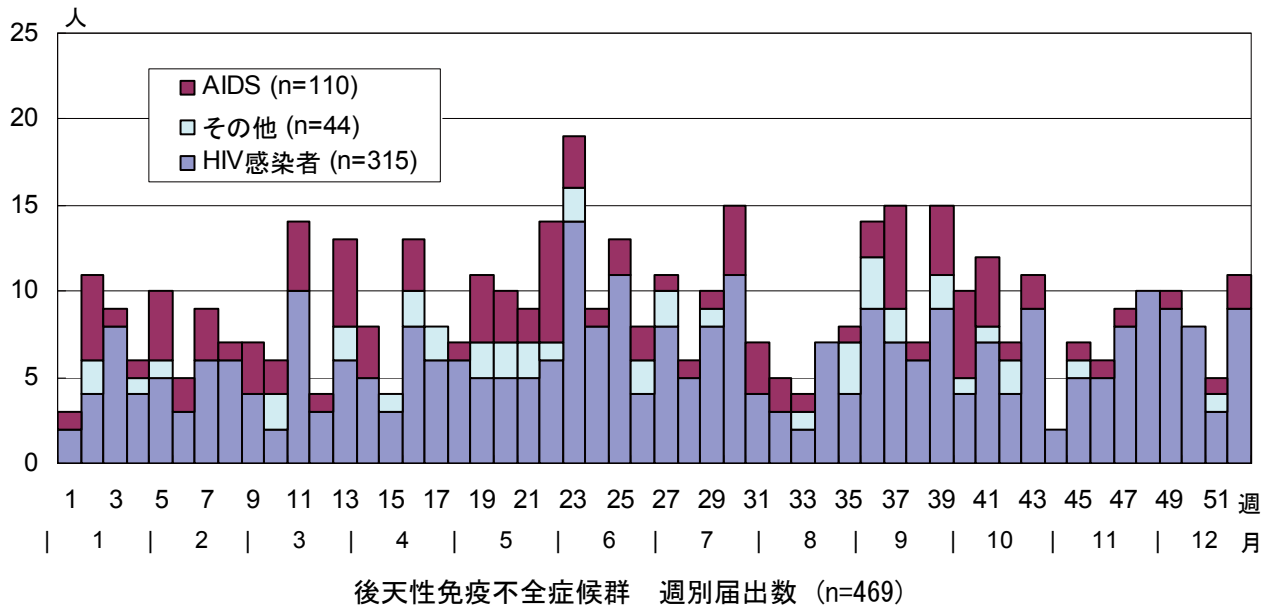
その他の 44 人は全員男性で、年齢は 20～29 歳 9 人、30～39 歳 17 人、40～49 歳 8 人、50～59 歳 8 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

HIV 感染者 315 人では男性 311 人、女性 4 人で、年齢は 10～19 歳 2 人、20～29 歳 95 人（年齢不詳 20 歳代 1 名含む）、30～39 歳 129 人、40～49 歳 62 人、50～59 歳 14 人、60～69 歳 11 人、70 歳以上 2 人であった。

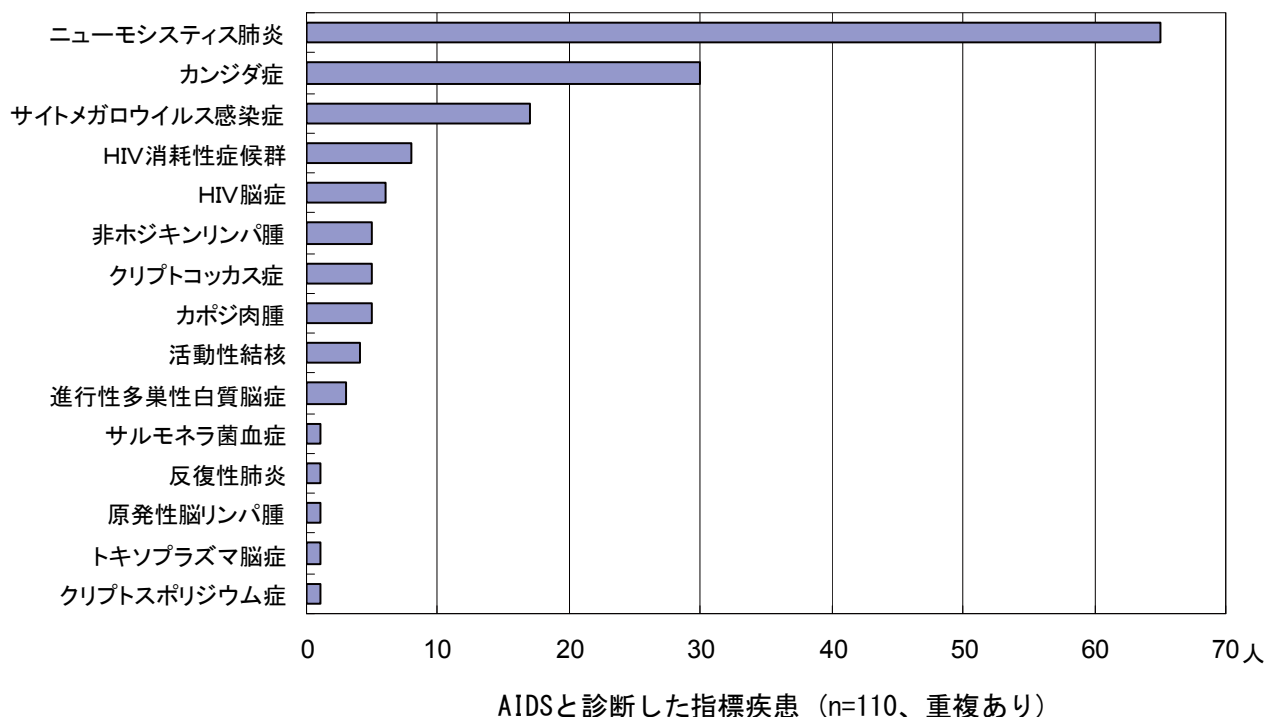
推定感染地は国内 383 人、国外 26 人、国内又は国外 6 人、不明 54 人であった。国外感染例 26 人の推定感染地域は、東南アジア（12 人）、東アジア（5 人）が多く、推定感染国別に見ると、フィリピン 5 人、タイ 3 人、中国 3 人、シンガポール 2 人、ベトナム 2 人、米国 2 人、オランダ 1 人、トーゴ 1 人、台湾 1 人、韓国 1 人、キューバ又はグアテマラ 1 人、渡航先不明 4 人であった。

推定感染経路は性的接触 417 人（同性間 329 人、異性間 64 人、両性間 16 人、不明 8 人）、静注薬物使用 2 人、針刺し（詳細不明）1 人、2 経路以上 5 人（同性間性的接触又は静注薬物使用 3 人、異性間性的接触又は医療関連従事 1 人、異性間性的接触又は入れ墨・ピアス 1 人）、不明 44 人であった。

AIDS と診断した指標疾患は、60.0%（110 人中 66 人）がニューモシスティス肺炎であり、他にカンジダ症 30 人、サイトメガロウイルス感染症 17 人などが多かった。なお、これらの中には複数疾患発症者の報告 31 人（2 疾患 21 人、3 疾患 8 人、4 疾患 2 人）が含まれている。



後天性免疫不全症候群 性別・病名別届出数 (n=469)



⑧ ジアルジア症

2013 年は 22 人届出があった。性別は男性 18 人、女性 4 人で、年齢は 20～29 歳 3 人、30～39 歳 8 人、40～49 歳 7 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 1 人であった。

推定感染地は国内 8 人、国外 14 人であった。国外感染例 14 人を推定感染地域別に見ると、東南アジア 5 人、南アジア 4 人、東アジア 1 人、北アメリカ 1 人、南アメリカ 1 人、オセアニア 1 人、2 地域以上 1 人で、推定感染国別に見ると、タイ 2 人、カンボジア 2 人、インド 2 人、シンガポール 1 人、ネパール 1 人、中国 1 人、米国 1 人、ボリビア 1 人、ソロモン諸島 1 人、インド又はネパール 1 人、インド又はネパール又は中国 1 人であった。

推定感染経路は、飲食物による経口感染 7 人、性的接触 7 人（同性間 5 人、異性間 1 人、性別不明 1 人）、水系感染 2 人、経口又は水系感染 4 人、不明 2 人であった。

ジアルジア症届出例 (n=22)

受理日	受理週	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路
1/23	4	男	53	国内	性的接触（性別不明）
2/6	6	女	33	ソロモン諸島	水系感染（貯留雨水）
3/7	10	女	27	ネパール	水系感染
3/11	11	男	33	シンガポール	経口感染又は水系感染
4/1	14	男	40	カンボジア	経口感染
4/8	15	男	26	中国又はネパール又はインド	経口感染又は水系感染
4/22	17	男	32	カンボジア	経口感染又は水系感染
4/24	17	男	49	中国	経口感染
4/30	18	女	43	米国	不明

5/28	22	男	38	タイ	同性間性的接触
6/6	23	男	50	インド	経口感染又は水系感染
6/10	24	女	34	国内	異性間性的接触
7/8	28	男	43	タイ	経口感染
8/26	35	男	54	国内	経口感染（有機野菜）
8/26	35	男	35	国内	同性間性的接触
9/17	38	男	31	インド又はネパール	経口感染（生野菜）
9/20	38	男	24	インド	経口感染
10/8	41	男	41	国内	同性間性的接触
10/10	41	男	41	国内	不明
10/15	42	男	66	ボリビア	経口感染
11/7	45	男	36	国内	同性間性的接触
12/20	51	男	47	国内	同性間性的接触

⑨ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

五類感染症（全数把握）の届出対象となった2013年4月1日以降12人の届出があった。血清型はB群1人、判定不能1人、不明10人であり、性別は男性8人、女性4人、年齢は10歳未満3人、50～59歳1人、60～69歳2人、70歳以上6人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染3人、接触感染2人、その他2人、不明5人であった。

Hib ワクチン接種歴は4回接種が1人、1回接種が1人のほか、接種なし5人、不明5人であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症届出例（n=12）

受理日	受理週	性別	年齢	血清型	推定感染地	推定感染経路	ワクチン接種歴
4/5	14	女	5	判定不能	国内	不明	1回接種
4/11	15	女	89	B群	国内	閉塞性肺炎起因	不明
5/1	18	男	0	不明	国内	接触感染	なし
5/9	19	男	1	不明	国内	不明	4回接種
6/7	23	女	59	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
7/29	31	男	88	不明	国内	不明	なし
8/27	35	男	77	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
9/24	39	男	62	不明	国内	不明	なし
9/24	39	男	88	不明	国内	不明	不明
11/20	47	男	78	不明	国内	保菌状態からの発症	不明
12/6	49	女	62	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
12/24	52	男	84	不明	国内	接触感染	不明

⑩ 侵襲性髄膜炎菌感染症

五類感染症（全数把握）の届出対象となった2013年4月1日以降11人の届出があった。血清群はY群5人、C群2人、W-135群1人、不明3人であり、性別は男性10人、女性1人であった。年齢階級別では10～19歳1人、30～39歳2人、40～49歳1人、50～59歳3人、60～69歳2人、70歳以上2人で、死亡例は1人報告された。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染5人、不明6人、ワクチン接種歴は、なし2人、不明9人であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症届出例（n=11）

受理日	受理週	性別	年齢	血清群	推定感染地域	推定感染経路	ワクチン接種歴
4/11	15	男	78	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
4/15	16	女	54	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
4/30	19	男	19	Y群	国内	不明	なし
5/27	22	男	64	Y群	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
6/11	24	男	55	Y群	国内	不明	不明
6/27	26	男	65	不明	国内	不明	不明
8/20	34	男	39	C群	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
9/2	36	男	52	Y群	国内	不明	不明
9/9	37	男	48	Y群	国内	不明	不明
10/18	42	男	71	W-135群	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
12/10	50	男	35	C群	国内	不明	不明

⑪ 侵襲性肺炎球菌感染症

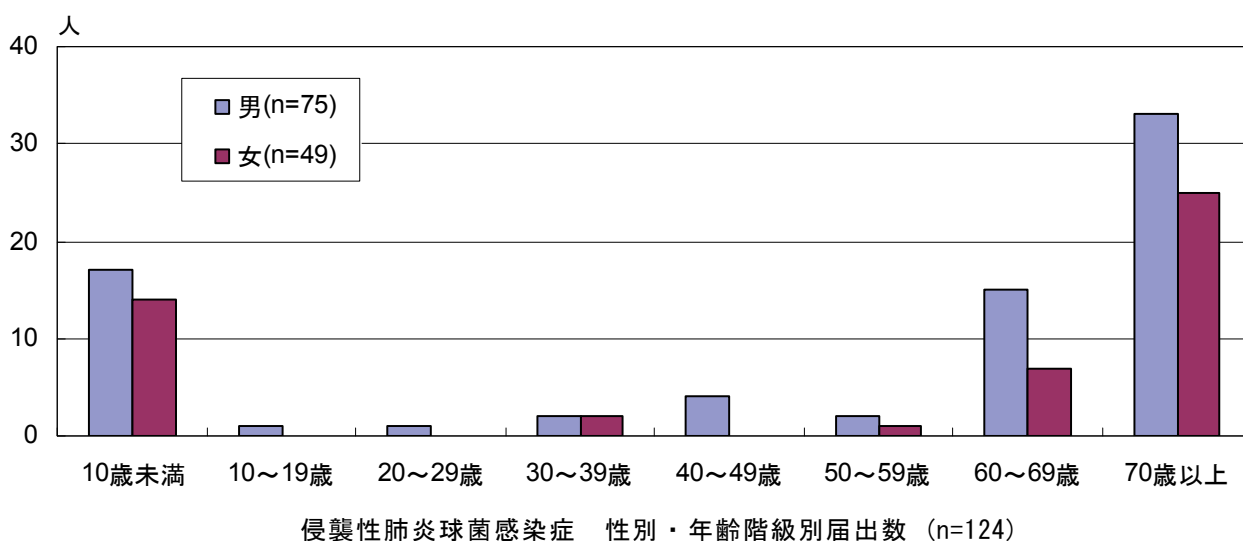
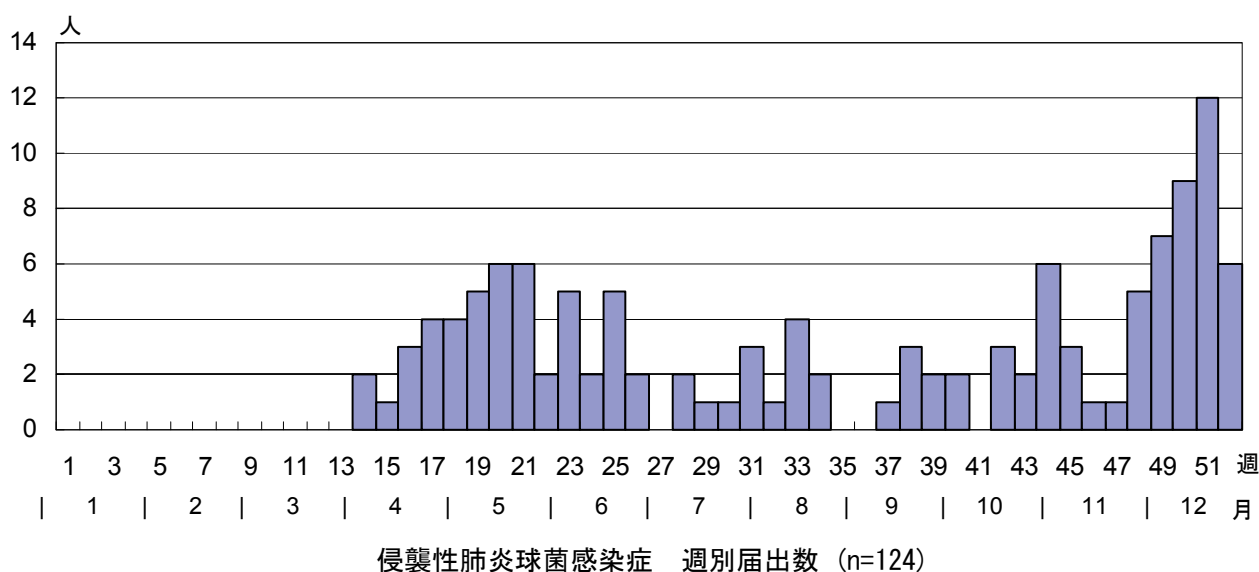
五類感染症（全数把握）の届出対象となった2013年4月1日以降124人の届出があった。血清型は19A型6人、24F型4人、3型2人、15A型2人、11A型1人、23A型1人、判定不能6人、不明102人で、性別は男性75人、女性49人であった。年齢階級別では10歳未満31人、10～19歳1人、20～29歳1人、30～39歳4人、40～49歳4人、50～59歳3人、60～69歳22人、70歳以上58人で、死亡例は11人報告された。

推定感染地は国内120人、国外3人（米国、ドイツ、台湾）、国内又は国外（カナダ）1人であり、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染40人、接触感染2人、不明82人であった。ワクチン接種歴は4回接種6人、3回接種16人、1回接種9人、なし56人、不明37人であった。

年齢階級別・種類別ワクチン接種歴（n=124）

	7価4回*	7価3回	7価1回	23価1回	不明3回	不明1回	なし	不明	合計
5歳未満	6	14	2		2		2	1	27
5～9歳							4		4
10～64歳							12	9	21
65歳以上				3		4	38	27	72
合 計	6	14	2	3	2	4	56	37	124

*7価4回接種6人のうち1人は、4回目のみ13価ワクチンを接種



⑫ 先天性風しん症候群 (CRS)

CRS 患者の発生は、2004 年に 3 人の届出があった以降見られなかったが、2013 年は 13 人に急増した。性別は男性 7 人、女性 6 人で、全員 1 歳未満、母親の推定感染地はすべて国内（東京都 9 人、神奈川県 2 人、埼玉県 1 人、都道府県不明 1 人）であった。

病型は CRS 典型例 11 人、その他*2 人で、症状は先天性心疾患（10 人）、黄疸（6 人）、難聴（3 人）などが見られた。

母親の妊娠中の風しん罹患歴は、あり 9 人（すべて妊娠 20 週以前に発症）、なし 2 人、不明 2 人であった。また、母親の風しんワクチン接種歴は、あり 2 人（1 回のみ 1 人、1 回目有 2 回目不明 1 人）、なし 5 人、不明 6 人であった。

* 届出に必要な臨床症状のうち、CRS 典型例は①から 2 項目以上又は①から 1 項目と②から 1 項目以上、その他は①若しくは②から 1 項目以上

① 白内障又は先天性緑内障、先天性心疾患、難聴、色素性網膜症

② 紫斑、脾腫、小頭症、精神発達遅滞、髄膜炎、X 線透過性骨病変、生後 24 時間以内に出現した黄疸

先天性風しん症候群届出例 (n=13)

受理日	受理週	性別	月 齢	病 型	母親の妊娠中の 風しん罹患歴	母親の風しん ワクチン接種歴
3/25	13	男	0	CRS 典型例	あり (5) *	なし
6/6	23	女	9	CRS 典型例	不明	不明
6/19	25	男	0	CRS 典型例	あり (13)	不明
7/26	30	男	0	CRS 典型例	あり (9)	不明
8/6	32	男	0	CRS 典型例	あり (9)	なし
8/9	32	女	1	CRS 典型例	あり (16)	なし
8/19	34	男	0	CRS 典型例	なし	1 回 (2 歳、MMR)
8/26	35	女	0	その他	不明	なし
10/22	43	女	0	CRS 典型例	あり (10)	不明
10/25	43	女	0	その他	あり (14)	なし
10/29	44	男	0	CRS 典型例	あり (6)	不明
11/18	47	女	0	CRS 典型例	なし	1 回 (18 歳、種類不明)
12/9	50	男	0	CRS 典型例	あり (12)	不明

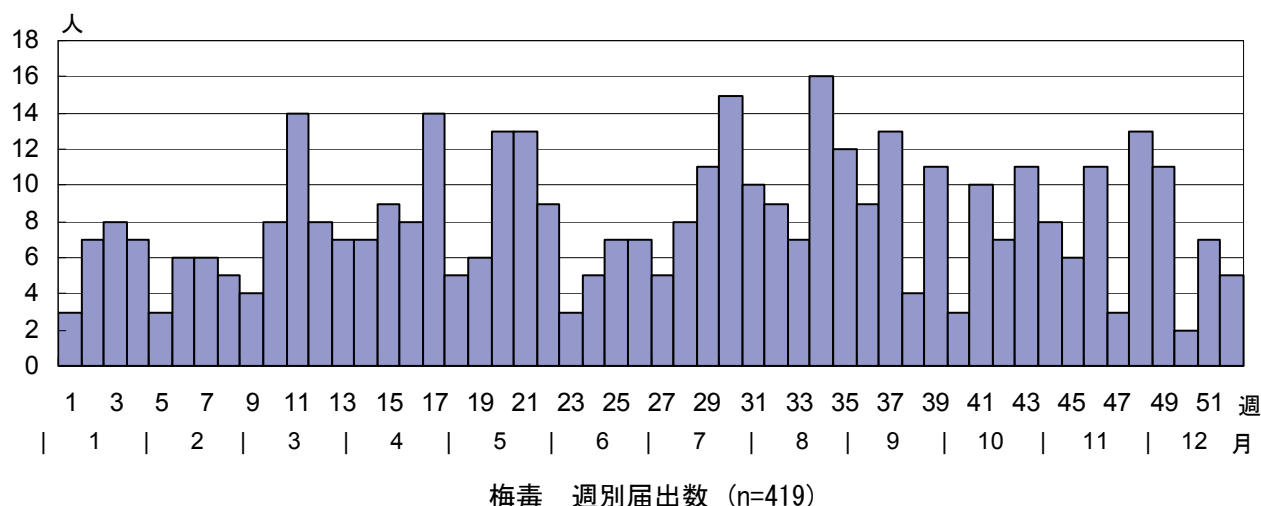
* () 内の数値は母親が風しんを発症した妊娠週数

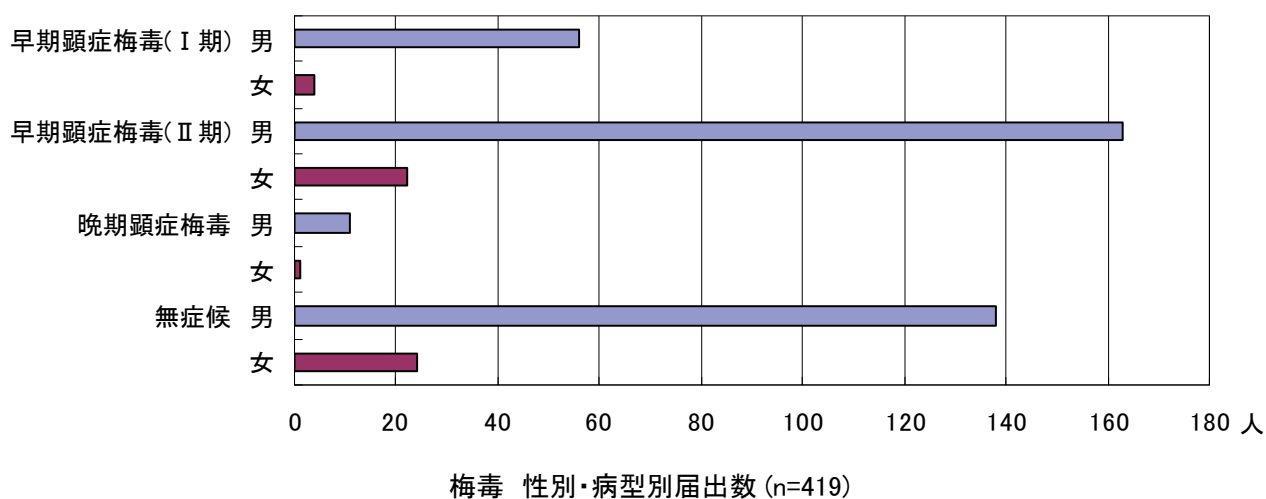
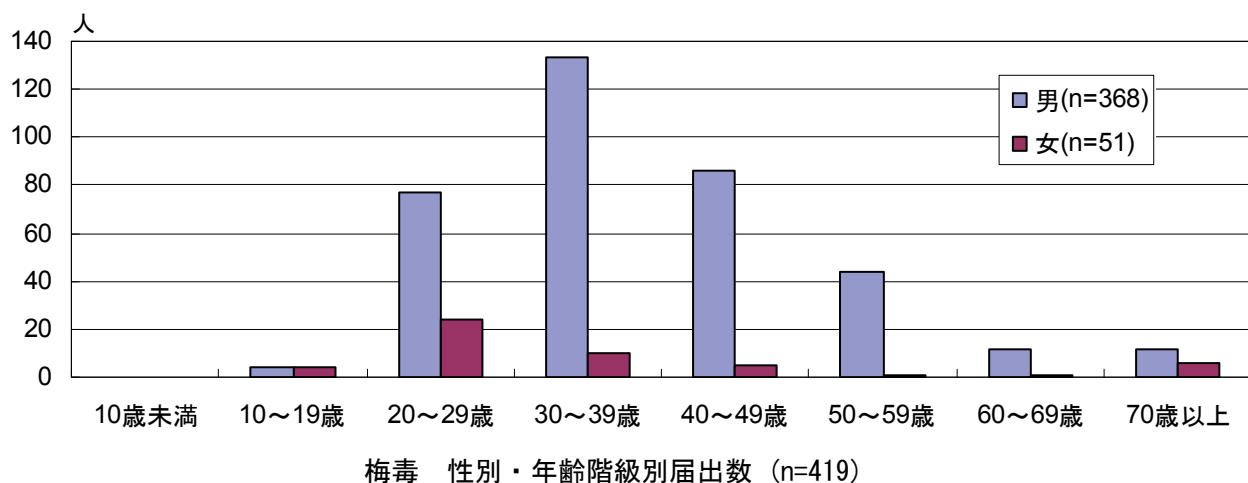
⑬ 梅毒

2013 年は 419 人届出があった。2012 年の届出数 (297 人) に比べて大きく増加し、調査開始以降の最多届出数を更新した。早期顕症梅毒Ⅰ期 60 人、早期顕症梅毒Ⅱ期 185 人、晩期顕症梅毒 12 人、無症候 162 人で、先天梅毒の届出はなかった。性別は男性 368 人、女性 51 人、年齢階級別では 10～19 歳 8 人、20～29 歳 101 人、30～39 歳 143 人、40～49 歳 91 人、50～59 歳 45 人、60～69 歳 13 人、70 歳以上 18 人で、20～49 歳の男性が全体の 70.6%を占めた。

推定感染地は国内 410 人、国外 7 人、国内又は国外 2 人であり、国外感染例 7 人の推定感染国は、中国 2 人、シンガポール 2 人、米国 1 人、ブラジル 1 人、渡航先不明 1 人であった。

推定感染経路は性的接触 387 人 (同性間 248 人、異性間 91 人、両性間 5 人、性別不明 43 人)、性的接触 (性別不明) 又は入れ墨 1 人、不明 31 人であった。





⑭ 破傷風

2013 年は 4 人届出があった。性別は男性 2 人、女性 2 人で、年齢は 30～39 歳 1 人、70 歳以上 3 人、推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染 3 人、不明 1 人であった。

破傷風届出例 (n=4)

受理日	受理週	性別	年齢	診断方法	推定感染地	推定感染経路
1/4	1	男	74	病原体の分離・同定	国内	創傷感染（左前腕受傷創部）
1/9	2	女	30	臨床決定	国内	創傷感染
4/19	16	女	84	臨床決定	国内	不明
9/12	37	男	78	臨床決定	国内	創傷感染（下肢の小擦過傷）

⑮ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

2013 年は 8 人届出があった。菌種は *Enterococcus faecalis* 3 件、*E. faecium* 2 件、*E. gallinarum* 2 件、*E. casseliflavus* 1 件であり、耐性遺伝子型は *vanA* 3 件、*vanB* 2 件、*vanC* 3 件であった。

性別は男性 2 人、女性 6 人、年齢は 50～59 歳 3 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 3 人、推定感染地はすべて国内であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症届出例（n=8）

受理日	受理週	性別	年齢	検体	菌 種	耐性遺伝子型	推定感染経路
1/11	2	女	53	血液	<i>E.casseliflavus</i>	<i>vanC</i>	胆管炎からの血流感染
2/12	7	女	63	血液・便	<i>E.faecalis</i>	<i>vanB</i>	接触感染
2/18	8	女	72	血液	<i>E.gallinarum</i>	<i>vanC</i>	腸管感染症から総胆管 への炎症波及
2/20	8	男	60	血液	<i>E.gallinarum</i>	<i>vanC</i>	不明
5/8	19	男	50	血液	<i>E.faecium</i>	<i>vanA</i>	接触感染
6/19	25	女	54	便	<i>E.faecalis</i>	<i>vanA</i>	不明
8/14	33	女	72	血液	<i>E.faecium</i>	<i>vanA</i>	接触感染
12/24	52	女	79	尿・便	<i>E.faecalis</i>	<i>vanB</i>	不明

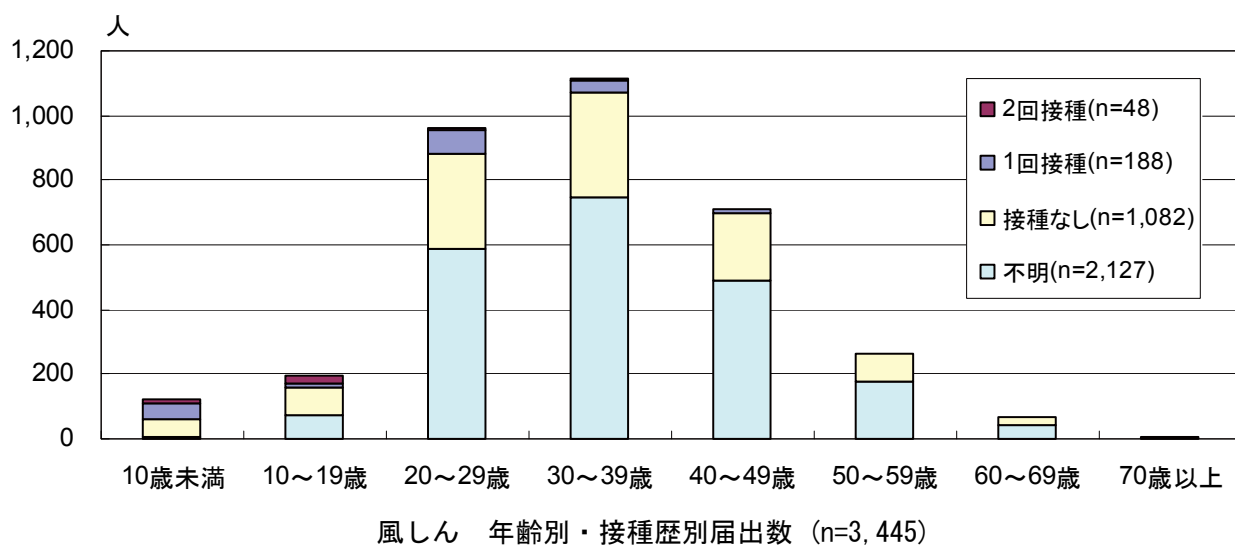
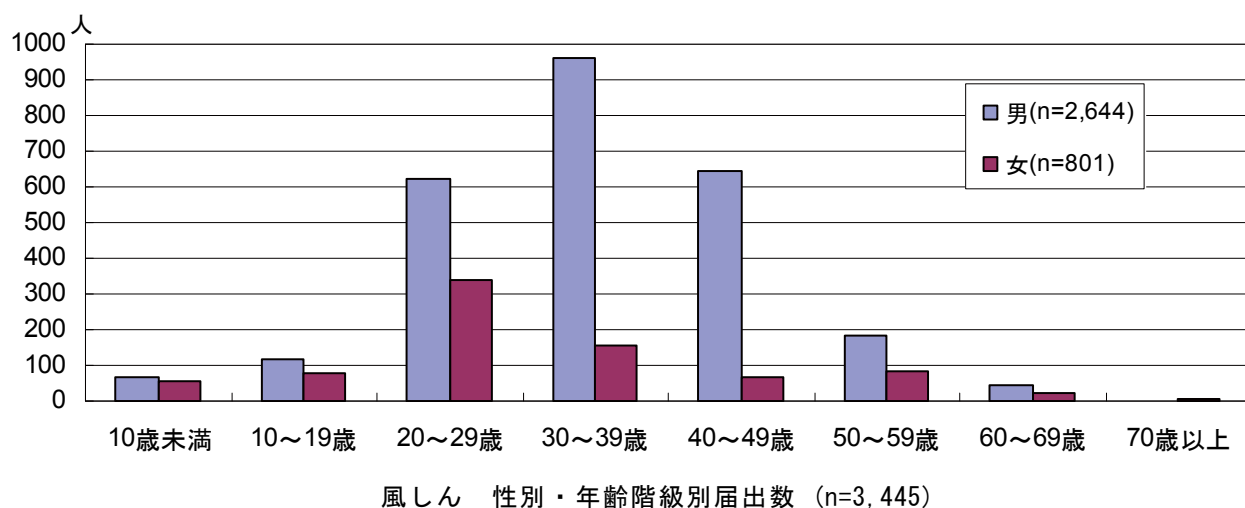
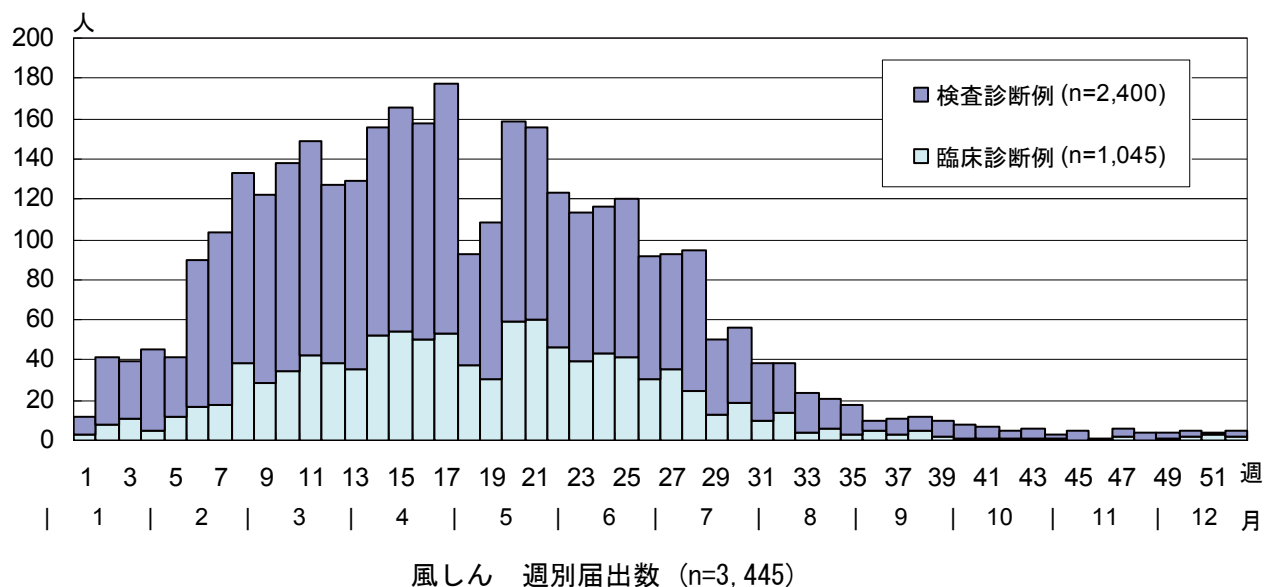
⑯ 風しん

2013 年の届出は 3,445 人、検査診断例 2,400 人（うち PCR で陽性が確認された数は 196 件）、臨床診断例 1,045 人であり、全数報告対象疾患となった 2008 年以降で最多の報告数となった。

2012 年夏季から始まった風しんの流行は、2013 年に入っても各週 40 人前後の届出数が継続していた。しかし、6 週以降はさらに増加し、17 週には 177 人の報告数を記録した。以後報告数は漸減し 40 週以後 10 人未満となったが、5 人前後の報告が続いている。

性別は男性 2,644 人、女性 801 人で、年齢階級別では 10 歳未満 124 人（うち 5 歳未満 88 人）、10～19 歳 195 人、20～29 歳 961 人、30～39 歳 1,115 人、40～49 歳 712 人、50～59 歳 266 人、60～69 歳 66 人、70 歳以上 6 人であった。20 歳以上の症例の占める割合は男性が 93.0%（2,644 人中 2,460 人）、女性が 83.1%（801 人中 666 人）であった。推定感染地は国内 3,434 人、国外 7 人、国内又は国外 4 人であり、国外感染例 7 人の推定感染国は、ベトナム 2 人、インドネシア 1 人、中国 1 人、インド 1 人、アメリカ 1 人、ドイツ 1 人であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、2 回接種 48 人、1 回接種 188 人、接種歴なし 1,082 人、不明 2,127 人であり、接種歴なし又は不明の割合は、男性で 95.0%（2,644 人中 2,512 人）、女性で 87.0%（801 人中 697 人）であった。女性のうち 15～44 歳の年齢群は 596 人で女性全体の 74.4% を占める。これらの例におけるワクチン接種歴は、2 回接種 8 例（1.3%）、1 回接種 58 例（9.7%）、接種歴なし 192 例（32.2%）、不明 338 例（56.7%）であった。



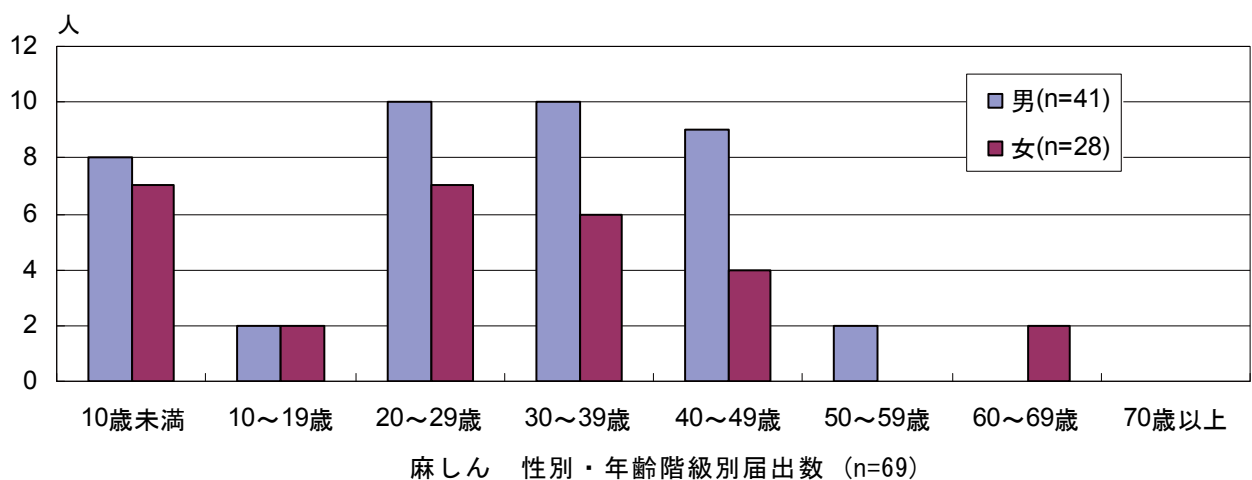
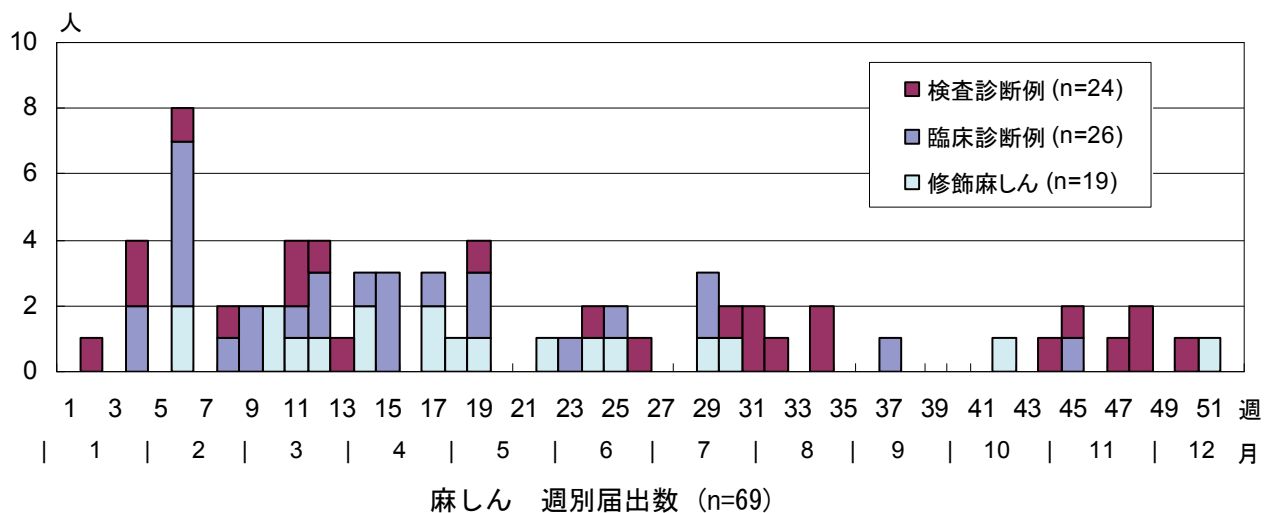
⑰ 麻しん

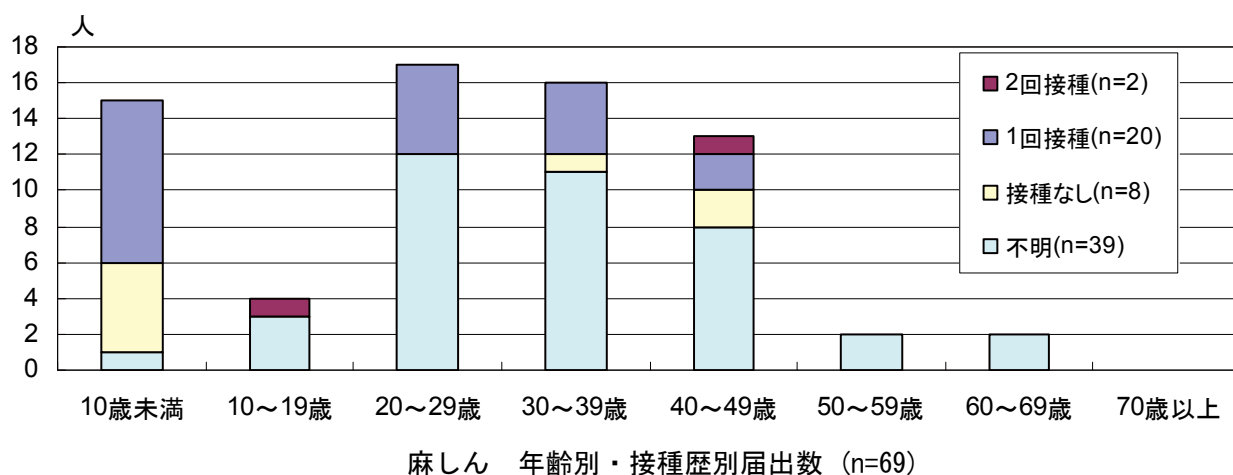
2013 年は 69 人届出があった。検査診断例 24 人、臨床診断例 26 人、修飾麻しん 19 人であり、肺炎、脳炎の合併は報告されなかった。

性別は男性 41 人、女性 28 人で、年齢階級別では 10 歳未満 15 人（すべて 5 歳未満）、10～19 歳 4 人、20～29 歳 17 人、30～39 歳 16 人、40～49 歳 13 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 2 人であった。推定感染地は国内 65 人、国外 2 人（中国 1 人、スリランカ 1 人）、国内又は国外（台湾 1 人、インドネシア 1 人）2 人であった。

麻しん含有ワクチン接種歴は、2 回接種 2 人（3%）、1 回接種 20 人（29%）、接種なし 8 人（12%）、不明 39 人（56%）であった。

2013 年に PCR 検査で麻しんウイルス陽性が確認された例は 8 件あり、それらの遺伝子型別の内訳は B3 型 1 件、D8 型 1 件、D9 型 1 件、A 型（ワクチン株のため届出対象外）5 件であった。B3 型の 1 件はスリランカ在住者で来日中に発病した事例である。また、南アジアを循環する株で 2013 年に台湾でも報告された D8 型が、国内又は国外（台湾）での感染と推定された 1 人から検出された。D9 型の 1 件はインドネシアからの旅行者である。





麻しんウイルス 遺伝子型別検出状況

受理週	B3 型	D8 型	D9 型	A 型	推定感染地
3 週				1*	国内
6 週				1*	国内
9 週				1*	国内
15 週				1*	国内
34 週		1			国内又は台湾
34 週			1		国内又はインドネシア
45 週	1				スリランカ
46 週				1*	国内
計	1	1	1	5	

*病原体定点からの検体

注:A 型はワクチン株であり、麻しん患者の届出基準に当てはまらないため患者届出数には含まれない。

⑭ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

髄膜炎菌性髄膜炎 (2013 年 3 月 31 日まで届出対象)、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

カ 指定感染症

鳥インフルエンザ (H7N9) の届出はなかった。

表3-1(1) 一、二、三類感染症 週別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

週	期 間	一 類							二 類					三 類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
1	12.31～ 1. 6															1		
2	1. 7～ 1.13																1	1
3	1.14～ 1.20													1	1	1	1	
4	1.21～ 1.27														1			
5	1.28～ 2. 3													2		1		
6	2. 4～ 2.10																	
7	2.11～ 2.17																	
8	2.18～ 2.24														1			
9	2.25～ 3. 3													1	3			
10	3. 4～ 3.10														3	2		
11	3.11～ 3.17													1	2			2
12	3.18～ 3.24													3	1	1	1	2
13	3.25～ 3.31														1	2		
14	4. 1～ 4. 7														2	1		
15	4. 8～ 4.14													1	2			
16	4.15～ 4.21														1	1	2	
17	4.22～ 4.28													1	4			
18	4.29～ 5. 5																	
19	5. 6～ 5.12														1	3	1	
20	5.13～ 5.19													1	1			
21	5.20～ 5.26														3			4
22	5.27～ 6. 2													1	9			
23	6. 3～ 6. 9													1	7			1
24	6.10～ 6.16													1	7			
25	6.17～ 6.23													1	9			
26	6.24～ 6.30														9			
27	7. 1～ 7. 7														15			
28	7. 8～ 7.14														13			
29	7.15～ 7.21														17			1
30	7.22～ 7.28													1	37			1
31	7.29～ 8. 4														17			
32	8. 5～ 8.11													1	13			
33	8.12～ 8.18														20			
34	8.19～ 8.25													2	33			
35	8.26～ 9. 1													3	13			
36	9. 2～ 9. 8													3	10	1		
37	9. 9～ 9.15														26			
38	9.16～ 9.22													3	26			
39	9.23～ 9.29														10	1	1	
40	9.30～10. 6													1	9			1
41	10. 7～10.13														3	3		
42	10.14～10.20														3	1		
43	10.21～10.27														16	1		
44	10.28～11. 3														8			
45	11. 4～11.10													1	3			
46	11.11～11.17														9			
47	11.18～11.24														4			1
48	11.25～12. 1													1	2	1		
49	12. 2～12. 8													2	2	1	1	
50	12. 9～12.15													1	2			
51	12.16～12.22														2	1		
52	12.23～12.29													2				
合 計														36	382	23	20	

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-1(2) 四類感染症 週別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

週	期 間	四 類												
		E型肝炎	A型肝炎	オウム病	Q熱	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
1	12.31～ 1. 6	1					1						1	
2	1. 7～ 1.13	2		2					2				4	
3	1.14～ 1.20	2											2	
4	1.21～ 1.27		1										1	
5	1.28～ 2. 3	1								1				
6	2. 4～ 2.10												3	
7	2.11～ 2.17													
8	2.18～ 2.24		1							2			2	
9	2.25～ 3. 3	3	1						1			1		
10	3. 4～ 3.10								2				1	
11	3.11～ 3.17	3	2				1		1				1	
12	3.18～ 3.24	2				2				1			2	
13	3.25～ 3.31								2				1	
14	4. 1～ 4. 7	1	1						1				1	
15	4. 8～ 4.14	1												
16	4.15～ 4.21	1	1		1				3					
17	4.22～ 4.28		2						1					
18	4.29～ 5. 5								1				1	
19	5. 6～ 5.12		1											
20	5.13～ 5.19		1						4	1			2	
21	5.20～ 5.26				1	1							1	
22	5.27～ 6. 2	1											1	
23	6. 3～ 6. 9												1	
24	6.10～ 6.16	1	1										2	
25	6.17～ 6.23	2	1						3				1	
26	6.24～ 6.30				1								4	
27	7. 1～ 7. 7							1	3				3	
28	7. 8～ 7.14						1		2		1		4	1
29	7.15～ 7.21		1						1					
30	7.22～ 7.28								1				1	
31	7.29～ 8. 4		1						1		1		2	
32	8. 5～ 8.11	1							2				3	
33	8.12～ 8.18		1						5	1			1	
34	8.19～ 8.25								1				1	1
35	8.26～ 9. 1	1							2		4		2	
36	9. 2～ 9. 8		1					1	1	1			2	
37	9. 9～ 9.15								3		1		2	1
38	9.16～ 9.22	1							3				1	
39	9.23～ 9.29		1					1	2				5	
40	9.30～10. 6								7				1	
41	10. 7～10.13	2						1	2				4	
42	10.14～10.20	1						1	3				3	1
43	10.21～10.27								1				2	
44	10.28～11. 3	1						1					2	
45	11. 4～11.10	1							1	2			2	1
46	11.11～11.17							1					1	
47	11.18～11.24	1	1					1						
48	11.25～12. 1					1	1	1	1	2			2	
49	12. 2～12. 8							1					1	
50	12. 9～12.15							2	2				1	
51	12.16～12.22	2								1			2	1
52	12.23～12.29								1					
合 計		32	19	2	3	4	4	12	66	12	7	1	80	6

表3-1(3) 五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

週	期 間	五 類																
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ヤコブ病 クロイツフェルト・	劇症型溶血性レンサ球菌	感染症 後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	感染症 侵襲性インフルエンザ菌	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	腸球菌感染症 バンコマイシン耐性	風しん	麻しん
1	12.31～ 1. 6	1						3						3	1		12	
2	1. 7～ 1.13	2	2	3			1	11						7	1	1	41	1
3	1.14～ 1.20	2	2			1		9						8			39	
4	1.21～ 1.27	6		2				6	1					7			45	4
5	1.28～ 2. 3	4	3	2		1	1	10						3			41	
6	2. 4～ 2.10	4					1	5	1					6			90	8
7	2.11～ 2.17	2	1					9						6		1	103	
8	2.18～ 2.24	5	2	1			1	7						5		2	133	2
9	2.25～ 3. 3	6	1	1				7						4			122	2
10	3. 4～ 3.10	3	2			1		6	1					8			138	2
11	3.11～ 3.17	4						14	1					14			149	4
12	3.18～ 3.24	5	2	3			1	4						8			127	4
13	3.25～ 3.31	3		3		1		13				1		7			129	1
14	4. 1～ 4. 7	7	3					8	1	1		2		7			156	3
15	4. 8～ 4.14	3	3	2			2	4	1	1	1	1		9			166	3
16	4.15～ 4.21	2	1	1				13			1	3		8	1		158	
17	4.22～ 4.28	8	3	2		1		8	2			4		14			177	3
18	4.29～ 5. 5	4					2	7	1	1	1	4		5			93	1
19	5. 6～ 5.12	2			1		2	11		1		5		6		1	108	4
20	5.13～ 5.19	6	2	1			2	10				6		13			159	
21	5.20～ 5.26	2	3					9				6		13			156	
22	5.27～ 6. 2	3	3	2			2	14	1		1	2		9			123	1
23	6. 3～ 6. 9	7	1	1		1		19	1	1		5	1	3			113	1
24	6.10～ 6.16	4	1	1		1		9	1		1	2		5			116	2
25	6.17～ 6.23	8					2	13				5	1	7		1	120	2
26	6.24～ 6.30	3		3		2		8			1	2		7			92	1
27	7. 1～ 7. 7	1	2				2	11						5			93	
28	7. 8～ 7.14	2	1	2			1	6	1			2		8			95	
29	7.15～ 7.21	2	2	1			1	10				1		11			50	3
30	7.22～ 7.28	5	3	1				15				1	1	15			56	2
31	7.29～ 8. 4	5	2		1			7		1		3		10			38	2
32	8. 5～ 8.11	3	4			1		5				1	2	9			38	1
33	8.12～ 8.18	4	1				1	4				4		7		1	24	
34	8.19～ 8.25	2	2			1	1	7			1	2	1	16			21	2
35	8.26～ 9. 1	2	1				1	8	2	1			1	12			18	
36	9. 2～ 9. 8	3	2	1			2	14			1			9			10	
37	9. 9～ 9.15	2	3	1		2		15			1	1		13	1		11	1
38	9.16～ 9.22	3	1					7	2			3		4			12	
39	9.23～ 9.29	2	1		1			15		2		2		11			10	
40	9.30～10. 6	2		3				10				2		3			8	
41	10. 7～10.13	4	1	1	2		1	12	2					10			7	
42	10.14～10.20	2		1		2		7	1		1	3		7			5	1
43	10.21～10.27	4			2		1	11				2	2	11			6	
44	10.28～11. 3	3	1	1				2				6	1	8			3	1
45	11. 4～11.10	6	3	1		1	2	7	1			3		6			5	2
46	11.11～11.17	3	1			1	1	6				1		11			1	
47	11.18～11.24	3		1			1	9		1		1	1	3			6	1
48	11.25～12. 1	2	2	1		1		10				5		13			4	2
49	12. 2～12. 8	6	1					10		1		7		11			4	
50	12. 9～12.15	3	1	2		1	2	8			1	9	1	2			5	1
51	12.16～12.22	3	2	1			1	5	1			12		7			4	1
52	12.23～12.29	4					1	11		1		6		5		1	5	
合 計		187	72	46	7	19	37	469	22	12	11	124	13	419	4	8	3,445	69

表3-2(1) 一、二、三類感染症 保健所別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

	一 類							二 類					三 類					
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥（H5N1）インフルエンザ	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	
千代田															4			
中央区														4	6			
みなと														1	13	1		
新宿区														5	14	4	7	
文京														1	4	1	3	
台東															2			
墨田区														1	9	2	2	
江東区														1	5		1	
品川区														2	8	1		
目黒区															7	1	2	
大田区														7	22		1	
世田谷															21			
渋谷区														1	4	1	1	
中野区															6		1	
杉並														3	2			
池袋														1	5			
北区															7			
荒川区														1	5	2		
板橋区														1	13			
練馬区														1	8			
足立															36			
葛飾区															14	1	1	
江戸川															18	2		
八王子市															28			
町田市															10		1	
西多摩														1	11			
南多摩														2	4			
多摩立川														1	21			
多摩府中														2	64	4		
多摩小平															11	3		
島しょ																		
合 計														36	382	23	20	

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-2(2) 四類感染症 保健所別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

	四 類												
	E 型肝炎	A 型肝炎	オウム病	Q 熱	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	6	1					1						
中央区								3				3	
みなと	2				4	1		11	1			7	
新宿区	6	4				1		14	5	2		2	2
文京	2	4	2			1	1	6	6	2		7	
台東												1	
墨田区		2						12				1	2
江東区												1	
品川区	3					1		1					
目黒区	5	1					1	1			1	2	
大田区	3	1					2	7		1		6	
世田谷							1	1				2	
渋谷区	1						1	2				2	
中野区												3	
杉並	1							1				4	
池袋	1	1										1	
北区												3	
荒川区												1	
板橋区		1		3				1				3	2
練馬区												2	
足立												3	
葛飾区	1												
江戸川													
八王子市		1										1	
町田市	1						1					2	
西多摩							3			1		6	
南多摩												2	
多摩立川								1				5	
多摩府中		2					1	5		1		7	
多摩小平		1										3	
島しょ													
合 計	32	19	2	3	4	4	12	66	12	7	1	80	6

表3-2(3) 五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

	五 類																
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ヤコブ病 クロイツフェルト・	感染症 劇症型溶血性レンサ球菌	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	感染症 侵襲性インフルエンザ菌	感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症	感染症 侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	腸球菌感染症 バンコマイシン耐性	風しん	麻しん
千代田	12	5	1		1	2	3	1			1		3			92	1
中央区	2						7						4			61	
みなと	14	1				2	27	6		2	3		24		4	168	7
新宿区	22	24	6	6		1	126	4			13	1	223		1	179	8
文京	20	6			2	3	55	1		1	5	1	31			91	2
台東	3						4	1			1		8			64	1
墨田区	5		4	1		1	14	2		1	5	1	6	2		79	2
江東区	2					1							1			113	1
品川区	6	3	1			2	9		2		5	1	5			170	2
目黒区	3	2			1	1	2	3	1	1	6		3		1	97	2
大田区	5	6	1			6	11				3	1	10			293	8
世田谷	9		6		1	2	5			1	5	2	8			182	3
渋谷区	7				1		98	2	1		4	1	6	2		112	
中野区	3	1				1	14		1		3		10			127	1
杉並	3	5				1	15				2		6			134	2
池袋	1	1	1				4						7			100	1
北区	6	1				1	4				2		2			57	1
荒川区	1		8				2				5		4		1	70	2
板橋区	10		4		2	2	15				9	2	13		1	125	5
練馬区	3		2		1		5		1		9		2			159	1
足立	7						1				1		2			69	
葛飾区	9	2				1	5				2	1	12			80	4
江戸川	4	1			2		1				5		4			123	5
八王子市	4				1		12			1	1		3			86	
町田市	4	1			1						1		1			105	2
西多摩	1	6				2	1		1		2		3			52	1
南多摩			1				2		1		2					40	
多摩立川	3	3	2			2	5			2	4		9			115	4
多摩府中	10	3	7		5	6	16	2	4	2	23	2	7			150	3
多摩小平	8	1	2		1		6				2		2			144	
島しょ																8	
合 計	187	72	46	7	19	37	469	22	12	11	124	13	419	4	8	3,445	69

表3-3(1) 一、二、三類感染症 年齢階級別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳															4		
1～4歳															64	1	
5～9歳														1	28	2	
10～14歳															24	1	
15～19歳															29	1	
20～24歳														4	34	4	1
25～29歳														6	50	4	4
30～34歳														4	26	4	3
35～39歳														4	26		2
40～44歳														2	15	1	4
45～49歳														3	16	2	
50～54歳															10	1	3
55～59歳														2	11		3
60～64歳														3	12	2	
65～69歳														3	17		
70歳以上														4	16		
合 計														36	382	23	20

＊ 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-3(2) 四類感染症 年齢階級別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

	四 類												
	E型肝炎	A型肝炎	オウム病	Q熱	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳												1	
1～4歳							1	1					
5～9歳													
10～14歳				2				1					
15～19歳							1	5					
20～24歳		2	1					8	1				1
25～29歳		3			4	3	2	8				1	1
30～34歳	3	3					2	14	2		1	1	
35～39歳	1	1					1	4	2	2		2	
40～44歳	5	1		1			1	12	1			1	1
45～49歳	3	2						5	5			6	2
50～54歳	2							3		1		3	
55～59歳	4	3				1		1				9	1
60～64歳	9	3	1					2	1	1		11	
65～69歳	2						1	2		3		9	
70歳以上	3	1					3					36	
合 計	32	19	2	3	4	4	12	66	12	7	1	80	6

表3-3(3) 五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

	五 類																
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
0歳			1			1			1		10	13				24	1
1～4歳			18			1			1		17					64	14
5～9歳			7			2			1		4					36	
10～14歳			1								1					50	1
15～19歳		3	1			1	2			1			8			145	3
20～24歳	2	4	1				38	1					43			449	9
25～29歳	4	11	5				72	2			1		58			512	8
30～34歳	13	11		2		1	95	5			2		67	1		517	12
35～39歳	23	10	1	2			86	3		2	2		76			598	4
40～44歳	31	9	2	2			70	5			2		53			432	9
45～49歳	30	10		1		4	36	2		1	2		38			280	4
50～54歳	23	4	1		1	3	25	3		2	1		27		3	178	2
55～59歳	18	1	1		1	4	13		1	1	2		18			88	
60～64歳	19	2	2		2	3	21		2	1	8		10		2	43	1
65～69歳	9		2		4	4	3	1		1	14		3			23	1
70歳以上	15	7	3		11	13	7		6	2	58		18	3	3	6	
不明							1										
合 計	187	72	46	7	19	37	469	22	12	11	124	13	419	4	8	3,445	69

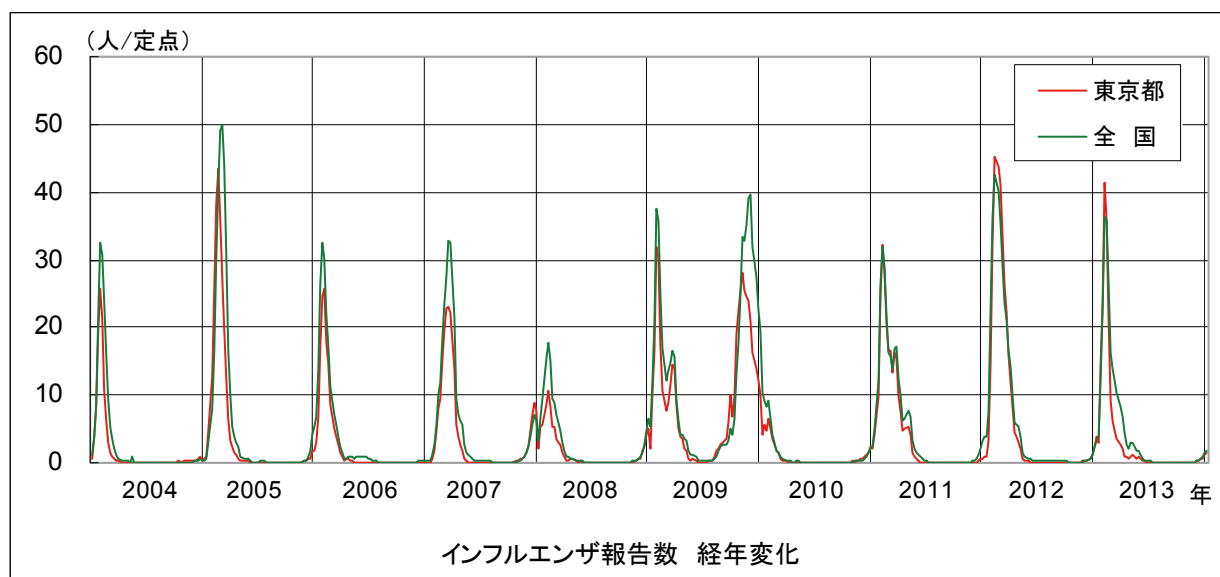
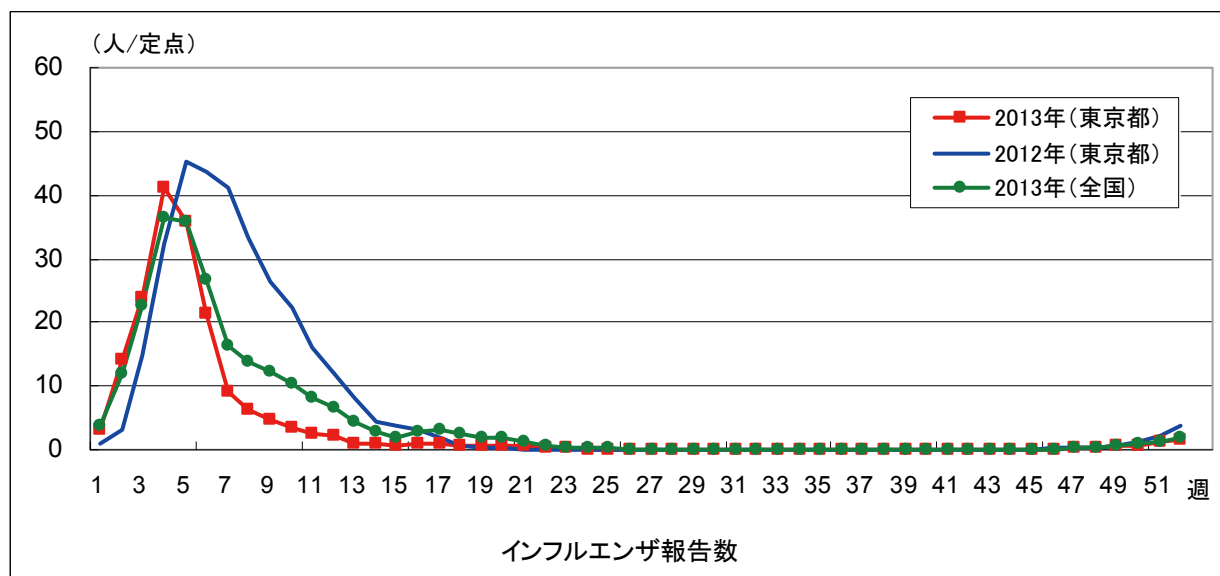
(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2013年の報告数は75,328人、定点当たり181.11人であった。ここ10年の定点当たり報告数では6番目、過去10年の定点当たり報告数の平均204.04人をやや下回る報告数であった。

2012/2013シーズンは、2012年50週（12月10日～12月16日）に定点当たり1.12人となり流行の目安となる1.00人を超えた。以後報告数は増加して2013年4週（1月21日～1月27日）に定点当たり41.29人とピークになり、その後は減少に転じ14週（4月1日～4月7日）の0.81人以降報告数は1.00人未満となった。17週（4月22日～28日）に定点当たり報告数1.05人と小さな増加を見たが、それ以降は1.00人を超えることはなかった。

2013/2014シーズンは、2013年51週（12月16日～12月22日）に定点当たり報告数が1.12人となり流行期に入った。年末の52週（12月23日～12月29日）には、定点当たり報告数は1.51人となっている。2013年1～52週の1年間の保健所別定点当たりの報告数では、最多は荒川区の253.32人、最少は昨年と同様に目黒区の58.07人であった。

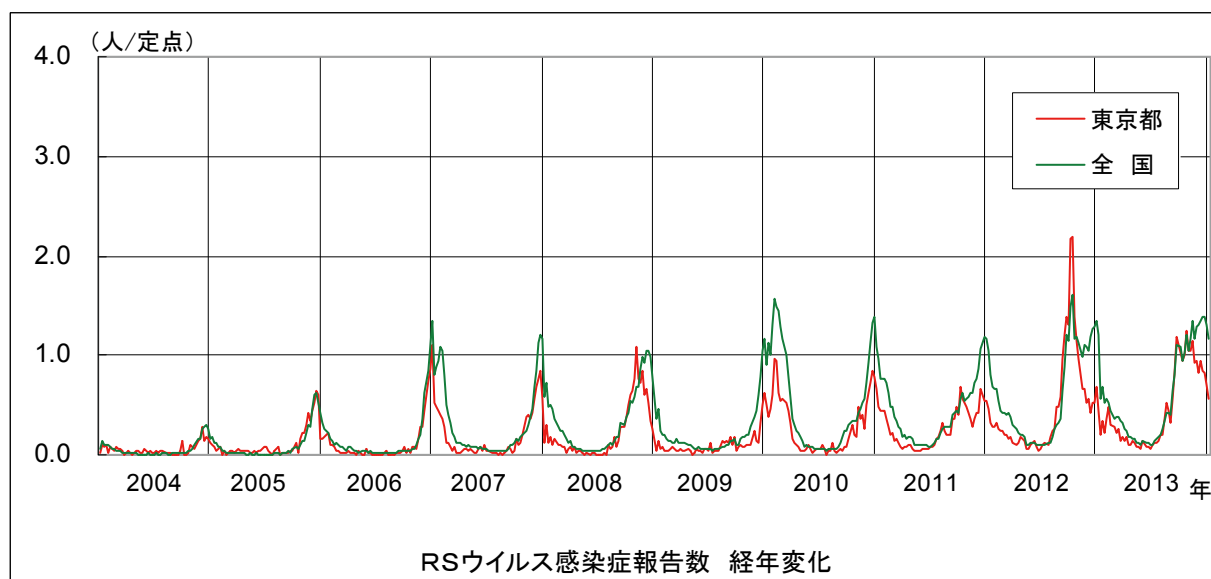
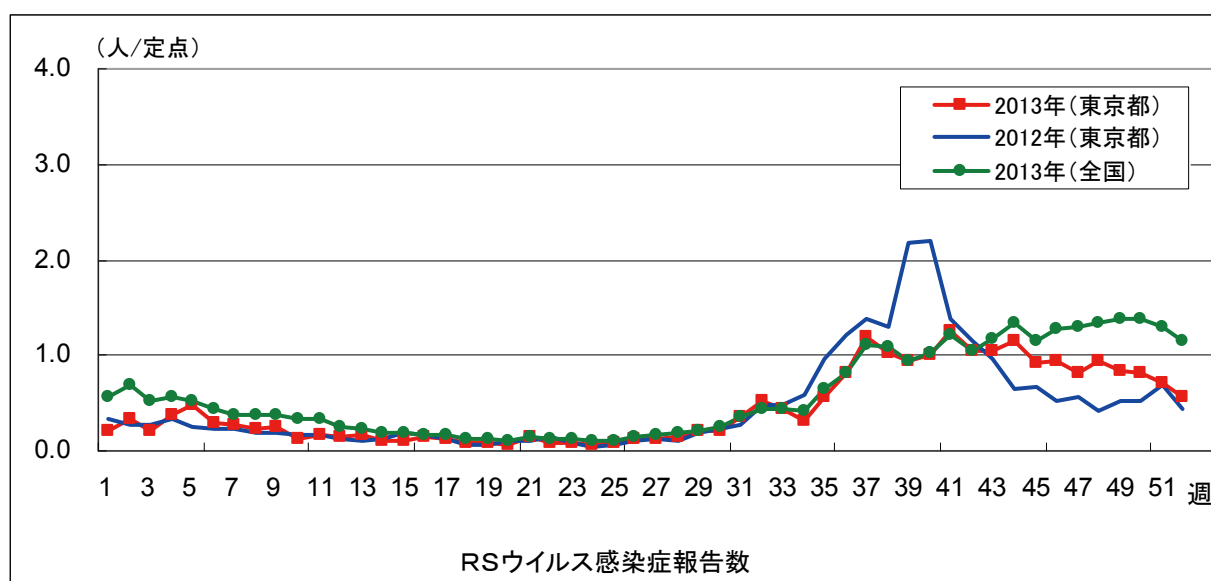


イ RSウイルス感染症

2013年の報告数は6,058人、定点当たり報告数は23.48人であり、ここ10年の定点当たり報告数では2012年の24.51人に次いで2番目に多かった。

週別の定点当たり報告数は、36週（9月2日～9月8日）から50週（12月9日～12月15日）にかけて0.80人を超えるなだらかな山があり、ピークは41週（10月7日～10月13日）の1.25人であった。そのほかにも、5週（1月28日～2月3日）の0.47人をピークとした小さな山が見られた。

保健所別に見た定点当たり報告数では、荒川区が78.33人で前年と同様に最多であった。年齢階級別報告数では、6,058人中6か月未満875人（14.4%）、6か月～12か月未満1,561人（25.8%）1歳代2,285人（37.7%）であり、1歳代以下が77.9%を占めている。

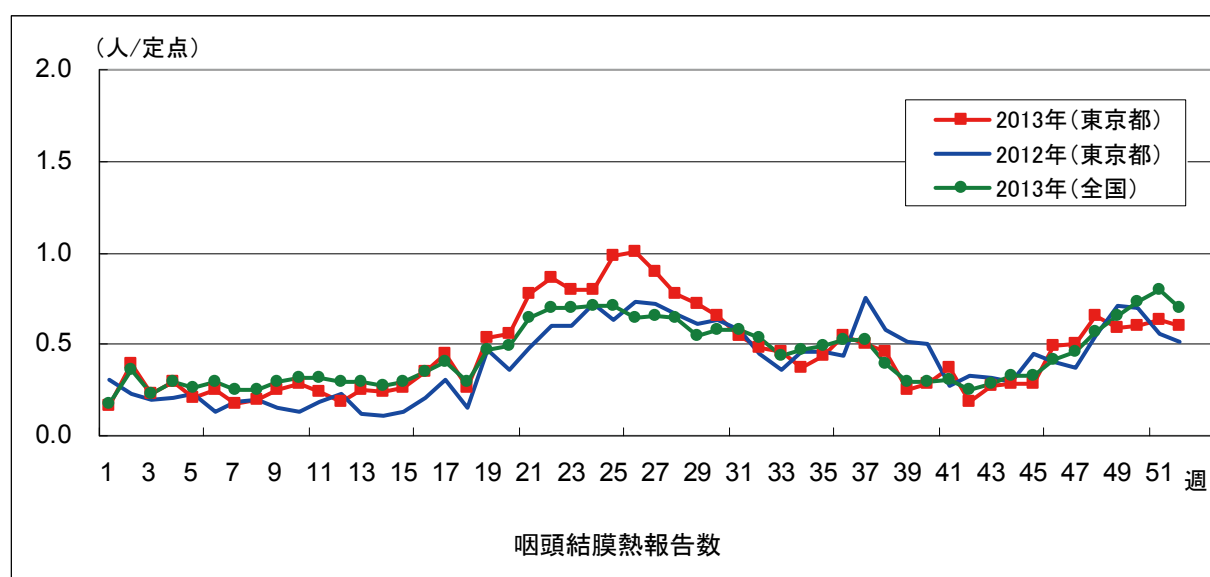


ウ 咽頭結膜熱

2013年の報告数は6,184人、定点当たり報告数は23.89人であり、ここ10年の定点当たり報告数では2006年の27.67人に次いで2番目に多かった。

週別では、19週（5月6日～5月12日）から31週（7月29日～8月4日）にかけて、36週（9月2日～9月8日）から37週（9月9日～9月15日）にかけて、47週（11月18日～11月24日）から52週（12月23日～12月29日）にかけて定点当たり0.50人を超える報告数があり、ピークは26週（6月24日～6月30日）の1.01人であった。

保健所別の定点当たり報告数では、多摩小平が58.80人と最多であった。年齢階級別報告数では、1歳代が1,235人（20.0%）と最も多く、5歳代以下が4,873件（78.8%）となっている。

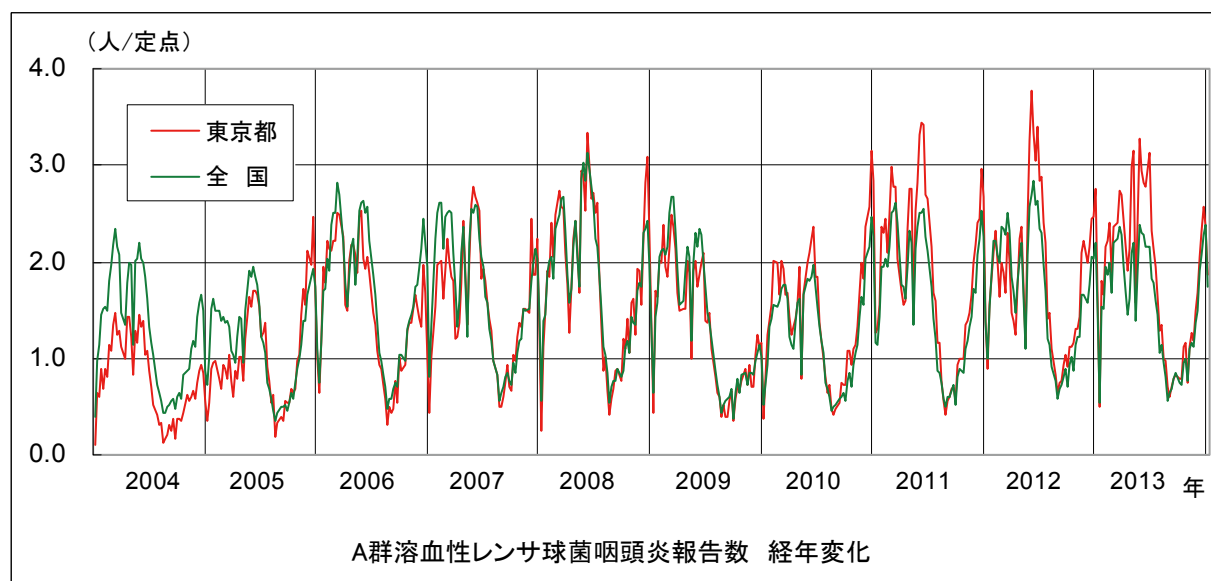
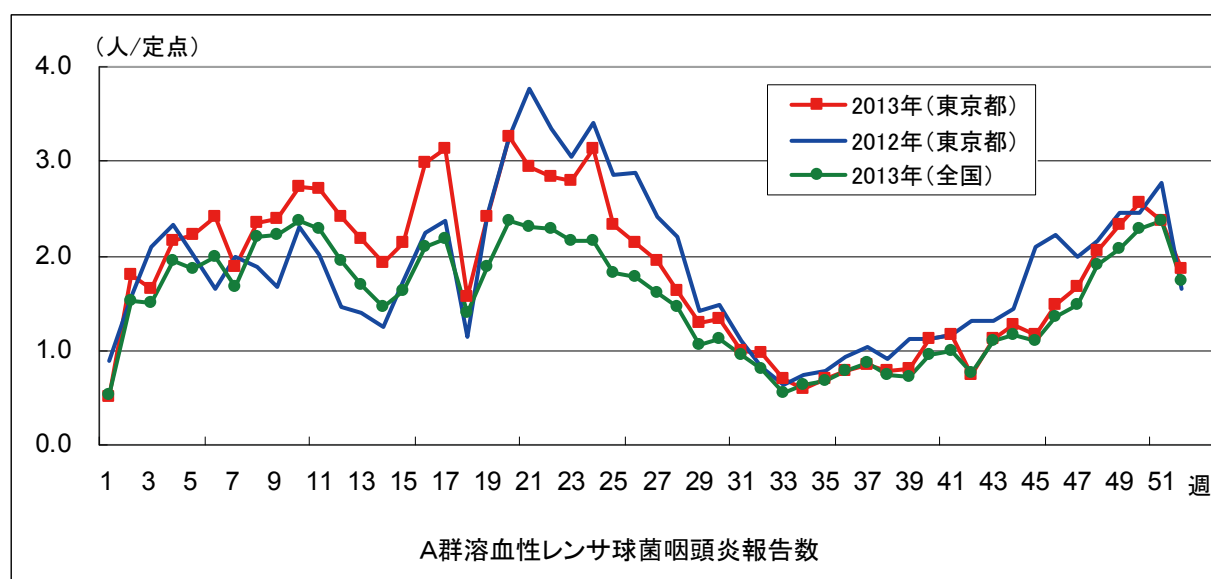


エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2013年の報告数は24,801人、定点当たり報告数では、95.29人であった。ここ10年の定点当たり報告数では2011年、2012年に次いで3番目に多い報告数であった。

週別定点当たり報告数では、32週（8月5日～8月11日）から39週（9月23日～9月29日）にかけて報告数が1.00人未満となっているが、この期間以外はおおむね1.00人以上の報告数があり、最多は20週（5月13日～5月19日）の3.26人である。

保健所別の定点当たり報告数は、町田市が258.18人で前年と同様最多であった。年齢階級別報告数では、5歳代が3,528人（14.2%）と最も多く、4歳代から7歳代が13,018人と全報告数の52.5%を占めている。この傾向は前年と同様である。

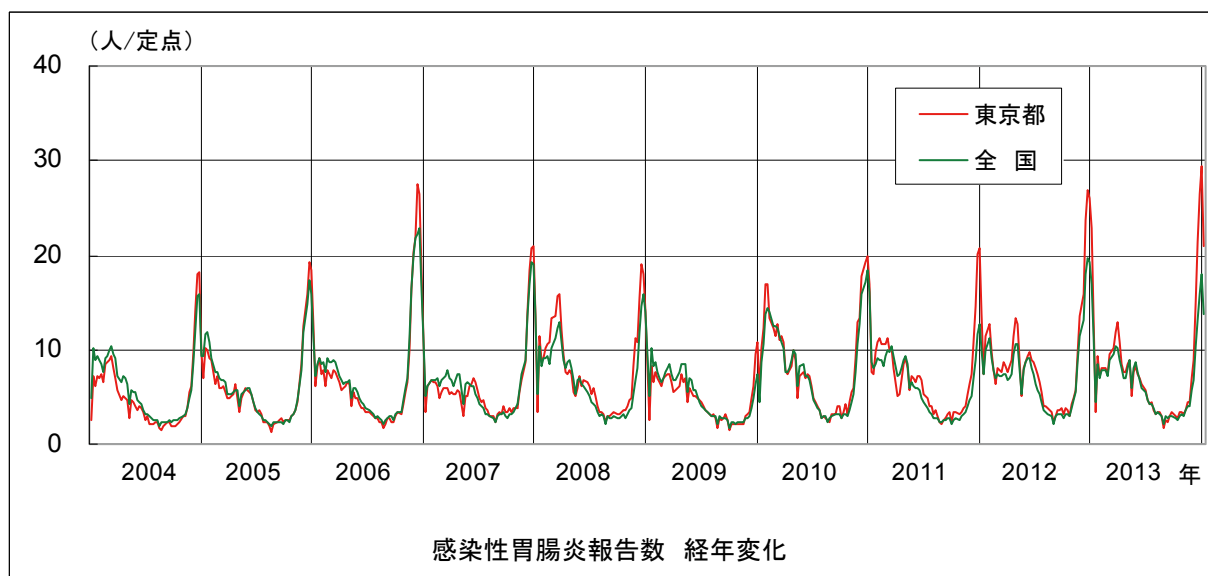
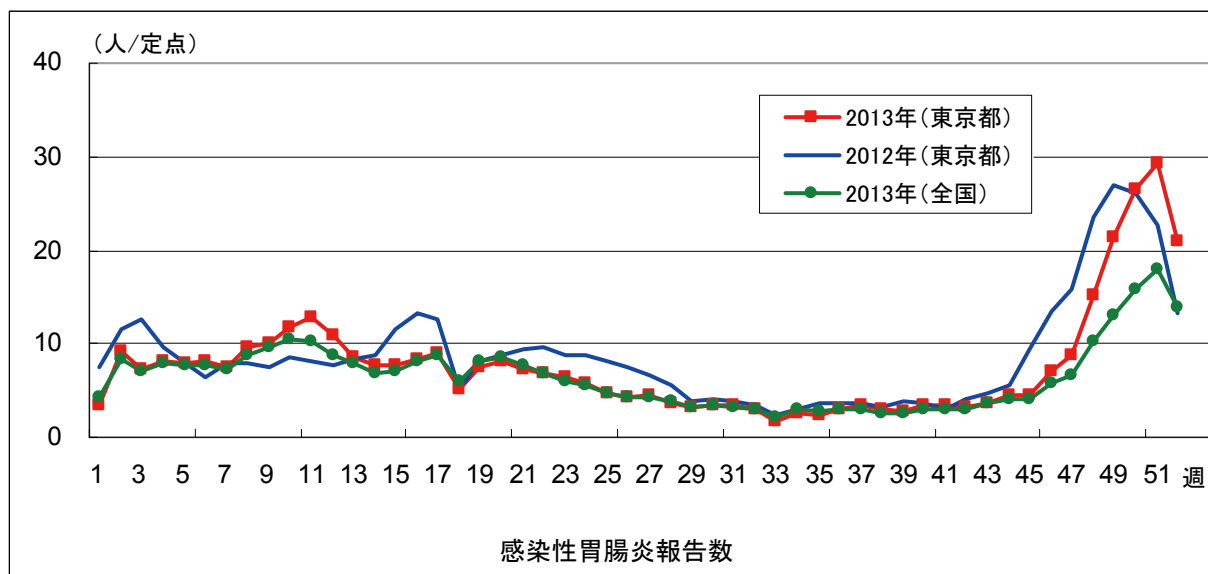


オ 感染性胃腸炎

2013 年の報告数は 102,987 人、定点当たり報告数は 395.81 人であった。ここ 10 年の定点当たり報告数では 5 番目に多く、10 年の平均 330.85 人よりやや多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では、48 週（11 月 25 日～12 月 1 日）から 52 週（12 月 23 日～12 月 29 日）にかけて報告数が 15.00 人を超える大きな山と、9 週（2 月 25 日～3 月 3 日）から 12 週（3 月 18 日～3 月 24 日）にかけて報告数が 10.00 人を超える小さな山が見られた。最多の報告数は 51 週（12 月 16 日～12 月 22 日）の 29.38 人であった。

保健所別の定点当たり報告数では江東区が 665.25 人と最も多く、年齢階級別報告数で 1 歳代が 13,554 人（13.2%）と最も多いのは前年と同様である。

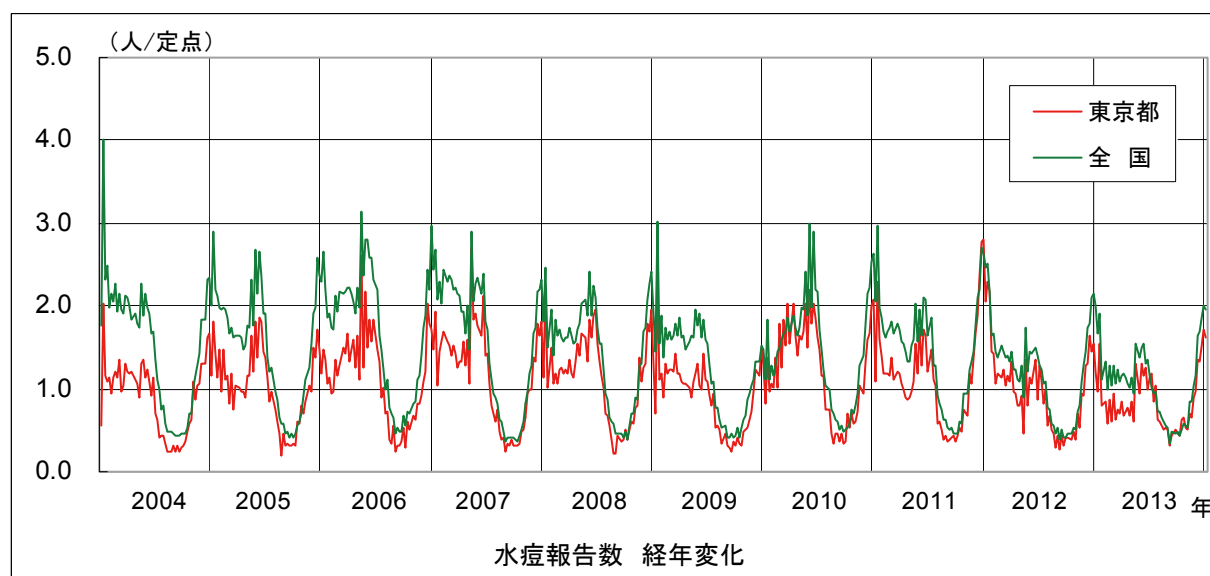
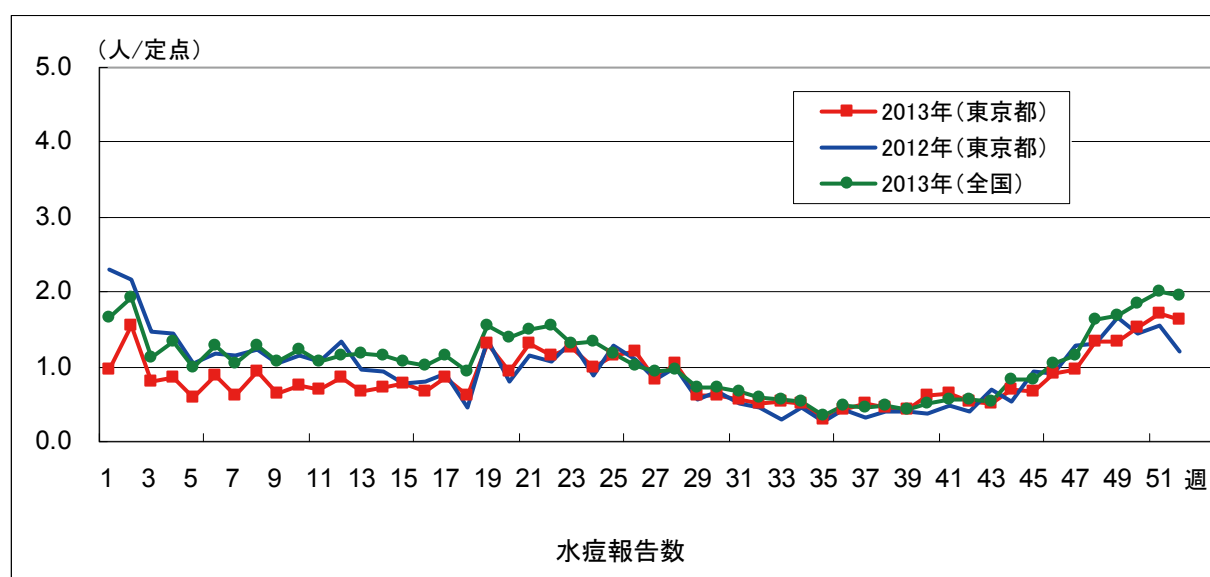


カ 水痘

2013 年の報告数は 11,452 人、定点当たり報告数は 44.22 人であり、ここ 10 年の定点当たり報告数では最も少ない報告数であった。

週別の定点当たり報告数では、48 週（11 月 25 日～12 月 1 日）から 52 週（12 月 23 日～12 月 29 日）にかけて 1.30 人を超える大きな山と、19 週（5 月 6 日～5 月 12 日）から 28 週（7 月 8 日～7 月 14 日）にかけて 1.00 人前後のなだらかな山が見られる。最多の報告数は 51 週（12 月 16 日～12 月 22 日）の 1.72 人であった。

保健所別で定点当たり報告数が多かったのは、町田市の 82.35 人、次いで八王子市の 77.48 人であった。年齢階級別報告数では、4 歳代が 1,961 人（17.1%）と最も多く、1 歳代から 5 歳代が 8,409 人と全報告数の 73.4%を占めている。

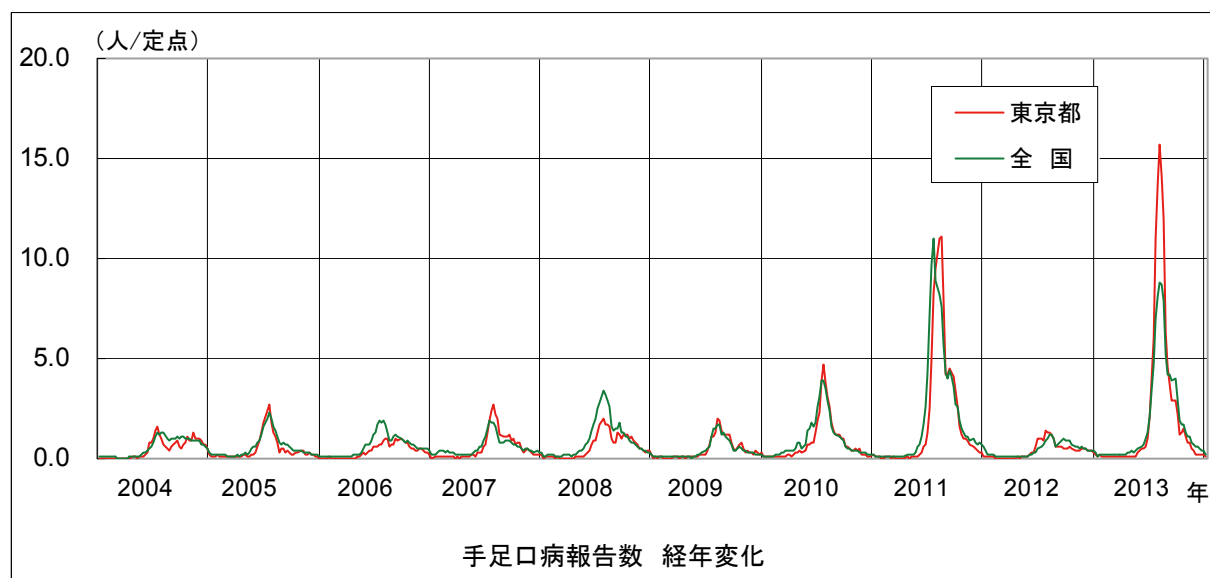
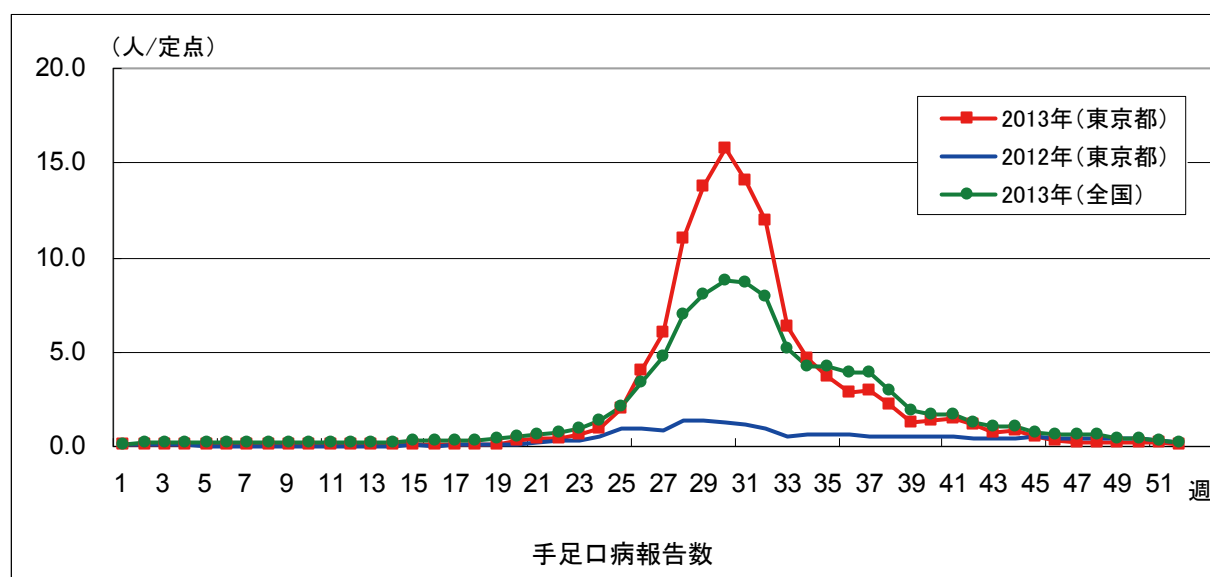


キ 手足口病

2013年の報告数は29,320人、定点当たり報告数は114.72人であり、ここ10年の定点当たり報告数では最多であった。

週別の定点当たり報告数は、28週（7月8日～7月14日）から32週（8月5日～8月11日）にかけて10.00人を超える大きな山があり、ピークは30週（7月22日～7月28日）の15.75人であった。

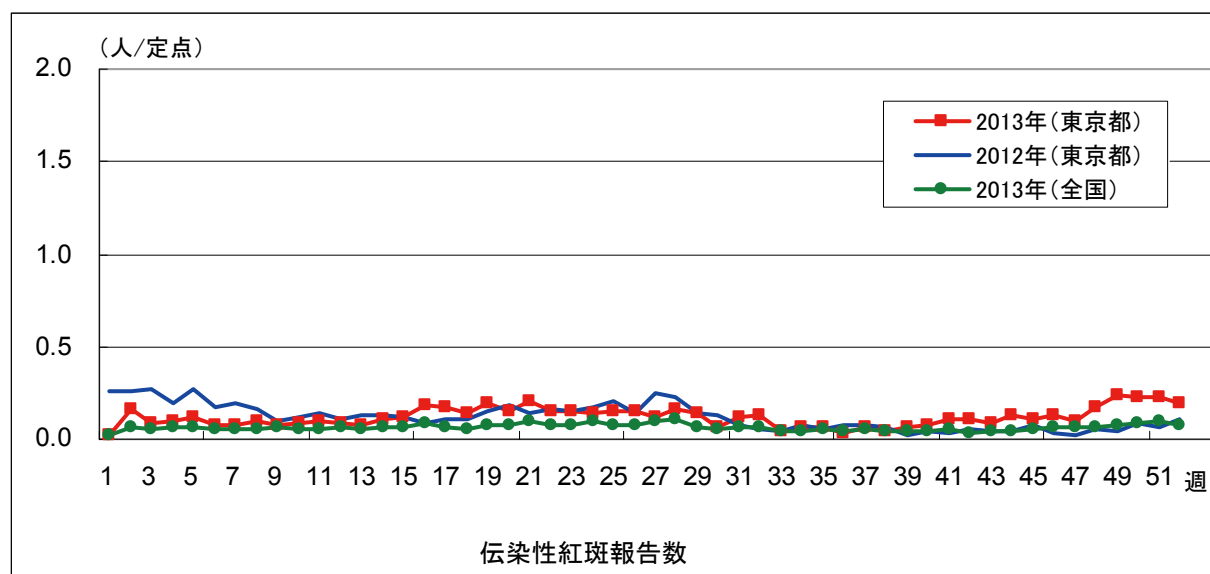
保健所別定点当たり報告数では、荒川区が207.92人、八王子市が203.46人と多かった。年齢階級別報告数では、1歳代が9,625人（32.8%）で最多であり、前年の傾向と同様であった。



ク 伝染性紅斑

2013年の報告数は1,608人、定点当たり報告数は6.19人であった。ここ10年の定点当たり報告数では最も少なかった。

週別定点当たり報告数では、49週（12月2日～12月8日）から52週（12月23日～12月29日）にかけて0.20人を超える小さな山があるが季節変動ははっきりしなかった。

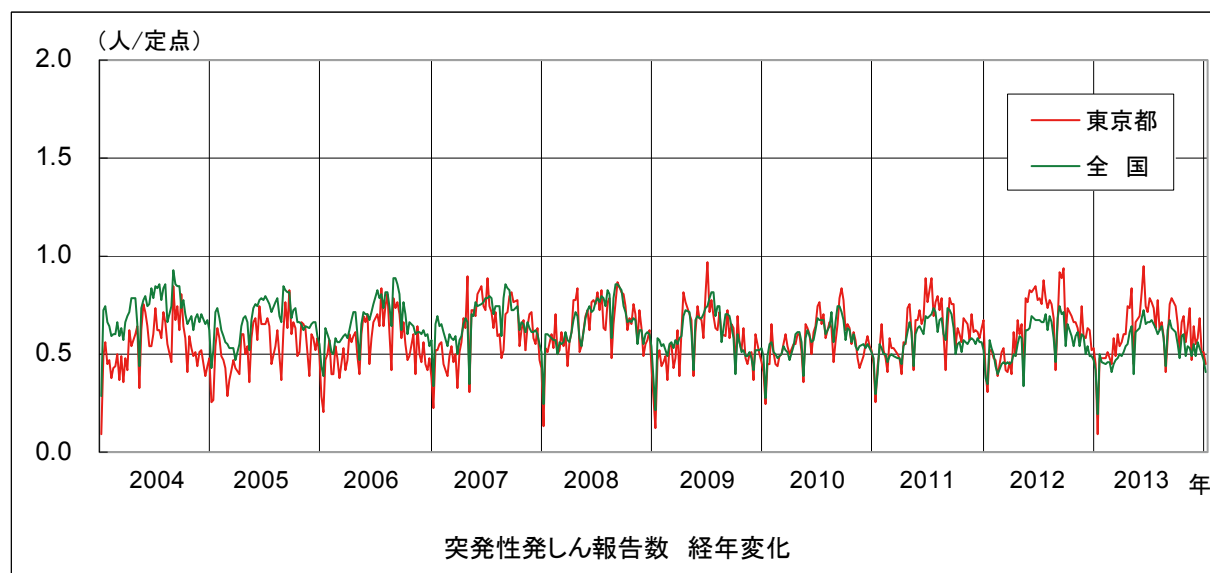
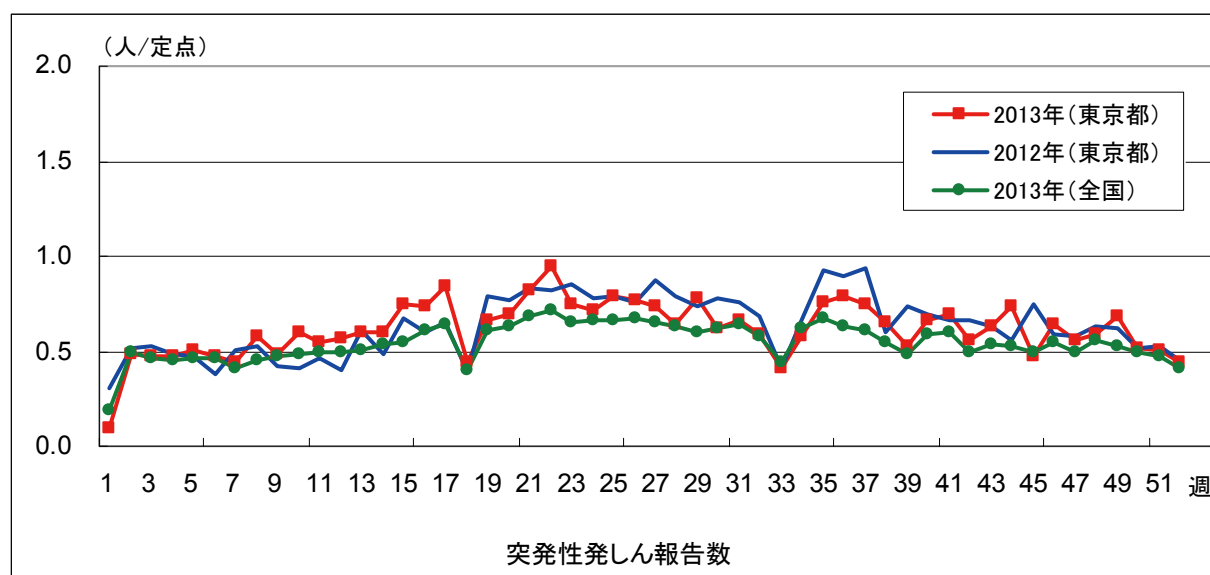


ケ 突発性発しん

2013年の報告数は8,299人、定点当たり報告数は32.00人であった。ここ10年の定点当たり報告数では4番目に多い報告数であり、ここ10年の平均報告数30.87人よりやや多い報告数であった。

週別の定点当たり報告数では22週（5月27日～6月2日）の0.95人が最多であるが、例年と同様季節変動は明らかではない。

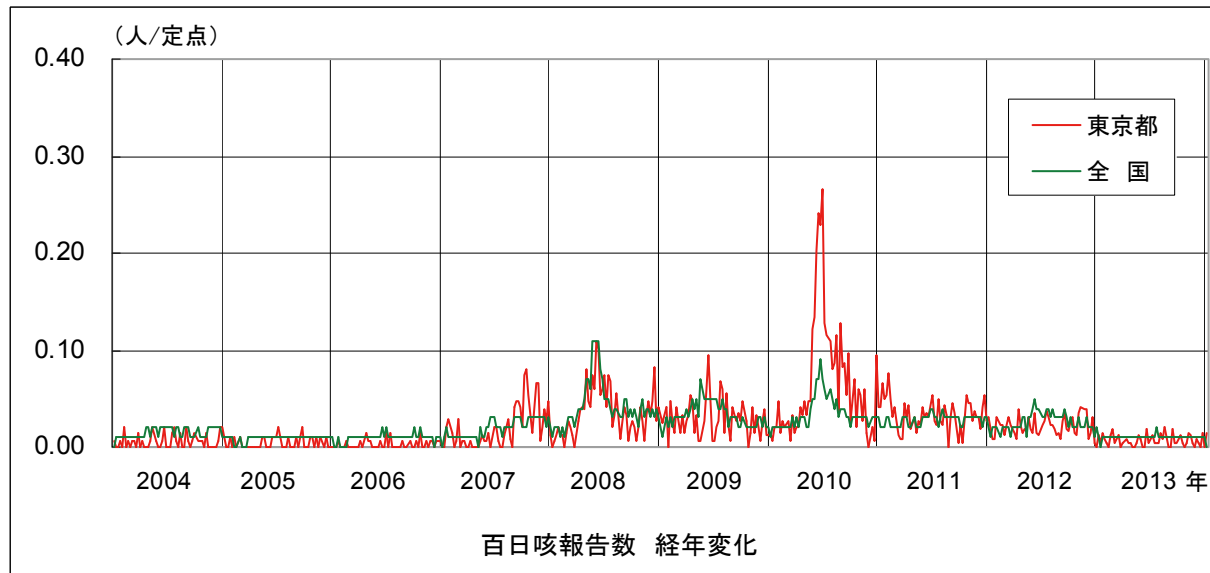
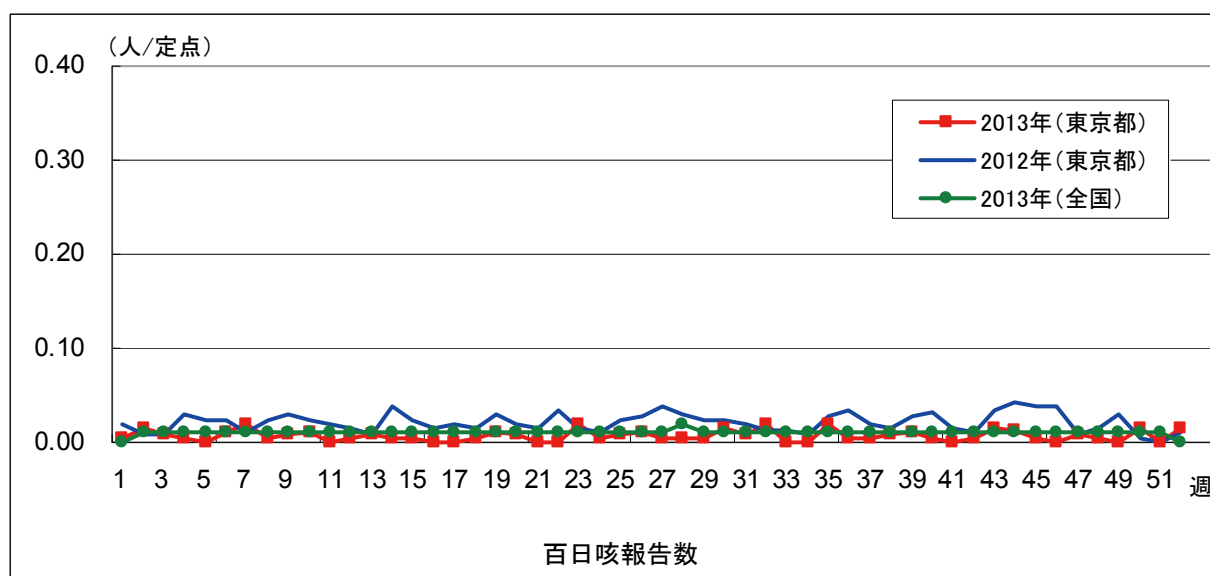
保健所別定点当たり報告数では、荒川区の57.75人、江東区の46.94人、多摩小平の44.68人が多かった。年齢階級別報告数では、1歳代が4,154人（50.1%）、6か月～12か月未満が3,069人（37.0%）と多く、1歳代以下に報告数のピークがあるのは例年と同様である。



コ 百日咳

2013 年の報告数は 91 人、定点当たり報告数は 0.35 人であった。ここ 10 年の定点当たり報告数は 2010 年の 3.42 人をピークに年々減少している。

報告数が少ないので季節変動は不明である。保健所別定点当たり報告数では、みなとが 2.00 人とやや多く、年齢階級別報告数では、0～4 歳が 35 人で 38.5%を占めている。

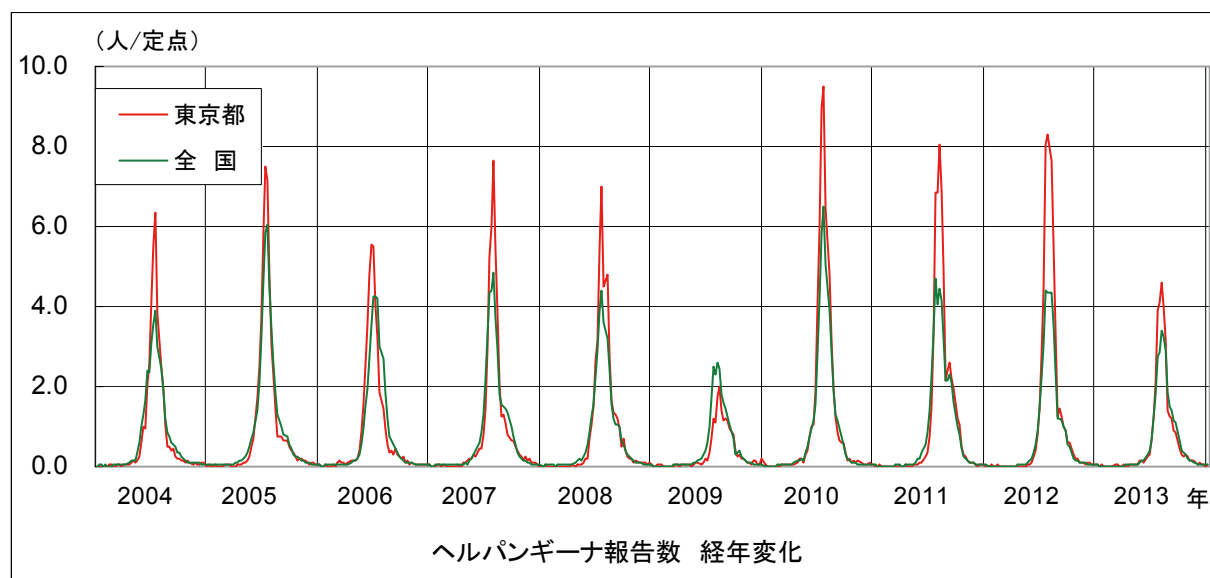
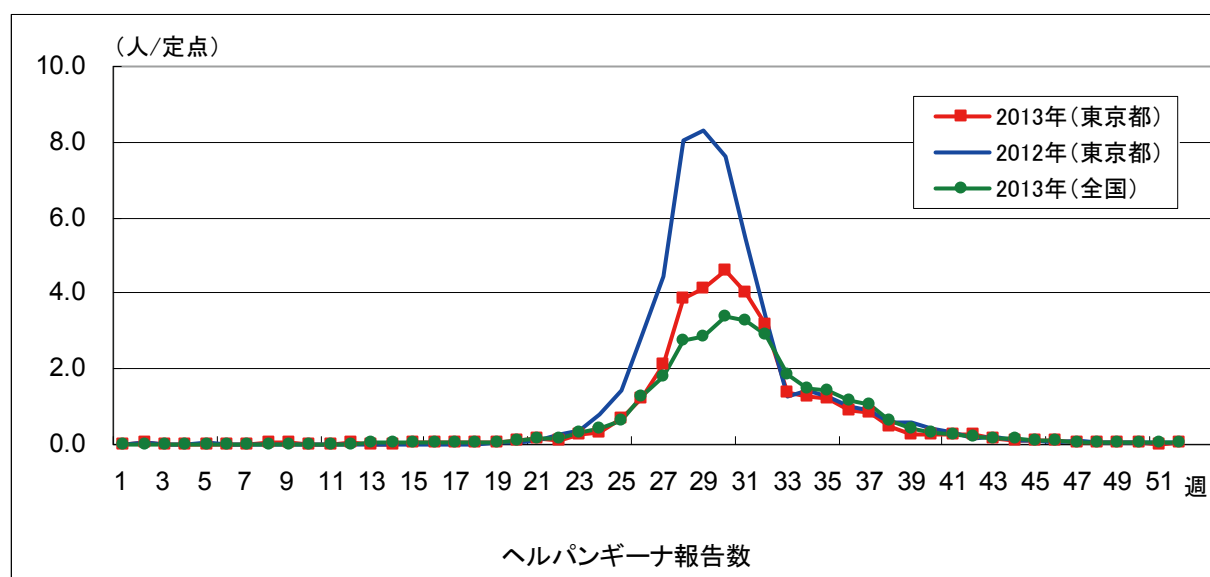


サ ヘルパンギーナ

2013年の報告数は8,480人、定点当たり報告数は33.06人であった。ここ10年の定点当たり報告数では2009年の17.63人に次いで少ない報告数であった。

週別に見た定点当たり報告数では、26週（6月24日～6月30日）から35週（8月26日～9月1日）にかけて1.00人を超えており、ピークは30週（7月22日～7月28日）の4.61人であった。

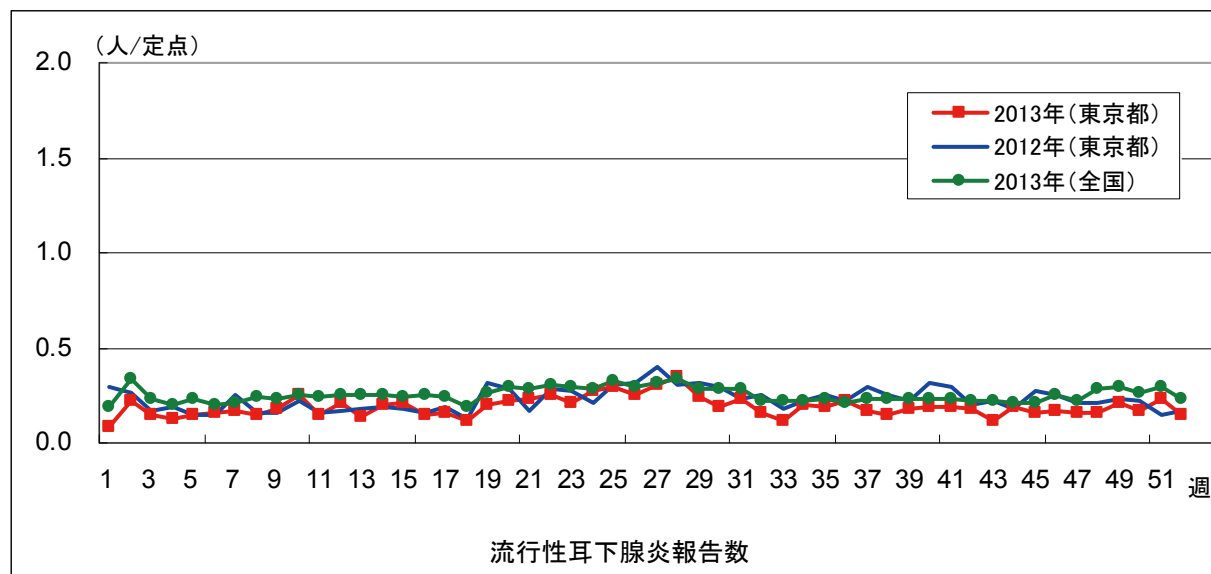
保健所別の定点当たり報告数では、町田市が79.70人で最多であり、年齢階級別報告数では、1歳代が2,265人（26.7%）と最も多く、5歳以下が7,447人と87.8%を占めている。



シ 流行性耳下腺炎

2013年の報告数は2,549人、定点当たり報告数は9.83人であり、ここ10年の定点当たり報告数では最も少ない報告数であった。

週別の定点当たり報告数は0.09～0.35人であり、季節変動は明らかでない。保健所別定点当たり報告数では、南多摩が22.92人、足立が22.36人と多かった。年齢階級別報告数では、5歳代が425人(16.7%)と最も多く、6歳以下が1,691人と全報告数の66.3%を占めている。

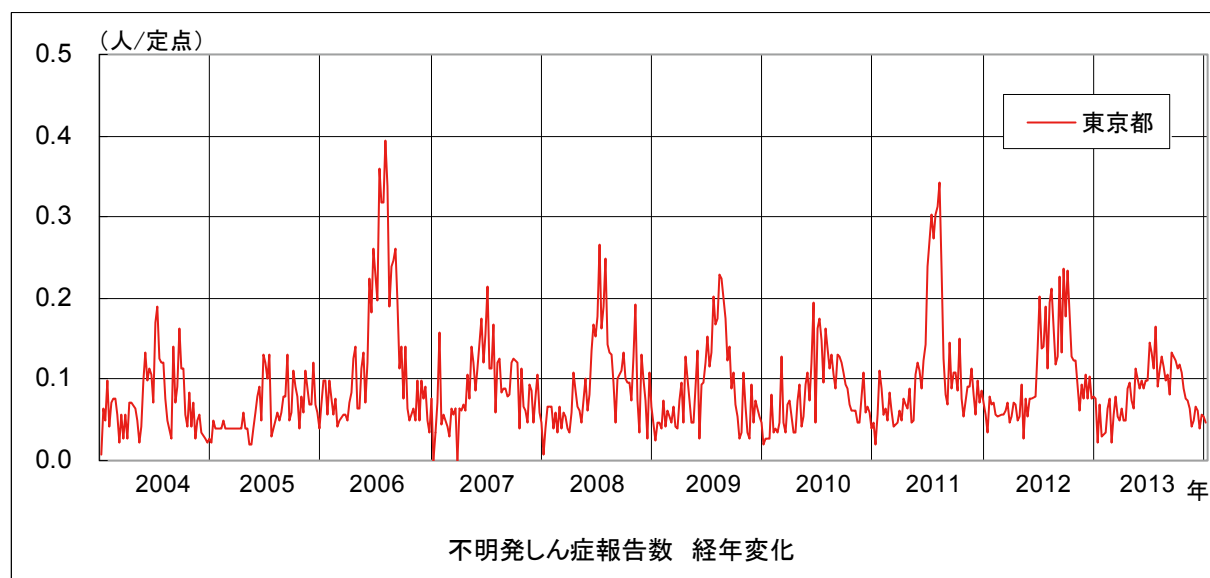
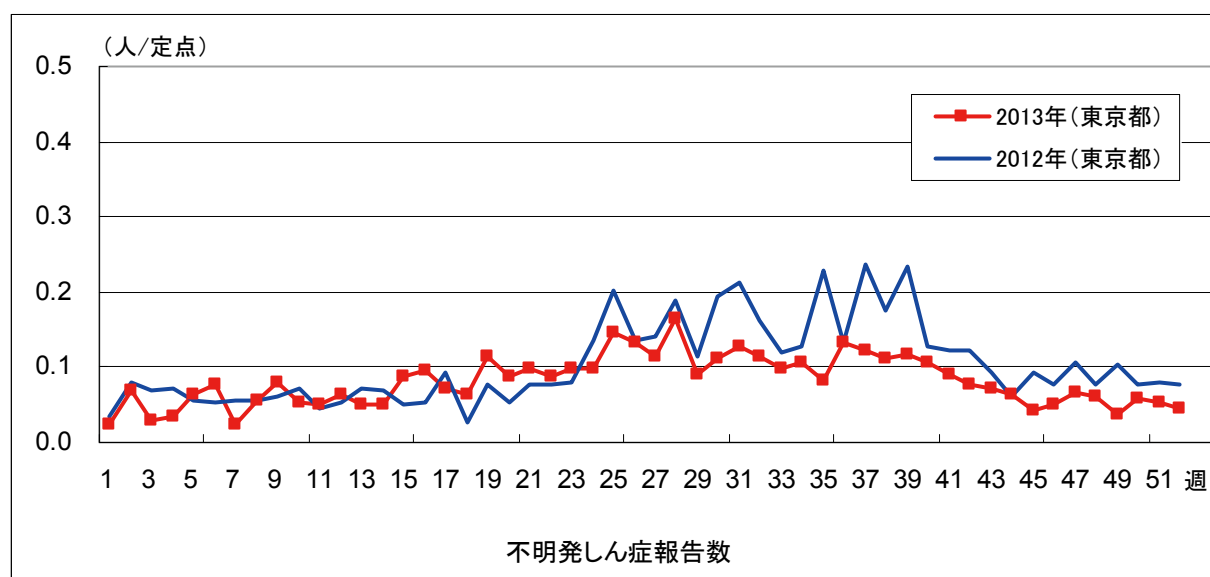


ス 不明発しん症

2013 年の報告数は 1,094 人、定点当たり報告数は 4.24 人であり、ここ 10 年の定点当たり報告数の平均 4.75 人と比べるとやや少ない報告数であった。

週別定点当たり報告数では、25 週（6 月 17 日～6 月 23 日）から 40 週（9 月 30 日～10 月 6 日）にかけて緩やかな増加が見られ、最多は 28 週（7 月 8 日～7 月 14 日）の 0.17 人である。

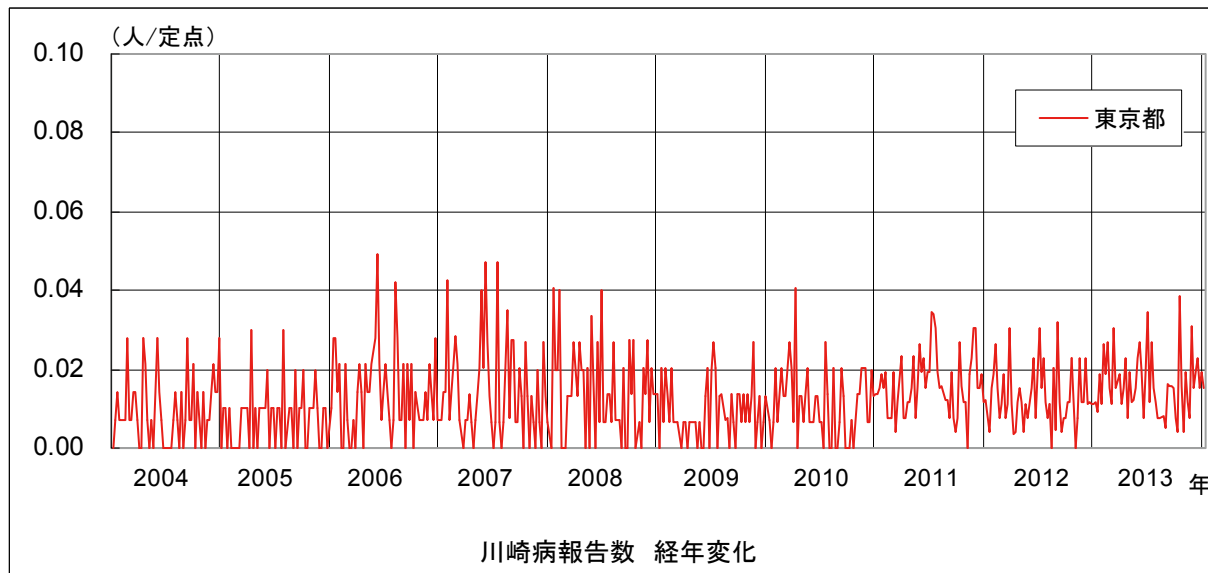
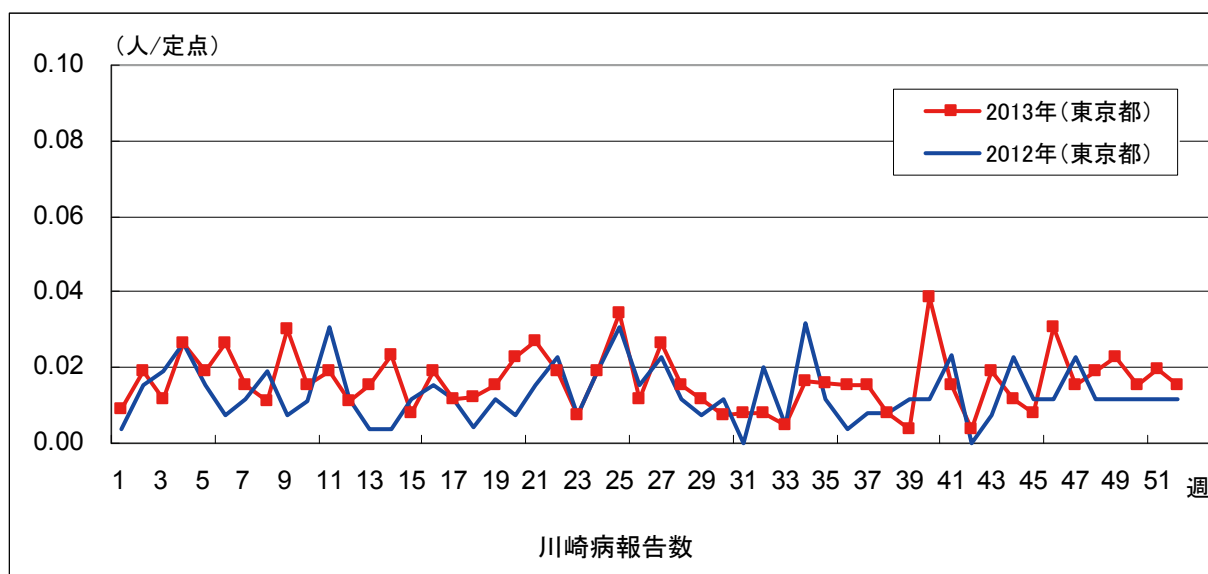
保健所別定点当たり報告数は、町田市が 13.33 人と最も多かった。年齢階級別報告数では、1 歳代が 347 人（31.7%）と最も多く、3 歳以下が 808 人で全報告数の 73.9%を占めている。



セ 川崎病

2013 年の報告数は 221 人、定点当たり報告数は 0.85 人であり、ここ 10 年の定点当たり報告数では最多であった。

週別の報告数が少ないため季節変動は明らかでない。保健所別定点当たり報告数では、みなとが 3.00 人と最も多く、年齢階級別報告数では、4 歳以下が 191 人と全報告数の 86.4%を占めている。



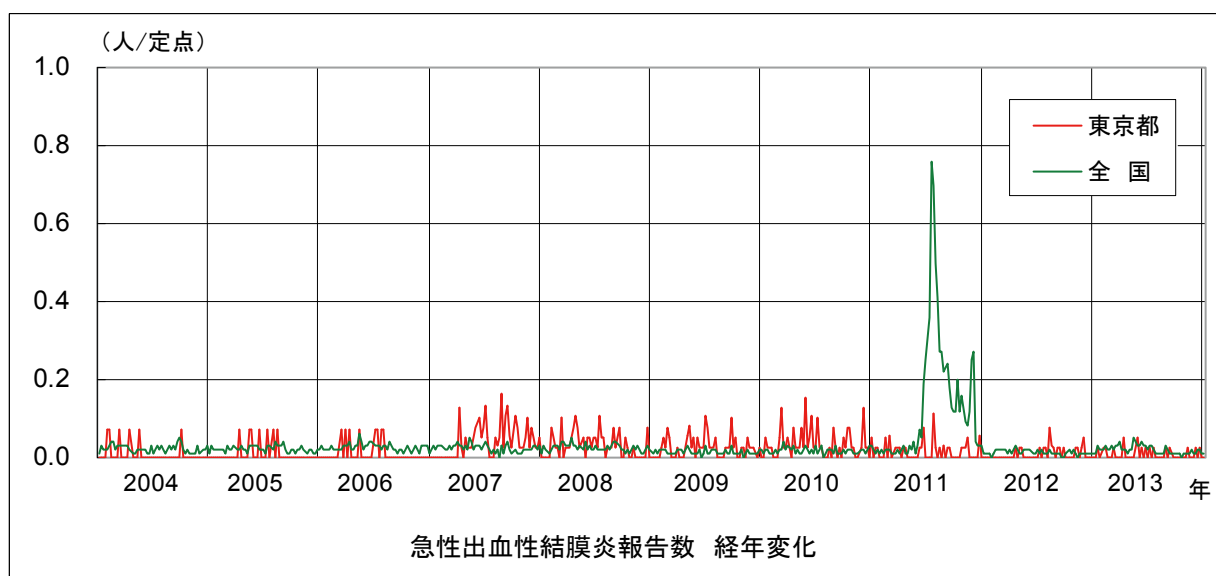
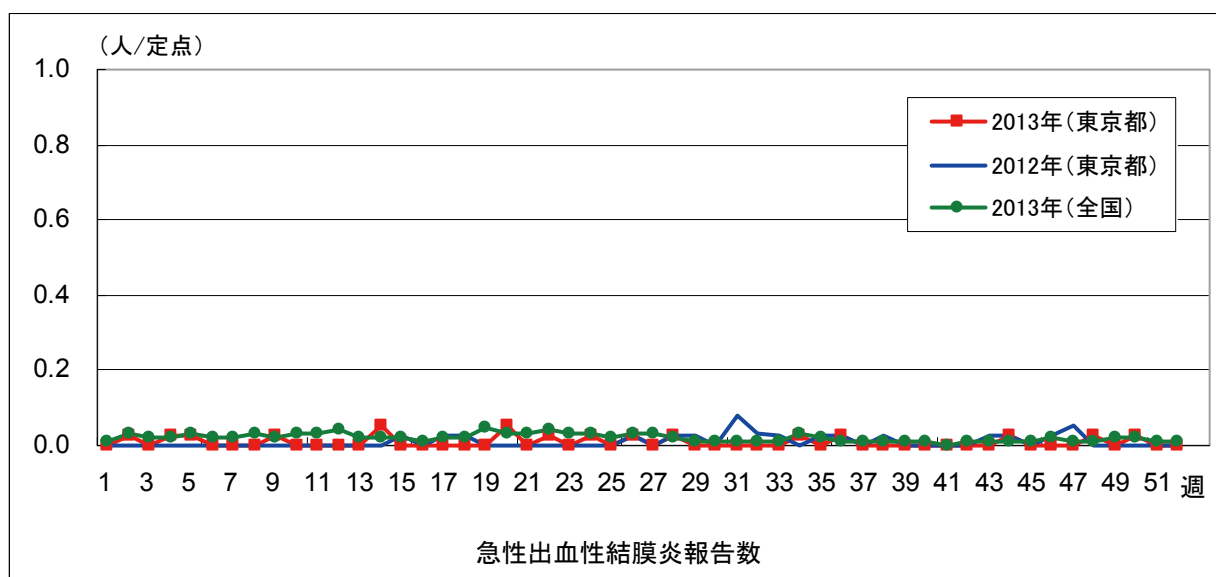
(3) 眼科疾患

ア 急性出血性結膜炎

2013年の報告数は17人、定点当たり0.45人であり、眼科定点数が増加した2007年以降で最少だった。患者報告数の推移には1年を通じてあまり特徴がなく、14週（4月1日～7日）、20週（5月13日～19日）に2人の報告があった以外は各週1人以下であり、年間37週は報告がなかった。全国的にも低いレベルで分散した報告が続いており、東京も同様であった。

二次医療圏別では眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは6医療圏で、区西南部圏、区西北部圏、区南部圏、区東北部圏が多かった。

報告年齢は分散していたが、20歳以上の成人が13人と全体の76.5%を占めた。幼少児では2歳児が1人（5.9%）、3歳児が1人（5.9%）、6歳児が1人（5.9%）見られた。



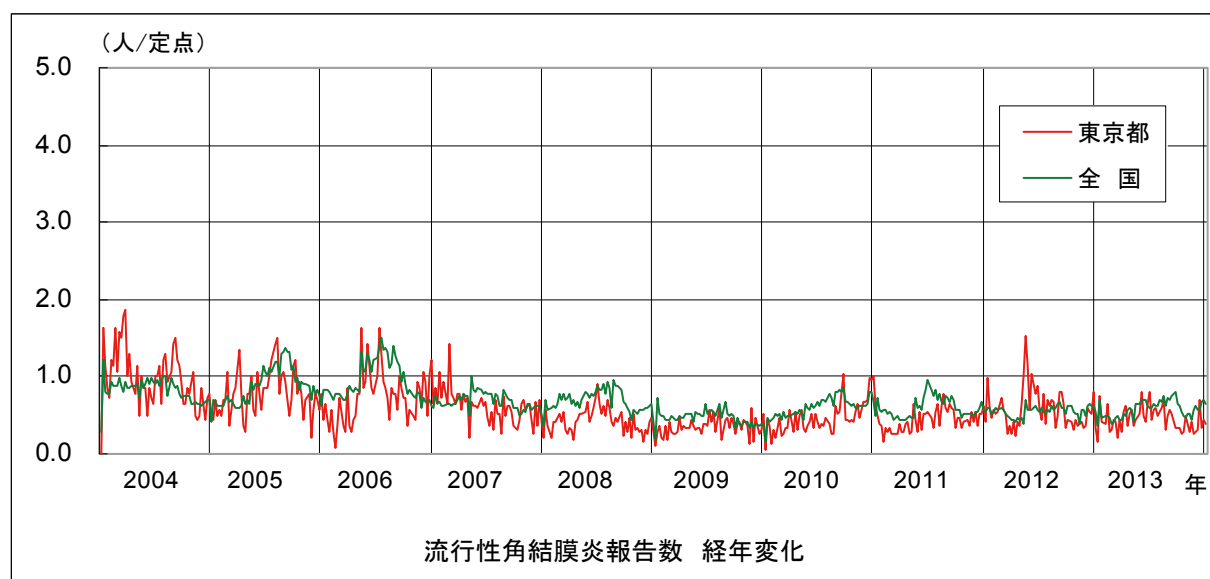
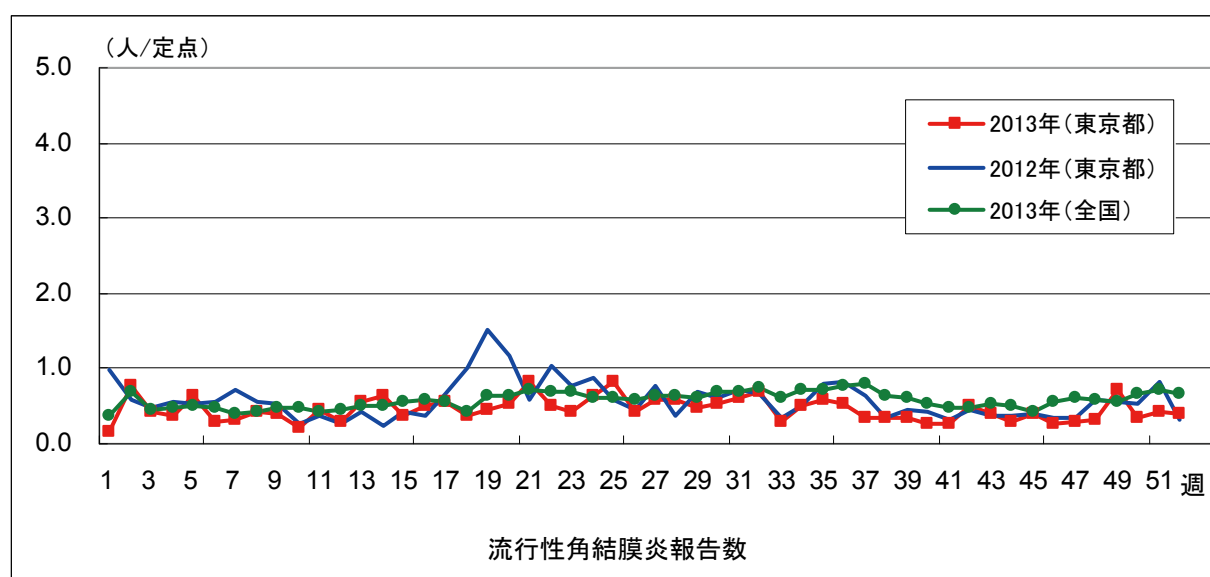
イ 流行性角結膜炎

2013年の報告数は891人、定点当たり23.68人であった。眼科定点数が増加した2007年以降では、2007年と2012年に多かったが、2013年はそれ以外の年と同じ低い水準に戻った。

患者報告数の推移には1年を通じてあまり特徴がなく、週別定点当たり報告数では0.15人から0.82人であった。全国と比較すると2012年と異なり若干低い水準であった。

二次医療圏別の定点当たり報告数では、区中央部圏49.00人、北多摩北部圏43.00人、区東北部圏32.83人で多かった。

報告年齢は20歳から49歳が497人と55.8%を占め、20歳以上の成人が682人（76.5%）であった。10歳未満は167人（18.7%）で、各年齢層に分散して見られた。

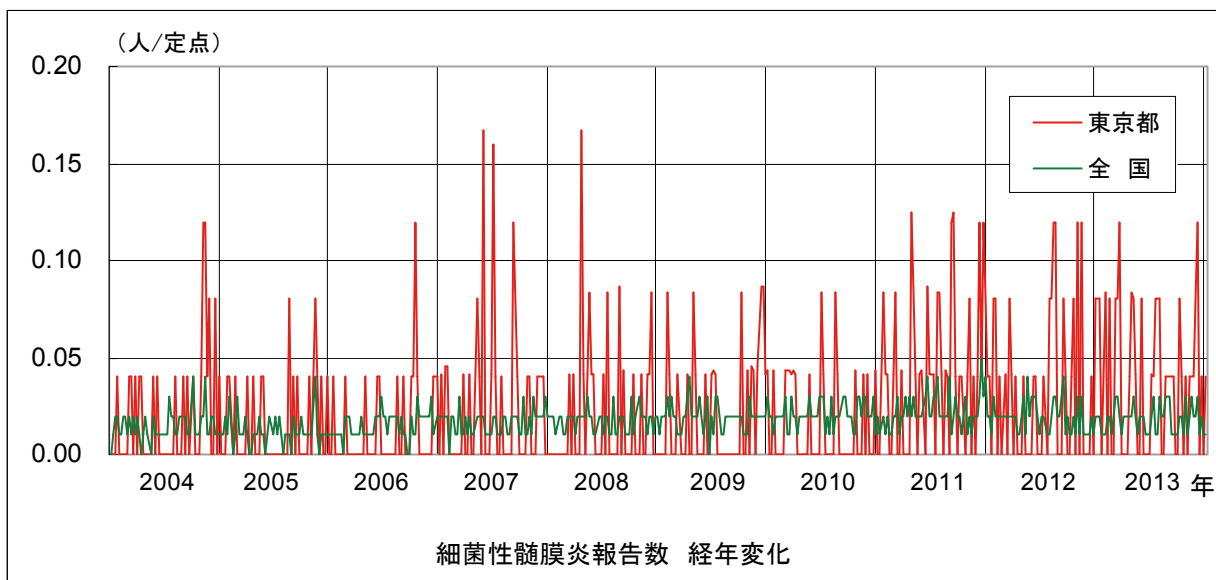
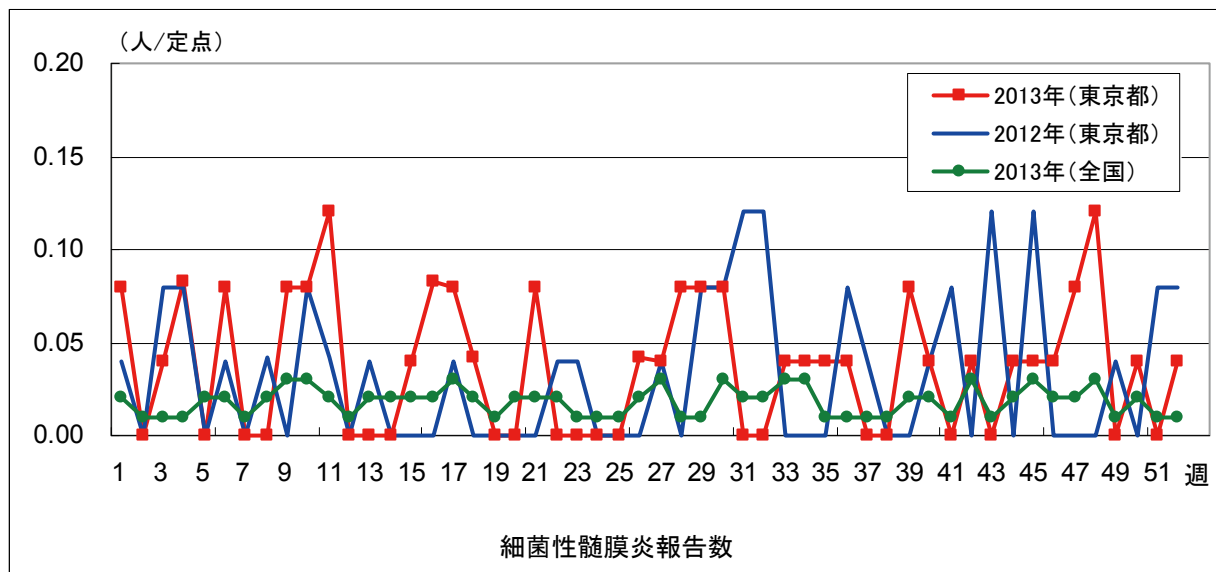


(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患

ア 細菌性髄膜炎

2013 年の報告数は 48 人、定点当たり報告数は 1.93 人であった。ここ 10 年の定点当たり報告数の平均は 1.12 人であり、2013 年は 2011 年の 2.14 人に次ぐ 2 番目に多い報告数であった。

週別定点当たり報告数による季節変動は明らかではない。保健所別定点当たり報告数では、世田谷が 6.50 人、墨田区が 6.00 人と多い報告数であった。年齢階級別報告数では、1 歳未満が 18 人 (37.5%)、60 歳以上が 15 人 (31.3%) であった。

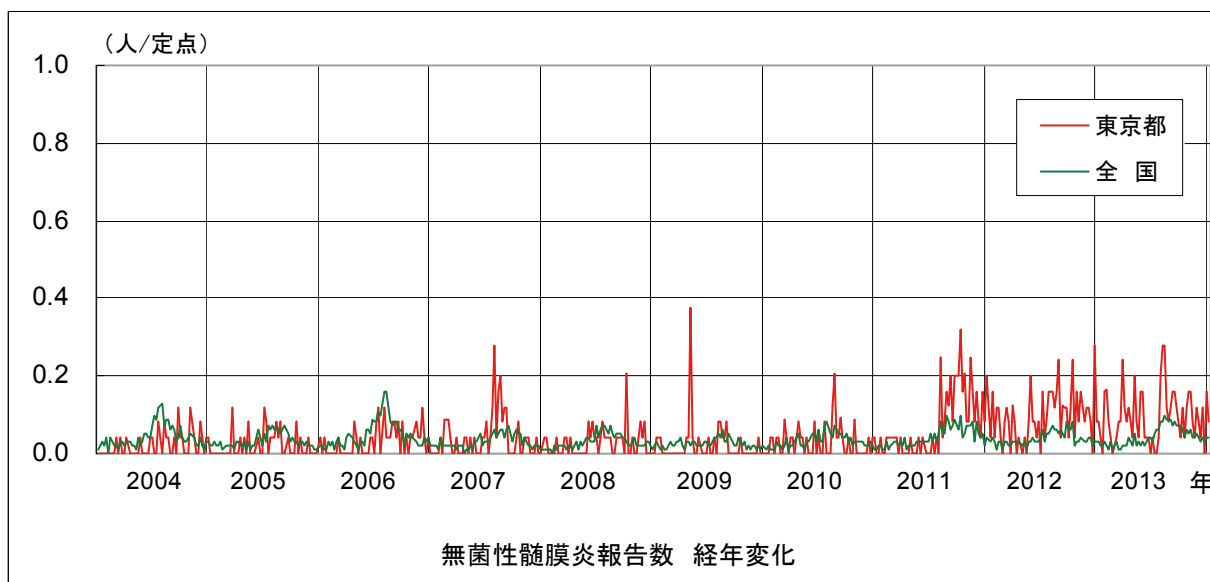
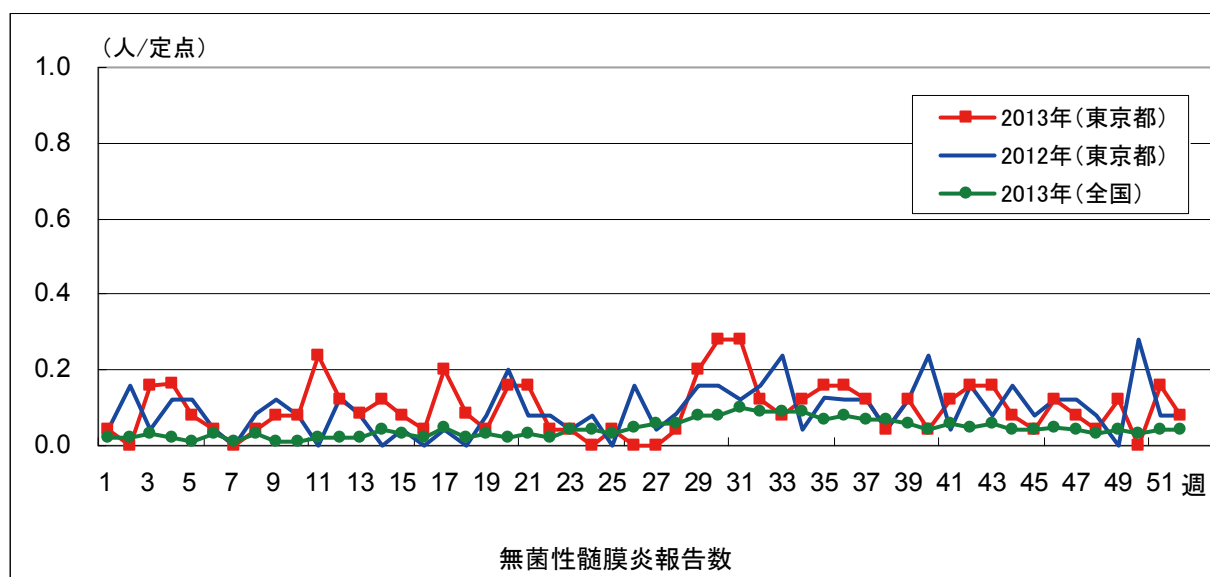


イ 無菌性髄膜炎

2013 年の報告数は 126 人、定点当たり報告数は 5.06 人で、ここ 10 年で最も多い報告数であった。

週別定点当たり報告数では、30 週（7 月 22 日～7 月 28 日）と 31 週（7 月 29 日～8 月 4 日）が 0.28 人と最多であるが季節変動は明らかではない。

保健所別定点当たり報告数では、墨田区が 42.00 人で前年と同様最多であった。年齢階級別報告数では、9 歳以下が 59 人（46.8%）、10～19 歳が 18 人（14.3%）、20～29 歳が 13 人（10.3%）、30～39 歳が 16 人（12.7%）、40 歳以上が 20 人（15.9%）であった。

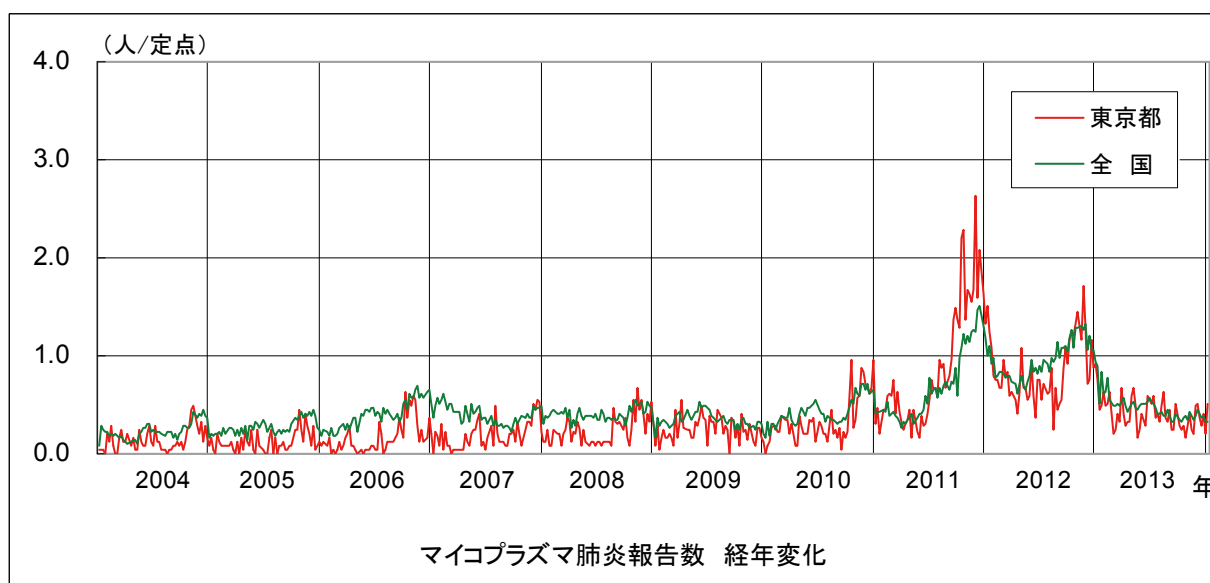
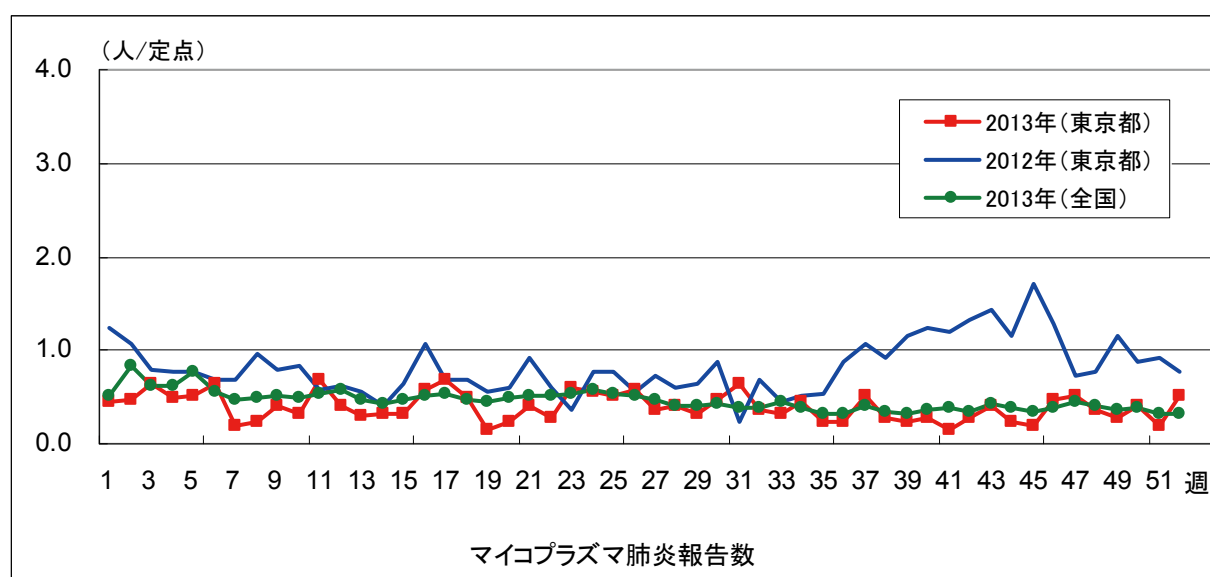


ウ マイコプラズマ肺炎

2013年の報告数は514人、定点当たり報告数は20.66人であった。ここ10年では、2011年の46.78人、2012年の42.84人に次いで3番目に多い報告数であった。

週別定点当たり報告数では、11週（3月11日～3月17日）と17週（4月22日～4月28日）が0.68人と最も多く、19週（5月6日～5月12日）と41週（10月7日～10月13日）が0.16人と最も少なかった。

保健所別定点当たり報告数では、葛飾区が194.00人で最多、次いで新宿区が41.50人であった。年齢階級別では、0～4歳が211人（41.1%）。5～9歳が110人（21.4%）、10～19歳が78人（15.2%）、20歳以上が115人（22.4%）であった。

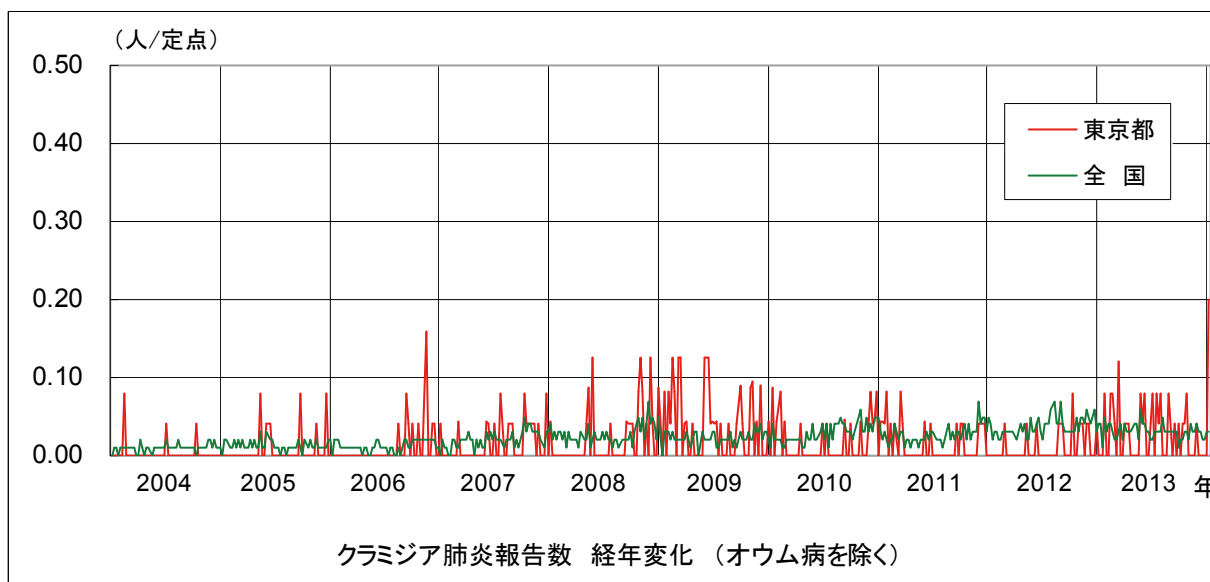
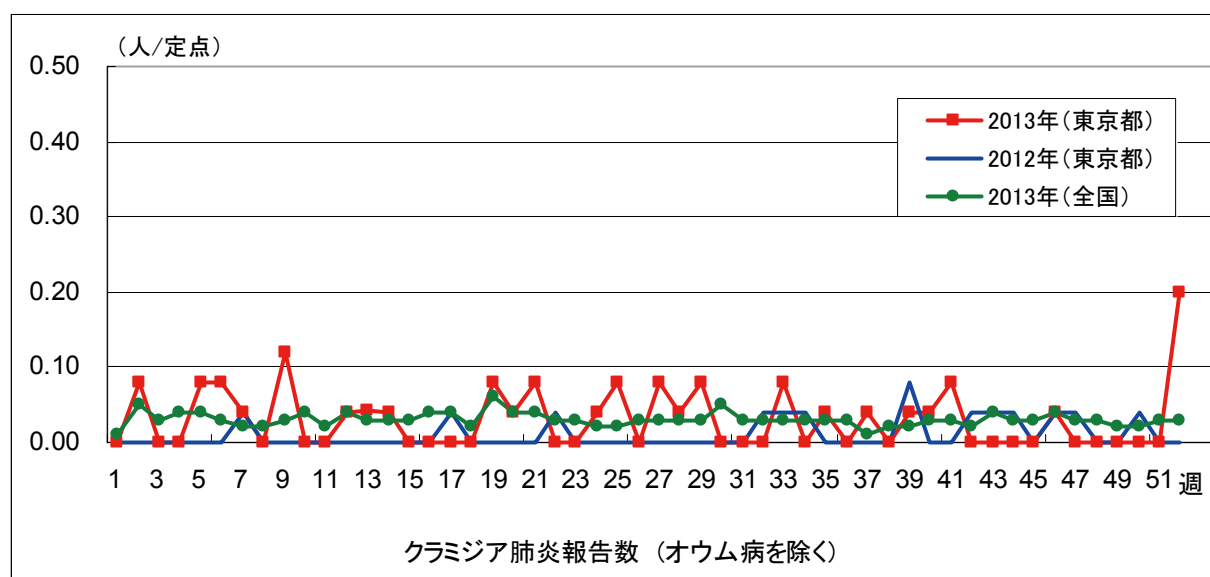


エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2013年の報告数は40人、定点当たり報告数は1.60人で、ここ10年では2009年の1.96人に次いで2番目に多かった。

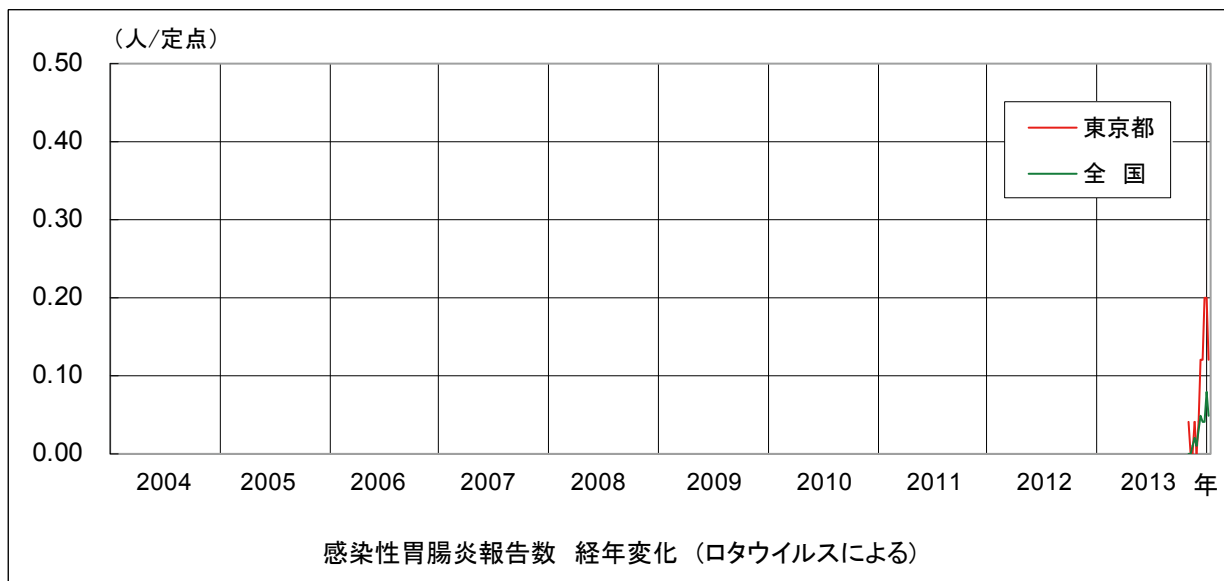
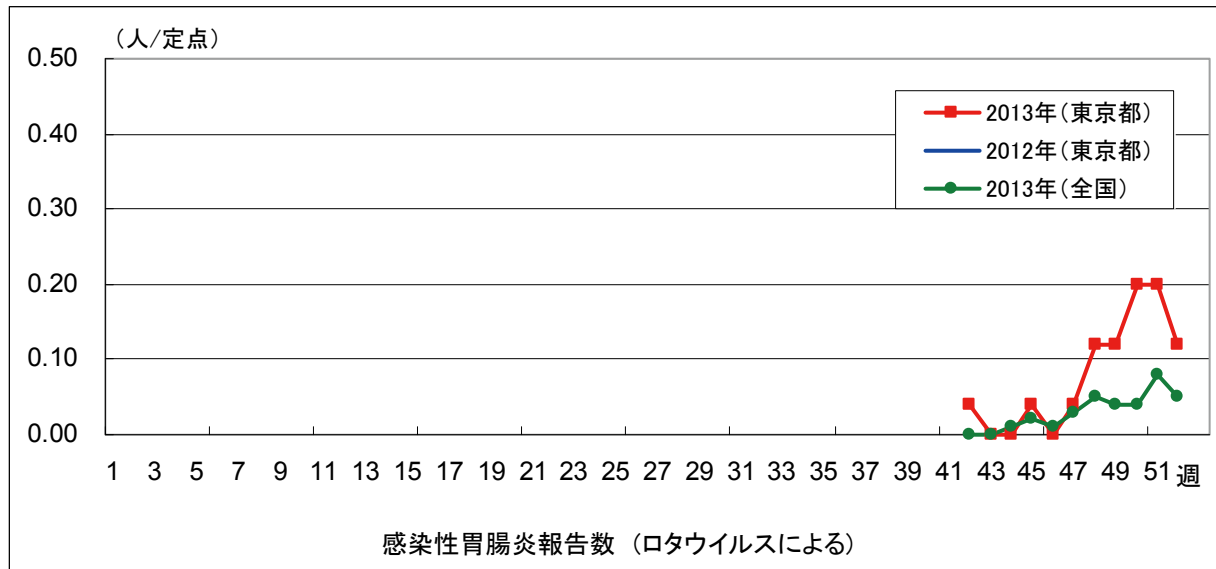
週別定点当たり報告数は、52週（12月23日～12月29日）が0.20人と最多であったが、季節変動は明らかではない。

保健所別定点当たり報告数では、葛飾区が30.00人と最多であった。年齢階級別では、60歳以上が27人（67.5%）であった。



オ 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

ロタウイルスによる感染性胃腸炎の報告は 2013 年 42 週より開始された。2013 年は 22 人が報告され、定点当たり報告数は 0.88 人であった。

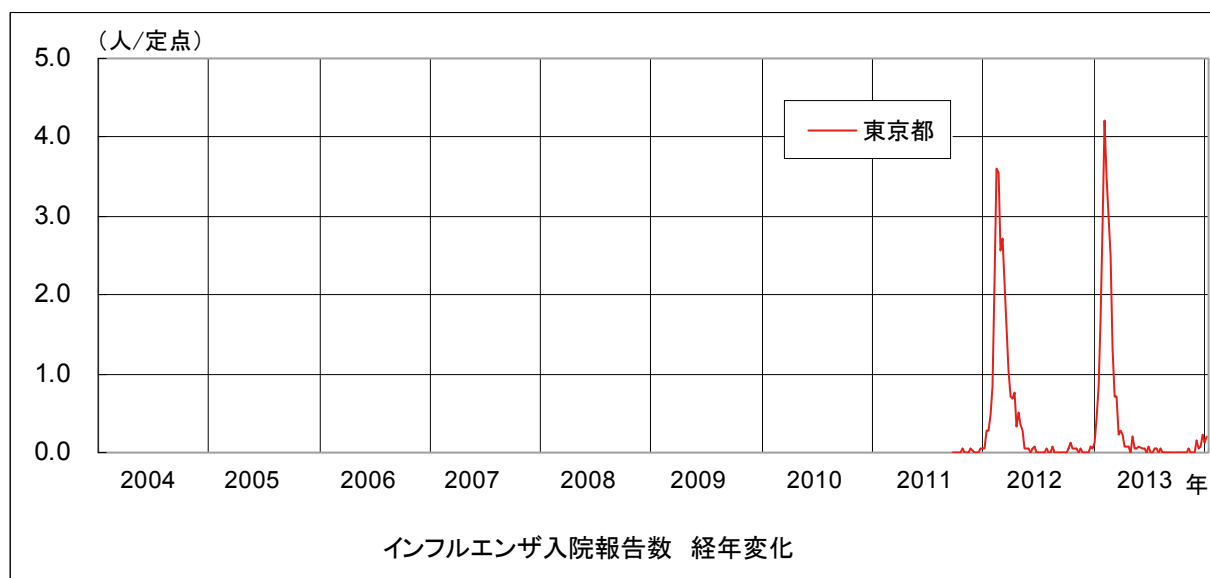
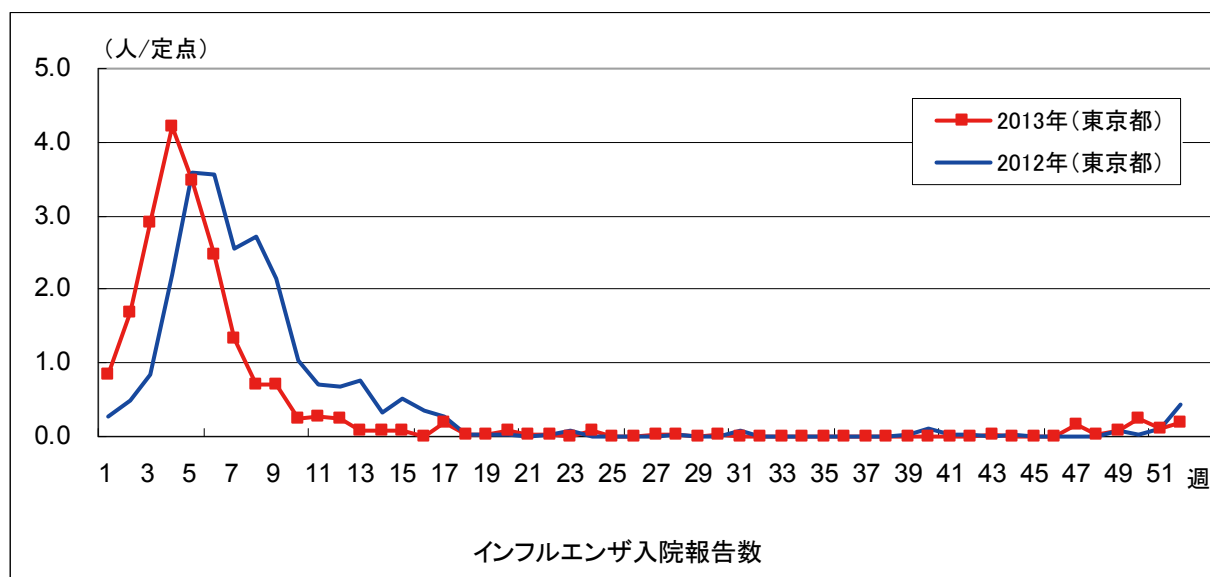


カ インフルエンザ入院

インフルエンザ入院の報告は、2011 年 36 週より開始されており、2013 年は 518 人、定点当たり報告数は 20.89 人であった。前年（2012 年）は 610 人、定点当たりの報告は 24.40 人であった。

2013 年の週別定点当たり報告数では、4 週（1 月 21 日～1 月 27 日）が 4.21 人と最も多くなっており、インフルエンザの報告数のピークと重なっている。この傾向は 2012 年と同様である。

年齢階級別では、0～9 歳が 154 人（29.7%）、60 歳以上が 280 人（54.1%）となり、前年と比べ 60 歳以上が占める割合が増加している。

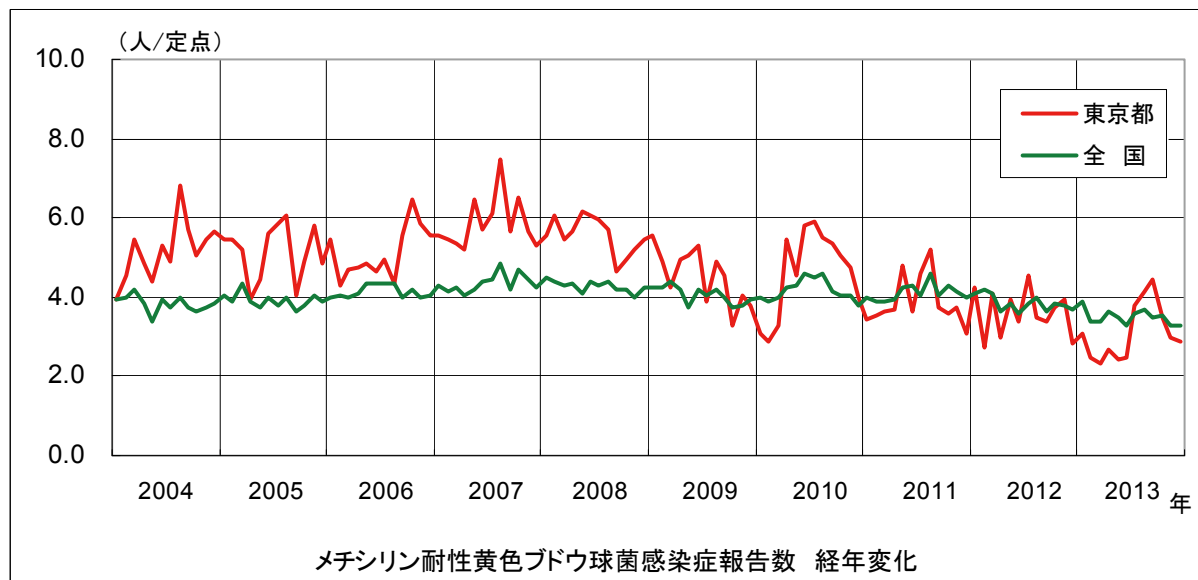
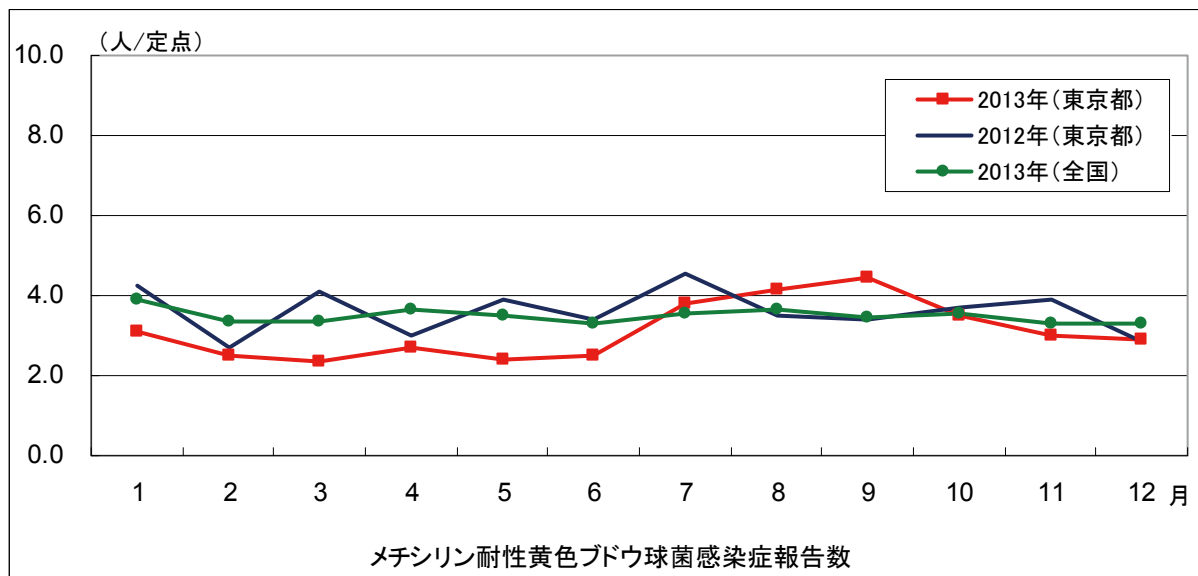


(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

2013 年の報告数は 918 人、定点当たり報告数は 37.26 人であり、ここ 10 年では最も少ない報告数であった。

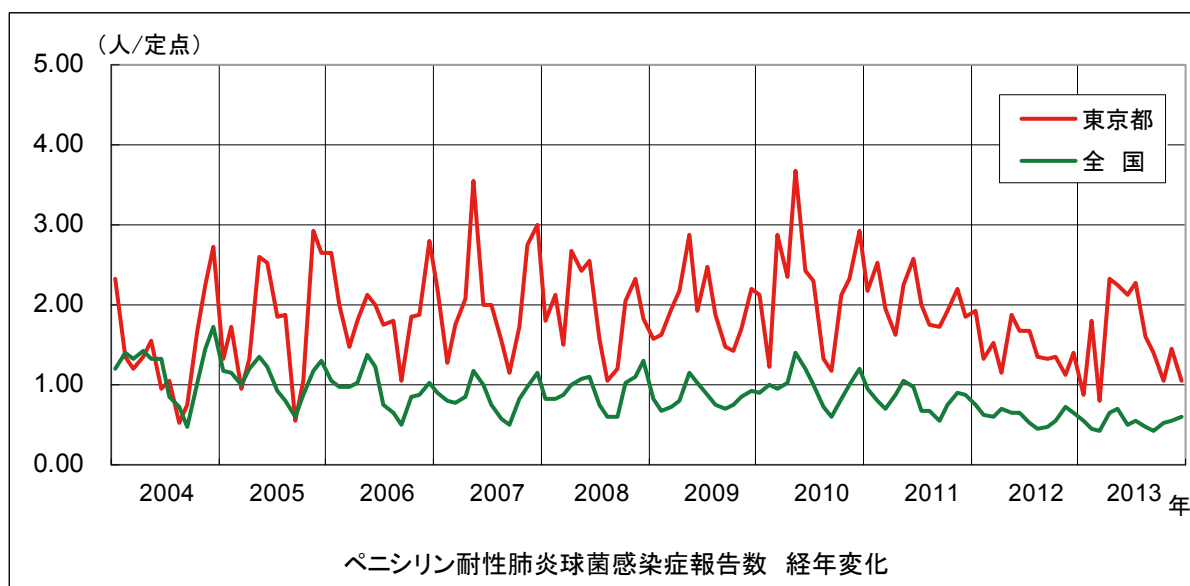
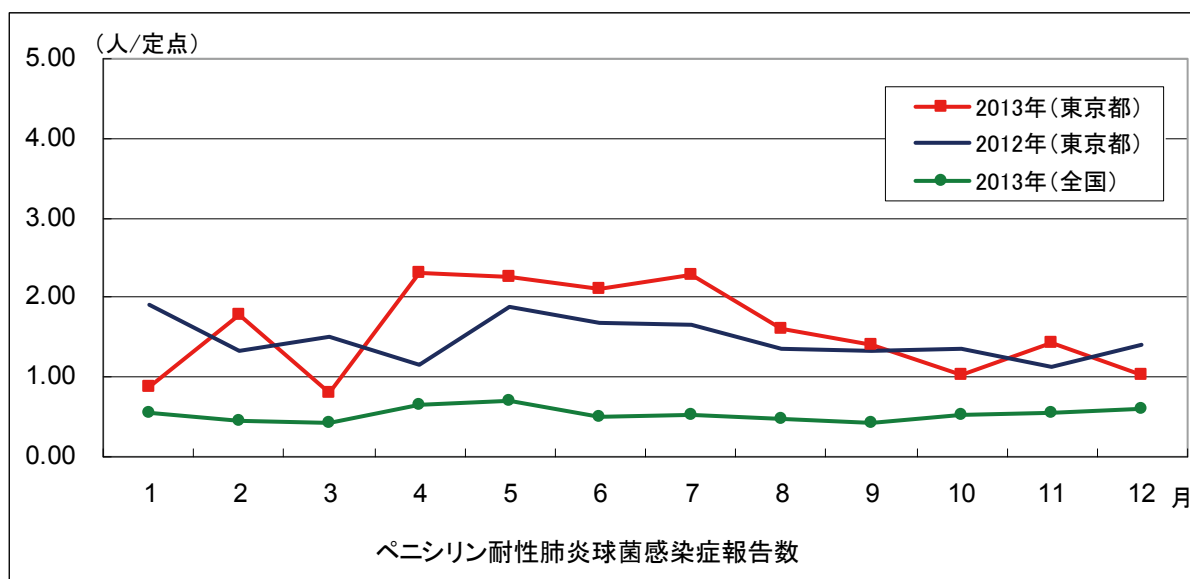
月別定点当たり報告数は 9 月が 4.44 人、8 月が 4.16 人と多かったが、季節変動は明らかではない。男女別では、男性 579 人（63.1%）女性 339 人（36.9%）で例年と同様男性が多い。年齢階級別では、0～9 歳が 215 人（23.4%）、60 歳以上が 503 人（54.8%）であった。



イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2013年の報告数は467人、定点当たり報告数は18.94人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は22.17人なので、平均よりやや少ない報告数であった。

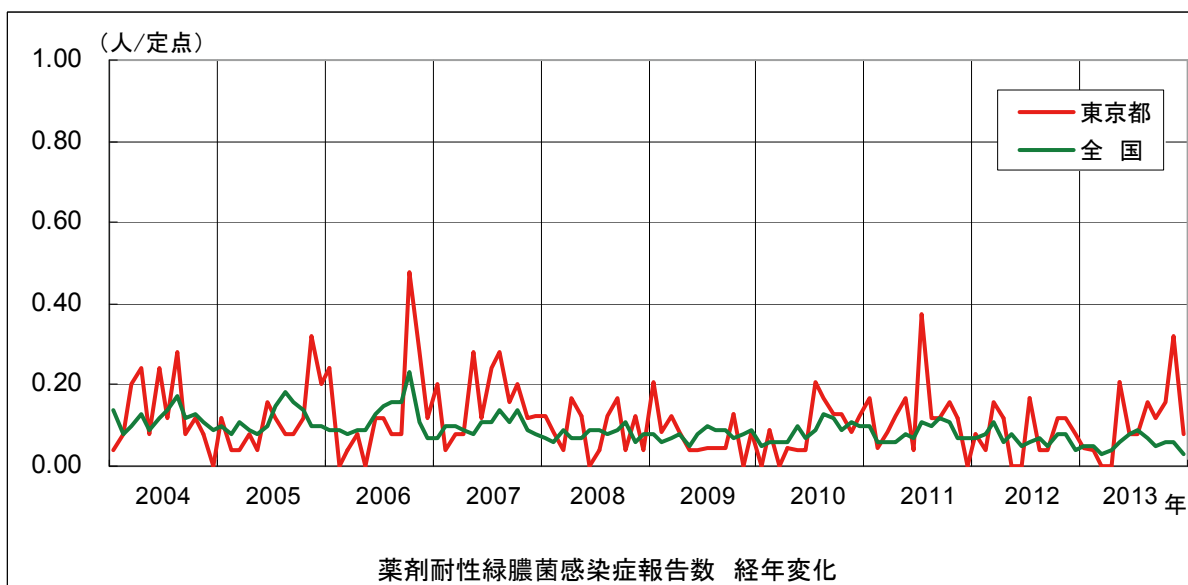
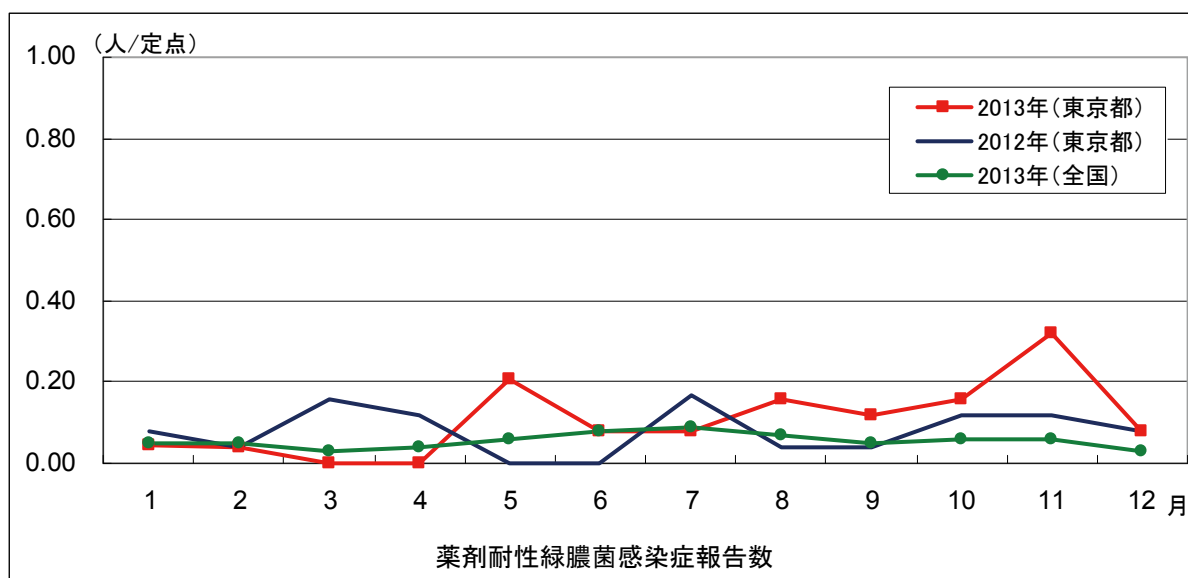
季節変動は明確ではないが、4月～7月に多い傾向がみられる。男女別では、男性が276人（59.1%）女性が191人（40.9%）、年齢階級別では、0～9歳が199人（42.6%）、60歳以上が208人（44.5%）であった。



ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

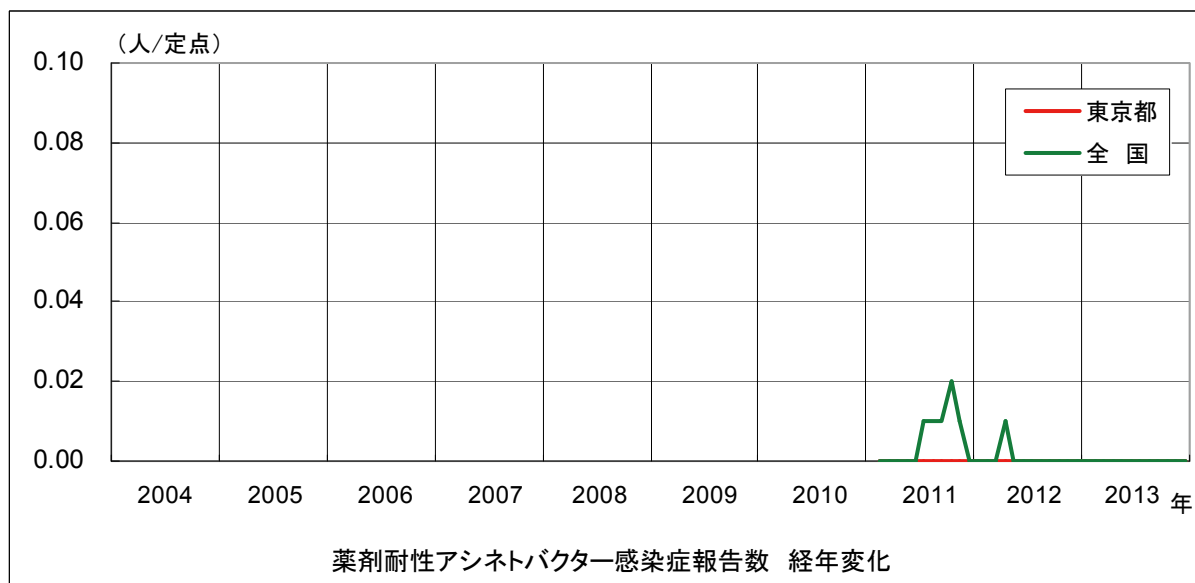
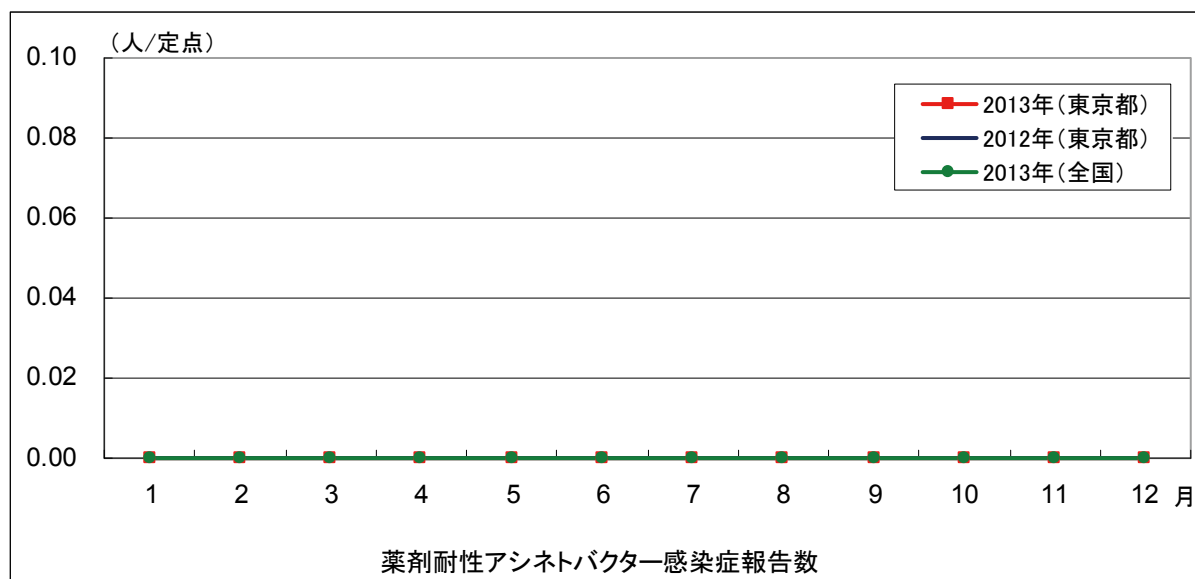
2013 年は 32 人、定点当たり報告数は 1.29 人の報告数であった。ここ 10 年では、年間 22 人から 48 人の報告数がある。

月別報告数は 11 月が 8 人と最多である。男女別では、男性が 24 人（75.0%）女性が 8 人（25.0%）であり、年齢階級別では、60 歳以上が 22 人（68.8%）であった。



エ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2011 年 2 月より調査を開始しているが、2013 年も報告はなかった。

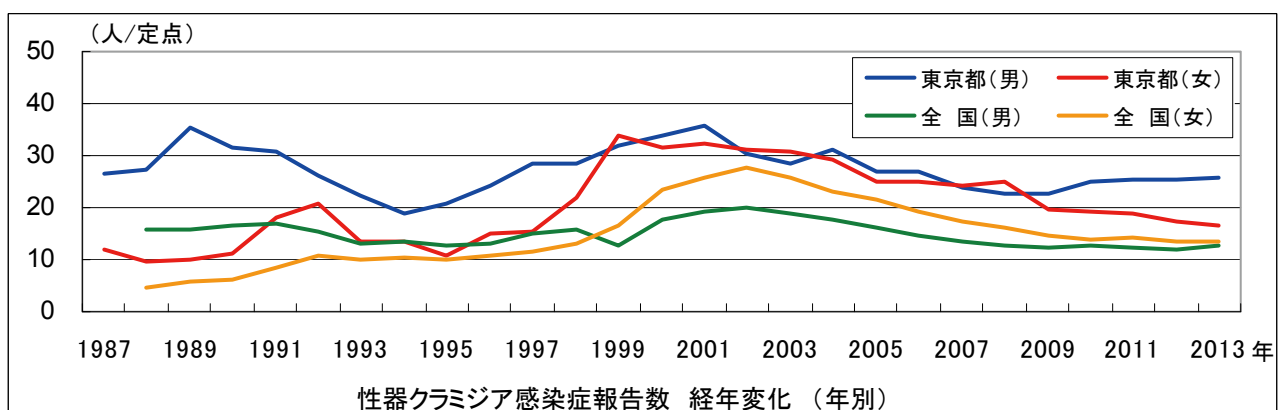
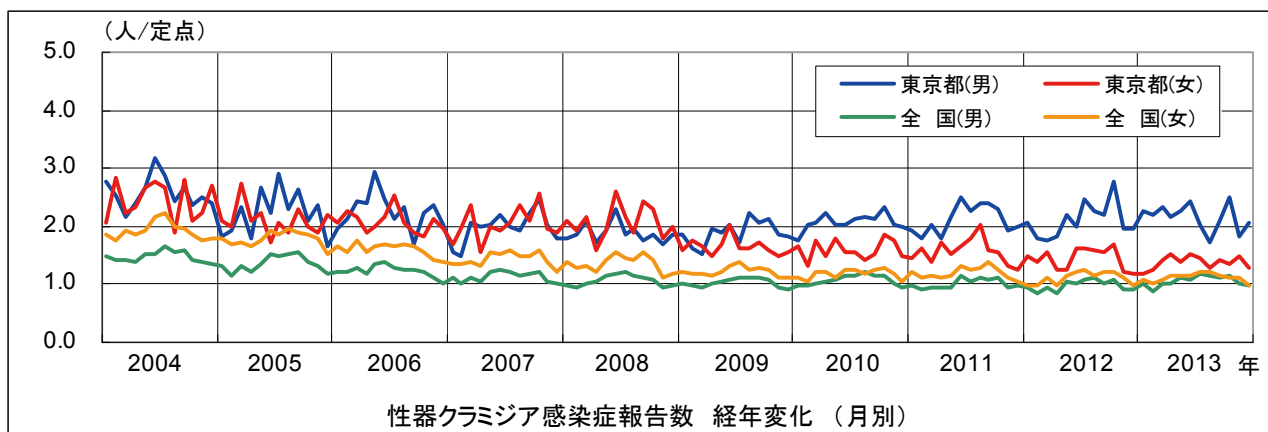
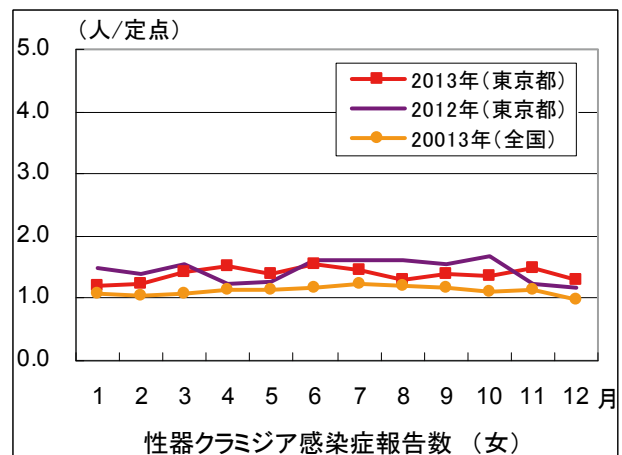
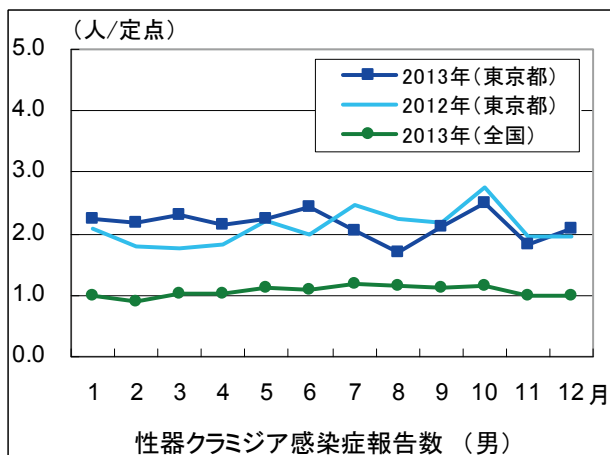


（６） 性感染症

ア 性器クラミジア感染症

2013年の報告数は2,286人、定点当たり42.46人であり、そのうち男性の報告数は1,394人、定点当たり25.86人（前年比1.02）、女性の報告数は892人、定点当たり16.54人（前年比0.95）であった。

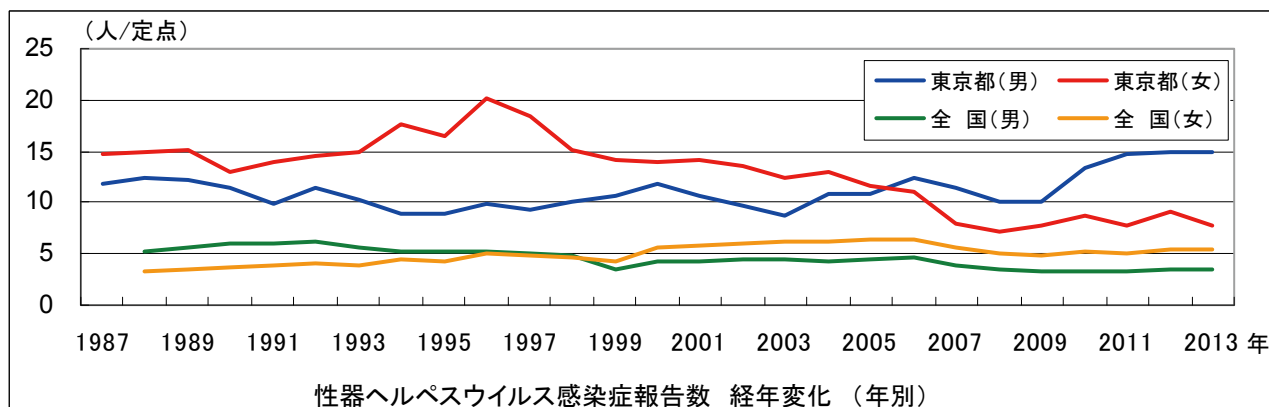
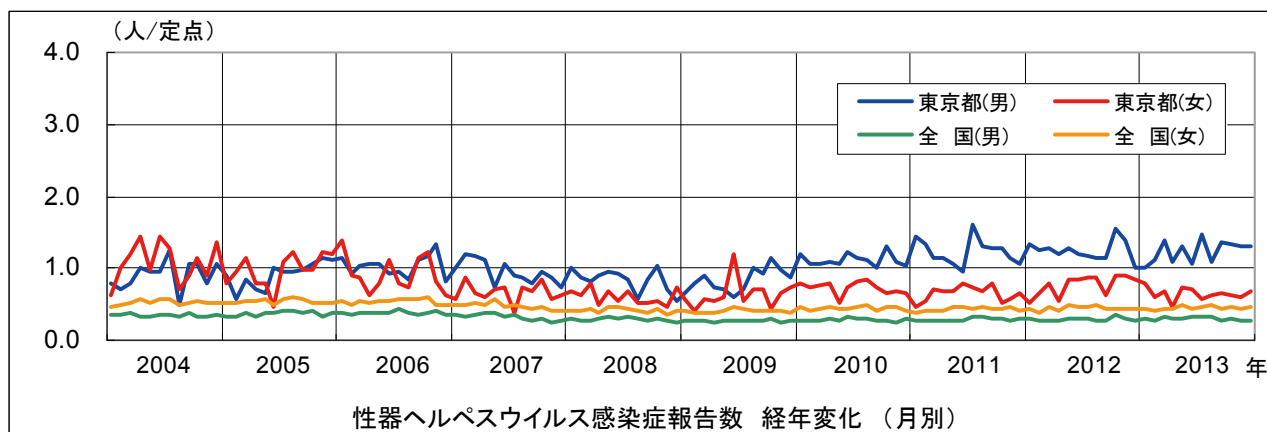
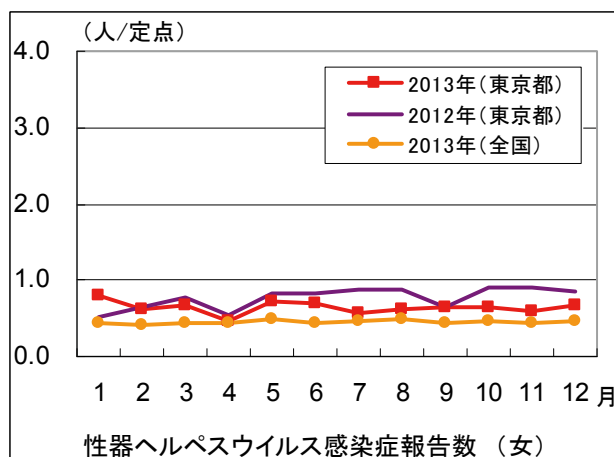
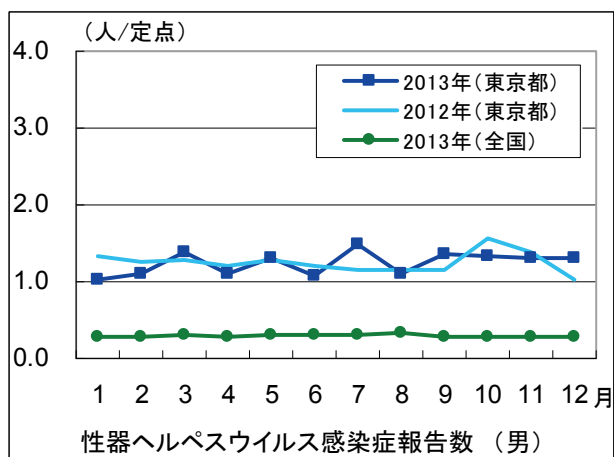
定点当たり報告数を月別に見ると、男性は10月が2.49人で最多、8月が1.71人で最少であったが、女性では6月が1.54人で最多、1月が1.19人で最少であり変動は小さい。保健所別では、男性は千代田の85.00人、女性が多摩立川の68.00人が最多であった。年齢階級別報告数では、男性は30歳代の484人、20歳代の464人が男性全体の68.0%を占めているが、近年40歳代の割合が増加傾向にある。女性では20歳代が514人（57.6%）で、女性全体の半数以上となっている。



イ 性器ヘルペスウイルス感染症

2013年の報告数は1,216人、定点当たり22.56人であった。男性の報告数は800人、定点当たり14.84人（前年比0.99）、女性の報告数は416人、定点当たり7.72人（前年比0.84）で、2006年以降男性に多い状況が続いている。

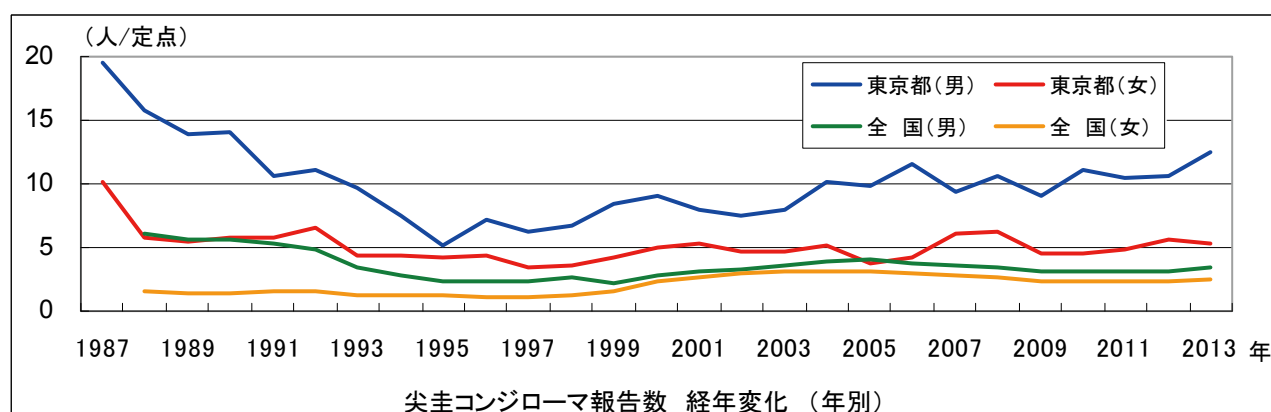
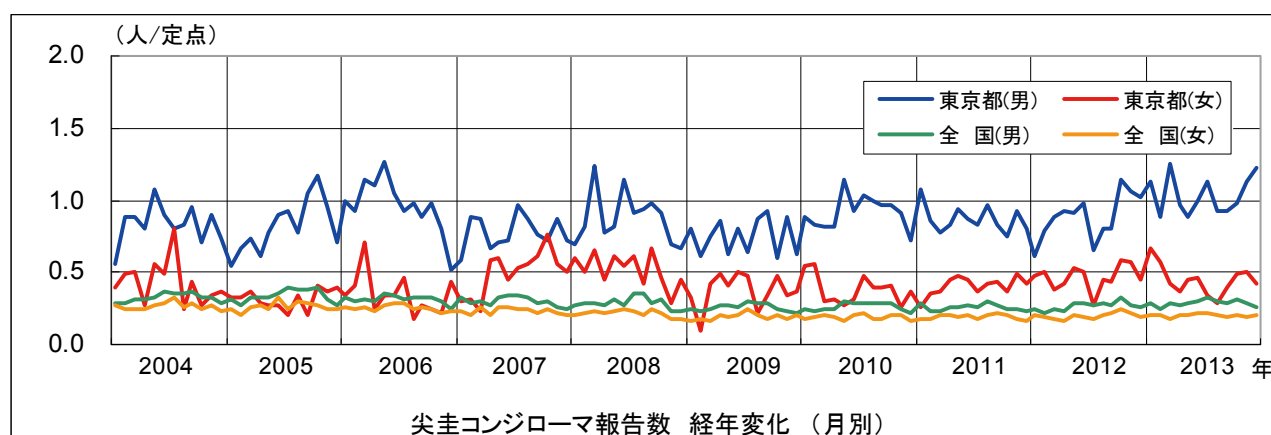
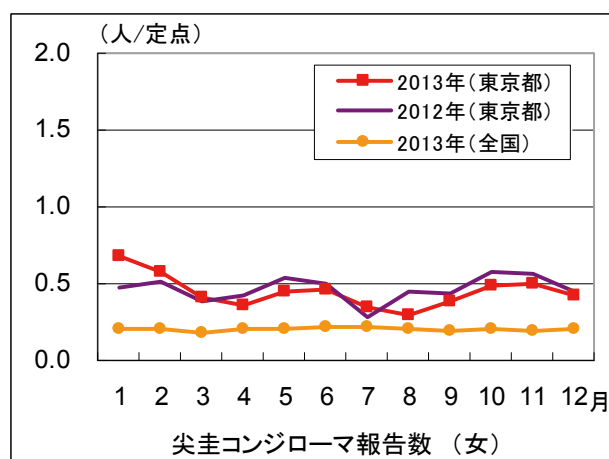
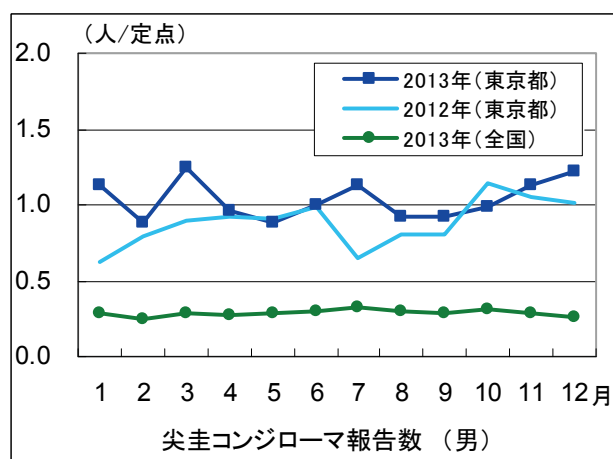
月別の定点当たり報告数は、男性が1.02～1.48人、女性が0.47～0.79人で、男女ともに大きな変動が見られなかった。保健所別では、男性はみなとの168.50人が突出して多く、女性はみなと及び町田市の26.00人が多くなっている。年齢階級別報告数では、男性は過去10年間30歳代が占める割合が最も高かったが、2013年は40歳代の240人（30.0%）が最多となった。女性では20歳代の159人（38.2%）30歳代の129人（31.0%）が大半を占めている。



ウ 尖圭コンジローマ

2013年の報告数は959人、定点当たり17.81人であった。男性の報告数は574人、定点当たり12.44人（前年比1.18）、女性の報告数は289人、定点当たり5.37人（前年比0.96）で、男性の定点当たり報告数は過去10年で最多であった。

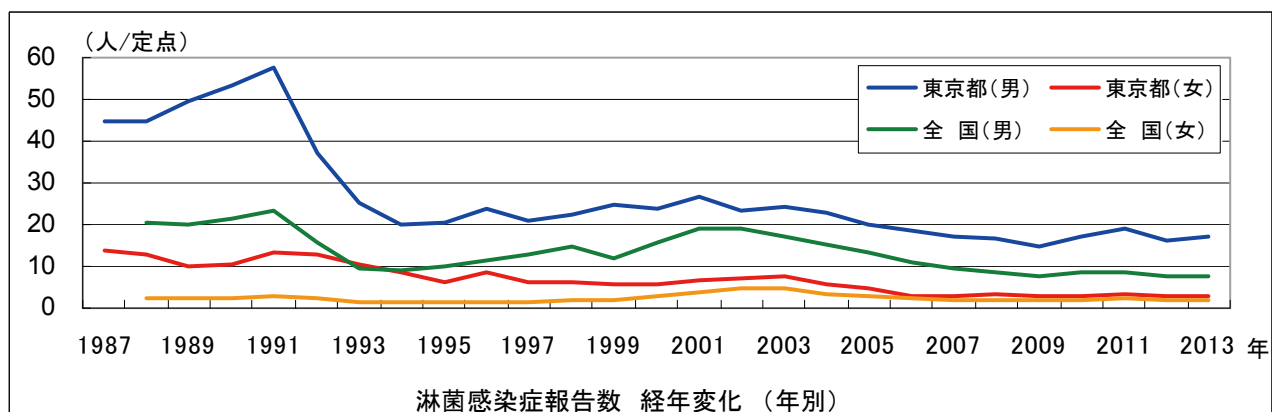
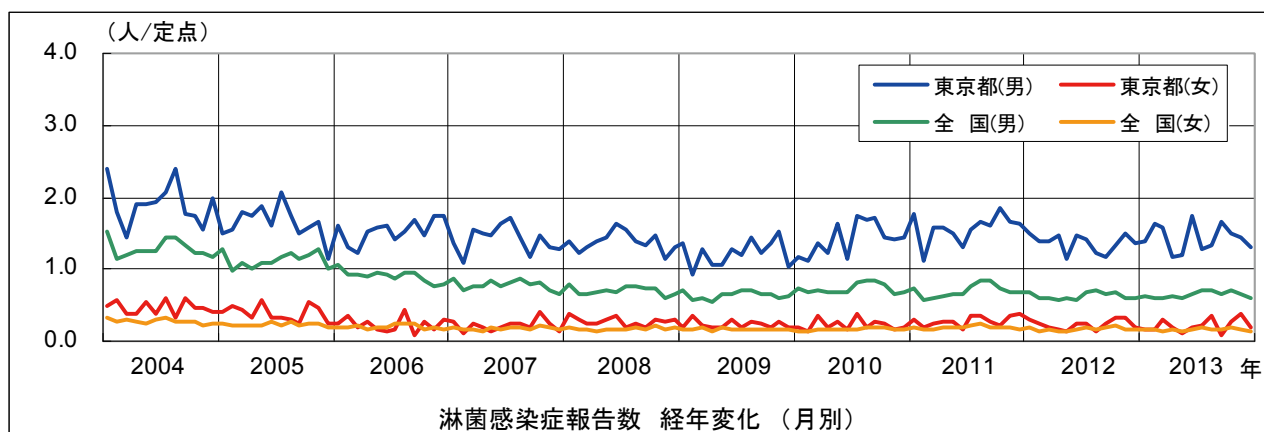
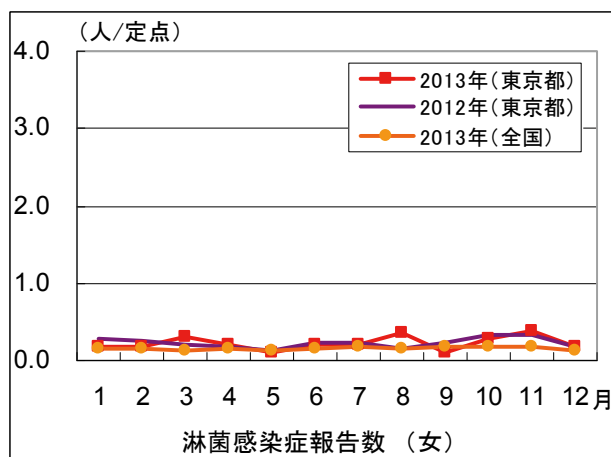
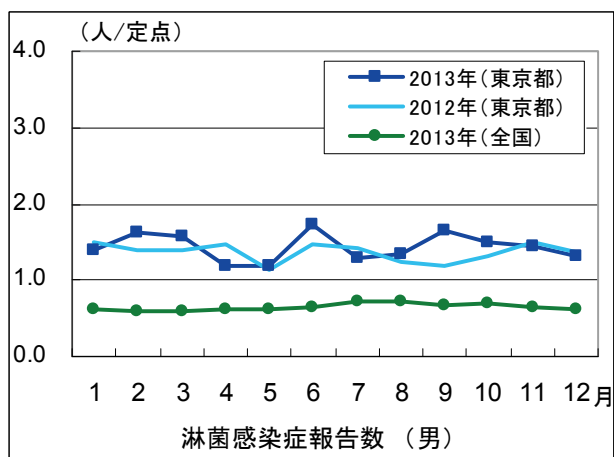
月別定点当たり報告数は、男性では3月が1.25人で最多、2月と5月が0.89人で最少、女性では1月が0.67人で最多、8月が0.29人で最少であった。保健所別では、男女ともみなとからの報告（男性55.50人、女性24.50人）が多い。年齢階級別報告数では、男性は30歳代の272人（40.6%）、40歳代の173人（25.8%）、20歳代の123人（18.4%）の順に多く、20歳代が占める割合は減少傾向にある。女性では20歳代が161人で女性全体の55.7%であった。



エ 淋菌感染症

2013年の報告数は1,070人、定点当たり19.84人であった。男性の報告数は928人、定点当たり17.21人（前年比1.05）、女性の報告数は142人、定点当たり2.63人（前年比0.96）で、男性は女性の6倍前後の報告数が続いている。

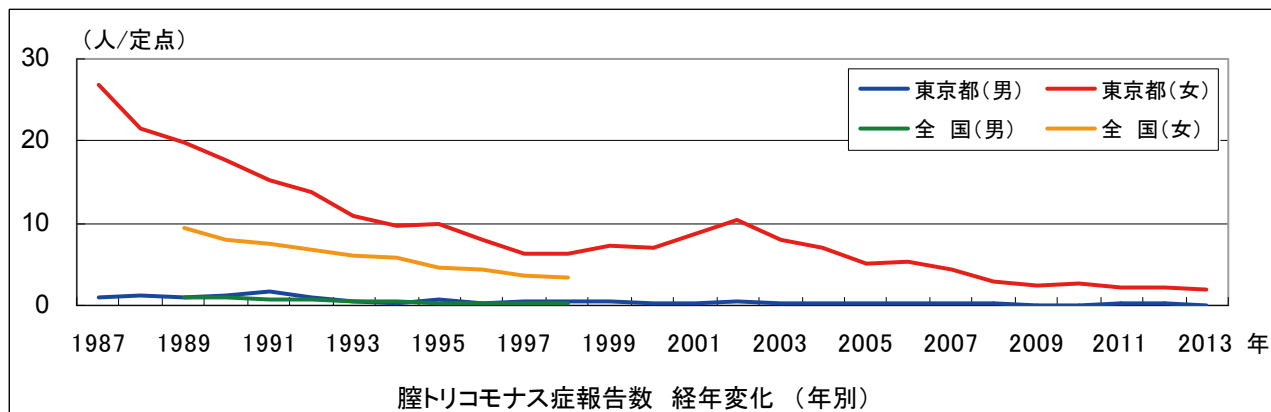
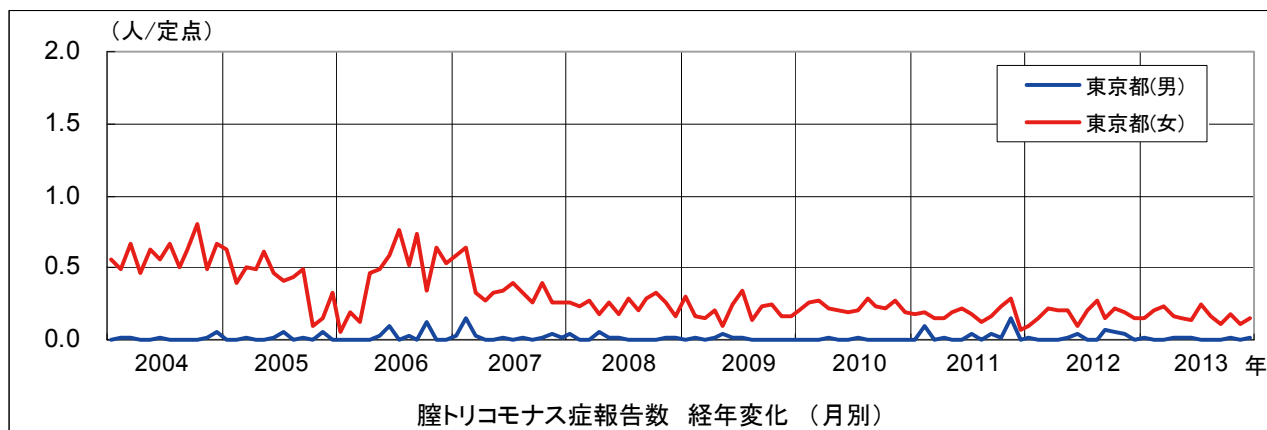
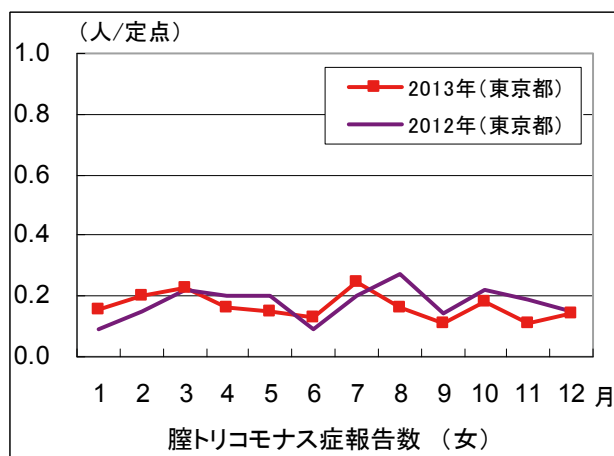
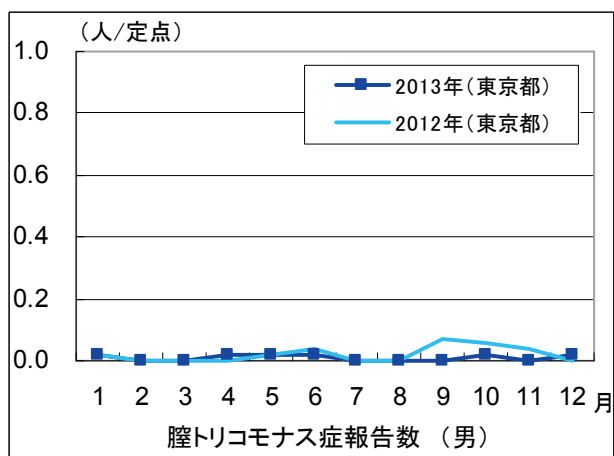
月別定点当たり報告数は、男性、女性ともに大きな変動が見られなかった。定点当たり報告数が最も多い保健所は、性器クラミジア感染症と同様に男性では千代田（83.00人）、女性では多摩立川（11.50人）であった。年齢階級別の報告数では、男性は30歳代（336人、33.6%）と20歳代（328人、35.3%）がほぼ同数であり、男性全体の68.9%を占めている。女性は20歳代が86人（60.6%）で女性全体の約6割を占める状況に変化はない。



オ 臍トリコモナス症

2013年の報告数は113人、定点当たり2.10人であった。男性の報告数は6人、定点当たり0.11人（前年比0.46）、女性の報告数は107人、定点当たり1.99人（前年比0.93）で、報告数の94.7%が女性であった。

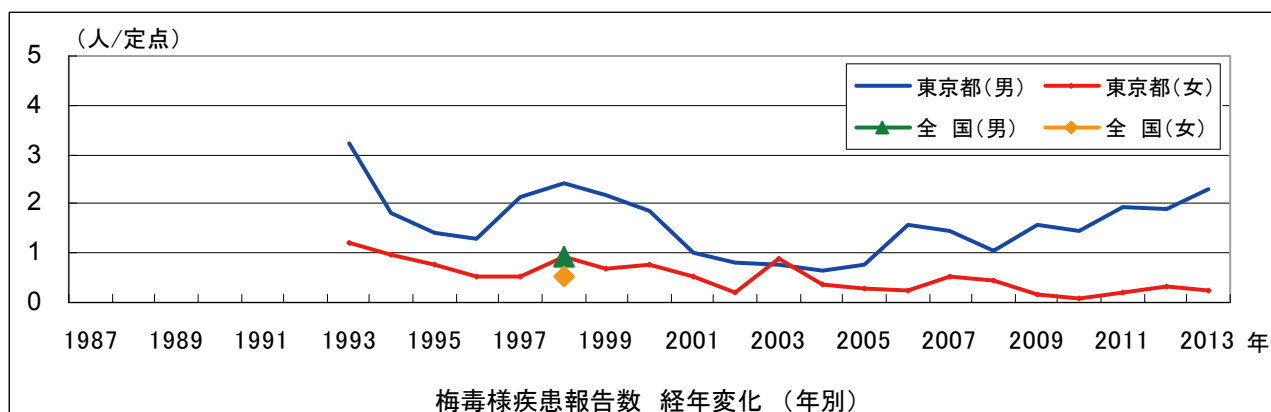
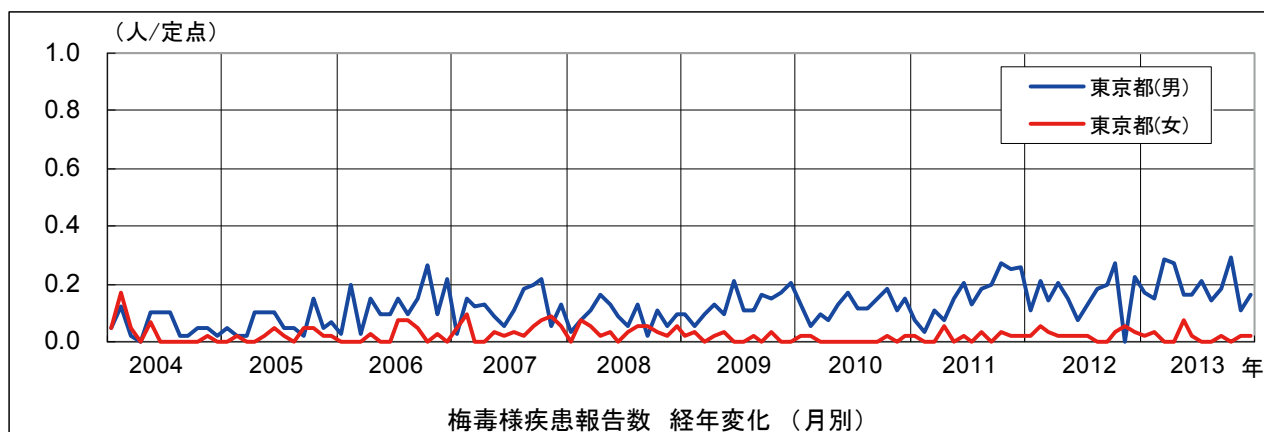
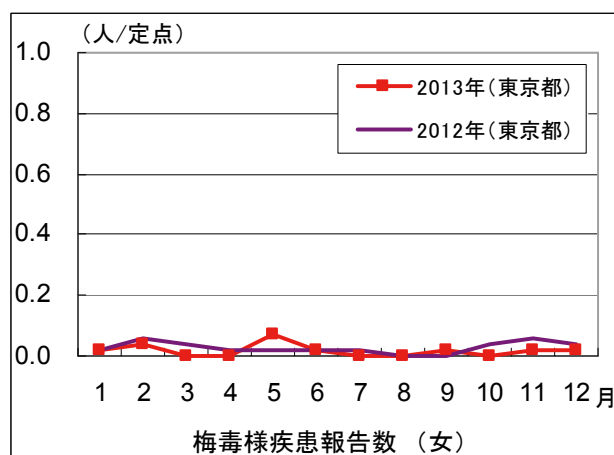
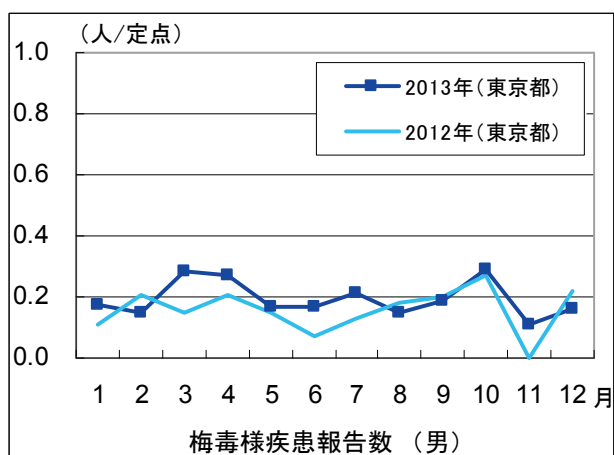
男性は、1、4、5、6、10、12月に1人ずつ報告されたのみであり、報告数が集中する保健所や年齢階級も見られなかった。女性の月別定点当たり患者報告数では、7月の0.25人が最多、9月と11月の0.11人が最少であったが、大きな変動は見られない。保健所別では中野区の10.50人が最も多く、年齢階級別報告数では20歳代の39人（36.4%）が最多であった。



カ 梅毒様疾患

2013年の報告数は136人、定点当たり2.52人であり、そのうち男性の報告数は125人、定点当たり2.32人（前年比1.22）、女性の報告数は11人、定点当たり0.20人（前年比0.65）であった。過去10年の定点当たり患者報告数を見ると、男性は増加傾向、女性は減少傾向にある。

女性は、3、4、7、8、10、月には報告がなく、特定の月や保健所、年齢階級に報告数が集中することなかった。男性の月別定点当たり患者報告数は10月が0.29人で最多、11月が0.11人で最少であり、保健所別では新宿区の12.43人が最も多かった。年齢階級別報告数では30歳代が男性全体の約半数（60人、48.0%）を占めていた。



注：梅毒様疾患の全国調査は1998年のみ

表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

週	期 間	報告 定点数 (インフル エンザ)	イン フル エン ザ	報告 定点数 (小児科)	R S ウ イル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	12. 31～ 1. 6	364	1,127	219	44	36	111	729	210	17	5	20	1	2	19
2	1. 7～ 1.13	415	5,922	263	90	104	475	2,425	406	40	42	127	4	7	57
3	1.14～ 1.20	417	9,996	263	57	61	436	1,920	209	30	23	125	2	4	39
4	1.21～ 1.27	418	17,259	264	98	78	570	2,148	226	22	27	126	1	1	34
5	1.28～ 2. 3	419	15,028	264	125	54	584	2,101	155	24	30	134		3	38
6	2. 4～ 2.10	415	8,804	262	79	66	632	2,118	230	22	19	125	3	3	41
7	2.11～ 2.17	417	3,802	262	73	46	495	1,952	159	14	21	117	5	2	44
8	2.18～ 2.24	417	2,611	264	59	53	622	2,527	250	14	26	153	1	8	38
9	2.25～ 3. 3	416	1,913	264	67	67	634	2,681	168	24	21	128	2	8	46
10	3. 4～ 3.10	417	1,480	264	35	75	722	3,105	200	19	24	158	3	5	68
11	3.11～ 3.17	417	1,064	263	45	63	710	3,391	185	21	25	143		4	39
12	3.18～ 3.24	418	870	264	39	50	639	2,864	224	25	23	149	1	7	55
13	3.25～ 3.31	416	426	263	46	67	571	2,252	179	19	20	159	2	2	37
14	4. 1～ 4. 7	414	337	260	26	63	498	2,000	189	18	29	156	1	3	51
15	4. 8～ 4.14	413	233	260	28	68	556	1,985	204	29	31	194	1	9	56
16	4.15～ 4.21	412	391	261	36	92	781	2,186	176	33	47	192		7	38
17	4.22～ 4.28	409	428	260	32	116	817	2,336	220	37	44	218		14	40
18	4.29～ 5. 5	399	311	251	19	67	393	1,297	152	23	34	112	1	12	30
19	5. 6～ 5.12	414	264	262	22	141	632	1,973	343	33	52	173	3	19	52
20	5.13～ 5.19	416	308	261	17	146	852	2,134	247	86	40	180	2	33	57
21	5.20～ 5.26	414	201	261	37	203	767	1,906	342	118	55	214		35	61
22	5.27～ 6. 2	414	148	262	23	226	741	1,820	304	123	39	248		30	65
23	6. 3～ 6. 9	416	75	262	22	209	730	1,654	330	168	40	196	5	69	56
24	6.10～ 6.16	414	35	262	14	208	822	1,520	262	260	37	187	1	80	73
25	6.17～ 6.23	414	28	261	24	258	607	1,240	297	536	39	206	2	183	76
26	6.24～ 6.30	414	43	261	31	263	556	1,111	312	1,044	39	201	3	323	65
27	7. 1～ 7. 7	414	13	262	33	236	512	1,161	219	1,575	32	193	1	548	79
28	7. 8～ 7.14	410	8	259	39	200	422	930	269	2,842	42	165	1	1,007	90
29	7.15～ 7.21	413	11	262	53	188	339	837	164	3,593	38	203	1	1,077	63
30	7.22～ 7.28	415	2	262	55	172	352	899	161	4,126	16	163	4	1,208	49
31	7.29～ 8. 4	410	9	259	93	142	260	869	146	3,648	30	171	2	1,037	59
32	8. 5～ 8.11	390	5	252	133	122	243	756	130	3,021	32	149	5	799	41
33	8.12～ 8.18	341	2	202	89	93	141	346	106	1,273	9	82		281	23
34	8.19～ 8.25	395	3	245	78	92	146	616	127	1,136	15	141		311	49
35	8.26～ 9. 1	407	1	256	146	112	179	617	78	943	17	193	5	309	48
36	9. 2～ 9. 8	408	2	258	212	140	202	774	112	737	8	204	1	229	58
37	9. 9～ 9.15	410	4	260	308	130	218	864	130	767	16	194	1	216	45
38	9.16～ 9.22	407	1	257	263	117	200	753	115	558	12	168	2	121	37
39	9.23～ 9.29	414	1	262	245	66	209	736	112	325	16	137	3	74	48
40	9.30～10. 6	411	4	260	263	74	290	898	162	350	21	173	1	64	49
41	10. 7～10.13	403	14	258	322	96	302	896	169	384	28	179		73	50
42	10.14～10.20	412	7	260	271	48	195	815	140	296	28	146	1	67	46
43	10.21～10.27	412	39	260	274	70	292	930	133	196	22	165	4	36	30
44	10.28～11. 3	401	35	254	291	71	320	1,146	179	212	33	187	3	32	49
45	11. 4～11.10	410	54	258	236	74	303	1,169	171	125	27	122	1	33	40
46	11.11～11.17	412	52	260	245	128	386	1,840	235	95	34	168		23	44
47	11.18～11.24	410	124	260	213	130	434	2,297	252	64	24	144	2	9	40
48	11.25～12. 1	415	173	261	245	172	536	3,946	351	65	44	153	1	20	40
49	12. 2～12. 8	414	282	261	218	154	606	5,598	348	61	62	178		13	56
50	12. 9～12.15	415	303	262	214	157	671	6,939	400	56	59	134	4	9	44
51	12.16～12.22	409	457	257	183	164	607	7,551	441	42	59	130		3	60
52	12.23～12.29	409	618	260	148	156	483	5,429	423	31	52	116	4	8	37
合 計			75,328		6,058	6,184	24,801	102,987	11,452	29,320	1,608	8,299	91	8,480	2,549

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2013年第1週～2013年第52週

週	期 間	報告定点数 (小児科)	不明 発しん症	川崎 病	報告定点数 (眼科)	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	報告定点数 (基幹)	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎 (オウム 病を除く)	感染性 胃腸炎 (ロタウ イルス による)	報告定 点数 (基幹)	イン フル エン ザ入 院
1	12.31～ 1. 6	219	5	2	33		5	25	2	1	11			25	21
2	1. 7～ 1.13	263	18	5	38	1	29	25			12	2		25	42
3	1.14～ 1.20	263	8	3	38		16	25	1	4	16			25	73
4	1.21～ 1.27	264	9	7	37	1	14	24	2	4	12			24	101
5	1.28～ 2. 3	264	17	5	36	1	23	25		2	13	2		25	87
6	2. 4～ 2.10	262	20	7	38		11	25	2	1	16	2		25	62
7	2.11～ 2.17	262	6	4	38		12	25			5	1		25	33
8	2.18～ 2.24	264	15	3	37		16	25		1	6			25	18
9	2.25～ 3. 3	264	21	8	37	1	15	25	2	2	10	3		25	18
10	3. 4～ 3.10	264	14	4	37		8	25	2	2	8			25	6
11	3.11～ 3.17	263	13	5	38		17	25	3	6	17			25	7
12	3.18～ 3.24	264	17	3	38		11	25		3	10	1		25	6
13	3.25～ 3.31	263	13	4	38		21	24		2	7	1		24	2
14	4. 1～ 4. 7	260	13	6	38	2	24	25		3	8	1		25	2
15	4. 8～ 4.14	260	23	2	38		14	25	1	2	8			25	2
16	4.15～ 4.21	261	25	5	39		20	24	2	1	14			25	
17	4.22～ 4.28	260	19	3	37		21	25	2	5	17			25	5
18	4.29～ 5. 5	251	16	3	35		13	24	1	2	12			25	1
19	5. 6～ 5.12	262	30	4	38		17	25		1	4	2		25	1
20	5.13～ 5.19	261	23	6	38	2	20	25		4	6	1		25	2
21	5.20～ 5.26	261	26	7	38		31	25	2	4	10	2		25	1
22	5.27～ 6. 2	262	23	5	38	1	19	25		1	7			25	1
23	6. 3～ 6. 9	262	26	2	38		16	25		1	15			25	
24	6.10～ 6.16	262	26	5	39	1	25	25			14	1		25	2
25	6.17～ 6.23	261	38	9	38		31	25		1	13	2		25	
26	6.24～ 6.30	261	35	3	39	1	17	24	1		14			25	
27	7. 1～ 7. 7	262	30	7	38		22	25	1		9	2		25	1
28	7. 8～ 7.14	259	43	4	39	1	23	25	2	1	10	1		25	1
29	7.15～ 7.21	262	24	3	39		19	25	2	5	8	2		25	
30	7.22～ 7.28	262	29	2	39		21	25	2	7	12			25	1
31	7.29～ 8. 4	259	33	2	38		23	25		7	16			25	
32	8. 5～ 8.11	252	29	2	37		26	25		3	9			25	
33	8.12～ 8.18	202	20	1	30		9	25	1	2	8	2		25	
34	8.19～ 8.25	245	26	4	38	1	19	25	1	3	11			25	
35	8.26～ 9. 1	256	21	4	38		22	25	1	4	6	1		25	
36	9. 2～ 9. 8	258	34	4	38	1	20	25	1	4	6			25	
37	9. 9～ 9.15	260	32	4	39		13	25		3	13	1		25	
38	9.16～ 9.22	257	29	2	38		13	25		1	7			25	
39	9.23～ 9.29	262	31	1	38		13	25	2	3	6	1		25	
40	9.30～10. 6	260	28	10	38		10	25	1	1	7	1		25	
41	10. 7～10.13	258	23	4	36		10	25		3	4	2		25	
42	10.14～10.20	260	20	1	38		19	25	1	4	7		1	25	
43	10.21～10.27	260	19	5	38		15	25		4	10			25	1
44	10.28～11. 3	254	16	3	38	1	11	25	1	2	6			25	
45	11. 4～11.10	258	11	2	37		15	25	1	1	5		1	25	
46	11.11～11.17	260	13	8	37		10	25	1	3	12	1		25	
47	11.18～11.24	260	17	4	37		11	25	2	2	13		1	25	4
48	11.25～12. 1	261	16	5	38	1	12	25	3	1	9		3	25	1
49	12. 2～12. 8	261	10	6	38		27	25		3	7		3	25	2
50	12. 9～12.15	262	15	4	38	1	13	25	1		10		5	25	6
51	12.16～12.22	257	14	5	35		15	25		4	5		5	25	3
52	12.23～12.29	260	12	4	35		14	25	1	2	13	5	3	25	5
合 計			1,094	221		17	891		48	126	514	40	22		518

表4-2 (1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2013年第1週~2013年第52週

週	期 間	報告 定点数 (インフル エンザ)	イン フル エン ザ	報告 定点数 (小児科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 咽 頭 炎 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	12. 31~ 1. 6	364	3.10	219	0.20	0.16	0.51	3.33	0.96	0.08	0.02	0.09	0.00	0.01	0.09
2	1. 7~ 1.13	415	14.27	263	0.34	0.40	1.81	9.22	1.54	0.15	0.16	0.48	0.02	0.03	0.22
3	1.14~ 1.20	417	23.97	263	0.22	0.23	1.66	7.30	0.79	0.11	0.09	0.48	0.01	0.02	0.15
4	1.21~ 1.27	418	41.29	264	0.37	0.30	2.16	8.14	0.86	0.08	0.10	0.48	0.00	0.00	0.13
5	1.28~ 2. 3	419	35.87	264	0.47	0.20	2.21	7.96	0.59	0.09	0.11	0.51		0.01	0.14
6	2. 4~ 2.10	415	21.21	262	0.30	0.25	2.41	8.08	0.88	0.08	0.07	0.48	0.01	0.01	0.16
7	2.11~ 2.17	417	9.12	262	0.28	0.18	1.89	7.45	0.61	0.05	0.08	0.45	0.02	0.01	0.17
8	2.18~ 2.24	417	6.26	264	0.22	0.20	2.36	9.57	0.95	0.05	0.10	0.58	0.00	0.03	0.14
9	2.25~ 3. 3	416	4.60	264	0.25	0.25	2.40	10.16	0.64	0.09	0.08	0.48	0.01	0.03	0.17
10	3. 4~ 3.10	417	3.55	264	0.13	0.28	2.73	11.76	0.76	0.07	0.09	0.60	0.01	0.02	0.26
11	3.11~ 3.17	417	2.55	263	0.17	0.24	2.70	12.89	0.70	0.08	0.10	0.54		0.02	0.15
12	3.18~ 3.24	418	2.08	264	0.15	0.19	2.42	10.85	0.85	0.09	0.09	0.56	0.00	0.03	0.21
13	3.25~ 3.31	416	1.02	263	0.17	0.25	2.17	8.56	0.68	0.07	0.08	0.60	0.01	0.01	0.14
14	4. 1~ 4. 7	414	0.81	260	0.10	0.24	1.92	7.69	0.73	0.07	0.11	0.60	0.00	0.01	0.20
15	4. 8~ 4.14	413	0.56	260	0.11	0.26	2.14	7.63	0.78	0.11	0.12	0.75	0.00	0.03	0.22
16	4.15~ 4.21	412	0.95	261	0.14	0.35	2.99	8.38	0.67	0.13	0.18	0.74		0.03	0.15
17	4.22~ 4.28	409	1.05	260	0.12	0.45	3.14	8.98	0.85	0.14	0.17	0.84		0.05	0.15
18	4.29~ 5. 5	399	0.78	251	0.08	0.27	1.57	5.17	0.61	0.09	0.14	0.45	0.00	0.05	0.12
19	5. 6~ 5.12	414	0.64	262	0.08	0.54	2.41	7.53	1.31	0.13	0.20	0.66	0.01	0.07	0.20
20	5.13~ 5.19	416	0.74	261	0.07	0.56	3.26	8.18	0.95	0.33	0.15	0.69	0.01	0.13	0.22
21	5.20~ 5.26	414	0.49	261	0.14	0.78	2.94	7.30	1.31	0.45	0.21	0.82		0.13	0.23
22	5.27~ 6. 2	414	0.36	262	0.09	0.86	2.83	6.95	1.16	0.47	0.15	0.95		0.11	0.25
23	6. 3~ 6. 9	416	0.18	262	0.08	0.80	2.79	6.31	1.26	0.64	0.15	0.75	0.02	0.26	0.21
24	6.10~ 6.16	414	0.08	262	0.05	0.79	3.14	5.80	1.00	0.99	0.14	0.71	0.00	0.31	0.28
25	6.17~ 6.23	414	0.07	261	0.09	0.99	2.33	4.75	1.14	2.05	0.15	0.79	0.01	0.70	0.29
26	6.24~ 6.30	414	0.10	261	0.12	1.01	2.13	4.26	1.20	4.00	0.15	0.77	0.01	1.24	0.25
27	7. 1~ 7. 7	414	0.03	262	0.13	0.90	1.95	4.43	0.84	6.01	0.12	0.74	0.00	2.09	0.30
28	7. 8~ 7.14	410	0.02	259	0.15	0.77	1.63	3.59	1.04	10.97	0.16	0.64	0.00	3.89	0.35
29	7.15~ 7.21	413	0.03	262	0.20	0.72	1.29	3.19	0.63	13.71	0.15	0.77	0.00	4.11	0.24
30	7.22~ 7.28	415	0.00	262	0.21	0.66	1.34	3.43	0.61	15.75	0.06	0.62	0.02	4.61	0.19
31	7.29~ 8. 4	410	0.02	259	0.36	0.55	1.00	3.36	0.56	14.08	0.12	0.66	0.01	4.00	0.23
32	8. 5~ 8.11	390	0.01	252	0.53	0.48	0.96	3.00	0.52	11.99	0.13	0.59	0.02	3.17	0.16
33	8.12~ 8.18	341	0.01	202	0.44	0.46	0.70	1.71	0.52	6.30	0.04	0.41		1.39	0.11
34	8.19~ 8.25	395	0.01	245	0.32	0.38	0.60	2.51	0.52	4.64	0.06	0.58		1.27	0.20
35	8.26~ 9. 1	407	0.00	256	0.57	0.44	0.70	2.41	0.30	3.68	0.07	0.75	0.02	1.21	0.19
36	9. 2~ 9. 8	408	0.00	258	0.82	0.54	0.78	3.00	0.43	2.86	0.03	0.79	0.00	0.89	0.22
37	9. 9~ 9.15	410	0.01	260	1.18	0.50	0.84	3.32	0.50	2.95	0.06	0.75	0.00	0.83	0.17
38	9.16~ 9.22	407	0.00	257	1.02	0.46	0.78	2.93	0.45	2.17	0.05	0.65	0.01	0.47	0.14
39	9.23~ 9.29	414	0.00	262	0.94	0.25	0.80	2.81	0.43	1.24	0.06	0.52	0.01	0.28	0.18
40	9.30~10. 6	411	0.01	260	1.01	0.28	1.12	3.45	0.62	1.35	0.08	0.67	0.00	0.25	0.19
41	10. 7~10.13	403	0.03	258	1.25	0.37	1.17	3.47	0.66	1.49	0.11	0.69		0.28	0.19
42	10.14~10.20	412	0.02	260	1.04	0.18	0.75	3.13	0.54	1.14	0.11	0.56	0.00	0.26	0.18
43	10.21~10.27	412	0.09	260	1.05	0.27	1.12	3.58	0.51	0.75	0.08	0.63	0.02	0.14	0.12
44	10.28~11. 3	401	0.09	254	1.15	0.28	1.26	4.51	0.70	0.83	0.13	0.74	0.01	0.13	0.19
45	11. 4~11.10	410	0.13	258	0.91	0.29	1.17	4.53	0.66	0.48	0.10	0.47	0.00	0.13	0.16
46	11.11~11.17	412	0.13	260	0.94	0.49	1.48	7.08	0.90	0.37	0.13	0.65		0.09	0.17
47	11.18~11.24	410	0.30	260	0.82	0.50	1.67	8.83	0.97	0.25	0.09	0.55	0.01	0.03	0.15
48	11.25~12. 1	415	0.42	261	0.94	0.66	2.05	15.12	1.34	0.25	0.17	0.59	0.00	0.08	0.15
49	12. 2~12. 8	414	0.68	261	0.84	0.59	2.32	21.45	1.33	0.23	0.24	0.68		0.05	0.21
50	12. 9~12.15	415	0.73	262	0.82	0.60	2.56	26.48	1.53	0.21	0.23	0.51	0.02	0.03	0.17
51	12.16~12.22	409	1.12	257	0.71	0.64	2.36	29.38	1.72	0.16	0.23	0.51		0.01	0.23
52	12.23~12.29	409	1.51	260	0.57	0.60	1.86	20.88	1.63	0.12	0.20	0.45	0.02	0.03	0.14
平 均			3.48		0.45	0.46	1.83	7.61	0.85	2.21	0.12	0.62	0.01	0.64	0.19

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2013年第1週~2013年第52週

週	期 間	報告定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数(基幹)	インフルエンザ入院
1	12.31~ 1. 6	219	0.02	0.01	33		0.15	25	0.08	0.04	0.44			25	0.84
2	1. 7~ 1.13	263	0.07	0.02	38	0.03	0.76	25			0.48	0.08		25	1.68
3	1.14~ 1.20	263	0.03	0.01	38		0.42	25	0.04	0.16	0.64			25	2.92
4	1.21~ 1.27	264	0.03	0.03	37	0.03	0.38	24	0.08	0.17	0.50			24	4.21
5	1.28~ 2. 3	264	0.06	0.02	36	0.03	0.64	25		0.08	0.52	0.08		25	3.48
6	2. 4~ 2.10	262	0.08	0.03	38		0.29	25	0.08	0.04	0.64	0.08		25	2.48
7	2.11~ 2.17	262	0.02	0.02	38		0.32	25			0.20	0.04		25	1.32
8	2.18~ 2.24	264	0.06	0.01	37		0.43	25		0.04	0.24			25	0.72
9	2.25~ 3. 3	264	0.08	0.03	37	0.03	0.41	25	0.08	0.08	0.40	0.12		25	0.72
10	3. 4~ 3.10	264	0.05	0.02	37		0.22	25	0.08	0.08	0.32			25	0.24
11	3.11~ 3.17	263	0.05	0.02	38		0.45	25	0.12	0.24	0.68			25	0.28
12	3.18~ 3.24	264	0.06	0.01	38		0.29	25		0.12	0.40	0.04		25	0.24
13	3.25~ 3.31	263	0.05	0.02	38		0.55	24		0.08	0.29	0.04		24	0.08
14	4. 1~ 4. 7	260	0.05	0.02	38	0.05	0.63	25		0.12	0.32	0.04		25	0.08
15	4. 8~ 4.14	260	0.09	0.01	38		0.37	25	0.04	0.08	0.32			25	0.08
16	4.15~ 4.21	261	0.10	0.02	39		0.51	24	0.08	0.04	0.58			25	
17	4.22~ 4.28	260	0.07	0.01	37		0.57	25	0.08	0.20	0.68			25	0.20
18	4.29~ 5. 5	251	0.06	0.01	35		0.37	24	0.04	0.08	0.50			25	0.04
19	5. 6~ 5.12	262	0.11	0.02	38		0.45	25		0.04	0.16	0.08		25	0.04
20	5.13~ 5.19	261	0.09	0.02	38	0.05	0.53	25		0.16	0.24	0.04		25	0.08
21	5.20~ 5.26	261	0.10	0.03	38		0.82	25	0.08	0.16	0.40	0.08		25	0.04
22	5.27~ 6. 2	262	0.09	0.02	38	0.03	0.50	25		0.04	0.28			25	0.04
23	6. 3~ 6. 9	262	0.10	0.01	38		0.42	25		0.04	0.60			25	
24	6.10~ 6.16	262	0.10	0.02	39	0.03	0.64	25			0.56	0.04		25	0.08
25	6.17~ 6.23	261	0.15	0.03	38		0.82	25		0.04	0.52	0.08		25	
26	6.24~ 6.30	261	0.13	0.01	39	0.03	0.44	24	0.04		0.58			25	
27	7. 1~ 7. 7	262	0.11	0.03	38		0.58	25	0.04		0.36	0.08		25	0.04
28	7. 8~ 7.14	259	0.17	0.02	39	0.03	0.59	25	0.08	0.04	0.40	0.04		25	0.04
29	7.15~ 7.21	262	0.09	0.01	39		0.49	25	0.08	0.20	0.32	0.08		25	
30	7.22~ 7.28	262	0.11	0.01	39		0.54	25	0.08	0.28	0.48			25	0.04
31	7.29~ 8. 4	259	0.13	0.01	38		0.61	25		0.28	0.64			25	
32	8. 5~ 8.11	252	0.12	0.01	37		0.70	25		0.12	0.36			25	
33	8.12~ 8.18	202	0.10	0.00	30		0.30	25	0.04	0.08	0.32	0.08		25	
34	8.19~ 8.25	245	0.11	0.02	38	0.03	0.50	25	0.04	0.12	0.44			25	
35	8.26~ 9. 1	256	0.08	0.02	38		0.58	25	0.04	0.16	0.24	0.04		25	
36	9. 2~ 9. 8	258	0.13	0.02	38	0.03	0.53	25	0.04	0.16	0.24			25	
37	9. 9~ 9.15	260	0.12	0.02	39		0.33	25		0.12	0.52	0.04		25	
38	9.16~ 9.22	257	0.11	0.01	38		0.34	25		0.04	0.28			25	
39	9.23~ 9.29	262	0.12	0.00	38		0.34	25	0.08	0.12	0.24	0.04		25	
40	9.30~10. 6	260	0.11	0.04	38		0.26	25	0.04	0.04	0.28	0.04		25	
41	10. 7~10.13	258	0.09	0.02	36		0.28	25		0.12	0.16	0.08		25	
42	10.14~10.20	260	0.08	0.00	38		0.50	25	0.04	0.16	0.28		0.04	25	
43	10.21~10.27	260	0.07	0.02	38		0.39	25		0.16	0.40			25	0.04
44	10.28~11. 3	254	0.06	0.01	38	0.03	0.29	25	0.04	0.08	0.24			25	
45	11. 4~11.10	258	0.04	0.01	37		0.41	25	0.04	0.04	0.20		0.04	25	
46	11.11~11.17	260	0.05	0.03	37		0.27	25	0.04	0.12	0.48	0.04		25	
47	11.18~11.24	260	0.07	0.02	37		0.30	25	0.08	0.08	0.52		0.04	25	0.16
48	11.25~12. 1	261	0.06	0.02	38	0.03	0.32	25	0.12	0.04	0.36		0.12	25	0.04
49	12. 2~12. 8	261	0.04	0.02	38		0.71	25		0.12	0.28		0.12	25	0.08
50	12. 9~12.15	262	0.06	0.02	38	0.03	0.34	25	0.04		0.40		0.20	25	0.24
51	12.16~12.22	257	0.05	0.02	35		0.43	25		0.16	0.20		0.20	25	0.12
52	12.23~12.29	260	0.05	0.02	35		0.40	25	0.04	0.08	0.52	0.20	0.12	25	0.20
平 均			0.08	0.02		0.01	0.46		0.04	0.10	0.40	0.03	0.08		0.40

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2013年第1週~2013年第52週

	設置 定点数 (インフル エンザ)	イン フル エン ザ	設置 定点数 (小児科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
千代田	4	501	3	33	9	31	474	61	162	1	39	2	63
中央区	5	675	3	49	40	184	793	78	323	37	117		112
みなと	9	1,782	6	237	254	501	2,258	298	881	48	236	12	86
新宿区	12	1,534	8	371	117	586	2,050	187	625	27	144	5	155
文京	7	967	4	35	81	170	866	193	429	25	105		51
台東	7	989	4	136	48	337	2,055	255	445	71	139	2	85
墨田区	8	1,607	5	197	68	291	1,109	206	448	2	179		133
江東区	14	2,944	9	329	199	1,063	5,968	511	1,338	25	421	4	342
品川区	12	1,213	8	80	61	536	3,285	204	609	38	269		223
目黒区	8	463	5	14	25	86	861	96	252	13	67	1	64
大田区	21	3,487	13	522	662	1,351	7,053	533	1,429	246	427	15	598
世田谷	25	5,060	16	350	390	1,761	6,321	678	1,698	185	431	1	585
渋谷区	7	767	4	41	59	102	1,093	103	388	11	93	1	53
中野区	11	1,632	7	85	32	280	2,405	309	806	7	177		224
杉並	16	2,673	10	47	121	528	3,228	294	730	23	238	2	69
池袋	8	1,125	5	197	105	146	1,328	141	297	7	61		191
北区	11	1,584	7	43	54	286	2,857	231	964	26	283		78
荒川区	7	1,750	4	312	151	698	2,429	198	784	75	226	2	198
板橋区	16	1,993	10	39	65	336	2,484	258	806	26	214	2	130
練馬区	21	3,422	13	175	325	1,190	4,618	678	1,458	27	429	7	387
足立	20	3,949	13	296	311	839	6,288	474	1,478	108	416		542
葛飾区	13	2,670	8	80	125	447	4,152	318	675	47	263		214
江戸川	19	3,775	12	177	581	1,502	5,100	448	849	77	366	4	400
八王子市	18	4,159	11	532	399	2,434	6,910	842	2,170	84	396	9	510
町田市	13	3,028	8	102	154	2,057	4,977	651	1,134	59	321		637
西多摩	14	2,963	8	74	119	445	1,902	338	680	20	124	2	123
南多摩	14	3,095	9	266	155	1,020	3,508	482	1,314	149	342		413
多摩立川	21	3,953	14	312	146	1,388	4,090	644	1,430	35	354	1	396
多摩府中	33	6,367	21	330	446	2,261	6,820	1,036	2,153	43	751	15	807
多摩小平	23	4,898	15	587	880	1,942	5,675	676	2,493	65	669	4	585
島しょ	2	303	1	10	2	3	30	31	72	1	2		26
合 計	419	75,328	264	6,058	6,184	24,801	102,987	11,452	29,320	1,608	8,299	91	8,480
定点当たり報告数		181.11		23.48	23.89	95.29	395.81	44.22	114.72	6.19	32.00	0.35	33.06
前年定点当たり報告数		323.29		24.51	21.20	96.60	455.28	49.75	20.90	6.23	32.85	1.10	52.28
当年/前年		0.56		0.96	1.13	0.99	0.87	0.89	5.49	0.99	0.97	0.32	0.63

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2013年第1週~2013年第52週

	設置定点数 (小児科)	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病		設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
千代田	3	3	6	4						2			32	1	3	19
中央区	3	5	1	3	1		46									
みなと	6	39	1	18						1	1	1	6			25
新宿区	8	26	21	17	2		25			2	4	10	83			39
文京	4	26	3	4	1		52			1	3	6	1		1	26
台東	4	23	1	2												
墨田区	5	35	45	3	1		15			1	6	42	5	1		26
江東区	9	91	74	12	1		24									
品川区	8	29	16	4	1	3	12									
目黒区	5	9	2		1		15									
大田区	13	107	127	23	2		49			1						
世田谷	16	94	121	14	2	5	28			2	13	20	6			61
渋谷区	4	7	3		1		71			1	2	2	23	4	6	47
中野区	7	33	29	4	1	1	16			1						1
杉並	10	130	5	3	1		32			1						
池袋	5	14	13	3	1	1	30			1	1	3				28
北区	7	90	5	2	1	1	16									
荒川区	4	45	38	9	1		22									
板橋区	10	82	53	3	2	2	61			1		1	14			11
練馬区	13	94	40	9	2		35									
足立	13	286	16	5	2	1	80									
葛飾区	8	78	43	3	1	2	29			1	1		194	30	9	39
江戸川	12	215	25	11	2		35									
八王子市	11	170	84	15	2		49			1		3	8	3		33
町田市	8	64	106	6	1											
西多摩	8	140	4	7	1		7			1	3	4	17			3
南多摩	9	205	16	6	1		8									
多摩立川	14	106	28	4	2		13			1	1	1	3		3	13
多摩府中	21	225	90	15	3	1	35			3	8	22	77	1		102
多摩小平	15	72	78	12	2		86			2	5	11	44			45
島しょ	1	6								1			1			
合 計	264	2,549	1,094	221	39	17	891			25	48	126	514	40	22	518
定点当たり報告数		9.83	4.24	0.85		0.45	23.68				1.93	5.06	20.66	1.60	0.88	20.89
前年定点当たり報告数		11.88	5.40	0.68		0.50	30.01				1.68	4.86	42.84	0.56		24.40
当年/前年		0.83	0.78	1.25		0.89	0.79				1.15	1.04	0.48	2.86		0.86

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

	設置 定点数 (インフル エンザ)	イン フル エン ザ	設置 定点数 (小児科)	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
千代田	4	125.25	3	11.00	3.00	10.33	158.00	20.33	54.00	0.33	13.00	0.67	21.00
中央区	5	135.00	3	16.33	13.33	61.33	264.33	26.00	107.67	12.33	39.00		37.33
みなと	9	200.65	6	40.93	43.27	84.57	380.17	51.73	152.83	8.33	40.17	2.00	14.67
新宿区	12	128.17	8	46.45	14.71	73.70	257.16	23.59	78.30	3.38	18.14	0.68	19.38
文京	7	139.78	4	8.83	21.33	43.33	219.58	49.00	109.08	6.25	26.67		14.42
台東	7	141.88	4	36.17	12.25	86.25	520.08	63.83	113.42	18.75	34.75	0.50	22.42
墨田区	8	200.88	5	39.50	13.60	58.57	222.52	41.40	93.45	0.40	36.22		27.00
江東区	14	210.55	9	36.64	22.14	118.47	665.25	57.15	148.69	2.79	46.94	0.46	38.01
品川区	12	101.08	8	10.00	7.63	67.00	410.63	25.50	76.13	4.75	33.63		27.88
目黒区	8	58.07	5	3.35	5.65	18.95	193.28	20.40	62.28	2.70	14.60	0.25	15.25
大田区	21	167.76	13	41.06	52.04	104.82	546.52	41.49	116.55	18.92	33.31	1.17	48.62
世田谷	25	204.60	16	21.96	24.60	110.97	398.82	43.24	109.42	11.58	27.18	0.06	37.54
渋谷区	7	109.95	4	10.67	15.00	26.42	274.75	26.25	101.17	2.75	23.58	0.25	13.92
中野区	11	148.49	7	12.19	4.60	40.21	346.05	44.26	115.14	1.00	25.43		32.00
杉並	16	167.67	10	4.72	12.17	53.08	325.15	29.68	74.45	2.32	24.13	0.20	6.97
池袋	8	140.63	5	39.40	21.00	29.20	265.60	28.20	59.40	1.40	12.20		38.20
北区	11	144.22	7	6.14	7.71	40.90	408.24	33.02	137.71	3.71	40.43		11.14
荒川区	7	253.32	4	78.33	38.75	175.33	615.58	51.08	207.92	19.00	57.75	0.50	51.67
板橋区	16	126.63	10	4.06	6.54	34.49	254.23	26.46	85.69	2.83	22.50	0.21	13.43
練馬区	21	165.31	13	13.96	26.04	92.61	358.72	53.46	115.81	2.11	34.16	0.55	31.91
足立	20	197.88	13	22.99	24.29	65.98	490.99	37.16	115.62	8.57	32.56		42.32
葛飾区	13	205.53	8	10.05	16.02	56.89	526.71	40.66	89.68	6.05	33.86		27.54
江戸川	19	199.56	12	16.61	53.10	132.74	462.05	40.45	82.36	7.33	32.82	0.37	39.97
八王子市	18	231.07	11	50.39	36.98	223.72	634.66	77.48	203.46	7.70	36.74	0.83	48.06
町田市	13	233.73	8	12.75	19.25	258.18	624.90	82.35	141.83	7.38	40.35		79.70
西多摩	14	211.87	8	9.25	14.93	55.84	239.02	42.73	91.82	2.54	15.55	0.25	15.89
南多摩	14	221.34	9	29.67	17.31	114.07	391.50	54.15	148.56	16.63	38.29		46.35
多摩立川	21	195.36	14	22.31	10.45	99.17	292.20	46.02	102.42	2.50	25.29	0.07	28.31
多摩府中	33	195.60	21	16.41	22.26	112.50	339.10	51.85	109.72	2.15	37.31	0.73	40.44
多摩小平	23	214.61	15	39.40	58.80	129.73	379.86	45.49	167.34	4.33	44.68	0.27	39.24
島しょ	2	151.50	1	10.00	2.00	3.00	30.00	31.00	72.00	1.00	2.00		26.00
定点当たり報告数		181.11		23.48	23.89	95.29	395.81	44.22	114.72	6.19	32.00	0.35	33.06
前年定点当たり報告数		323.29		24.51	21.20	96.60	455.28	49.75	20.90	6.23	32.85	1.10	52.28
当年/前年		0.56		0.96	1.13	0.99	0.87	0.89	5.49	0.99	0.97	0.32	0.63

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2013年第1週～2013年第52週

	設置定点数(小児科)	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病		設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	インフルエンザ入院
千代田	3	1.00	2.00	1.33						2			16.00	0.50	1.50	9.50
中央区	3	1.67	0.33	1.00	1		46.00									
みなの	6	6.50	0.17	3.00						1	1.00	1.00	6.00			25.00
新宿区	8	3.27	2.64	2.13	2		21.50			2	2.00	5.00	41.50			19.50
文京	4	6.67	0.75	1.00	1		52.00			1	3.00	6.00	1.00		1.00	26.00
台東	4	5.75	0.25	0.50												
墨田区	5	7.05	9.05	0.60	1		15.00			1	6.00	42.00	5.00	1.00		26.00
江東区	9	10.11	8.28	1.33	1		24.00									
品川区	8	3.63	2.00	0.50	1	3.00	12.00									
目黒区	5	1.90	0.45		1		15.00									
大田区	13	8.41	10.29	1.78	2		24.50			1						
世田谷	16	5.94	7.66	0.88	2	2.50	14.00			2	6.50	10.00	3.00			30.50
渋谷区	4	1.75	0.75		1		71.00			1	2.00	2.00	23.00	4.00	6.00	47.00
中野区	7	4.81	4.17	0.57	1	1.00	16.00			1						1.00
杉並	10	13.05	0.50	0.30	1		32.00			1						
池袋	5	2.80	2.60	0.60	1	1.00	30.00			1	1.00	3.00				28.00
北区	7	12.88	0.71	0.29	1	1.00	16.00									
荒川区	4	11.25	10.25	2.25	1		22.00									
板橋区	10	8.44	5.59	0.30	2	1.00	30.50			1		1.00	14.00			11.00
練馬区	13	7.35	3.11	0.71	2		21.00									
足立	13	22.36	1.27	0.39	2	0.50	40.00									
葛飾区	8	10.00	5.45	0.39	1	2.00	29.00			1	1.00		194.00	30.00	9.00	39.00
江戸川	12	20.10	2.30	0.99	2		17.50									
八王子市	11	15.64	7.72	1.36	2		25.00			1		3.00	8.00	3.00		33.00
町田市	8	8.00	13.33	0.75	1											
西多摩	8	17.94	0.50	0.88	1		7.00			1	3.00	4.00	17.00			3.00
南多摩	9	22.92	1.78	0.67	1		8.00									
多摩立川	14	7.57	2.00	0.29	2		6.50			1	1.00	1.00	3.00		3.00	13.00
多摩府中	21	11.23	4.47	0.76	3	0.33	12.00			3	3.00	7.50	26.50	0.33		39.17
多摩小平	15	4.80	5.25	0.82	2		43.00			2	2.50	5.50	22.00			22.50
島しょ	1	6.00								1			1.00			
定点当たり報告数		9.83	4.24	0.85			0.45	23.68			1.93	5.06	20.66	1.60	0.88	20.89
前年定点当たり報告数		11.88	5.40	0.68			0.50	30.01			1.68	4.86	42.84	0.56		24.40
当年/前年		0.83	0.78	1.25			0.89	0.79			1.15	1.04	0.48	2.86		0.86

表6 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2013年第1週～2013年第52週

	イン フル エン ザ	R 感 S 染 ウ 症 イル ス	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ
6 か月未満	205	875	23	14	875	143	323	7	155	9	70
12 か月未満	827	1,561	366	97	6,190	509	3,137	50	3,069	5	860
1歳	2,770	2,285	1,235	637	13,554	1,357	9,625	138	4,154	8	2,265
2歳	2,993	745	827	1,122	9,868	1,666	5,579	115	669	7	1,642
3歳	3,550	323	882	2,255	9,308	1,922	3,513	167	165	2	1,172
4歳	4,743	152	861	3,435	9,363	1,961	2,463	243	45	4	855
5歳	4,471	57	679	3,528	8,122	1,503	1,639	239	19	1	583
6歳	4,175	25	380	3,351	6,563	948	850	220	13	3	316
7歳	3,612	6	250	2,704	5,645	516	520	122	3	4	208
8歳	3,221	8	179	2,070	4,687	337	317	105	3	2	133
9歳	2,781	4	105	1,589	3,659	212	259	77	2	7	105
10～14歳	11,057	6	199	2,535	9,773	266	421	81	2	8	136
15～19歳	3,907		19	206	2,330	29	33	2		3	26
20～29歳	4,946	11	179	1,258	13,050	83	641	42		28	109
30～39歳	7,621										
40～49歳	7,250										
50～59歳	3,347										
60～69歳	2,088										
70～79歳	1,188										
80歳以上	576										
合 計	75,328	6,058	6,184	24,801	102,987	11,452	29,320	1,608	8,299	91	8,480

	流 行 性 耳 下 腺 炎	不 明 発 し ん 症	川 崎 病	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	(オ ウ ム 病 を 除 く) ク ラ ミ ジ ア 肺 炎	感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ イ ル ス)	イン フル エン ザ 入 院
6 か月未満	2	37	3			17	27		1	1	18
12 か月未満	9	176	36		7	1		2	1	5	7
1歳	81	347	63		24	1	3	69		5	43
2歳	174	146	40	1	29	1	2	41		2	16
3歳	257	102	28	1	23		2	51	2	2	15
4歳	395	61	21		18		3	48		1	18
5歳	425	54	20		20	1	5	24		1	8
6歳	348	36	2	1	14	1	9	32		4	10
7歳	229	17	5		11		4	18			7
8歳	188	18	2		8		2	20		1	8
9歳	122	17			13		2	16			4
10～14歳	235	38	1		21	2	11	57	2		17
15～19歳	17	6		1	21	2	7	21	1		2
20～29歳	67	39		1	111	3	13	35			10
30～39歳				5	226	1	16	24	2		15
40～49歳				4	160		7	19	3		14
50～59歳					64	3	3	8	1		26
60～69歳				3	64	4	3	7	4		48
70～79歳					57	5	6	16	16		95
80歳以上						6	1	6	7		137
合 計	2,549	1,094	221	17	891	48	126	514	40	22	518

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科定点把握対象疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2013年第1週～2013年第52週

	設置定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数 (小児科)	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
1 区中央部圏	32	4,914	20	490	432	1,223	6,446	885	2,240	182	636	16	397
2 区南部圏	33	4,700	21	602	723	1,887	10,338	737	2,038	284	696	15	821
3 区西南部圏	40	6,290	25	405	474	1,949	8,275	877	2,338	209	591	3	702
4 区西部圏	39	5,839	25	503	270	1,394	7,683	790	2,161	57	559	7	448
5 区西北部圏	56	8,124	35	454	549	1,958	11,287	1,308	3,525	86	987	9	786
6 区東北部圏	40	8,369	25	688	587	1,984	12,869	990	2,937	230	905	2	954
7 区東部圏	41	8,326	26	703	848	2,856	12,177	1,165	2,635	104	966	8	875
8 西多摩圏	14	2,963	8	74	119	445	1,902	338	680	20	124	2	123
9 南多摩圏	45	10,282	28	900	708	5,511	15,395	1,975	4,618	292	1,059	9	1,560
10 北多摩西部圏	21	3,953	14	312	146	1,388	4,090	644	1,430	35	354	1	396
11 北多摩南部圏	33	6,367	21	330	446	2,261	6,820	1,036	2,153	43	751	15	807
12 北多摩北部圏	23	4,898	15	587	880	1,942	5,675	676	2,493	65	669	4	585
13 島しょ圏	2	303	1	10	2	3	30	31	72	1	2		26
合 計	419	75,328	264	6,058	6,184	24,801	102,987	11,452	29,320	1,608	8,299	91	8,480

	設置定点数 (小児科)	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
1 区中央部圏	20	96	12	31	2		98	4	4	7	39	1	4	70
2 区南部圏	21	136	143	27	3	3	61	1						
3 区西南部圏	25	110	126	14	4	5	114	3	15	22	29	4	6	108
4 区西部圏	25	189	55	24	4	1	73	4	4	10	83			40
5 区西北部圏	35	280	111	17	6	4	142	2	1	4	14			39
6 区東北部圏	25	409	97	17	4	3	131	1	1		194	30	9	39
7 区東部圏	26	341	144	26	4		74	1	6	42	5	1		26
8 西多摩圏	8	140	4	7	1		7	1	3	4	17			3
9 南多摩圏	28	439	206	27	4		57	1		3	8	3		33
10 北多摩西部圏	14	106	28	4	2		13	1	1	1	3		3	13
11 北多摩南部圏	21	225	90	15	3	1	35	3	8	22	77	1		102
12 北多摩北部圏	15	72	78	12	2		86	2	5	11	44			45
13 島しょ圏	1	6						1			1			
合 計	264	2,549	1,094	221	39	17	891	25	48	126	514	40	22	518

表7-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

	設置 定点 数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	設置 定点 数 (小 児 科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 咽 頭 炎 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
1 区中央部圏	32	154.73	20	24.95	22.00	61.61	324.48	44.79	114.51	9.22	32.08	0.80	20.63
2 区南部圏	33	143.28	21	28.97	34.83	90.25	494.32	35.33	100.40	13.52	33.38	0.72	40.30
3 区西南部圏	40	158.59	25	16.84	19.59	79.61	339.83	36.16	99.15	8.70	24.33	0.13	29.63
4 区西部圏	39	150.17	25	20.30	10.92	56.13	309.55	31.83	87.24	2.29	22.57	0.29	18.07
5 区西北部圏	56	146.52	35	13.29	15.94	56.64	325.69	37.96	103.11	2.52	28.76	0.26	23.03
6 区東北部圏	40	209.75	25	27.82	24.04	80.90	521.49	40.42	121.24	9.40	36.93	0.08	39.15
7 区東部圏	41	203.69	26	28.44	34.00	112.77	486.26	46.36	109.21	4.21	38.55	0.33	36.27
8 西多摩圏	14	211.87	8	9.25	14.93	55.84	239.02	42.73	91.82	2.54	15.55	0.25	15.89
9 南多摩圏	45	228.77	28	32.77	25.70	198.22	553.22	71.30	167.46	10.48	38.20	0.32	56.51
10 北多摩西部圏	21	195.36	14	22.31	10.45	99.17	292.20	46.02	102.42	2.50	25.29	0.07	28.31
11 北多摩南部圏	33	195.60	21	16.41	22.26	112.50	339.10	51.85	109.72	2.15	37.31	0.73	40.44
12 北多摩北部圏	23	214.61	15	39.40	58.80	129.73	379.86	45.49	167.34	4.33	44.68	0.27	39.24
13 島しょ圏	2	151.50	1	10.00	2.00	3.00	30.00	31.00	72.00	1.00	2.00		26.00

	設置 定点 数 (小 児 科)	流 行 性 耳 下 腺 炎	不 明 発 し ん 症	川 崎 病	設置 定点 数 (眼 科)	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	設置 定点 数 (基 幹)	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	ク ラ ミ ジ ア 肺 炎 (オ ウ ム 病 を 除 く)	感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ イ ル ス に よ る)	イン フル エン ザ 入 院
1 区中央部圏	20	4.82	0.60	1.56	2		49.00	4	1.00	1.75	9.75	0.25	1.00	17.50
2 区南部圏	21	6.55	6.97	1.29	3	1.00	20.33	1						
3 区西南部圏	25	4.55	5.20	0.57	4	1.25	28.75	3	5.00	7.33	9.67	1.33	2.00	36.00
4 区西部圏	25	7.63	2.22	0.97	4	0.33	23.25	4	1.00	2.50	20.75			10.00
5 区西北部圏	35	8.13	3.24	0.49	6	0.67	24.30	2	0.50	2.00	7.00			19.50
6 区東北部圏	25	16.63	3.96	0.69	4	0.75	32.83	1	1.00		194.00	30.00	9.00	39.00
7 区東部圏	26	13.70	5.77	1.03	4		18.58	1	6.00	42.00	5.00	1.00		26.00
8 西多摩圏	8	17.94	0.50	0.88	1		7.00	1	3.00	4.00	17.00			3.00
9 南多摩圏	28	15.82	7.43	0.97	4		14.50	1		3.00	8.00	3.00		33.00
10 北多摩西部圏	14	7.57	2.00	0.29	2		6.50	1	1.00	1.00	3.00		3.00	13.00
11 北多摩南部圏	21	11.23	4.47	0.76	3	0.33	12.00	3	3.00	7.50	26.50	0.33		39.17
12 北多摩北部圏	15	4.80	5.25	0.82	2		43.00	2	2.50	5.50	22.00			22.50
13 島しょ圏	1	6.00						1			1.00			

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2013年1月～2013年12月

	報告定点数	黄色ブドウ球菌感染症 メチシリン耐性	肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症	アシネトバクター感染症 薬剤耐性
1月	23	71	20	1	
2月	24	60	43	1	
3月	24	56	19		
4月	25	67	58		
5月	24	58	54	5	
6月	25	62	53	2	
7月	25	95	57	2	
8月	25	104	40	4	
9月	25	111	35	3	
10月	25	87	26	4	
11月	25	75	36	8	
12月	25	72	26	2	
合 計		918	467	32	0

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2013年1月～2013年12月

	報告定点数	黄色ブドウ球菌感染症 メチシリン耐性	肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症	アシネトバクター感染症 薬剤耐性
1月	23	3.09	0.87	0.04	
2月	24	2.50	1.79	0.04	
3月	24	2.33	0.79		
4月	25	2.68	2.32		
5月	24	2.42	2.25	0.21	
6月	25	2.48	2.12	0.08	
7月	25	3.80	2.28	0.08	
8月	25	4.16	1.60	0.16	
9月	25	4.44	1.40	0.12	
10月	25	3.48	1.04	0.16	
11月	25	3.00	1.44	0.32	
12月	25	2.88	1.04	0.08	
平 均		3.10	1.58	0.11	0.00

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2013年1月～2013年12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性 アシネトバクター感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	49	22	12	8	1			
2月	41	19	28	15	1			
3月	37	19	15	4				
4月	40	27	34	24				
5月	38	20	34	20	4	1		
6月	35	27	29	24	1	1		
7月	64	31	35	22	2			
8月	64	40	22	18	4			
9月	71	40	21	14	2	1		
10月	41	46	15	11	3	1		
11月	48	27	17	19	5	3		
12月	51	21	14	12	1	1		
合 計	579	339	276	191	24	8	0	0

表8-4 性別・年齢階級別患者報告数(基幹) 2013年1月～2013年12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性 アシネトバクター感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	64	42	26	23	1			
1～4歳	51	26	74	61	2	1		
5～9歳	20	12	6	9	1			
10～14歳	9	6	4	4				
15～19歳	19	4						
20～24歳	3	4	1		1			
25～29歳	5	5	2	2				
30～34歳	6	11	5	4				
35～39歳	7	8	7	7				
40～44歳	14	10	2	4				
45～49歳	16	13	3	1		2		
50～54歳	13	9	4	4				
55～59歳	26	12	1	5	2			
60～64歳	28	16	10	7	2	3		
65～69歳	45	14	21	13	1	1		
70歳以上	253	147	110	47	14	1		
合 計	579	339	276	191	24	8	0	0
定点当たり報告数	23.52	13.73	11.21	7.73	0.97	0.32	0.00	0.00
前年定点当たり報告数	26.57	16.68	10.22	7.50	0.73	0.24	0.00	0.00
当年／前年	0.89	0.82	1.10	1.03	1.33	1.34	-	-

表9-1 月別患者報告数(性感染症)

2013年1月～2013年12月

	報告 定点数	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖 圭 コン ジ ロ マ	淋 菌 感 染 症	膣 トリ コ モ ナ ス 症	梅 毒 様 疾 患
1月	52	179	94	94	81	9	10
2月	54	185	93	79	97	11	10
3月	53	198	109	88	99	12	15
4月	55	201	86	73	76	10	15
5月	54	197	109	72	70	9	13
6月	54	215	96	79	105	8	10
7月	52	181	107	77	78	13	11
8月	55	165	94	67	93	9	8
9月	54	190	109	71	94	6	11
10月	55	211	108	81	97	11	16
11月	54	179	102	88	98	6	7
12月	54	185	109	90	82	9	10
合 計		2,286	1,216	959	1,070	113	136

表9-2 月別定点あたり患者報告数(性感染症)

2013年1月～2013年12月

	報告 定点数	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖 圭 コン ジ ロ マ	淋 菌 感 染 症	膣 トリ コ モ ナ ス 症	梅 毒 様 疾 患
1月	52	3.44	1.81	1.81	1.56	0.17	0.19
2月	54	3.43	1.72	1.46	1.80	0.20	0.19
3月	53	3.74	2.06	1.66	1.87	0.23	0.28
4月	55	3.65	1.56	1.33	1.38	0.18	0.27
5月	54	3.65	2.02	1.33	1.30	0.17	0.24
6月	54	3.98	1.78	1.46	1.94	0.15	0.19
7月	52	3.48	2.06	1.48	1.50	0.25	0.21
8月	55	3.00	1.71	1.22	1.69	0.16	0.15
9月	54	3.52	2.02	1.31	1.74	0.11	0.20
10月	55	3.84	1.96	1.47	1.76	0.20	0.29
11月	54	3.31	1.89	1.63	1.81	0.11	0.13
12月	54	3.43	2.02	1.67	1.52	0.17	0.19
平 均		3.54	1.88	1.49	1.66	0.18	0.21

表9-3 月別・性別患者報告数(性感染症) 2013年1月～2013年12月

	報告 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	52	117	62	53	41	59	35	72	9	1	8	9	1
2月	54	118	67	60	33	48	31	88	9		11	8	2
3月	53	123	75	73	36	66	22	83	16		12	15	
4月	55	118	83	60	26	53	20	65	11	1	9	15	
5月	54	122	75	70	39	48	24	64	6	1	8	9	4
6月	54	132	83	58	38	54	25	94	11	1	7	9	1
7月	52	106	75	77	30	59	18	67	11		13	11	
8月	55	94	71	60	34	51	16	74	19		9	8	
9月	54	114	76	74	35	50	21	89	5		6	10	1
10月	55	137	74	73	35	54	27	82	15	1	10	16	
11月	54	99	80	70	32	61	27	78	20		6	6	1
12月	55	114	71	72	37	67	23	72	10	1	8	9	1
合 計		1,394	892	800	416	670	289	928	142	6	107	125	11

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症) 2013年1月～2013年12月

	報告 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	52	2.25	1.19	1.02	0.79	1.13	0.67	1.38	0.17	0.02	0.15	0.17	0.02
2月	54	2.19	1.24	1.11	0.61	0.89	0.57	1.63	0.17		0.20	0.15	0.04
3月	53	2.32	1.42	1.38	0.68	1.25	0.42	1.57	0.30		0.23	0.28	
4月	55	2.15	1.51	1.09	0.47	0.96	0.36	1.18	0.20	0.02	0.16	0.27	
5月	54	2.26	1.39	1.30	0.72	0.89	0.44	1.19	0.11	0.02	0.15	0.17	0.07
6月	54	2.44	1.54	1.07	0.70	1.00	0.46	1.74	0.20	0.02	0.13	0.17	0.02
7月	52	2.04	1.44	1.48	0.58	1.13	0.35	1.29	0.21		0.25	0.21	
8月	55	1.71	1.29	1.09	0.62	0.93	0.29	1.35	0.35		0.16	0.15	
9月	54	2.11	1.41	1.37	0.65	0.93	0.39	1.65	0.09		0.11	0.19	0.02
10月	55	2.49	1.35	1.33	0.64	0.98	0.49	1.49	0.27	0.02	0.18	0.29	
11月	54	1.83	1.48	1.30	0.59	1.13	0.50	1.44	0.37		0.11	0.11	0.02
12月	55	2.07	1.29	1.31	0.67	1.22	0.42	1.31	0.18	0.02	0.15	0.16	0.02

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)

2013年1月～2013年12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	170	13	26	2	74	4	166	2		1	9		445	22
中央区	3	114	9	50	14	17	2	33	1					214	26
みなと	2	111	38	337	52	111	49	58	2				3	617	144
新宿区	7	297	90	141	72	300	114	268	46	2	10	87		1,095	332
文京	1	49		21	3	17		36					1	123	4
台東	2	1	22		9		1				2			1	34
墨田区	2	23	33	13	5	5	7	20	2		7	1		62	54
江東区	2	126	3	63	2	23		99	3		8	5	1	316	17
品川区	1	80	5	47	2	16	1	57	4			1		201	12
大田区	2	51	74		1		1	25	2		2		1	76	81
渋谷区	5	69	53	33	82	11	33	15	4	3	7	2		133	179
中野区	2	29	8	13	2	6	12	10	1		21	9	1	67	45
杉並	2	49	8	5	3	2	2	21	3		1	1		78	17
池袋	3	125	112	42	49	53	23	67	23		9	8		295	216
北区	1	7				16		4				1		28	
荒川区	1		23		9			1						1	32
板橋区	2	33	38	1	28	9	7	28	3		2	1	1	72	79
足立	2	19	36		6	3	5	4	5		7			26	59
江戸川	2	22	55	5	19	2	11	9	4		9		1	38	99
八王子市	4	1	66		15	1	5	1	11		9			3	106
町田市	1	1	66	2	26		1		2		5			3	100
多摩立川	2	11	136		12		9		23	1	6		2	12	188
多摩府中	3	6	2	1		4	2	6	1					17	5
多摩小平	1		2		3						1				6
合 計	55	1,394	892	800	416	670	289	928	142	6	107	125	11	3,923	1,857
定点当たり報告数		25.86	16.54	14.84	7.72	12.44	5.37	17.21	2.63	0.11	1.99	2.32	0.20	72.79	34.46
前年定点当たり報告数		25.24	17.40	14.98	9.18	10.59	5.59	16.36	2.73	0.24	2.14	1.89	0.32	69.29	37.35
当年/前年		1.02	0.95	0.99	0.84	1.18	0.96	1.05	0.96	0.46	0.93	1.22	0.65	1.05	0.92

区中央部圏	10	445	82	434	80	219	56	293	5		3	9	4	1,400	230
区南部圏	3	131	79	47	3	16	2	82	6		2	1	1	277	93
区西南部圏	5	69	53	33	82	11	33	15	4	3	7	2		133	179
区西部圏	11	375	106	159	77	308	128	299	50	2	32	97	1	1,240	394
区西北部圏	6	165	150	43	77	78	30	99	26		11	10	1	395	295
区東北部圏	3	19	59		15	3	5	5	5		7			27	91
区東部圏	6	171	91	81	26	30	18	128	9		24	6	2	416	170
南多摩圏	5	2	132	2	41	1	6	1	13		14			6	206
北多摩西部圏	2	11	136		12		9		23	1	6		2	12	188
北多摩南部圏	3	6	2	1		4	2	6	1					17	5
北多摩北部圏	1		2		3						1				6

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)

2013年1月～2013年12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		陰トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	85.00	6.50	13.00	1.00	37.00	2.00	83.00	1.00		0.50	4.50		222.50	11.00
中央区	3	38.00	3.00	16.67	4.67	5.67	0.67	11.00	0.33					71.33	8.67
みなと	2	55.50	19.00	168.50	26.00	55.50	24.50	29.00	1.00				1.50	308.50	72.00
新宿区	7	42.43	12.86	20.14	10.29	42.86	16.29	38.29	6.57	0.29	1.43	12.43		156.43	47.43
文京	1	49.00		21.00	3.00	17.00		36.00					1.00	123.00	4.00
台東	2	0.50	11.00		4.50		0.50				1.00			0.50	17.00
墨田区	2	11.50	16.50	6.50	2.50	2.50	3.50	10.00	1.00		3.50	0.50		31.00	27.00
江東区	2	63.00	1.50	31.50	1.00	11.50		49.50	1.50		4.00	2.50	0.50	158.00	8.50
品川区	1	80.00	5.00	47.00	2.00	16.00	1.00	57.00	4.00			1.00		201.00	12.00
大田区	2	25.50	37.00		0.50		0.50	12.50	1.00		1.00		0.50	38.00	40.50
渋谷区	5	15.70	12.53	8.13	19.37	2.68	7.58	3.20	0.90	0.70	1.68	0.50		30.92	42.07
中野区	2	14.50	4.00	6.50	1.00	3.00	6.00	5.00	0.50		10.50	4.50	0.50	33.50	22.50
杉並	2	24.50	4.00	2.50	1.50	1.00	1.00	10.50	1.50		0.50	0.50		39.00	8.50
池袋	3	41.67	37.33	14.00	16.33	17.67	7.67	22.33	7.67		3.00	2.67		98.33	72.00
北区	1	7.00				16.00		4.00				1.00		28.00	
荒川区	1		23.00		9.00			1.00						1.00	32.00
板橋区	2	16.50	19.00	0.50	14.00	4.50	3.50	14.00	1.50		1.00	0.50	0.50	36.00	39.50
足立	2	9.50	18.00		3.00	1.50	2.50	2.00	2.50		3.50			13.00	29.50
江戸川	2	13.00	27.50	2.50	9.50	1.00	5.50	5.00	2.00		4.50		0.50	21.50	49.50
八王子市	4	0.25	16.50		3.75	0.25	1.25	0.25	2.75		2.25			0.75	26.50
町田市	1	1.00	66.00	2.00	26.00		1.00		2.00		5.00			3.00	100.00
多摩立川	2	5.50	68.00		6.00		4.50		11.50	0.50	3.00		1.00	6.00	94.00
多摩府中	3	2.00	0.83	0.33		1.33	0.67	2.00	0.33					5.67	1.83
多摩小平	1		2.00		3.00						1.00				6.00
合 計	55	1,394	892	800	416	670	289	928	142	6	107	125	11	3,923	1,857
定点当たり報告数		25.86	16.54	14.84	7.72	12.44	5.37	17.21	2.63	0.11	1.99	2.32	0.20	72.79	34.46

区中央部圏	10	44.50	8.20	43.40	8.00	21.90	5.60	29.30	0.50		0.30	0.90	0.40	140.00	23.00
区南部圏	3	43.67	26.33	15.67	1.00	5.33	0.67	27.33	2.00		0.67	0.33	0.33	92.33	31.00
区西南部圏	5	15.70	12.53	8.13	19.37	2.68	7.58	3.20	0.90	0.70	1.68	0.50		26.60	35.80
区西部圏	11	34.09	9.64	14.45	7.00	28.00	11.64	27.18	4.55	0.18	2.91	8.82	0.09	112.73	35.82
区西北部圏	6	27.50	25.00	7.17	12.83	13.00	5.00	16.50	4.33		1.83	1.67	0.17	65.83	49.17
区東北部圏	3	6.33	19.67		5.00	1.00	1.67	1.67	1.67		2.33			9.00	30.33
区東部圏	6	29.20	15.20	13.80	4.37	5.27	3.00	21.83	1.53		4.07	1.03	0.33	69.33	28.33
南多摩圏	5	0.40	26.40	0.40	8.20	0.20	1.20	0.20	2.60		2.80			1.20	41.20
北多摩西部圏	2	5.50	68.00		6.00		4.50		11.50	0.50	3.00		1.00	6.00	94.00
北多摩南部圏	3	2.00	0.83	0.33		1.33	0.67	2.00	0.33					5.67	1.67
北多摩北部	1		2.00		3.00						1.00				6.00

表9-7 年齢階級別患者報告数(性感染症) 2013年1月～2013年12月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1～4歳														
5～9歳		1												1
10～14歳		5												5
15～19歳	41	106	5	11	12	16	31	21		11	1		90	165
20～24歳	167	289	41	80	38	89	133	54	1	20	10	2	390	534
25～29歳	297	225	99	79	85	72	195	32		19	13		689	427
30～34歳	267	140	122	81	147	51	179	25	1	10	27	2	743	309
35～39歳	217	69	111	48	125	27	157		1	8	33	2	644	154
40～44歳	161	37	140	37	89	14	107	6		7	16	1	513	102
45～49歳	129	13	100	21	84	12	59	2	1	7	11		384	55
50～54歳	55	5	61	18	39	5	37	2		3	7	3	199	36
55～59歳	33	2	35	9	16	1	10			6	3		97	18
60～64歳	18		36	11	20	1	9		2	6	2	1	87	19
65～69歳	8		23	6	9	1	7				2		49	7
70歳以上	1		27	15	6		4			10			38	25
合 計	1,394	892	800	416	670	289	928	142	6	107	125	11	3,923	1,857

表10 検査結果別報告数(基幹) 2013年1月～2013年12月

病 原 体	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	合 計
<i>Streptococcus agalactiae</i>	7					7
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	3					3
<i>Streptococcus</i> group unknown	1					1
<i>Streptococcus pyogenes</i>	1					1
<i>Streptococcus</i> other groups	3					3
<i>Haemophilus influenzae</i>	2					2
<i>Listeria monocytogenes</i>	2					2
other diarrheagenic <i>Escherichia coli</i> *1	2					2
<i>Staphylococcus aureus</i>	2					2
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	1					1
<i>Enterobacter</i> sp.	1					1
<i>Listeria</i> sp.	1					1
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	1					1
other bacteria	6					6
enterovirus nt*2		5				5
mumps virus		2				2
herpes simplex virus 1		1				1
human herpes virus 6		1				1
parechovirus nt*2		1				1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		1	514			515
<i>Chlamydia</i> species unknown		2		1		3
<i>Chlamydophila pneumoniae</i>				38		38
<i>Chlamydia trachomatis</i>				1		1
rotavirus group unknown					22	22
negative		1				1
記載無し	15	112				127
合 計	48	126	514	40	22	750

*1 EHEC、ETEC、EIEC、EPEC、EAggECに該当しないが胃腸炎の原因菌と考えられるもの

*2 nt: not typed

表11 疑似症サーベイランス報告数 2013 年第 1 週～2013 年第 52 週

週	期 間	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
1	12. 31～ 1. 6	443	1	
2	1. 7～ 1.13	443		
3	1.14～ 1.20	443	1	1
4	1.21～ 1.27	443		
5	1.28～ 2. 3	443	1	1
6	2. 4～ 2.10	443		
7	2.11～ 2.17	443		1
8	2.18～ 2.24	443		
9	2.25～ 3. 3	443		
10	3. 4～ 3.10	443		
11	3.11～ 3.17	443		
12	3.18～ 3.24	443	1	
13	3.25～ 3.31	443		
14	4. 1～ 4. 7	443		3
15	4. 8～ 4.14	443	1	
16	4.15～ 4.21	443	1	
17	4.22～ 4.28	443	1	
18	4.29～ 5. 5	443		2
19	5. 6～ 5.12	443	3	
20	5.13～ 5.19	443		
21	5.20～ 5.26	443		1
22	5.27～ 6. 2	443		
23	6. 3～ 6. 9	443		
24	6.10～ 6.16	443	1	
25	6.17～ 6.23	443		1
26	6.24～ 6.30	443		1
27	7. 1～ 7. 7	443	2	
28	7. 8～ 7.14	443		
29	7.15～ 7.21	443		1
30	7.22～ 7.28	443		
31	7.29～ 8. 4	443	1	
32	8. 5～ 8.11	443	2	
33	8.12～ 8.18	443	1	1
34	8.19～ 8.25	443		
35	8.26～ 9. 1	443	1	
36	9. 2～ 9. 8	443	1	
37	9. 9～ 9.15	443		
38	9.16～ 9.22	443		
39	9.23～ 9.29	443		1
40	9.30～10. 6	443	1	
41	10. 7～10.13	443	3	2
42	10.14～10.20	443		
43	10.21～10.27	443	2	
44	10.28～11. 3	443	2	
45	11. 4～11.10	443	2	
46	11.11～11.17	443	1	
47	11.18～11.24	443	3	
48	11.25～12. 1	443		
49	12. 2～12. 8	443	1	
50	12. 9～12.15	443	3	
51	12.16～12.22	443	1	
52	12.23～12.29	443		
合 計			38	16

保健所	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
千代田	4		
中央区	5		
みなと	9	2	
新宿区	13		
文京	8		
台東	7		
墨田区	9		
江東区	14		2
品川区	13		1
目黒区	8		
大田区	22		
世田谷	28	3	
渋谷区	9	20	6
中野区	11		
杉並	16		
池袋	9		
北区	11		
荒川区	7		
板橋区	18	13	5
練馬区	21		
足立	21		
葛飾区	13		
江戸川	19		
八王子市	19		
町田市	13		
西多摩	15		
南多摩	15		1
多摩立川	23		
多摩府中	36		1
多摩小平	24		
島しょ	3		
合 計	443	38	16

年齢階級	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
0歳	7	
1歳	7	4
2歳	2	
3歳	3	
4歳	1	1
5歳		1
6歳	2	1
7歳		
8歳		
9歳	1	
10～14歳	1	
15～19歳	1	
20～29歳		
30～39歳	4	
40～49歳	1	3
50～59歳		2
60～69歳	2	
70～79歳		1
80歳以上	6	3
合 計	38	16

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2013 年 1 月から 12 月末までの間に、東京都内の小児科及び基幹病原体定点より 2,001 件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液 1,202 件、鼻汁 168 件、髄液 280 件、糞便 244 件、血液 38 件、尿 10 件、結膜拭い液 38 件及びその他（吐物、皮膚病巣等）21 件であった（表 1）。

表 1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

診 断 名		検 体 種								
		総 計	咽 頭 拭 い 液	鼻 汁	髄 液	糞 便	血 液	尿	結 膜 拭 い 液	そ の 他
呼 吸 器 系 疾 患	上気道炎	177	160	8	2	3	1	1		2
	下気道炎	237	185	43	5	1		1		2
	インフルエンザ	124	51	65	6	1	1			
	RSウイルス感染症	27	13	13	1					
	咽頭結膜熱	62	55	6		1				
	不明熱	73	45	5	14	6	2			1
感染性胃腸炎		166	10			156				
神 経 系 疾 患	無菌性髄膜炎	211	33		145	24	6	1	1	1
	脳炎・脳症	80	15	1	46	15	3			
	けいれん	59	10	1	45	3				
発 疹 性 疾 患	突発性発しん	56	53	1						2
	ヘルパンギーナ	32	32							
	手足口病	147	123	14	1	5				4
	川崎病	25	20		2	2	1			
	口内炎	4	4							
	麻しん	5	5							
	風しん	32	27	1			2	2		
	水痘	35	30	1	1	1				2
	伝染性紅斑	18	18							
	不明発しん症	215	194	1	1	13	3		1	2
流行性耳下腺炎		56	54	1						1
流行性角結膜炎		38	1						36	1
リンパ節腫脹		16	15							1
肝機能障害		4	2			2				
デング熱		7					7			
伝染性単核球症		5	5							
その他		90	42	7	11	11	12	5		2
総 計		2,001	1,202	168	280	244	38	10	38	21

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患 700 件（上気道炎 177 件、下気道炎 237 件、インフルエンザ 124 件、RS ウイルス感染症 27 件、咽頭結膜熱 62 件、不明熱 73 件）、感染性胃腸炎 166 件、神経系疾患 350 件（無菌性髄膜炎 211 件、脳炎・脳症 80 件、けいれん 59 件）、発しん性疾患 569 件（突発性発しん 56 件、ヘルパンギーナ 32 件、手足口病 147 件、川崎病 25 件、口内炎 4 件、麻しん 5 件、風しん 32 件、水痘 35 件、伝染性紅斑 18 件、不明発しん症 215 件）、流行性耳下腺炎 56 件、流

行性角結膜炎 38 件、リンパ節炎 16 件、肝機能障害 4 件、デング熱 7 件、伝染性単核球症 5 件、「その他」 90 件であった。「その他」にはウイルス性感染症、心筋炎、敗血症、等があり、診断名の記載のないものが 2 件あった。

イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 2,001 件のうち、主に血液を除く 1,963 件を対象に、細胞培養 (HeLa、Hep-2、RD-18S、MDCK、Vero、A549、B95a、C6/36 細胞等) によるウイルス分離試験と、酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った。その結果、ウイルス分離試験では 256 件のウイルスが分離され、酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出では 15 件のロタウイルスが検出され、合計 271 件のウイルスが分離検出された (表 2)。分離された 256 件のウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス 31 株 (12.1%)、アデノウイルス 98 株 (38.3%)、コクサッキーウイルス 52 株 (20.3%)、エコーウイルス 15 株 (5.9%)、エンテロウイルス 71 型 10 株 (3.9%)、単純ヘルペスウイルス 1 型 8 株 (3.1%)、ムンプスウイルス 15 株 (5.9%)、ヒトパレコウイルス 5 株 (2.0%)、ヒトメタニューモウイルス 19 株 (7.4%)、RS ウイルス 1 株 (0.4%)、風しんウイルス 2 株 (0.8%) であった。A 群ロタウイルス抗原は 169 件検査を行った結果 15 件 (8.9%) が確認された。

表 2. 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

	総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	けいれん	突発性発疹	ヘルパンギーナ	手足口病	川崎病	口内炎	麻疹	風しん	水痘	伝染性紅斑	不明発疹症	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	リンパ節腫脹	肝機能障害	伝染性単核球症	その他	
検査検体数 分離ウイルス	1,963	176	237	123	27	62	71	166	205	77	59	56	32	147	24	4	5	30	35	18	212	56	38	16	4	5	78	
インフルエンザ	AH1pdm09	2		1	1																							
	AH3亜型	11		11																								
	B型	18			17	1																						
	1型	19	1	3	2	2		1		3				2					1		2						2	
	2型	35	7	6	1	6	1		1			1		4							4	3					1	
アデノ	3型	16	2			10	1								1						1		1					
	4型	12	1	2	1	2															1			5				
	5型	8			1		1		3		1			1							1							
	31型	3							3																			
	56型	5																						5				
コクサッキー	A群9型	1																			1							
	A群10型	1												1														
	B群1型	6		1					2			1	1								1							
	B群2型	6	1						2				1	1														
	B群3型	19				2	1	1	12	1												1					1	
エコー	B群4型	8				1	1		3																	1		
	B群5型	11				2			6		1										1						1	
	9型	4							4																			
	11型	1										1																
	18型	4					1														3							
25型	6							1					1					1		2						1		
エンテロ	71型	10							1				1	7						1								
単純ヘルペス	1型	8	4										1			2							1					
ムンプス		15							3	1													11					
ヒトパレコ		5		1										3							1							
ヒトメタニューモ		19	2	16																							1	
RS		1	1																									
風しん		2																			2							
A群ロタ		15																									1	
総計	271	19	29	34	3	24	7	20	34	8	2	3	4	20	1	2	0	1	1	0	23	15	12	0	0	1	8	

注：1 検体から検出されるウイルスは、複数となる場合がある。

2013 年最も多く分離されたウイルスは、表 2 に示したようにアデノウイルス 2 型 (35 株) で、多くが上気道炎 (7 株)、下気道炎 (6 株)、咽頭結膜熱 (6 株) の患者検体から分離されている。

コクサッキーウイルスでは、コクサッキーウイルス B 群 3 型 (19 株) が最も多く分離され、主に無菌性髄膜炎 (12 株) の患者検体から多く分離されたが、他にも RS ウイルス感染症 (2 株)、脳炎・脳

症（1株）等の患者検体からも分離された。

ムンプスウイルス（15株）は主に流行性耳下腺炎（11株）の患者検体から多く分離されたが、同ウイルスは無菌性髄膜炎（3株）、脳炎・脳症（1株）の患者検体からも分離された。

また、酵素抗体法により検出されたA群ロタウイルス（15株）は主に感染性胃腸炎（12株）の患者検体から分離され、脳炎・脳症（2株）等の患者検体からも検出された。

ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を図1及び表3に示した。

搬入された総検体 2,001 検体中 1,988 検体を対象に 7,904 件の遺伝子検索を実施した結果、1,130 検体（56.8%）から 1,408 件のウイルス遺伝子が検出された（複数種のウイルス遺伝子の同時検出例を含む）。陽性例の内訳をみると、エンテロウイルスが 326 件（23.2%）、と最も多く、以下ヒトヘルペスウイルス 204 件（14.5%）、ライノウイルス 175 件（12.4%）、アデノウイルス 111 件（7.9%）、インフルエンザウイルス 108 件（7.7%）、パラインフルエンザウイルス 73 件（5.2%）、RSウイルス 69 件（4.9%）、ヒトメタニューモウイルス 57 件（4.0%）、EBウイルス 57 件（4.0%）、風しんウイルス 49 件（3.5%）、ノロウイルス 45 件（3.2%）、ムンプスウイルス 28 件（2.0%）、水痘帯状疱疹ウイルス 27 件（1.9%）、サポウイルス 26 件（1.8%）、サイトメガロウイルス 26 件（1.8%）、単純ヘルペスウイルス 14 件（1.0%）、パルボウイルス B19 8 件（0.6%）、麻しんウイルス 3 件（0.2%）、デングウイルス 1 件（0.1%）、ロタウイルス 1 件（0.1%）であった。

エンテロウイルスについては、ダイレクトシーケンス法により遺伝子増幅産物の遺伝子配列を決定し、遺伝子データベースを利用して遺伝子の相同性検索を行い、検出ウイルス遺伝子のさらなる分類を試みた。エンテロウイルス遺伝子検査結果が陽性となった 326 検体の遺伝子を解析した結果は、コクサッキーウイルス A 群 178 件、エンテロウイルス 71 型 44 件、コクサッキーウイルス B 群 36 件、エコーウイルス 24 件、エンテロウイルス 68 型 13 件、型別不明 31 件であった。

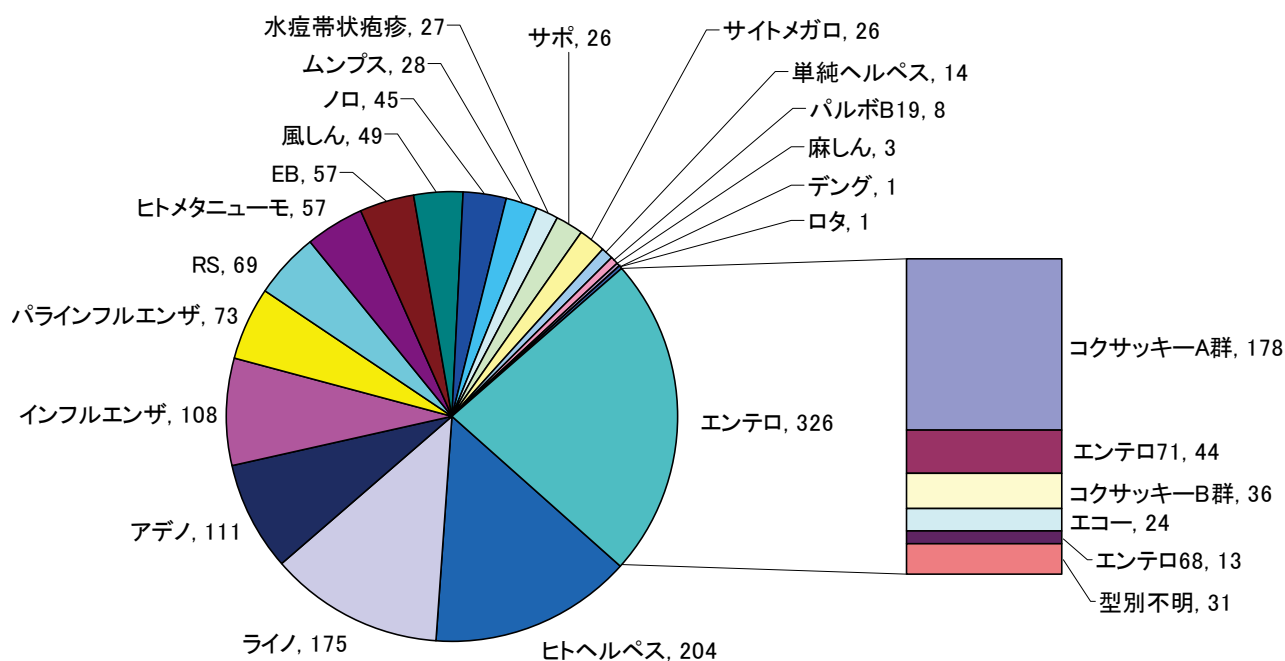


図1. ウイルス遺伝子検出数（陽性例 1,408 件）

表 3. 臨床診断名別に見たウイルス遺伝子検出状況

	総 計	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	不 明 熱	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	脳 炎・ 脳 症	け い れ ん	突 発 性 発 疹	ヘル パン ギー ナ	手 足 口 病	川 崎 病	口 内 炎	麻 し ん	風 し ん	水 痘	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 疹 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	リン パ 節 腫 脹	伝 染 性 単 核 球 症	デ ン グ 熱	そ の 他
検査検体数	1,988	177	237	124	27	62	72	166	211	80	59	56	32	147	25	4	5	32	35	18	215	56	38	16	5	2	87
検出遺伝子																											
インフルエンザ	AH1pdm09	3		2	1																						
	AH3亜型	70		1	66		2	1																			
	B型	35		3	28		1	1					1														1
アデノ	111	12	9	5		25	3	6	1	2		5	1	4	1				1	1	8	3	23		1		
コクサッキー	A群2型	3											2								1						
	A群4型	1	1																								
	A群5型	2											2														
	A群6型	153	6	2	2		4	2	1		2		4	11	87				4		19	1	1	1			6
	A群8型	1	1																								
	A群9型	6														1					5						
	A群10型	3	2												1												
	A群16型	9		1									1	3				1			3						
	B群1型	8		1						5			1		3						1						
	B群2型	2								2																	
	B群3型	15				2	1	1		7	1												1				2
	B群4型	1								1																	
	B群5型	10		2	1			2		4												1					
エコー	9型	3							3																		
エンテロ	18型	10	2				2														6						
	25型	11	1						2	2				1					1		2						2
	68型	13	1	6		1							1	1							2						
ライノ	71型	44	2	1		1	2		1	4		1	2	27		1					2						
	型別不明	31	1	4	2		2		1	9			2	1							6	2	1				
		175	24	43	11	3	8	8	4	2	2		8	3	5	1			2	5	3	26	8	1			8
単純ヘルペス	1型	12	2						3	1			3			2								1			
	2型	2							2																		
サイトメガロ		26	1	1			1	1	2			2	3		3			1			9	1					1
EB		57	6	2			1		1	1		1	2	1	1		1	2			7	18		5	4		4
水痘帯状疱疹		27							1				1						23		2						
ヒトヘルペス	6型	154	5	1	1		5		3	4	3	37		36	1			2	1	1	51						3
	7型	50		1			2		1	1		7	1	15						1	21						
	1型	22	12	8			1																				1
パラインフルエンザ	2型	3	3																								
	3型	48	12	28	1	1	3						1	2													
麻しん	A型	3										1		1							1						
風しん		49			1								3	5			3	18			18				1		
RS		69	10	34		23								1													1
ヒトメタニューモ		57	9	43	1		1					1									1						1
ムンプス		28							7	1												19			1		
バルボB19		8													1					5	2						
ノロ	G I	3						3																			
	G II	42						41																			1
サボ		26						24		1											1						
ロタ		1								1																	
デング	1型	1																									
総 計	1,408	113	191	121	31	51	29	84	60	17	3	71	36	192	9	3	4	27	34	11	195	53	27	7	7	1	31

注：1検体から検出されるウイルスは、複数となる場合がある。

この解析の結果、2013 年度の手足口病患者検体から検出されたエンテロウイルスはコクサッキーウイルス A 群 6 型の遺伝子型が多いことが判明した。次いでヒトヘルペス 6 型、エンテロ 71 型も多く検出された。またコクサッキーA 群 6 型はエンテロウイルスの中でも最も多く検出された型であり、手足口病に次いで不明発疹症やヘルパンギーナでの検出も見られた。

無菌性髄膜炎患者からは、エンテロウイルスではコクサッキーB 群を中心に、ムンプスウイルスや単純ヘルペスウイルスなど多様なウイルスが検出された。

ライノウイルスは一般的に鼻風邪の原因ウイルスとされているが、下気道炎で最も多く検出された。次いで不明発疹症と上気道炎で多く検出されていたことから、呼吸器系以外でも発疹症との関連が考えられた。ヒトヘルペスウイルスは突発性発疹の原因ウイルスとされているが、不明発疹症患者から最も多く検出され、突発性発疹と手足口病でも検出が見られ、発疹症との関連が強うかがえた。

また 2012 年度から風しんが流行し、2013 年度も積極的疫学調査検体ならびに、発生動向調査検体において風しんウイルスの検出数の増加がみられた。また、風しん患者の他、不明発疹症や手足口病、突発性発疹患者からも同ウイルスの検出事例が散見された。

エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱患者の咽頭拭い液（鼻汁を含む）から多く検出された上位 7 種のウイルスのうち、インフルエンザウイルスの検出状況を図 2 に、その他のエンテロウイルス、パラインフルエンザウイルス、アデノウイルス、ライノウイルス、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルスの検出状況を図 3 に示した。

インフルエンザウイルス AH3 亜型（香港型）の検出は 1 月の流行期をピークに 4 月にかけて減少し、5 月には検出されなくなったが、それ以降も低い水準で推移した。B 型は 3 月を検出のピークとし、6 月まで検出された。季節性の A/H1（ソ連型）の検出はなかった。インフルエンザ A/H1N1pdm09 は、12 月に 3 件検出されたのみであった。本年は 8 月、9 月、10 月を除き、ほぼ一年を通して、インフルエンザウイルスが検出されていた。

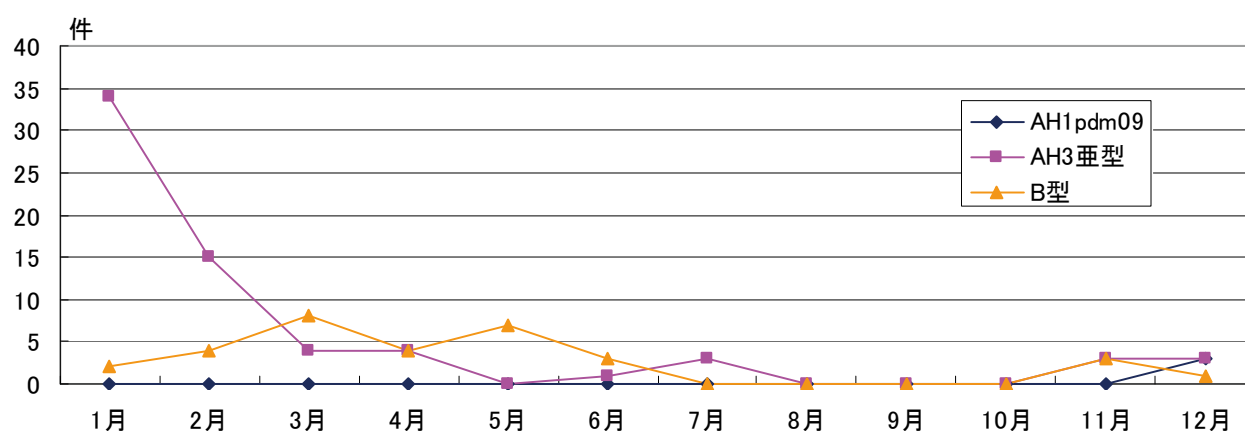


図 2. 呼吸器感染症患者検体からのインフルエンザウイルスの月別検出状況

その他の呼吸器系ウイルスの検出状況については、春から初夏に検出されることの多いヒトメタニューモウイルスは 3 月をピークとし、8 月まで検出が続いた。初夏に流行することが多いパラインフルエンザウイルスは、例年通り 6 月をピークとし、5 月から 10 月まで検出が続いた。また、ライノウイルスは 11 月に最も多く検出されたが、一年を通して検出が続いた。夏風邪の原因とされるエンテロウイルスは 6 月から検出が増え、8 月から 10 月にかけてピークが見られ、12 月まで検出が続いていた。

一方、毎年咽頭結膜熱の原因ウイルスとして夏に多く検出されるアデノウイルスの今夏季の流行は小さかったが、12 月まで引き続き検出されていた。秋から冬にかけて流行が見られる事が多い RS ウイルスは 4 月を除きほぼ一年を通して検出され、7 月に検出が増えた後、10 月を中心とした流行が見られた。

また 2010 年に初めて都内で検出されたエンテロウイルス 68 型は、2013 年は下気道炎において 6 件検出された。

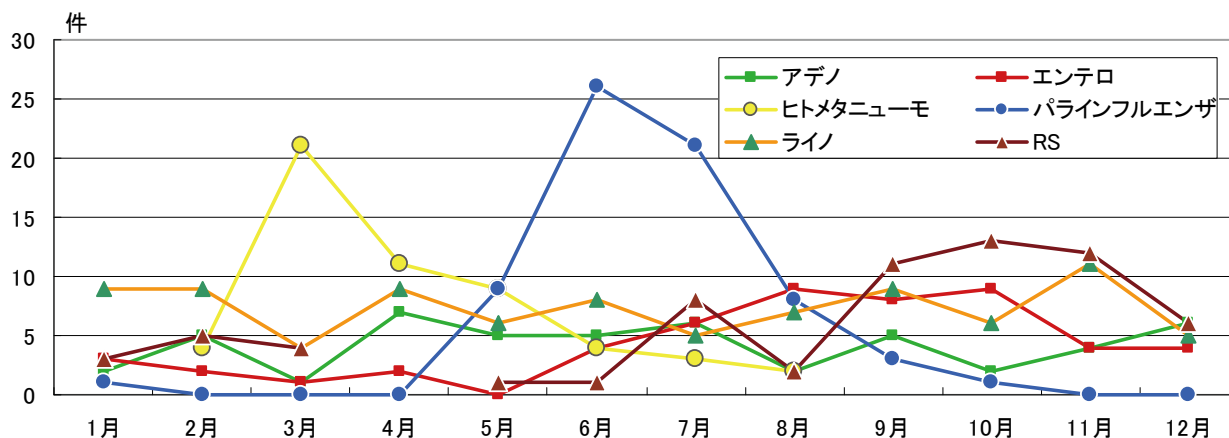


図 3. 呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎は、夏季を中心として流行する中枢神経系の疾患で、毎年大小の流行を起こすが、原因ウイルスの種類は年ごとに異なっている。原因となるウイルスはエンテロウイルスが多いが、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルスによっても起こることが知られている。

2013 年は 37 件のエンテロウイルスが検出され、検出されたウイルスの半数以上を占めた。エンテロウイルス以外にはヘルペスウイルスが 13 件、ムンプスウイルスが 7 件検出された（図 4）。なお、ヒトヘルペスウイルス、単純ヘルペスウイルス、EB ウイルス等のヘルペスウイルス科に属するウイルスをまとめて「ヘルペス」として計上している。

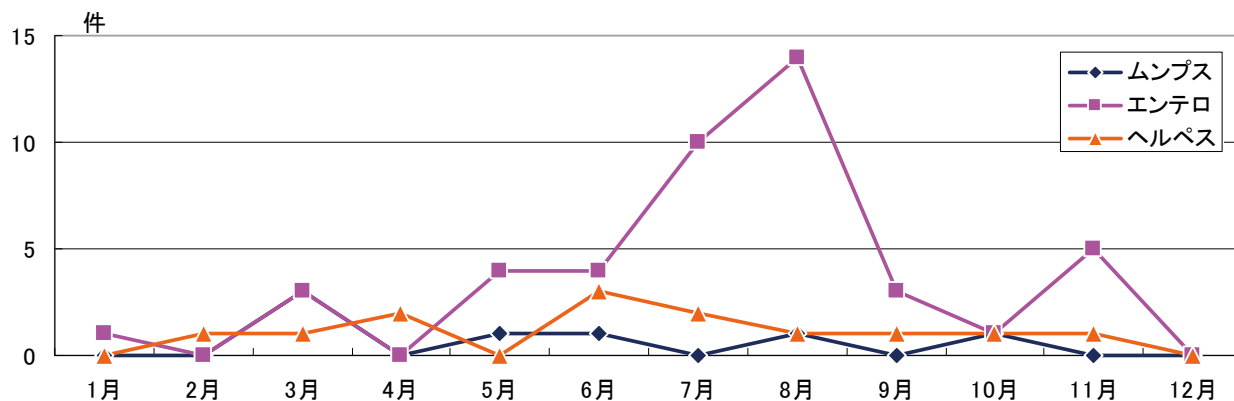


図 4. 無菌性髄膜炎患者からの月別ウイルス検出状況

2013 年の無菌性髄膜炎の主な原因となったエンテロウイルスは、図 4、図 5 に示すように 7 月、8 月に多数検出された。6 月はすべてコクサッキー B 群 5 型であったが、7 月にはコクサッキー B 群 2 型やエコー 9 型など数種の型が検出され、8 月にはコクサッキー B 群 3 型とエンテロ 71 型が多数を占めた。また、コクサッキーウイルス B 群 1 型も 5 月、7 月、8 月、9 月に検出され、2013 年の無菌性髄膜炎はコクサッキー B 群が感染の中心となっていたことがうかがえた。

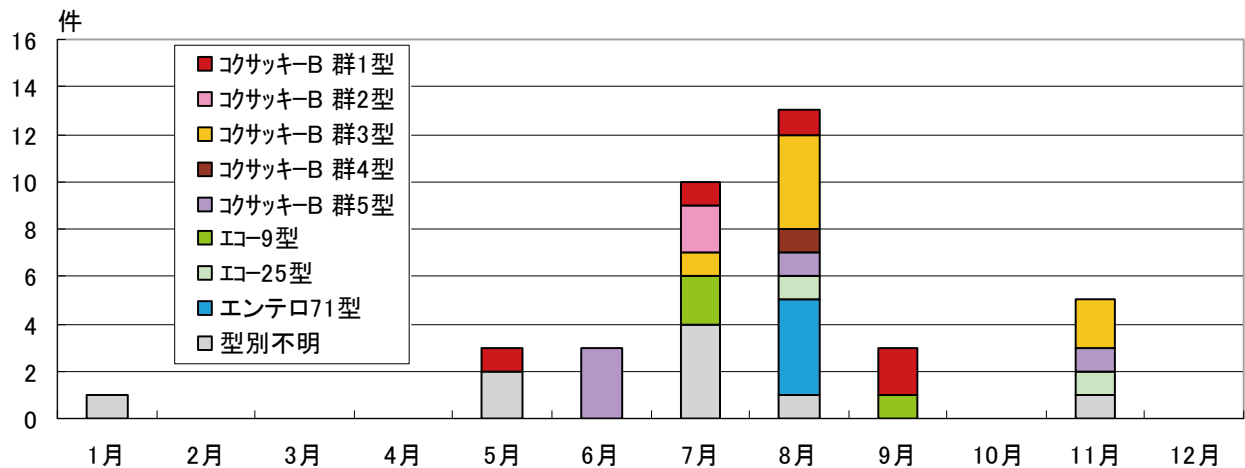


図 5. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別エンテロウイルス検出状況

③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から、ウイルス分離、遺伝子検索、抗原検出（酵素抗体法）によって検出されたウイルスの月別検出数を図 6 に示した。ノロウイルスは前年から続く流行で 1 月に多く検出されていたが 6 月にかけて緩やかに検出が減っていき、11 月から再び検出数の急激な増加が見られた。ノロウイルスが検出されなかったのは 6 月と 9 月のみであった。毎年、春先に流行の見られることが多いロタウイルスは、2 月、3 月、4 月、12 月に検出され、3 月の検出数が最多であった。サポウイルスは 3 月にピークが見られ 5 月から 6 月に検出された後、10 月に再び検出されて以降 12 月にかけて検出数の増加が見られた。

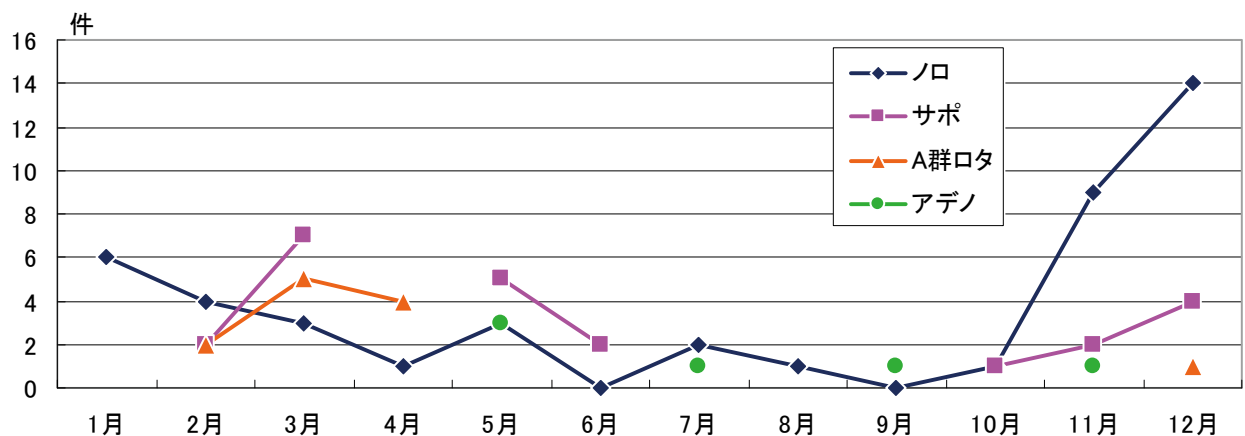


図 6. 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

発しん性疾患（手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、川崎病、水痘、口内炎、麻しん、風しん）の患者検体 351 件よりアデノウイルス 10 株（1 型 3 株、2 型 5 株、3 型 1 株、5 型 1 株）、コクサッキーウイルス A 群 1 株（10 型 1 株）、コクサッキーウイルス B 群 4 株（1 型 2 株、2 型 2 株）、エコーウイルス 3 株（11 型 1 株、25 型 2 株）、エンテロウイルス 71 型 8 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 3 株、ヒトパレコウイルス 3 株の計 32 株が分離された。

月別の遺伝子検出状況を図 7 に示す。アデノウイルス 13 件、エンテロウイルス属 156 件（遺伝子解

析結果；コクサッキーウイルス A 群 117 件、エコーウイルス 2 件、エンテロウイルス 68 型 2 件、エンテロウイルス 71 型 31 件、コクサッキーウイルス B 群 1 件、型別不明 3 件)、ライノウイルス 27 件、ヘルペスウイルス属 148 件 (ヒトヘルペスウイルス 6 型 78 件、同 7 型 24 件、単純ヘルペスウイルス 1 型 5 件、EB ウイルス 8 件、水痘帯状疱疹ウイルス 24 件、サイトメガロウイルス 9 件)、パルボ B19 ウイルス 6 件、インフルエンザウイルス 1 件、RS ウイルス 1 件、ヒトメタニューモウイルス 1 件、麻しんウイルス A 型 2 件、風しんウイルス 29 件、パラインフルインフルエンザウイルス 3 型 3 件の計 387 件が検出された。

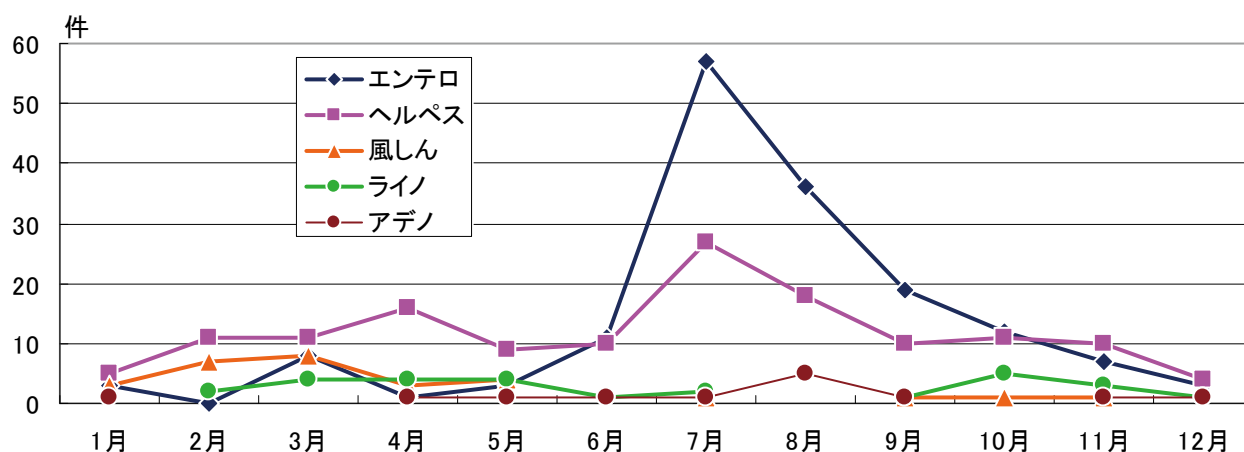


図 7. 発しん性疾患患者検体からの主な月別ウイルス遺伝子検出状況

コクサッキーウイルス A 群は、夏季に多く流行する手足口病やヘルパンギーナの原因ウイルスとされている。2013 年度の発しん性患者検体から同ウイルスは 117 件検出され、中でも 6 型が 7 月をピークに全体では 106 件と多数検出された。エンテロウイルス 71 型も年間を通じて検出が見られた。月別のエンテロウイルスの検出状況を図 8 に示す。

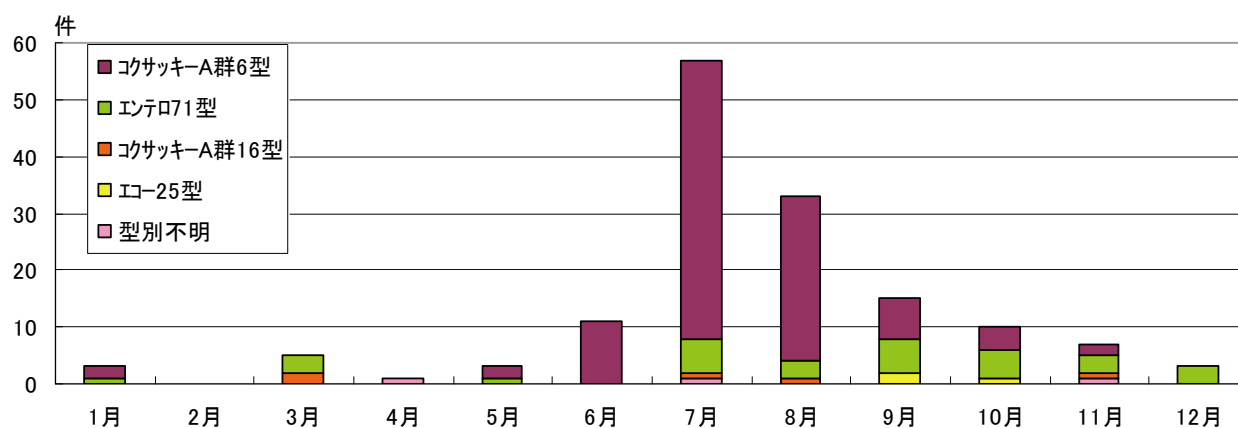


図 8. 発しん性疾患患者からの主な月別エンテロウイルス遺伝子検出状況

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

不明発しん症患者検体 212 件から、アデノウイルス 9 株（1 型 2 株、2 型 4 株、3 型 1 株、4 型 1 株、5 型 1 株）、コクサッキーウイルス A 群 1 株（9 型 1 株）、コクサッキーウイルス B 群 4 株（1 型 1 株、4 型 2 株、5 型 1 株）、エコーウイルス 5 株（18 型 3 株、25 型 2 株）、エンテロウイルス 71 型 1 株、ヒ

トパレコウイルス 1 株及び風疹ウイルス 2 株の計 23 株が分離された。

遺伝子検出状況は図 9 に示した。陽性例 195 件の内、ヒトヘルペス 6 型は 51 件 (26.2%) と最も多く検出された。さらにコクサッキー A 群 28 件 (14.4%)、ライノ 26 件 (13.3%)、ヒトヘルペス 7 型 21 件 (10.8%)、風しん 18 件 (9.2%)、サイトメガロ 9 件 (4.6%)、アデノ、エコー群がそれぞれ 8 件 (4.1%)、EB ウイルス 7 件 (3.6%)、エンテロ型別不明 6 件 (3.1%)、コクサッキー B 群、エンテロ 68 型、エンテロ 71 型、水痘帯状疱疹、パルボ B19 が 2 件 (1.0%) ずつ、麻しん、ヒトメタニューモ、サボがそれぞれ 1 件 (0.5%) 検出された。

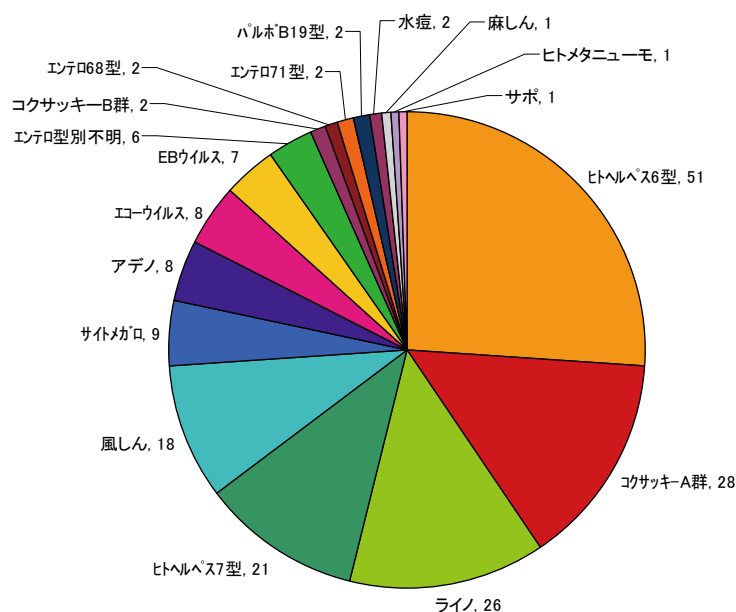


図 9. 不明発しん症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑥ 川崎病患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）再掲

川崎病患者検体 24 検体からアデノウイルス 3 型 1 株が分離された。

遺伝子検出状況を図 10 に示した。9 件からウイルス遺伝子が検出され、サイトメガロ 3 件 (33.3%)、アデノ、コクサッキー A 群 9 型、ライノ、EB ウイルス、ヒトヘルペス 6 型、パルボウイルス B19 がそれぞれ 1 件 (11.1%) ずつ検出された。

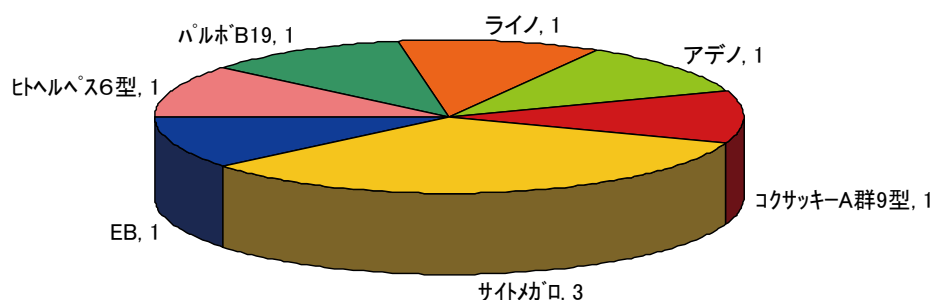


図 10. 川崎病患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

都内 2 定点医療機関からデング熱疑い患者の検体が 7 件搬入された。それらの検体についてデングウイルスの抗体検査を行った結果、抗デングウイルス IgM は検出されなかった。

また、臨床診断でリケッチア及び関連感染症として都内 5 医療機関から 36 件の検査依頼があった。これらについて紅斑熱群リケッチア（Spotted fever : *Rickettsia Japonica*、*R. rickettii* 等）及び発疹熱群リケッチア（*R. Typhi*、*R. prowazaekii* 等）、ツツガムシ病リケッチア（*Orientia tsutsugamushi*）、Q 熱（*Coxiella burnetii* I 相菌、II 相菌）、ライム病（*Borrelia burgdorferi*）の抗体及び遺伝子について検査を行った。臨床診断名別では、リケッチア症（疑い例を含む、以下同様）で搬入されたもの 17 件、日本紅斑熱 2 件、ツツガムシ病 3 件、Q 熱 3 件、ライム病 4 件、不明熱 6 件、猫ひっかき病 1 件であった。このうち海外渡航歴のあったものは 14 件であった。臨床診断名別に検査結果をみると、リケッチア症疑い例 1 件は、紅斑熱群リケッチア、発疹熱群リケッチアの抗体検査で陰性であったが、ツツガムシ病リケッチアに対する抗体検査（IF 法：標準 3 株 Karp、Gilliam、Kato 株）により回復期の IgG 抗体価が急性期の 4 倍以上に上昇していたことからツツガムシ病の新規感染が疑われた。ツツガムシ病疑い例 1 件は、抗体検査により回復期の IgG 抗体価が急性期の 4 倍以上に上昇していたことからツツガムシ病の新規感染が疑われた。ライム病の疑い例 1 件は、抗体検査で抗ボレリア IgM 抗体が検出され、陽性となった。その他の診断名で搬入された検体の検査結果は全て陰性であった。

（２）内科病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

ア 2012/2013 年シーズンのウイルス検出状況（追加分）

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年 9 月（第 36 週）を境にシーズン分けされており、2013 年第 14 週から第 35 週までに搬入された 67 検体の検査結果を 2012/2013 年シーズンの追加分として報告する。遺伝子検査で AH3 亜型 7 件、Victoria 系 B 型 8 件、Yamagata 系 B 型 16 件の計 31 件検出され、ウイルス分離試験で AH3 亜型 5 株、Victoria 系 B 型 8 株、Yamagata 系 B 型 16 株の計 29 株が検出された。AH3 亜型は 4 月を中心に検出がみられ、6 月には散発例とみられる 1 件が検出された。Victoria 系 B 型は 4 月から 5 月に、Yamagata 系 B 型は 4 月から 6 月に検出がみられたのち、インフルエンザの流行は終息した（図 11）。また、その他には、アデノウイルス 3 型、ライノウイルス、コクサッキー A 群ウイルス 5、6、21 型が検出された。特にコクサッキー A 群ウイルス 21 型は国内での検出報告が少なく、27 年ぶりのウイルス分離報告となった（2013 年 8 月）。

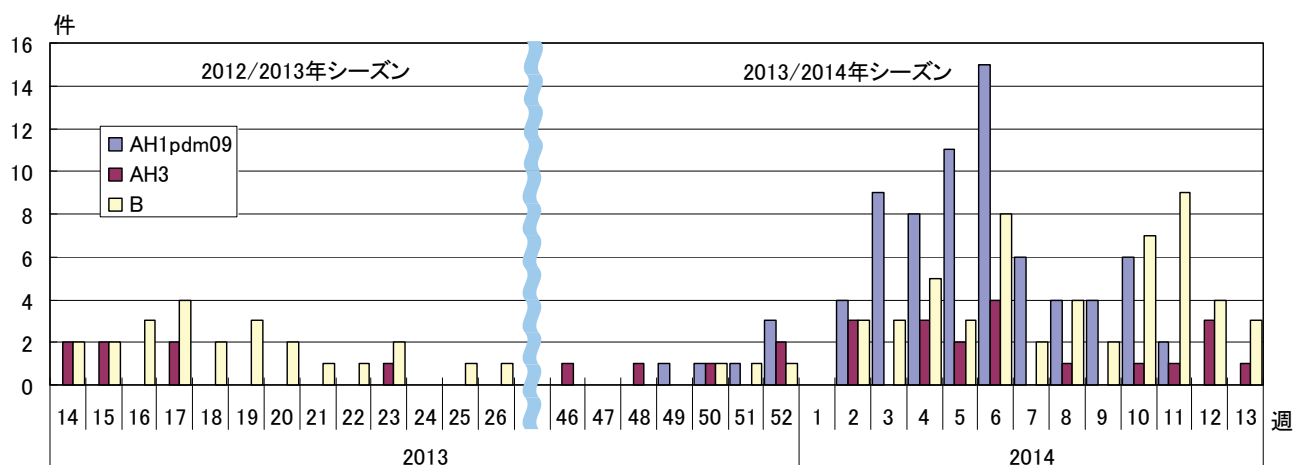


図 11. インフルエンザ病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス陽性数

イ 2013/2014 年シーズンのウイルス検出状況

2013/2014 年シーズンは、第 46 週（2013 年 11 月）に検出された AH3 亜型を初発例としてインフルエンザの流行が始まった。2014 年 3 月までに 203 検体の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が搬入され、遺伝子検査で AH1pdm09 76 件、AH3 亜型 24 件、Victoria 系 B 型 18 件、Yamagata 系 B 型 37 件の計 155 件が検出され、ウイルス分離試験で AH1pdm09 73 株、AH3 亜型 24 株、Victoria 系 B 型 17 株、Yamagata 系 B 型 34 株の計 148 株のインフルエンザウイルスが検出された。今シーズンは 4 つの型が混在して流行する特徴があった。2013/2014 年シーズン流行株の主体となった AH1pdm09 は第 49 週から検出され、2014 年第 6 週の流行ピーク時には検出数の半数を占め、第 11 週まで検出された。AH3 亜型は第 46 週から検出され、大きな流行に発展しなかったがシーズンを通して検出された。B 型は、第 50 週から Victoria 系統株が、第 52 週から Yamagata 系統株が検出され、第 6 週、第 10 週、第 11 週に検出数が増加し、小流行が確認された（図 11）。その他には、2013 年 8 月に続き 9 月（第 36 週）にもコクサッキー A 群ウイルス 21 型が 1 件検出され、ライノウイルス、コクサッキー B 群 3 型、エンテロウイルス B 群が検出された。

2014 年 3 月末時点では、AH3 亜型と B 型の検出が続いており、前シーズンに続き流行時期の延長がみられている。

ウ インフルエンザウイルスの抗原解析

① 遺伝子検査による抗原性状の比較

RT-nested PCR 検査によって得られたインフルエンザ HA（ヘマグルチニン）遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、アミノ酸配列に置換してワクチン株ウイルスならびに過去に流行したウイルス株と分子系統樹上で比較し解析を行った。

その結果、AH1pdm09 の流行株は、ワクチン株（A/California/7/2009）から伸びた枝に含まれており、解析領域におけるワクチン株とのアミノ酸変異は 5～6 個であり、相同性は 96.9%～97.4%であった。2013/2014 年シーズン流行株は 2012/2013 年シーズン流行株とは異なるクレードを形成していたが、ワクチン株からの位置は昨シーズンの流行株と変わりなく、アミノ酸相同性も高いため変異の幅は他の亜型ウイルスに比べて小さいものであることが推察された。このため、WHO による 2014/2015 年シーズンのワクチン推奨株には引き続き A/California/7/2009 類似株が選定されている（図 12）。

A/H3 亜型の流行株は 2012/2013 年シーズンワクチン株（A/Victoria/361/2011）及び、2013/2014 年シーズンワクチン株（A/Texas/50/2012）を含む枝に属していた。また、2012/2013 年シーズン流行株と同じグループに属しているか、その延長上に属しており、昨シーズン流行株とも近縁である事が判明した。解析領域におけるワクチン株とのアミノ酸変異は 2～6 個であり、アミノ酸相同性は 94.2%～98.1%であった。このため、2014/2015 年シーズンのワクチン推奨株には引き続き A/Texas/50/2012 類似株が選定されている（図 13）。

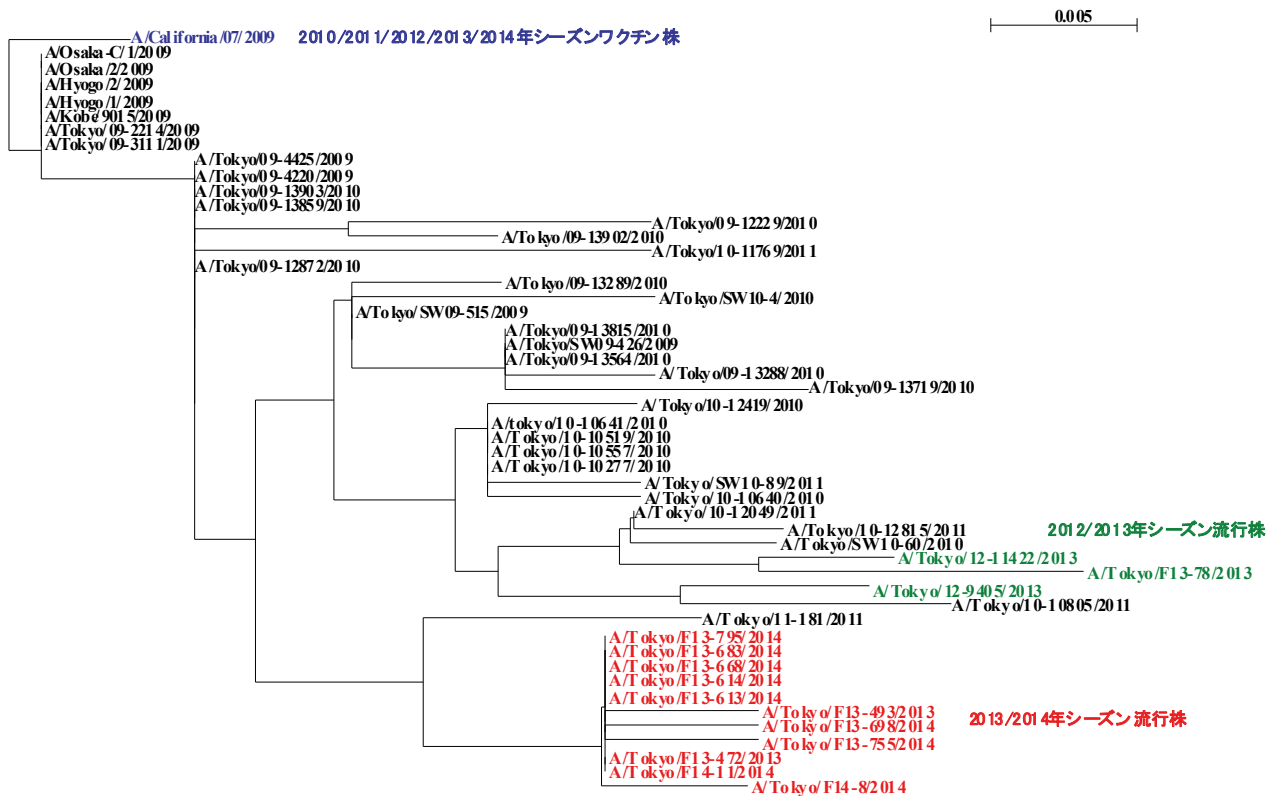


図 12. 東京都における AH1pdM09 インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

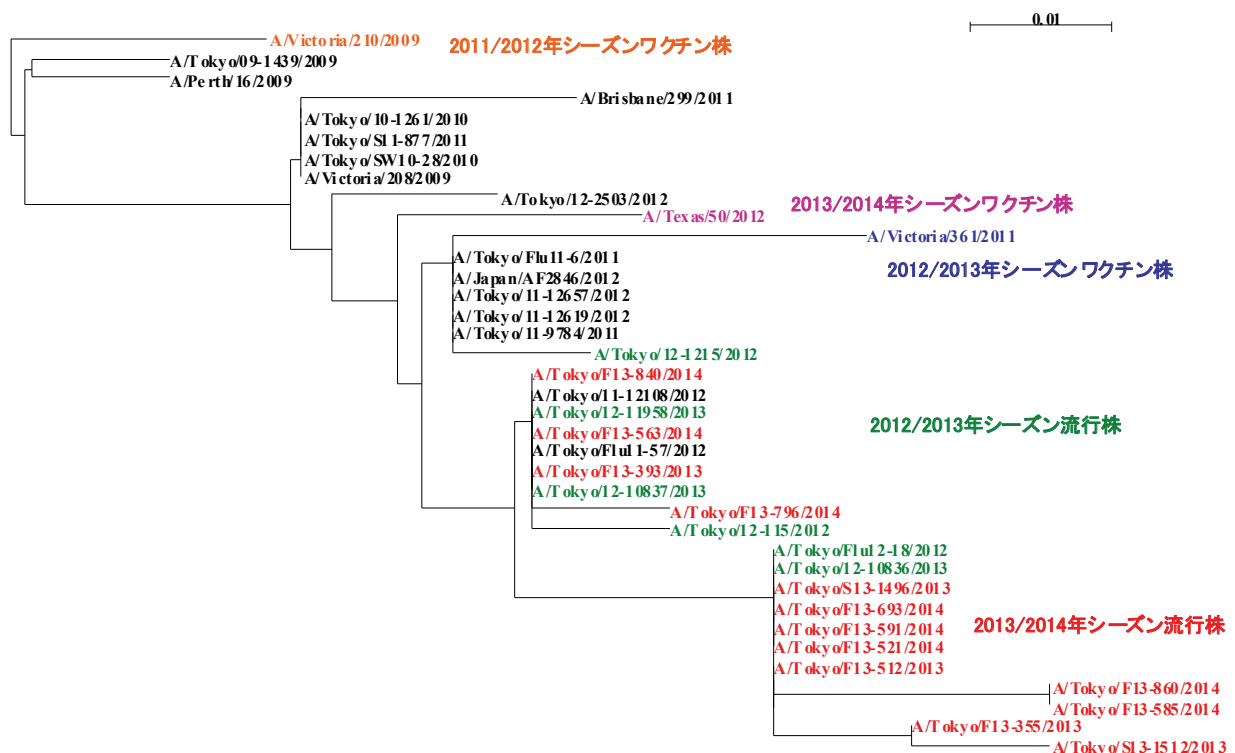


図 13. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

図 13. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

2013/2014 年シーズンの B 型流行株は昨年と同様に Victoria 系統株と Yamagata 系統株が混在して流行した。流行規模は小さいが、シーズンを通して両系統株が検出され、AH1pdm09 及び AH3 亜型の流行に重なる形で小流行が確認された。B 型の流行は A 型の流行が落ち着いた後も続いている。2013/2014 年シーズンの B 型流行株のうち、Victoria 系統の流行株は系統樹上で 2 つのグループに分かれ、2010～2012 年シーズンワクチン株であった B/Brisbane/60/2008 株と同じグループに属する株と昨シーズンに流行した株が属するグループとに分かれた。ワクチン株と同じグループに属す株は、解析領域でのワクチン株とのアミノ酸変異は 1 個であり、98.5%のアミノ酸相同性であった。一方、ワクチン株と異なるグループに属す株は解析領域でのワクチン株とのアミノ酸変異は 1～3 個だったものの、アミノ酸相同性は 95.5%～98.5%であった（図 14）。

また、Yamagata 系統の流行株も 2013/2014 年シーズンワクチン株（B/Massachusetts/2/2012）と同じグループに属す株と 2012/2013 年シーズンワクチン株（B/Wisconsin/01/2010）と同じグループに属す株との 2 グループに分かれた。今シーズンのワクチン株と比較すると、ワクチン株と同じグループに属す株のアミノ酸変異相同性は 100%で合致していた。昨シーズンのワクチン株グループに属す株は、解析領域でのワクチン株とのアミノ酸変異は 3～5 個であり、アミノ酸相同性は 92.5%～95.5%と若干低下していた。しかし、昨シーズンの流行株の再発生または流行株の継続流行と考えられ、今シーズンのワクチン近縁株への移行が予想に反して少なかったと推察された。今シーズンの B 型の流行も Victoria 系統に比べ、Yamagata 系統の株が優勢であったことから、WHO の 2014/2015 年シーズンの 3 価ワクチン推奨株には B/Massachusetts/2/2012 が選定されている（図 14）。

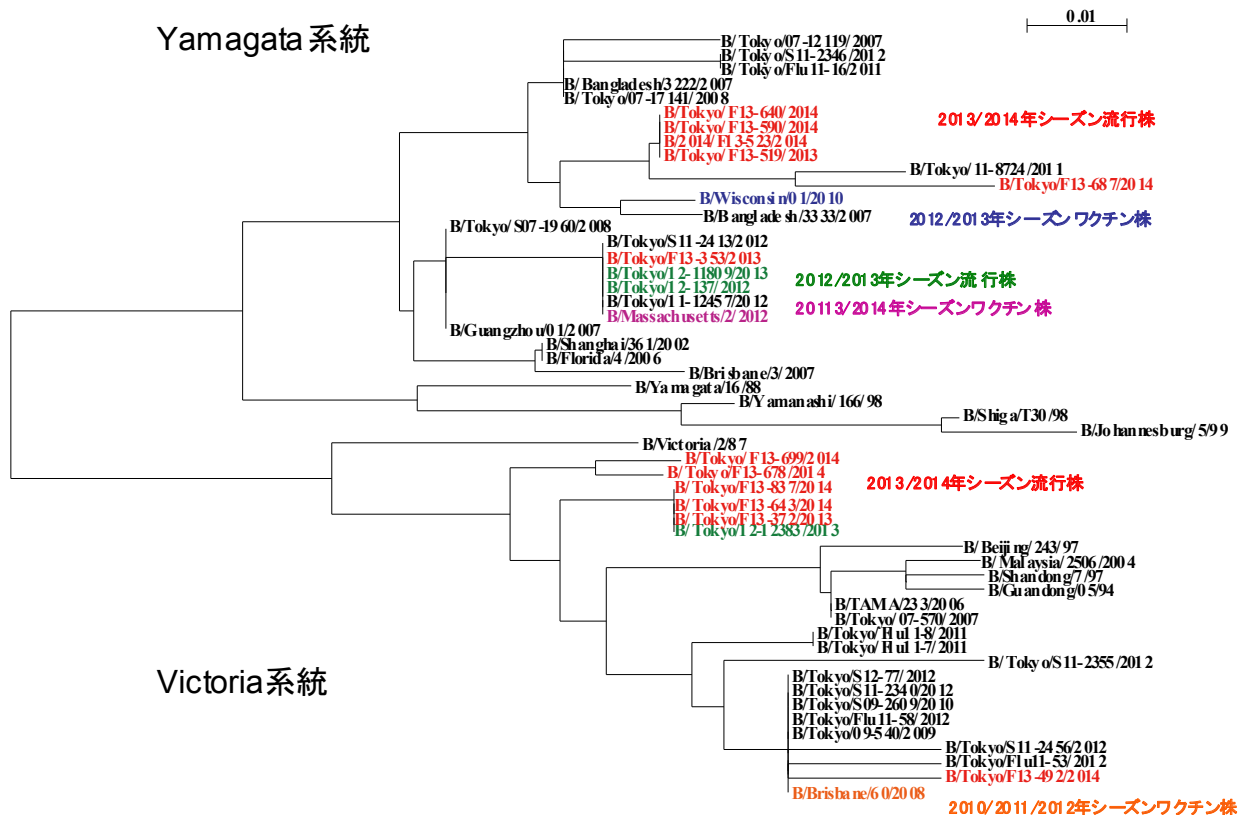


図 14. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

② ワクチン株抗血清を用いた HI 試験による抗原性状の比較

分離ウイルス株を国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキット及びデンカ生研製のワクチン株抗血清を用いた HI 試験（0.75%モルモット赤血球浮遊液を使用）を行った結果、AH1pdm09 分離株は、A/California/7/2009 株抗血清（ホモ HI 価 1,280 倍）に対し、10 倍から 1280 倍に広く分布した HI 価を示した。10 倍から 20 倍と 80 倍から 640 倍の間の HI 価が多く得られ、反応性が低い株が見られたことからワクチン株の抗原性から乖離した株が含まれていたことが示唆された。AH3 亜型分離株は、A/Texas/50/2012 株抗血清（ホモ HI 価 640 倍）に対して 10 倍から 640 倍の HI 価が得られた。その多くは 40 倍から 80 倍を示すものだったが、抗血清との反応性は良好で HI 試験による判定が問題なく行えた。Victoria 系統の B 型分離株は、B/Brisbane/60/2008 株抗血清（ホモ HI 価 320 倍）に対して、40 倍から 80 倍の HI 価を示し、型別を良好に行うことができた。また、Yamagata 系統の B 型分離株は、B/Massachusetts/02/2012 株抗血清（ホモ HI 価 320 倍）に対して 20 倍から 160 倍の HI 価を示し、型別同定に問題はなかった。しかし、一部の分離株がワクチン株抗血清に反応せず、昨シーズンのワクチン株である B/Wisconsin/01/2010 株抗血清（ホモ HI 価 320 倍）に対して 40 倍及び 80 倍の HI 価を示した。これらのことから、Yamagata 系統の B 型は、今シーズンのワクチン株及び昨シーズンワクチン類似株の 2 種類が存在していたことが示唆された。

③ 2013/2014 年シーズンに流行したインフルエンザウイルスの抗原解析結果

遺伝子解析及び HI 試験の結果から、2013/2014 年シーズンの AH1pdm09 流行株の大多数がワクチン株と同等の抗原性を有していたことが推察された。しかし、一部にワクチン株との交差反応性が低下した株が確認されたことから、抗原性の若干異なる株が同時期に出現していたと考えられる。

AH3 亜型流行株は、ワクチン株を含む枝の中に存在しているものの、遺伝子配列において変異の幅が大きくなっている株が確認されている。ワクチン株との交差反応は損なわれてはいないことからワクチン株により誘導される抗インフルエンザ抗体の反応性は高いことが推察され、ワクチン株が高い免疫性を得るために十分に機能していたと考えられる。

一方、B 型流行株は、系統樹上の解析により Victoria 系では前シーズンワクチン近縁株と B/Victoria/2/87 株に近縁なクレードの株が、Yamagata 系ではワクチン株と昨シーズンのワクチン株に近縁な株が流行していたことが判明しており、計 4 種類の流行株がほぼ同時に発生していたことが明らかとなっている。Victoria 系統流行株は前シーズンワクチン株である B/Brisbane/60/2008 株抗血清に対して交差反応性があることから抗原性に大きな変異はないものと推察された。しかし、Yamagata 系統の流行株では、ワクチン株抗血清（B/Massachusetts/02/2012）と交差反応が得られなかった株がみられており、今シーズンのワクチン株では B 型株の予防対策として十分ではなかった可能性が考えられた。

近年、B 型は Victoria 系、Yamagata 系の 2 種類の株が同時に流行しており、日本におけるインフルエンザワクチンも AH1pdm09、A/H3 亜型、B 型 2 系統の 4 種類のウイルス抗原からなる 4 価ワクチン導入の必要性が増々高まってきていると思われる。

2 細菌検査結果

(1) 三類感染症の病原体検索

ア コレラ

5 歳女児から検出された、コレラ菌を疑う菌株について病原性および型別試験を実施した結果、コレラ菌は否定され、NAG ビブリオと同定された。

イ 腸管出血性大腸菌感染症

胃腸炎（下痢症）患者から分離された大腸菌 5 株について、病原性及び血清型別試験を実施した。その結果、2 株が腸管出血性大腸菌 O26（VT1 産生）と同定され、残り 3 株は毒素（VT）非産生性の大腸菌 O111 であった。

(2) 四類感染症の病原体検索

ア ブルセラ症

ブルセラ症疑い患者 2 名について、血清からのブルセラ抗体検出を行った。2 検体の血清からは、抗ブルセラ・アボルタス、抗ブルセラ・カニス抗体は検出されなかった。

イ レジオネラ症

当センターに搬入されたレジオネラ症患者の喀痰等 6 件、患者由来株 3 株の合計 9 件について、病原体検索または同定検査を実施した。喀痰等から菌の検出を実施した結果、3 件から *Legionella pneumophila* の遺伝子が検出され、1 件から *L. pneumophila* が分離された。患者由来株 4 株（喀痰由来株を含む）について血清型別試験を実施した結果、4 株すべてが 1 群であった。

ウ レプトスピラ症

レプトスピラ症疑い患者 2 名について、1 名は尿からの病原体検索、1 名は血清からのレプトスピラ抗体の検出を行った。尿検体からは、レプトスピラ *flaB* 遺伝子は検出されなかった。また、血清についても、当センターで保有する 7 つの血清型に対するレプトスピラ抗体は検出されなかった。

(3) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

搬入された患者由来株は 19 株（16 例）で、A 群レンサ球菌が 13 株（11 例）、G 群レンサ球菌が 6 株（5 例）であった。A 群レンサ球菌 19 株の T 血清型は、1 型：2 株、6 型：1 株、12 型：2 株、B3264 型：5 株、型別不能：2 株であった。A 群レンサ球菌の 1 株及び G 群レンサ球菌 6 株は、すべて *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* であった。

また、M タンパクをコードする遺伝子型である emm 型別の結果、89 型（5 株）が最も多く、次いで stG6792（3 株）、1 型・12 型・58 型及び stG480 型がそれぞれ 2 株ずつ、6 型・stG245 型・stG4947 型が各 1 株であった。

イ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

今年度から対象疾患として定められた本感染症で、2013 年 4 月から 12 月に搬入された患者由来株は 1 株であり、インフルエンザ菌の莢膜抗原血清型別の結果、型別不能であった。

ウ 侵襲性髄膜炎菌感染症

髄膜炎菌性髄膜炎から侵襲性髄膜炎菌感染症として今年度から改定された本疾患の由来菌株は、6株搬入された。PCR法による型別の結果、C群が1株、Y群が4株、W135群が1株であった。

エ 侵襲性肺炎球菌感染症

今年度から対象疾患として定められた本感染症で、2013年4月から12月に搬入された患者由来株は15株（13例）であり、肺炎球菌の莢膜抗原血清型別及びペニシリンに対する薬剤感受性試験を実施した。その結果、血清型については、19A型が5株（5例）、24F型が5株（4例）、15A型が3株（2例）、3型及び23A型がそれぞれ1株ずつであった。

また、ペニシリンに対する薬剤感受性試験の結果、ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）は、15株中7株であった。

オ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

搬入された菌株は患者由来株4株であり、その内 *Enterococcus faecium* が2株、*E. faecalis* 及び *E. casseliflavus* が各1株であった。*E. faecium* 及び *E. faecalis* はいずれも *vanA* 遺伝子を保有し、*E. casseliflavus* は *vanC* のみ保有していた。

（4）五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

当センターに搬入された、都内の小児科定点及び基幹定点医療機関の患者由来A群溶血性レンサ球菌61株について型別試験及び薬剤感受性試験を実施した。その結果、受付月別菌株数及びT血清型別の結果は表1のとおりであった。

10薬剤について薬剤感受性試験を実施した結果、5薬剤（ABPC：アンピシリン・CFDN：セフジニル・CEX：セファレキシン・CDTR：セフジトレン・CP：クロラムフェニコール）に対してはすべて感受性であった。一方、残りの5薬剤（TC：テトラサイクリン・EM：エリスロマイシン・CAM：クラリスロマイシン・LCM：リンコマイシン・CLDM：クリンダマイシン）に対しては耐性がみられ、特にEM及びCAM耐性株が57%と高い値であった。

表4. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から分離された *S. pyogenes* のT血清型及び月別受付状況

T型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 ₁ (%)
1		1				1				1	1	2	6 ₁ (9.8)
4	4	1	2		1	1			2		5		16 ₁ (26.2)
6			1	1			1				1	1	5 ₁ (8.2)
9						1							1 ₁ (1.6)
11				1	2		1		1				5 ₁ (8.2)
12	1	1	4	2						1	1		10 ₁ (16.4)
28	2			1					1				4 ₁ (6.6)
B3264			1	2	2	1					4		10 ₁ (16.4)
UT*		2									1	1	4 ₁ (6.6)
計	7	5	8	7	5	4	2	0	4	2	13	4	61 ₁ (100)

*UT：型別不能

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 24 件について細菌検査を実施した。その結果、4 件 (16.7%) から腸管系病原菌が検出された。その内訳は、全てカンピロバクター (*C. jejuni*) であった。患者年齢階級別病原体の検出状況を表に示した。

表 5. 感染性胃腸炎患者からの年齢階級別腸管系病原菌検出状況

年齢階級	検査件数	検 出 病 原 菌
		カンピロバクター
1歳未満	3	
1 - 4歳	5	
5 - 9歳	3	1
10 - 14歳	2	
15 - 19歳	5	2
20歳以上	6	1
不明	0	
計	24	4
(%)		(16.7)

ウ 百日咳

都内の小児科定点及び基幹定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁及び鼻腔拭い液が 26 検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、3 検体から百日咳菌遺伝子が検出されたが、百日咳菌は分離されなかった。百日咳菌以外には黄色ブドウ球菌などが分離された。

エ マイコプラズマ肺炎

都内の小児科定点及び基幹定点医療機関からマイコプラズマ肺炎疑い患者の咽頭拭い液が 32 検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、4 検体から肺炎マイコプラズマ遺伝子が検出され、2 株の肺炎マイコプラズマが分離された。

オ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症

都内の小児科定点及び基幹定点医療機関からの搬入検体を対象に、MRSA 等の検索を実施した。分離された黄色ブドウ球菌 37 株について、薬剤感受性、コアグララーゼ型別 (コ型と略す)、エンテロトキシン (SE と略す) 産生性及び Toxic shock syndrome toxin-1 (TSST-1 と略す) 産生性の試験を実施した。その結果、MRSA は 8 株、MSSA は 29 株であった。MRSA の型別結果は、コ型Ⅲが 6 株であり、そのうち SEC+TSST-1 産生性株が 3 株、SEA+SEC+TSST-1 産生株・SEA+SEC 産生株及び非産生株が各 1 株ずつであり、コ型Ⅰ及びⅤは各 1 株ずつで、いずれも毒素非産生株であった。

3 性感染症病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

2013年1月から12月に、都内4ヶ所の性感染症（STI）病原体定点より搬入された検体について、クラミジア、淋菌、トリコモナス、パピローマウイルス及びヘルペスウイルス等の病原体検出・型別を行うとともに、男女、年齢別及び臨床診断別等の検出状況を調査した。

（1）クラミジア、淋菌遺伝子検査及び細菌分離・同定

STI 病原体定点医療機関より搬入された 390 例について検査を実施した。搬入検体の内訳は、男性の陰部尿路擦過物（スワブ）82 例及び尿 301 例の合計 383 例、及び性別不明の子宮頸管擦過（分泌）物または陰部尿路擦過物（スワブ）2 例、尿 5 例の合計 7 例であった。女性由来の検体は搬入されなかった。

遺伝子検査については各検体から核酸抽出後、クラミジア・トラコマチス及び淋菌遺伝子の検索を PCR 法（コバス法）または TMA 法（パンサー法）で実施した。また、クラミジア・トラコマチス血清型検査は遺伝子検査で陽性となった検体を対象とし、新たにゲノム DNA を抽出し、血清型特異抗原となる主要外膜蛋白遺伝子（*omp1*）の可変領域を挟む共通プライマーにより PCR 法で増幅後、その塩基配列を決定し、NCBI（米国生物工学情報センター）の核酸データベースにおける BLAST 検索、ならびに系統樹解析により血清型を判定した。

淋菌及びその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地及びサイヤー・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。同定された淋菌については薬剤感受性試験を行った。

搬入された検体の年齢構成及び検査成績を表 6 に示した。クラミジア・トラコマチス遺伝子は男性 107 例（27.9%）、性別不明 1 例（14.3%）から、淋菌遺伝子は男性 94 例（24.1%）、性別不明 3 例（42.9%）から検出され、両遺伝子が共に検出された例は、男性で 19 例あった。

淋菌遺伝子が検出された 97 例のうち、男性 36 例、性別不明 1 例から淋菌が分離され、淋菌分離率は 37.0%、全検体における分離率は 9.5%であった。その他の菌は、それぞれ男性から髄膜炎菌が 4 例（1.0%）、インフルエンザ菌が 1 例（0.3%）、パラインフルエンザ菌が 1 例（0.3%）分離された。

男性において、20～40 代でクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された例が全検出例中 83.0%、淋菌遺伝子が検出された例が全検出例中 90.4%、淋菌が分離された例が全検出例中 91.7%を占めていた。

表 6. 性感染症病原体定点検体の年齢階級別内訳と検査成績

	年齢群	検査数	遺伝子検査		細菌分離			
			クラミジア・トラコマチス	淋菌	淋菌	髄膜炎菌	インフルエンザ菌	パラインフルエンザ菌
男性	10代	8	6	2				
	20代	101	31	29	12		1	
	30代	128	33	32	12	3		
	40代	95	24	24	9	1		1
	50代	34	9	4				
	60代	15	3	2	2			
	70代	2		1	1			
	計	383	106	94	36	4	1	1
不明	20代	1						
	不明	6	1	3	1			
	計	7	1	3	1			
合計		390	107	97	37	4	1	1

臨床診断別の病原体検査成績を表 7 に示した。

男性では、臨床診断が尿道炎の 328 例中 99 例（30.2%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。また、47 例（14.3%）から淋菌遺伝子が検出され、うち 12 例から淋菌が分離された。この他 3 例（0.9%）から髄膜炎菌が分離され、1 例（0.3%）からインフルエンザ菌、1 例（0.3%）からパラインフルエンザ菌が分離された。

淋菌性尿道炎では 53 例中 50 例（94.3%）から淋菌遺伝子が検出され、うち 24 例から淋菌が分離された。また、7 例（13.2%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、1 例（1.9%）から髄膜炎菌が分離された。尿道炎・前立腺炎と診断された 1 例からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。

性別不明例では、尿道炎と診断された 6 例中 1 例（16.7%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、2 例（33.3%）から淋菌遺伝子が検出された。淋菌性尿道炎と診断された 1 例から淋菌遺伝子が検出され、淋菌が分離された。

表 7. 臨床診断別の病原体検査成績

	臨床診断 (疑い例含む)	検査数	遺伝子検査		細菌分離			
			クラミジア・ トラコマチス	淋菌	淋菌	髄膜炎菌	インフル エンザ菌	パラインフル エンザ菌
男性	尿道炎	328	98	45	12	3	1	1
	淋菌性尿道炎	53	7	49	24	1		
	前立腺炎	1						
	尿道炎・前立腺炎	1	1					
	計	383	106	94	36	4	1	1
不明	尿道炎	6	1	2				
	淋菌性尿道炎	1		1	1			
	計	7	1	3	1			
合計		390	107	97	37	4	1	1

クラミジア・トラコマチス遺伝子陽性の 107 例のうち、遺伝子検査により血清型が同定出来たのは 101 例あった。その型別判定の内訳を表 8 に示した。

クラミジア・トラコマチスは、血清型に基づいて A～L 型に分類され、アフリカやアジア等のトラコーマ流行地において多く検出されるトラコーマ型の A～C 型、トラコーマ非流行地で主に検出される性器クラミジア感染症型の D～K 型、鼠径リンパ肉芽腫症の起因菌となる L 型にそれぞれ分けられている。

2013 年の結果は、D、E、F の 3 つの型の合計で 57.4%であり、2012 年と同様に過半数を占めていた。またトラコーマ型の Ba 型が 5 例検出された。この他、性器クラミジア感染症型の G～K 型もそれぞれ検出されたが、鼠径リンパ肉芽腫症型である L 型は検出されなかった。

表 8. クラミジア・トラコマチスの血清型別成績

検体数	血清型								
	B および Ba	D および D/Da	E	F	G	H	I, Ia および I/Ia	J	K
101	5	17	24	17	11	8	6	6	7
%	5.0	16.8	23.8	16.8	10.9	7.9	5.9	5.9	6.9

分離された淋菌 37 株の薬剤耐性試験の結果を表 9 に示した。ペニシリンでは最小発育阻止濃度が中等度（0.12μg/ml）以上の耐性株は 34 株（91.9%）あった。テトラサイクリンでは中等度（0.5μg/ml）以上の耐性株は 27 株（73.0%）であった。シプロフロキサシンでは耐性株（≥ 1μg/ml）は 25 株（67.6%）であった。セフロキシムでは中等度（2μg/ml）以上の耐性株は 18 株（48.6%）あった。セフトアキシム、セフトリアキソン及びスペクチノマイシンはすべての株が感受性を示した。

表 9. 淋菌分離株（37 株）の薬剤感受性

	ペニシリン	テトラサイクリン	シプロフロキサシン	セフロキシム	セフトアキシム	セフトリアキソン	スペクチノマイシン
薬剤感受性	PCG	TC	CPFX	CXM	CTX	CTRX	SPCM
耐性	0	3	25	15	0	0	0
中等度耐性	34	24	0	3	0	0	0
低感受性	0	0	0	0	0	0	0
感受性	3	10	12	19	37	37	37

（２）ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査

STI 病原体定点医療機関から 70 検体（陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマ部位擦過物、または尖圭コンジローマ患部生検材料）が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法による HPV 遺伝子の検出を行った。標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価（High 及び Low リスク）に基づいて分類した。

その結果、70 検体中 53 検体（75.7%）から HPV 遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16、51、52 型などの High リスク群に分類されたものは 11 検体（15.7%）、6、11、54 型などの Low リスク群に分類されたものは 29 検体（41.4%）であった。また、11 検体（15.7%）から同時に 2 種類の HPV 遺伝子型を検出し、2 検体（2.9%）から同時に 3 種類の HPV 遺伝子型を検出した。

（３）単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査

STI 病原体定点医療機関から 152 検体（主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、または水泡内容物）が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象としたリアルタイム PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。

その結果、152 検体中 24 検体（15.8%）から HSV-1 型、31 検体（20.4%）から HSV-2 型の遺伝子を検出した。また、HSV-2 型が検出された 1 検体では同時に HPV 遺伝子型を検出した（HPV6 型、HPV55 型及び HPV56 型）。

第 3 章

資 料

2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

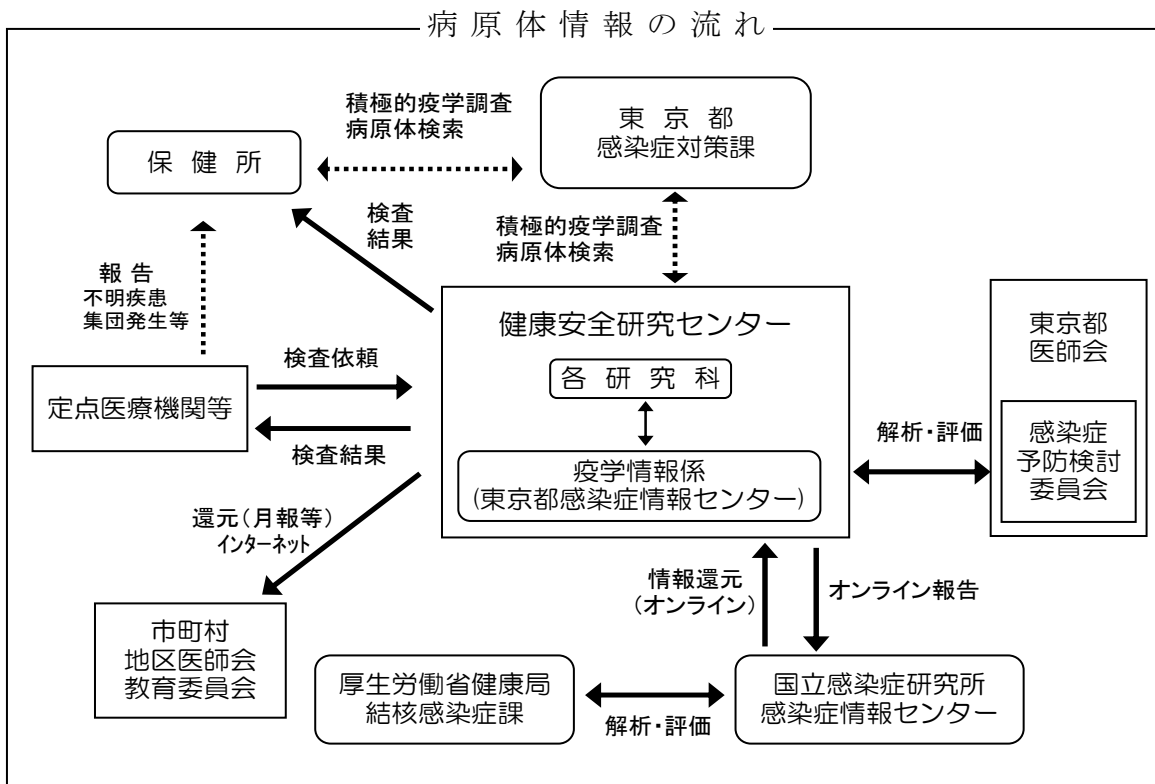
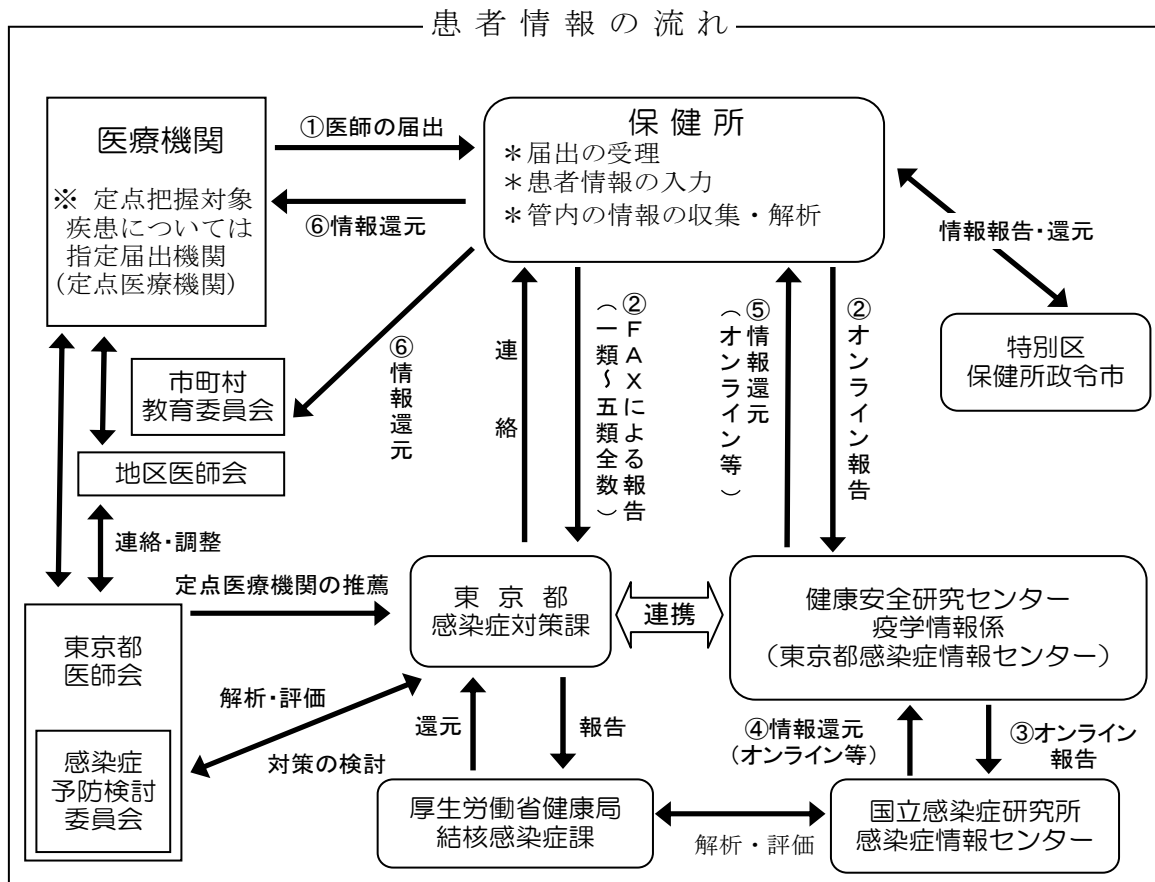
2013年12月31日現在 : 順不同

氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	幡多希望の家理事長、元東京都健康局技監
○ 岡 部 信 彦	川崎市健康安全研究所長
○ 沼 口 俊 介	練馬区医師会（東京小児科医会）
永 井 英 明	独立行政法人国立病院機構東京病院外来診療部長
尾 形 英 雄	（財）結核予防会複十字病院副院長
山 川 博 之	江戸川保健所長
大 井 洋	町田市保健所長
味 澤 篤	東京都立駒込病院感染症科部長
中 村 重 信	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
杉 下 由 行	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症疫学センター客員研究員
渡 瀬 博 俊	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
長 谷 川 潤	荒川区医師会
北 村 邦 夫	一般社団法人 日本家族計画協会 専務理事 家族計画研究センター所長（東京産婦人科医会）
黒 澤 サト子	北多摩医師会（東京小児科医会）
井 上 賢 治	神田医師会（東京都眼科医会）
遠 藤 弘 良	東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授
平 山 宗 宏	（社福）恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長
池 田 忠 生	NPO法人 日本パスツール協会副会長
角 田 徹	東京都医師会理事（疾病担当）

◎委員長

○副委員長

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 25 福保健感第599号

平成25年10月11日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ感染症のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関（定点）

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成25年9月30日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1-1から2-1、2-3から4-4 3及び6-1並びに本要綱の別記様式1 1を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5-1から5-1 4-2、及び本要綱の別記様式9を用いて、7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受け

た場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の79から91までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の92に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型イ

ンフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。)については、前記(ア)で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関(主として内科医療を提供しているもの)を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の93及び94に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関(主として眼科医療を提供しているもの)を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の95から100までに掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科(産婦人科系)、医療法施行令(昭和二十三年政令第三百二十六号)第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標ぼうする医療機関(主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの)を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の92に掲げるインフルエンザ(届出基準はインフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定される)、別表1の101から108までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

(ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの(ア)により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

(ウ) アの(ア)及び(イ)により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とする。

(エ) アの(ウ)により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(オ) アの(エ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(カ) アの(オ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定し、別表4に掲げるものを対象感染症とする。

(3) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式2から7に記載する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては、法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式 1（インフルエンザ定点については別記様式 8）の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ 保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式 1 の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

(ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

(イ) 疑似症単独定点

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表 3 のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位

の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式 10 に記載する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式 2 又は別記様式 3 による報告を行う。

(ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（以下「K-net」という。）へ入力する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で K-net への入力による報告を行う。

イ 保健所

(ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-net へ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。

(2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成１６年８月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１８年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１８年６月１２日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１９年６月１５日から施行し、同年４月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年１月３１日から施行し、同年１月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年７月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２２年３月１６日から施行し、同年３月１１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年２月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年９月５日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年５月２２日から施行し、同年５月６日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年１０月１４日から施行する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別	時 期
一 類	1	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2	クリミア・コンゴ出血熱					
	3	痘そう					
	4	南米出血熱					
	5	ペスト					
	6	マールブルグ病					
	7	ラッサ熱					
二 類	8	急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9	結核	○	○	△※		
	10	ジフテリア	○	—	○		
	11	重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウ イルスであるものに限る)	○	○	○		
	12	鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
三 類	13	コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	14	細菌性赤痢	○	—	○		
	15	腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	16	腸チフス	○	—	○		
	17	パラチフス	○	—	○		
四 類	18	E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
	19	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	20	A型肝炎	○	—	○		
	21	エキノкокクス症	○	—	○		
	22	黄熱	○	—	○		
	23	オウム病	○	—	○		
	24	オムスク出血熱	○	—	○		
	25	回帰熱	○	—	○		
	26	キャサナル森林病	○	—	○		
	27	Q熱	○	—	○		
	28	狂犬病	○	—	○		
	29	コクシジオイデス症	○	—	○		
	30	サル痘	○	—	○		
	31	重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスで あるものに限る。)	○	—	○		
	32	腎症候性出血熱	○	—	○		
	33	西部ウマ脳炎	○	—	○		
	34	ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	35	炭疽	○	—	○		
	36	チクングニア熱	○	—	○		
	37	つつが虫病	○	—	○		
	38	デング熱	○	—	○		
	39	東部ウマ脳炎	○	—	○		
	40	鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○		
	41	ニパウイルス感染症	○	—	○		
	42	日本紅斑熱	○	—	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
四 類	43 日本脳炎	○	—	○		
	44 ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
	45 Bウイルス病	○	—	○		
	46 鼻疽	○	—	○		
	47 ブルセラ症	○	—	○		
	48 ベネズエラウマ脳炎	○	—	○	全数	直ちに
	49 ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
	50 発しんチフス	○	—	○		
	51 ボツリヌス症	○	—	○		
	52 マラリア	○	—	○		
	53 野兔病	○	—	○		
	54 ライム病	○	—	○		
	55 リッサウイルス感染症	○	—	○		
	56 リフトバレー熱	○	—	○		
	57 類鼻疽	○	—	○		
	58 レジオネラ症	○	—	○		
	59 レプトスピラ症	○	—	○		
	60 ロッキー山紅斑熱	○	—	○		

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
指定感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	○	○	○	全数	直ちに

2 五類感染症（全数把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
61	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
62	ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	○	—	—		
63	急性脳炎 （ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）	○	—	—		
64	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
65	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
66	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
67	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
68	ジアルジア症	○	—	—		
69	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—		
70	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—		
71	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—		
72	先天性風しん症候群	○	—	—		
73	梅毒	○	—	○		
74	破傷風	○	—	—		
75	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
76	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
77	風しん	○	—	—		
78	麻しん	○	—	—		

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別	時 期
110	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
111	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別 (定点)	時 期
79	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
80	咽頭結膜熱	○	—	—		
81	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
82	感染性胃腸炎	○	—	—		
83	水痘	○	—	—		
84	手足口病	○	—	—		
85	伝染性紅斑	○	—	—		
86	突発性発しん	○	—	—		
87	百日咳	○	—	—		
88	ヘルパンギーナ	○	—	—		
89	流行性耳下腺炎	○	—	—		
90	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		
91	川崎病 (都単独)	○	—	—		
92	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
93	急性出血性結膜炎	○	—	—		
94	流行性角結膜炎	○	—	—		
95	性器クラミジア感染症	○	—	—		
96	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
97	尖圭コンジローマ	○	—	—		
98	淋菌感染症	○	—	—		
99	膣トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
100	梅毒様疾患 (都単独)	○	—	—		
101	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	○	—	—		
102	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	○	—	—		
103	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)	○	—	—		
104	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
105	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
106	無菌性髄膜炎	○	—	—		
107	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
108	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—		
109	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届 出 対 象	届 出 対 象 者			調 査 単 位 (期間)	時 期
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
112	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	—	○	—	別表3参照	
113	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

別表 2

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	疾 患 名	調査単位 (期間)	時 期
小児科定点 ※	RSウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。 以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感染症定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症 (都単独)		
基幹定点	梅毒様疾患 (都単独)	週単位	次の月曜日
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		
疑似症定点	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水疱		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

別表 3

疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水疱		

- (注) 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

基幹定点医療機関（病原体定点）において検体を採取する対象感染症

1	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）
2	クラミジア肺炎（オウム病を除く。）
3	細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）
4	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
5	マイコプラズマ肺炎
6	無菌性髄膜炎
7	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
8	薬剤耐性アシネトバクター感染症
9	薬剤耐性緑膿菌感染症

別記様式一覧表

番 号	件 名 等
別記様式 1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式 2	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票
別記様式 3	五類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票
別記様式 4	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票
別記様式 5	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票
別記様式 6-1・6-2	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（週報告分）
別記様式 7	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（月報告分）
別記様式 8	インフルエンザ検査票（内科病原体定点用）
別記様式 9	麻しん発生届
別記様式10	疑似症定点報告票
別記様式11	結核発生届
別記様式12	感染症発生動向調査病原体定点検査票 インフルエンザ入院患者用 （基幹定点報告疾患）

感染症発生動向調査病原体定点検査票

【医療機関記入欄】

医療機関名	
医師名	
診断名	

センター検体受付日	センター収受番号	検体番号

ID (イニシャル)

居住地

区市町村

発病日 年 月 日 検体採取日 年 月 日 性別 男・女 年齢 歳 カ月

検体	・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・結膜ぬぐい液（結膜擦過物、眼脂） ・その他 []	・髄液 ・皮膚病巣（水疱内容、痂皮、創傷） ・陰部尿道頸管擦過物／分泌物 ・血液（全血、血清、血漿）
----	---	---

臨床症状・兆候等	・発熱（最高 ℃） ・頭痛 ・筋肉痛、関節痛（関節炎） ・上気道炎（咽頭炎／痛、扁桃炎） ・下気道炎（肺炎、気管支炎） ・口内・咽頭所見（ ） ・発疹（丘疹、紅斑、バラ疹、水疱） ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹（部位 ） （上記以外の症状は、下の備考欄へ記載してください。）	・胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛） ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・髄膜炎、意識障害 ・中枢神経系症状（脳炎、脳症、髄膜炎） ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・腎機能障害 ・尿路生殖器症状（排尿時痛、かゆみ、膿） ・コンジローマ ・下腹部痛
----------	--	--

転 帰 経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡（原因）

 発生の状況
 ・散発 ・地域流行 ・家族内発生
 ・集団発生（保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 []）

最近の海外渡航歴
 国名 期間 年 月 日 ～ 年 月 日

ワクチン接種歴（当該疾患に係るもの）
 （無、有、不明）
 ワクチン名
 最近の接種年月日
 年 月 日

備考欄（主治医等からの連絡事項、詳細な症状、動物との接触など）

【健康安全研究センター記入欄】

報告年月日

年 月 日

結果	センター記入欄につき ここには記入しないで下さい。
----	------------------------------

検出方法	・抗体検出（蛍光、EIA、イムノブロット、その他 []） ・分離培養（培養細胞：細胞名 []、人工培地、発育鶏卵、動物、その他 []） ・抗原検出等（蛍光、EIA、イムノクロマト、凝集反応（RPHA、LA、PA、その他）、その他 []） ・遺伝子検出 増幅（PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他 []） ・鏡検
------	---

(1) 複写 1組6枚（病原体定点検）

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ～ 月 日(日)

医療機関名：

年齢 疾患名		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20歳 以上	合 計
R S ウ イ ル ス 感 染 症	男															
	女															
咽 頭 結 膜 熱	男															
	女															
A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	男															
	女															
感 染 性 胃 腸 炎	男															
	女															
水 痘	男															
	女															
手 足 口 病	男															
	女															
伝 染 性 紅 斑	男															
	女															
突 発 性 発 し ん	男															
	女															
百 日 咳	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流 行 性 耳 下 腺 炎	男															
	女															
不 明 発 し ん 症	男															
	女															
川 崎 病	男															
	女															

注1) 川崎病、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です。

注2) 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず、届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検案した場合に届出を行うこと。

年齢 疾患名		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20 ～29
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフル エンザ等感染症 を の ぞ く)	男														
	女														
		30 ～39	40 ～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80歳 以上	合 計							
	男														
	女														

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
※			

※注

- 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
- 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

週報

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	合計
	男																				
インフルエンザ （鳥インフルエ ンザ及び新型イ ンフルエンザ等 感染症をのぞ く）																					
	女																				

疑似症 ※	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計

※注

- 1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
- 2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

		0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳 以上	合計
急性出血性 結膜炎	男																				
	女																				
流行性角結膜炎	男																				
	女																				

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（S T I 定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

		0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上	合計
性器クラミジア 感染症	男																	
	女																	
性器ヘルペス ウイルス感染症	男																	
	女																	
尖圭コンジローマ	男																	
	女																	
淋菌感染症	男																	
	女																	
膺トリコモナス症	男																	
	女																	
梅毒様疾患	男																	
	女																	

定点医療機関からのコメント

感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法 **	検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	

* 疾病名

- 1：細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）
2：無菌性髄膜炎（真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む）
3：マイコプラズマ肺炎
4：クラミジア肺炎（全数届出疾患のオウム病を除く）
5：感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）

** 病原体検査方法

- 1：分離・同定 2：抗原検出 3：核酸検出（PCR・LAMP等）
4：塗抹鏡鏡 5：電顕 6：抗体検出
7：その他

<記載上の注意>

- ・細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎：病原体が判明している場合は、その病原体名（複数検出された場合は、主要なもの一種のみ記載）、その結果を得た病原体検査方法（複数の場合は、最も根拠となった方法一つを選択）及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください（病原体検査欄の記載は不要）。
- ・マイコプラズマ肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法（1、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。
- ・クラミジア肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法（1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。
- ・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）：病原体検査診断が必須。病原体名称欄にロタウイルスと記載の上、病原体検査方法（1、2、3、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。 ※基幹定点として指定されている医療機関が小児科定点として指定されている場合、感染性胃腸炎の届出も行うこと。

感染症発生動向調査（基幹定点）
（インフルエンザによる入院患者の報告）

週 報

インフルエンザによる入院患者がいない場合でも、0報告であってください。

調査期間 平成 年 月 日～ 年 月 日

医療機関名

ID 番号	性別	年齢 (0歳は月齢)	入院時の対応					備考
			ICU入室	人工呼吸器 の利用	頭部CT検査 (予定含む)	頭部MRI検査 (予定含む)	脳波検査 (予定含む)	いずれにも 該当せず
1	男・女							
2	男・女							
3	男・女							
4	男・女							
5	男・女							
6	男・女							
7	男・女							
8	男・女							
9	男・女							
10	男・女							
11	男・女							
12	男・女							
13	男・女							
14	男・女							
15	男・女							

<記載上の留意>

- インフルエンザに罹患し、入院した患者（院内感染を含む）を報告してください
- 入院時の患者対応については、該当する項目欄の全てに○を記入してください

感染症発生動向調査（基幹定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名*	検体採取部位**
1			1 2 3 4	
2			1 2 3 4	
3			1 2 3 4	
4			1 2 3 4	
5			1 2 3 4	
6			1 2 3 4	
7			1 2 3 4	
8			1 2 3 4	
9			1 2 3 4	
10			1 2 3 4	

- * 疾病名（番号を○で囲む）
1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
3：薬剤耐性緑膿菌感染症
4：薬剤耐性アシネトバクター感染症
- ** 検体採取部位
複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

1. 麻しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をしていただくこととなっておりますが、麻しんに対するより迅速な行政対応に資するため、麻しんを診断した(臨床診断を含む)医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所への届出を行っていただくようお願いします。
2. 臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式 5-14-3

麻 し ん 発 生 届

東京都知事(保健所設置市・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※) () - (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を

記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型 ・患者(確定例) ・感染症死亡者の死体	2 性別 男 ・ 女	3 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳 (か月)
---	---------------	----------------------------

病 型 1)麻しん(検査診断例) 2)麻しん(臨床診断例) 3)修飾麻しん(検査診断例) 4 症 状 ・発熱(月 日出現) ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹(月 日出現) ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クルーズ ・脳炎(急性脳炎の届出もお願いします) ・その他() 5 診 断 方 法 陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 (ア)分離・同定による病原体の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他() 検体採取日(月 日) 結果(陽性・陰性) 遺伝子型:() (イ)検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体: 咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他() 検体採取日(月 日) 結果(陽性・陰性) 遺伝子型:() (ウ)血清IgM抗体の検出 検体採取日(月 日) 結果(陽性・陰性・判定保留) 抗体価:() (エ)ペア血清での抗体の検出 検体採取日(1回目 月 日 2回目 月 日) 抗体価 (1回目 2回目) 結果:抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法: EIA ・ HI ・ NT ・ PA ・ その他() (オ)その他の検査方法() 検体() 検体採取日(月 日) 結果() (カ)臨床決定()	1 1 感染原因・感染経路・感染地域 ①感染原因・感染経路(確定・推定) 1 飛沫・飛沫核感染(感染源となった麻疹患者・状況: () 2 接触感染(感染源となった麻疹患者・物の種類・状況: () 3 その他() ②感染地域(確定・推定) 1 日本国内(都道府県 市区町村) 2 国外(国) 詳細地域() 渡航期間() ③麻しん含有ワクチン接種歴 1回目有(歳)・無・不明 ワクチンの種類(麻しん単抗原・MR・MMR・不明) 接種年月日(S・H 年 月 日・不明) 製造会社/Lot番号(/ ・不明) 2回目有(歳)・無・不明 ワクチンの種類(麻しん単抗原・MR・MMR・不明) 接種年月日(S・H 年 月 日・不明) 製造会社/Lot番号(/ ・不明) 6 初診年月日 平成 年 月 日 7 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日 8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 9 発病年月日(*) 平成 年 月 日 10 死亡年月日(※) 平成 年 月 日 (1, 2, 4, 5, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6 から 10 欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。)
--	--

診断した医師の方へのお願い

1. 集団感染のおそれがある場合には、感染拡大防止指導を実施いたします。このため、以下の情報提供をお願い致します。

- (1) 集団感染を起こしやすい要因
- ア. 集団生活: 無、有(園児、小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他())
- イ. 集団に接する職業: 無、有(保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他())
- ウ. 集団に接する機会: 無、有(施設での実習、ボランティア活動、その他())
- (2) 患者の住所: () 区・市・町・村
2. 集団感染のおそれがある場合には、感染症法第15条により、積極的疫学調査(患者個人情報を含む)を実施致します(この場合、医師の守秘義務は解除されます)。しかし、迅速な集団感染防止対策のため、保健所の調査前であっても、患者(又は保護者)の同意が得られた場合には、裏面調査票により情報提供をお願い致します。

保健所への個人情報等の提供に関する患者(あるいは保護者)の同意 (有・無)

※ 下記の個人情報等については、患者（あるいは保護者）の同意が取れた場合に、情報提供をお願い致します。

質問については、可能な範囲でご記入ください。

保健所における麻しん対応調査票

患者氏名	
患者住所・電話番号	・（ ）
所属名（学校、勤務先等）・連絡先（学校、勤務先）	・（ ）
同居している家族の構成	

質問1 診断前までに以下の症状がありましたか。該当する項目を○で囲んでください。また、症状があった場合には詳しく教えてください。

- 1) 37.5℃以上の発熱：無、不明、有（期間： 月 日～ 月 日）
- 2) 発疹：無、不明、有（頭部、顔、体、手足、その他（ ）、期間 月 日～ 月 日）
- 3) 咳：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 4) 鼻水：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 5) 目の充血：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）

質問2 患者のご家族についてお聞きします。

- 1) 患者家族で今回、麻しんに罹患した人はいますか。無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）
- 2) 患者家族で麻しんに未罹患かつワクチン未接種の人はいますか。
無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）

質問3 感染の機会に係わる生活状況についてお聞きします。発熱初日の2週間前から解熱3日後までの期間についてお答えください。

- 1) 最終登園・登校・出勤日：（ 月 日）
- 2) 人が多く集まる所（クラブ、習い事、イベント等）の参加：無、有（場所： 時期： ）

この届出は診断後直ちに行ってください

感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日 医療機関名: _____

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 . 2	歳	男・女	
2	1 . 2	歳	男・女	
3	1 . 2	歳	男・女	
4	1 . 2	歳	男・女	
5	1 . 2	歳	男・女	
6	1 . 2	歳	男・女	
7	1 . 2	歳	男・女	
8	1 . 2	歳	男・女	
9	1 . 2	歳	男・女	
10	1 . 2	歳	男・女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く）。
 （上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

結 核 発 生 届

東京都知事（保健所）
 特別区長（保健所）
 保健所政令市長（保健所）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

この届出は診断後直ちに行ってください

医師の氏名 _____ 印（署名又は記名押印のこと）

従事する病院（科）・診療所の名称 _____

上記病院・診療所の所在地（※） _____

電話番号（※）（ ） —
 （※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検案）した者（死体）の種類					
1) 患者（確定例） 2) 無症状病原体保有者（潜在性結核感染症） 3) 疑似症患者 4) 感染症死亡者の死体 5) 感染症死亡疑い者の死体					
2 当該者氏名（ふりがな） （ ）	3 性別 男・女	4 生年月日 年 月 日	5 診断時の年齢（0歳は月齢） 歳（ ）か月	6 当該者職業（具体的に）	
7 当該者住所 電話（ ） —					
8 当該者所在地 電話（ ） —					
9 保護者氏名	10 保護者住所	（9、10は患者が未成年の場合のみ記入）			
電話（ ） —					

病 型		18 感染原因・感染経路・感染地域																				
1) 肺結核 2) その他の結核（ ）		① 感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫核・飛沫感染（感染源の種類・状況） 2 その他（ ） ② 感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ 都道府県 市町村） 2 国外（ 国 詳細地域 ） 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項																				
11 症状 ・せき ・たん ・発熱 ・胸痛 ・呼吸困難 ・その他（ ） ・なし	12 診断方法 遺伝原体の検出 1) 塗抹検査（— ± 1+ 2+ 3+）又はG 号 検体：喀痰・その他（ ） 2) 培養検査 — + （ ） 検査中 検体：喀痰・その他（ ） 3) 核酸増幅法 — + 未実施 検体：喀痰・その他（ ）																					
4) 病理検査における特異的所見の確認 検体：（ ） 所見：（ ） 5) ツベルクリン反応検査 月 日判定 — x （ x ）（発赤・硬結・水疱・壊死） x 6) リンパ球の菌特異蛋白刺激による放出インターフェロンγ試験 月 日実施（陽性・判定保留・陰性） 7) 画像検査における所見の確認 学会分類 ※○で囲む。 その他 <table border="1"> <tr> <td>病側</td> <td>r</td> <td>l</td> <td>b</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td>病型</td> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> <td>H</td> <td>Pl</td> <td>Op</td> <td>O</td> </tr> <tr> <td>拡がり</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>該当なし</td> </tr> </table>			病側	r	l	b	該当なし	病型	I	II	III	IV	V	H	Pl	Op	O	拡がり	1	2	3	該当なし
病側	r		l	b	該当なし																	
病型	I	II	III	IV	V	H	Pl	Op	O													
拡がり	1	2	3	該当なし																		
8) その他の方法（ ） 検体（ ） 結果（ ） 9) 臨床決定（ ）																						
13 初診年月日 平成 年 月 日 14 診断（検案（※））年月日 平成 年 月 日 15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 16 発病年月日（*） 平成 年 月 日 17 死亡年月日（※） 平成 年 月 日		1) 診断時の入院在宅の別 入院（予定）日： 月 日 ・ 在宅 （医療機関名： ） 2) 当該者の同居者数 人（うち乳幼児 有・無）・ 単身 3) その他																				

（1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。）

感染症発生動向調査病原体定点検査票 インフルエンザ入院患者用(基幹定点報告疾患)

【医療機関記入欄】

医療機関名		センター検体受付日		センター収受番号		検体番号	
医師名							
診断名							
氏名(イニシャル)				入院日	年	月	日
発病日	年	月	日	検体採取日	年	月	日
性別	男・女		年齢	歳 月			
検体	・咽頭ぬぐい液 ・気管吸引液 ・髄液 ・便 ・尿 ・鼻腔ぬぐい液 ・喀痰 ・血液 ・直腸ぬぐい液 ・その他 []						
呼吸器症状・兆候等	・頭痛 ・胃腸炎(下痢・血便・嘔気・嘔吐・腹痛) ・筋肉痛、関節痛(関節炎) ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・上気道炎(咽頭炎/痛・扁桃炎) ・意識障害 ・下気道炎(肺炎・気管支炎) ・中枢神経系症状(脳炎・脳症・髄膜炎) ・口内・咽頭所見() ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・発疹(丘疹・紅斑・バラ疹・水疱) ・腎機能障害 ・リンパ節腫脹(部位) (上記以外の症状は、下の備考欄へ記載してください。) ・体温(℃) ・血圧 / mmHg ・SpO ₂ % ・脈拍 回/分 ・呼吸数 回/分 ・酸素投与(有・無) ・人工呼吸器使用(有・無)						
バイタルサイン							
最近の海外渡航歴	国名 期間 年 月 日 ~ 年 月 日						
画像所見	胸部X線・CT所見						
基礎疾患	無・有()						
治療薬 抗ウイルス薬など	治療薬名 投与開始日 年 月 日 投与期間 日間						
迅速診断キット	インフルエンザ迅速診断キット(A型陽性 ・ B型陽性 ・ 陰性 ・ 未実施) 迅速診断キット名 ()						
ワクチン接種歴	インフルエンザワクチン接種 無・有(年 月 日) ・ 不明						
備考欄(主治医等からの連絡事項、詳細な症状、発生状況、転帰、動物との接触など)							

【健康安全研究センター記入欄】

報告年月日

年

月

日

結果

センター記入欄につき

ここには記入しないで下さい。

検出方法	・抗体検出(蛍光、EIA、イムノブロット、その他[]) ・鏡検 ・分離培養(培養細胞:細胞名[]、人工培地、発育鶏卵、動物、その他[]) ・抗原検出等(蛍光、EIA、イムノクロマト、凝集反応(RPHA、LA、PA、その他)、その他[]) ・遺伝子検出 増幅(PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他[])
------	---

感染症発生動向調査事業報告書
平成 25 年（2013 年）

平成 26 年 7 月

登録番号 (26) 4

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-24-1
電 話 (03) 3363-3231
印刷所 有限会社 雄久社
〒154-0017 東京都世田谷区世田谷 1-24-7
電 話 (03) 5451-7030

